



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

e-Palette



イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ずお読みいただきたいこと**

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

EV システム

充電に関する情報など

(主な項目：EV システム、充電のしかた)

2

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

3

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、パワーウィンドウ)

4

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：EV システム始動のしかた、運転支援装置)

5

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

6

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

7

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

8

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：各フルード量、タイヤ空気圧)

9

症状から検索

音から検索

さくいん

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	12
検索のしかた	13
イラスト目次	14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
運転席シートベルト	29
SRS エアバッグ	32

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	36

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	37

2 EVシステム

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴	40
EV システムの注意	43
電気自動車運転のアドバイス	48
走行可能距離について	49

2-2. 充電について

充電に関する装備について	51
普通充電ケーブルについて	54
普通充電コネクターのロック・アン ロック	61
接続可能な外部電源について	64
充電方法について	69
充電に関するアドバイス	70
充電の前に知っておいていただきたい こと	72
普通充電のしかた	75
急速充電・V2H 充電／V2H 給電の しかた	82
タイマー充電機能を使う	87
マイルームモードを使う	95
正常に充電できないときは	98

2-3. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム	110
DC 外部給電システムの使い方	110
DC 外部給電システムが正常に作動し ないときは	117

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	120
計器類	123
マルチインフォメーションディスプレ イ	126

4 運転する前に

4-1. キー

キー	132

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

スライドドア	135
電動スロープ	146
車内モニターシステム	153
スマートエントリー&スタートシステ ム	156

4-3. シートの調整

運転席シート	160
客席シート	161
車いす固定用装置	162
車いすワンタッチ固定装置	166

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	170
アウターミラー	171
補助ミラー	173

4-5. 窓の開閉

開閉窓	174

4-6. お好み設定

マイセッティング	175
行先表示器（サイネージ）	176

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって	188
荷物を積むときの注意	194

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ （プッシュボタンスタートシステム 装着車）.....	196
パワー（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシ ステム装着車）.....	202
シフトポジション	207
方向指示レバー	211
パーキングブレーキ	212
ブレーキホールド.....	215
ステアバイワイヤ	217

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使 い方

ランプスイッチ	218
AHB（オートマチックハイビーム）	221
ワイパー＆ウォッシャー	223

5-4. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する （Toyota Safety Sense 装着車）	226
Toyota Safety Sense.....	228
PCS（プリクラッシュセーフティ）	234
LDA（レーンディパーチャーアラ ート）.....	243
ドライバー異常時対応システム	248
BSM（ブラインドスポットモニター）	254
安心降車アシスト.....	259
クリアランスソナー	264
RCTA（リヤクロストラフィックア ラート）.....	270
RCD（リヤカメラディテクション）	275

PKSB（パーキングサポートブレー キ）.....	279
パーキングサポートブレーキ（前後方 静止物）.....	283
パーキングサポートブレーキ（後方接 近車両）.....	285
パーキングサポートブレーキ（後方歩 行者）.....	287
AHC（アクティブハイトコントロ ール）.....	289
運転を補助する装置	292

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転.....	298

6 室内装備・機能

6-1. エアコンの使い方

エアコン	302

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	308

6-3. 収納装備

収納装備一覧.....	310

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....	313
アクセサリコンセント（AC100V 1500W）・非常時給電システム	314
正常にアクセサリコンセント （AC100V 1500W）または非常時 給電システムが使用できないときは	322

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	326
内装の手入れ	329
電動スロープの手入れ	331

7-2. 日常点検整備

日常点検整備のしかた	333
日常点検の記録	344
簡単な点検整備	345

7-3. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ	349
タイヤについて	350
タイヤ空気圧について	360
エアコンフィルターの交換	361
電子キーの電池交換	363
ヒューズの点検・交換	365
電球（バルブ）の交換	367

8 万一の場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	370
非常点滅灯（ハザードランプ）	371
発炎筒	371
消火器	372
車両を緊急停止するには	373
水没・冠水したときは	374
車中泊が必要なときは	375

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	376
警告灯がついたときは	380
警告メッセージが表示されたときは	386
パンクしたときは	392
EV システムが始動できないときは	392
キーをなくしたときは	394
電子キーが正常に働かないときは	394
補機バッテリーがあがったときは	396
オーバーヒートしたときは	402
スタックしたときは	402
電動スロープが正常に格納できないときは	403

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ	408

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能	411

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	420

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	422
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	424
アルファベット順さくいん	426
五十音順さくいん	428

1

2

3

4

5

6

7

8

9

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けボルトの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- ウインドウに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

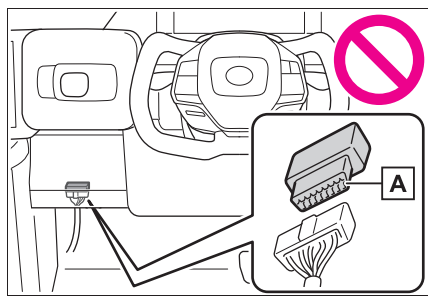
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されています。

● コンピュータに記録されるデータ ※¹

※¹ グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の挙動に関する基本的なデータ（電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- ・ 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）

- ・ 運転支援システムのセンサーのデータ
- ・ 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※²

※² 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

・ 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

● Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- ・ 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- ・ 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- ・ 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ・ EV システム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

● データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- ・ 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- ・ 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ・ 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- ・ 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- ・ トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。

また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR

に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へRF送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● EV システム

● Toyota Safety Sense

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー
悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比べて、電磁波が多いということはありません。アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証については、保証書に記載していますので、併せてお読みください。

点検整備については、日常点検整備のしかたを参照してください。（→P.333）

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

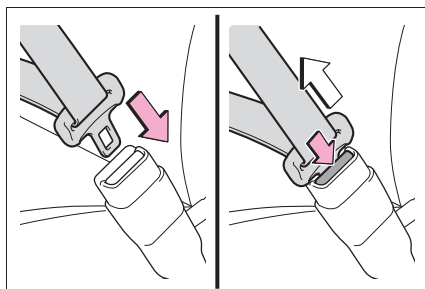
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

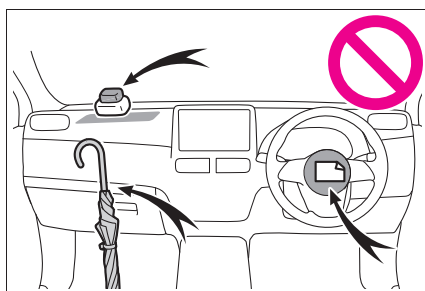
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

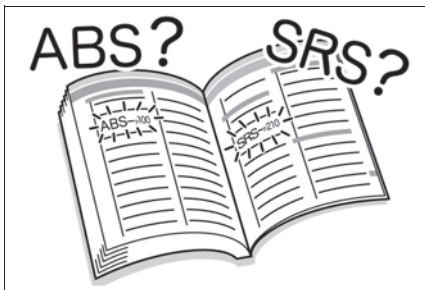


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

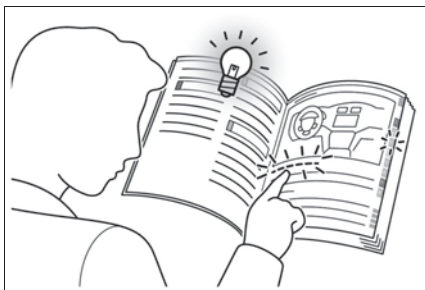
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.428
- アルファベット順さくいん：
→P.426



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.14



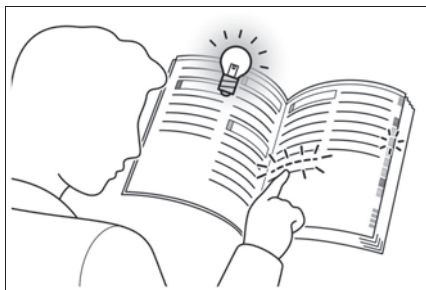
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
→P.422
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
→P.424



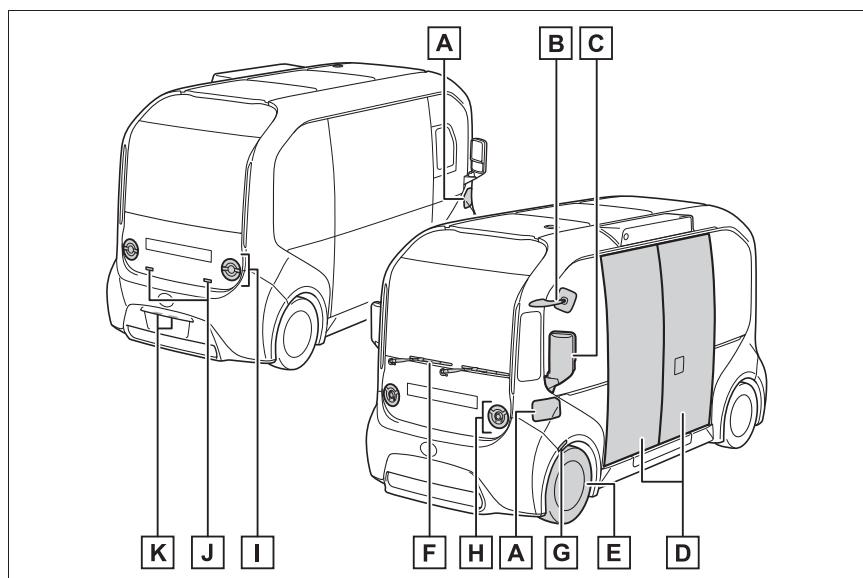
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	充電ポート.....	P.51
	充電方法.....	P.69
	DC 外部電源供給システム	P.110
B	補助ミラー★.....	P.173
C	アウターミラー	P.171
	鏡面の角度調整	P.171
	ミラーの格納	P.172
D	ドア	P.135
	施錠／解錠.....	P.136, 138
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.394
	警告メッセージ	P.386

E	タイヤ	P.350
	サイズ・空気圧	P.410
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.298
	点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム	P.350
	パンク時の対処	P.392
F	ワイパー	P.223
	冬季の注意	P.298
	洗車時の注意	P.327

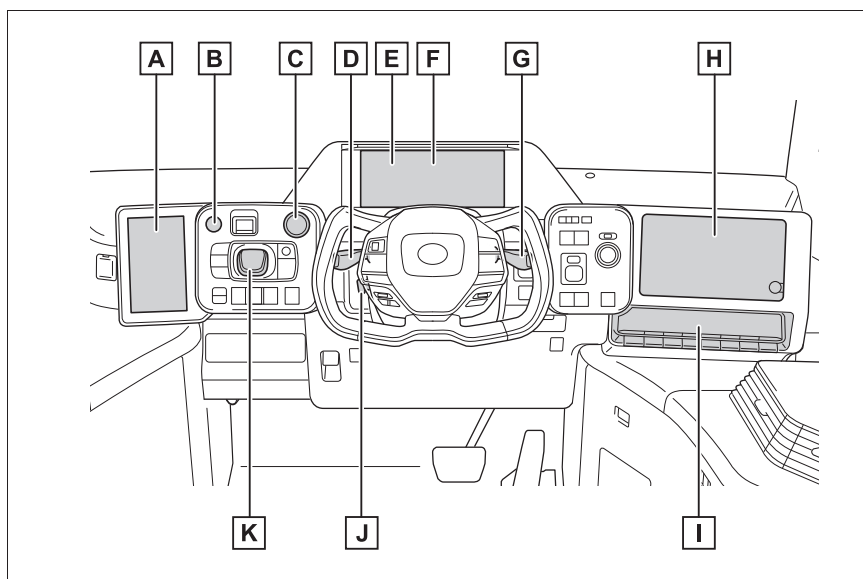
走行に関わる外装の電球（バルブ）

（交換について：P.367）

G	方向指示灯	
H	ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト	P.218
	方向指示灯	P.211
I	尾灯	P.218
	方向指示灯	P.211
	制動灯	
	緊急ブレーキシグナル	P.293
J	後退灯	
	シフトポジションを R にする	P.207
K	番号灯	P.218

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

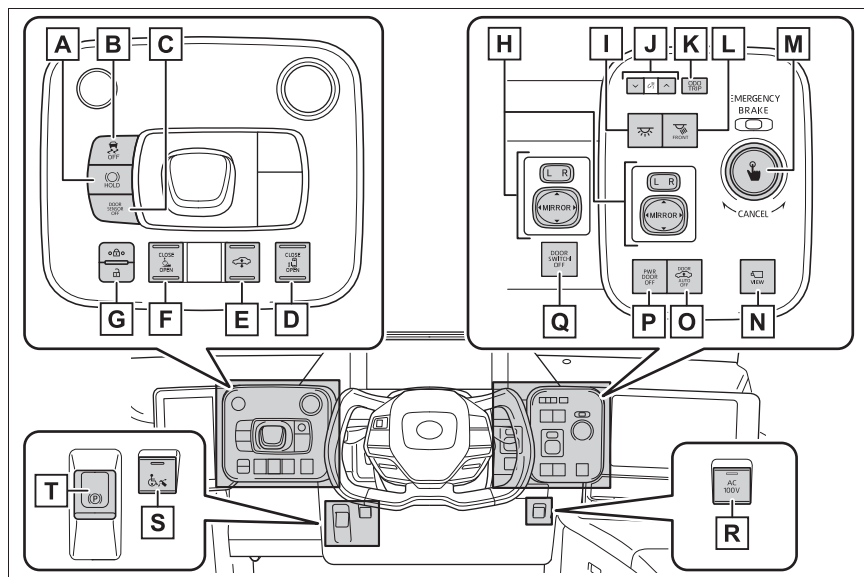


A	行先表示器（サインージ）操作パネル	P.176
B	非常点滅灯スイッチ	P.371
C	パワースイッチ	P.202
	EV システムの始動・モード切りかえ	P.202, 205
	EV システムの緊急停止	P.373
	EV システムが始動できないときの対処	P.392
	警告メッセージ	P.386
D	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.223
	使い方	P.223
	ウォッシャー液の補充	P.336
	警告メッセージ	P.386
E	マルチインフォメーションディスプレイ	P.126
	表示内容	P.126
	警告メッセージ表示時の対処	P.386

F	メーター	P.123
	見方・明るさの調整	P.123, 125
	警告灯／表示灯	P.120
	警告灯点灯時の対処	P.380
G	方向指示レバー	P.211
	ランプスイッチ	P.218
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト	P.218
H	マルチメディア ※	
	音楽を聴く ※	
I	エアコン	P.302
	操作方法	P.302
J	ハンドル位置調整スイッチ	P.170
	調整方法	P.170
K	シフトレバー	P.207
	シフトポジションの切りかえ	P.207
	けん引時の注意	P.376

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ スイッチ類

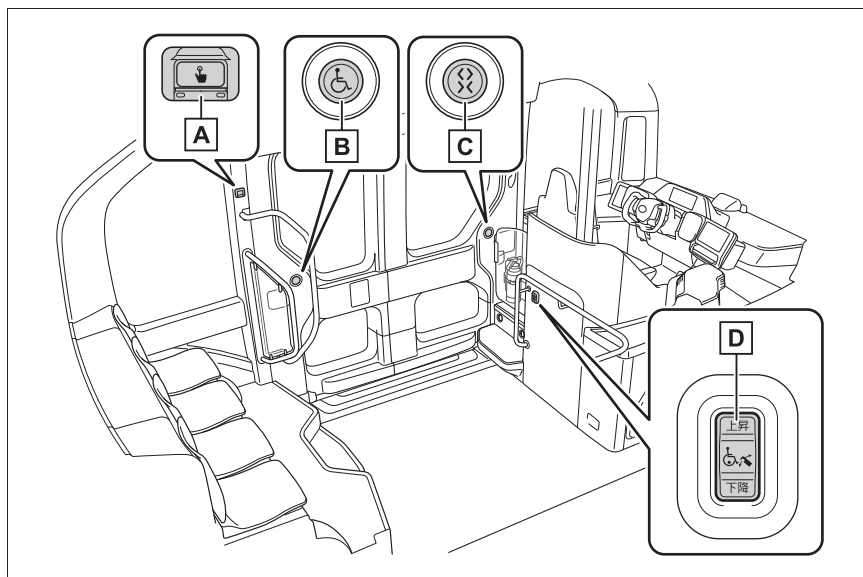


- A** ブレーキホールドスイッチ P.215
- B** VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.294
- C** ドア付近侵入検知 OFF スイッチ★ P.153
- D** 運転席パワースライドドアスイッチ P.138
- E** 車高切りかえスイッチ★ P.289
- F** 運転席ドア・スロープスイッチ★ P.147
- G** ドアロックスイッチ P.138
- H** アウターミラースイッチ P.171
- I** インテリアランプスイッチ P.309
- J** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.126
- K** オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーター
リセットボタン P.125

L	パーソナルランプスイッチ	P.309
M	運転席緊急停止スイッチ	P.250
N	カメラスイッチ ※	
O	車高・ドア開閉連動 OFF スイッチ★	P.289
P	パワースライドドア OFF スイッチ	P.145
Q	客室操作 OFF スイッチ★	P.149
R	AC100V スイッチ	P.314
S	車いすワンタッチ固定メインスイッチ★	P.166
T	パーキングブレーキスイッチ	P.212
	かける・解除する	P.212
	警告ブザー・警告メッセージ	P.213

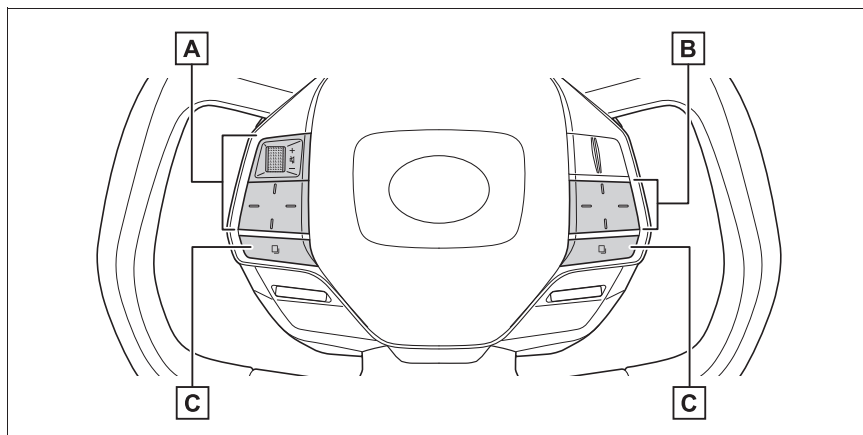
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



- A** 車内緊急停止スイッチ P.250
- B** 車内ドア・スロープスイッチ★ P.147
- C** 車内パワースライドドアスイッチ★ P.138
- D** 車いすワンタッチ固定操作スイッチ★ P.166

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



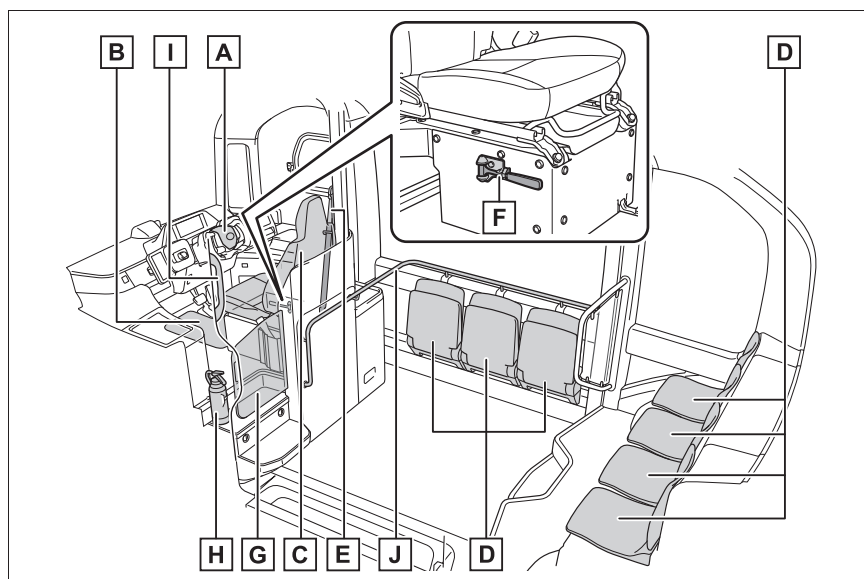
A オーディオスイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ ※

B メーターコントロールスイッチ P.127

C 機能切りかえスイッチ P.125, 127

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

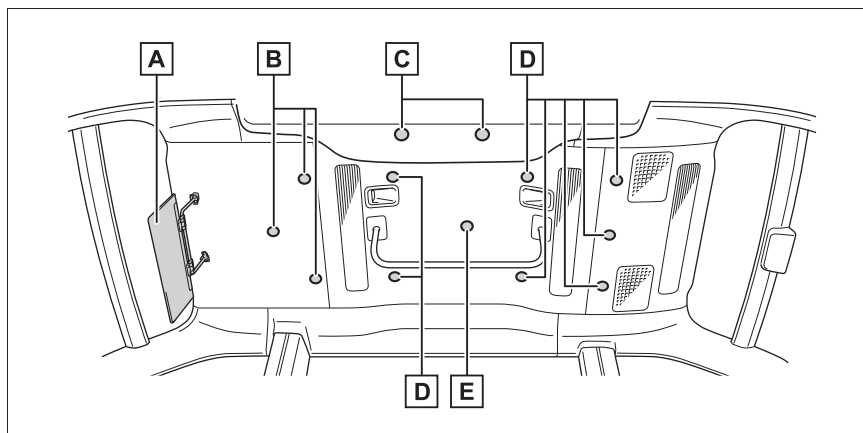
■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.32
B	フロアマット	P.26
C	運転席シート	P.160
D	客席シート★	
	はね上げシート★	P.161
E	運転席シートベルト	P.29
F	緊急脱出用ハンマー	P.374
G	運転席仕切り扉	P.314
H	消火器★	P.372
I	アシストグリップ (運転席用)	P.313
J	手すり／ポール★	P.313

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井



A サンバイザー★ P.313

B パーソナルランプ P.309

C カーテシランプ P.308

D インテリアランプ P.309

E 車内フラッシャーランプ P.249

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

運転席シートベルト 29

SRS エアバッグ 32

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 36

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 37

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

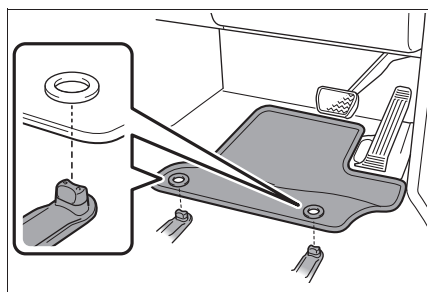
日常点検整備や点検項目などの詳細については、日常点検整備のしかたを参照してください。(→P.333)

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

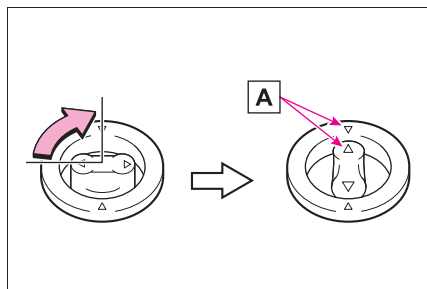
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、しっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



マーク[A]を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

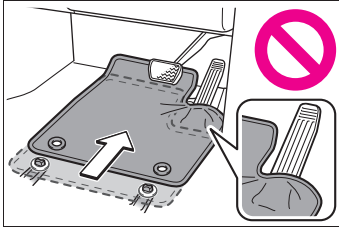
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

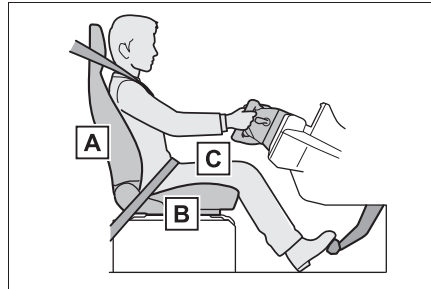


- EV システム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.160）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.160）
- C** シートベルトを正しく着用する（→P.30）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

警告

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.30)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、アウターミラーを正しく調整してください。(→P.171)

運転席シートベルト

走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

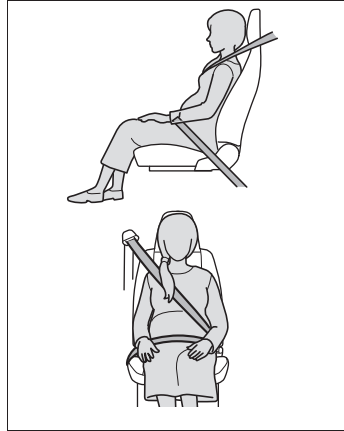
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 運転者はシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30) 通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルはシートに挟んだり、物をぶつけたりなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

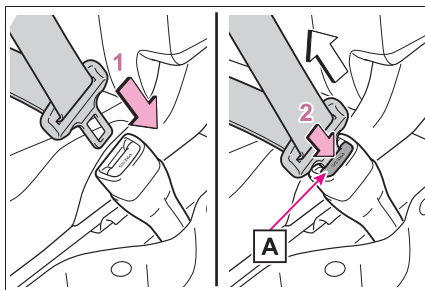
正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る



- ねじれないようにする
- リクライニングレバーにベルトを挟んだ状態で使用しない

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

□ 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトプリテンショナー

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、運転席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

 知識**■ シートベルトプリテンショナーについて**

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

 警告**■ プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

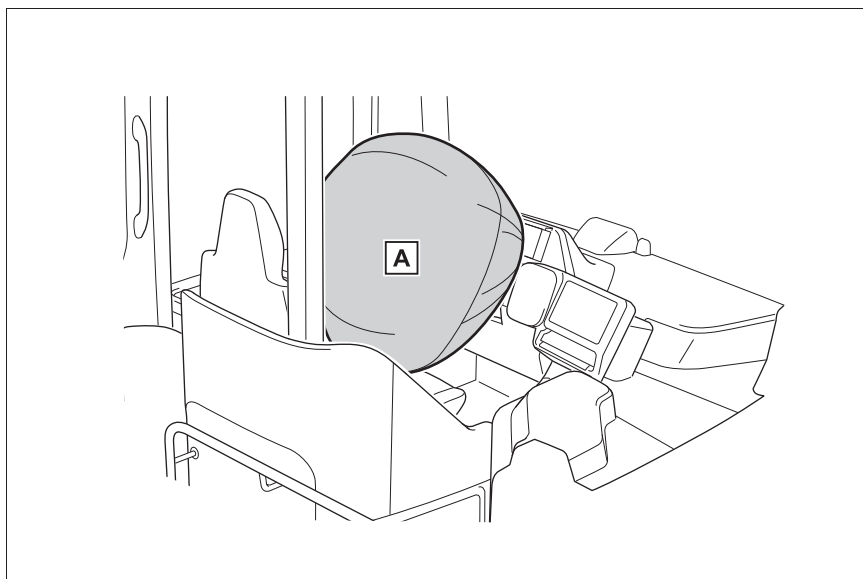
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



A 運転席 SRS エアバッグ（運転者の頭や胸などへの衝撃を緩和）

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあ

ります。エアバッグそのものも熱くなります。

- EV システムを停止します。（→P.47）
- スライドドアが解錠されます。（→P.137）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.293）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.309）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.371）

● T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに回答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

● 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ 運転席 SRS エアバッグ

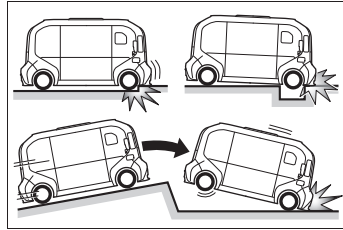
● 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
- ・ シートベルトプリテンショナー

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

● 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

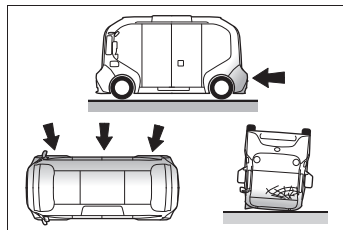
- ・ 運転席 SRS エアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

● 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

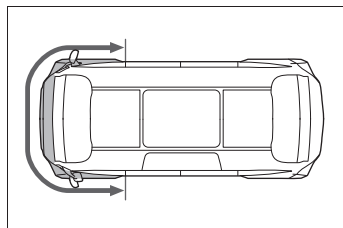
- ・ 運転席 SRS エアバッグ



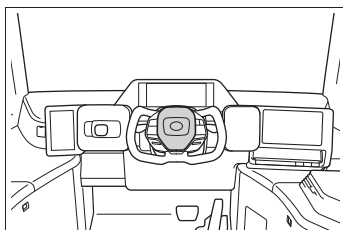
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- 運転席 SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ 運転席 SRS エアバッグ



- ハンドルのパッド部分が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

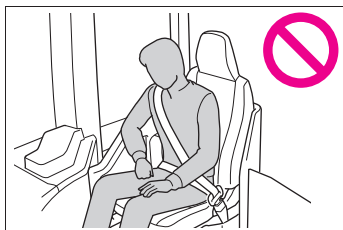


警告

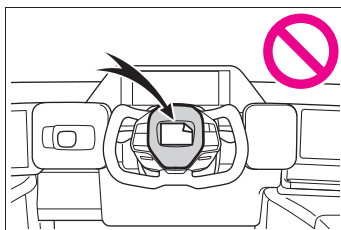
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者はシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 運転者は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラーなどへ寄りかからない



- ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアや窓を開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

 警告

- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- 走行中にドアを開けたり誤操作したりしないように、ドアロックスイッチ（→P.138）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、ドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

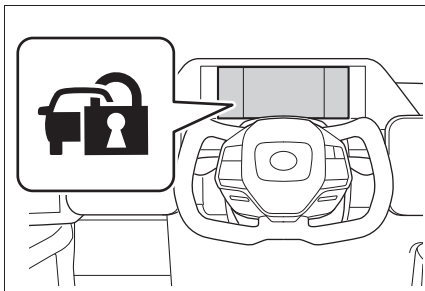
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. EV システムについて

EV システムの特徴	40
EV システムの注意	43
電気自動車運転のアドバイス	48
走行可能距離について	49

2-2. 充電について

充電に関する装備について	51
普通充電ケーブルについて	54
普通充電コネクターのロック・アン ロック	61
接続可能な外部電源について	64
充電方法について	69
充電に関するアドバイス	70
充電の前に知っておいていただき たいこと	72
普通充電のしかた	75
急速充電・V2H 充電／V2H 給電の しかた	82
タイマー充電機能を使う	87
マイルームモードを使う	95
正常に充電できないときは	98

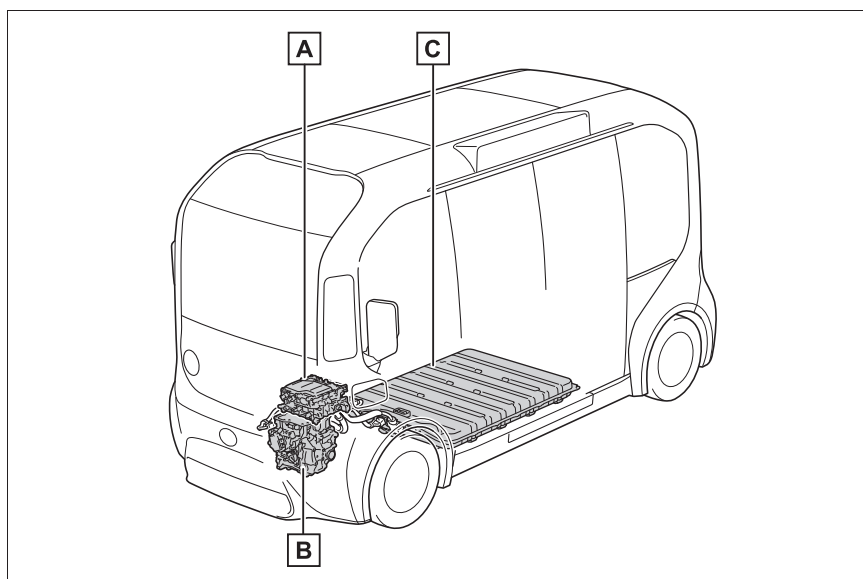
2-3. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム	110
DC 外部給電システムの使い方	110
DC 外部給電システムが正常に作動 しないときは	117

EV システムの特徴

電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、CO₂（二酸化炭素）や、NO_x（窒素酸化物）などを排出せず、環境にやさしい自動車です。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ESU : Electricity Supply Unit

B 電気モーター（駆動モーター）／インバーター

C 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して、駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

充電について

- 充電に関する装備について（→P.51）
- 普通充電ケーブルについて（→P.54）
- 接続可能な外部電源について（→P.64）
- 充電の前に知っておいていただきたいこと（→P.72）
- 充電方法について（→P.75、82）
- 正常に充電できないときは（→P.98）

□ 知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。（→P.396）

■ 車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車を長期間使用しない場合は、補機バッテリーあがりを低減する目的で、駆動用電池の電力で補機バッテリーを充電します。その場合、冷却ファンが作動することがありますが、異常ではありません。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、車両から取りはずしておいてください。

■ 駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池充電警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音
- モータールームからのモーター音
- EV システム始動時および停止時に車両モータールームから聞こえるリレーの音
- 次のような場合は、“コトン”、“カチッ”などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
 - ・EV システムが始動または停止したとき
 - ・充電が開始または終了するとき
 - ・急速充電を使用して駆動用電池を充電した後、初めて車両を運転するとき
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音
- ラジエーターから聞こえる冷却ファンの作動音
- エアコンシステム（エアコンコンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音
- AHC（アクティブハイトコントロール）システム（ポンプモータ、バルブなど）の作動音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

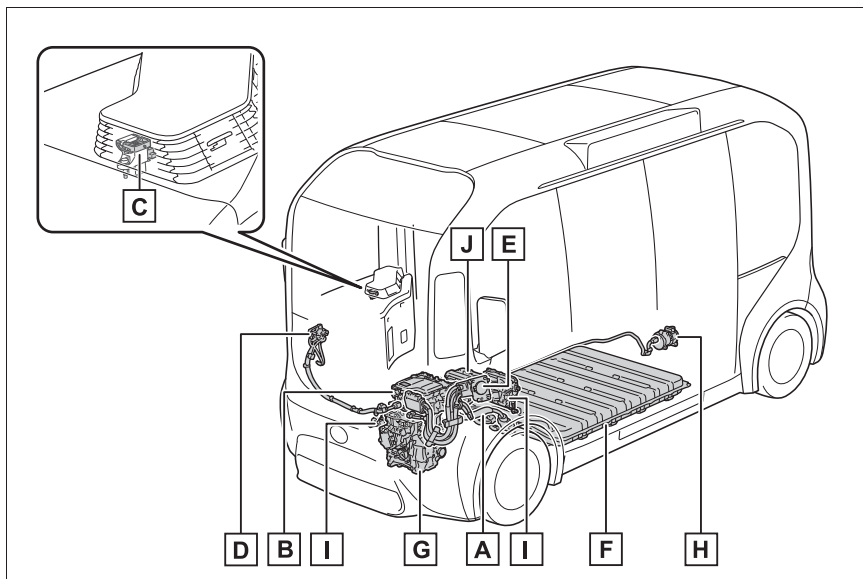
■マルチインフォメーションディスプレイに“車両接近通報装置故障 販売店で点検してください”が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・ESU・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（公称約 355.2V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため ⚠ 表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- B** ESU : Electricity Supply Unit（車載充電器・DC/DC コンバーター内蔵）
- C** サービスプラグ
- D** 普通充電インレット

E 急速充電インレット

F 駆動用電池

G 電気モーター（駆動モーター）／インバーター

H エアコンコンプレッサー

I DC/DC コンバーター

J 分岐ボックス



知識

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池（リチウムイオンバッテリー）について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
- 駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温など）により大きく異なります。これらはリチウムイオンバッテリー本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.73 の“駆動用電池の容量低下について”に記載されていることを心がけてください。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。

その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。



警告

■ 高電圧・高温について

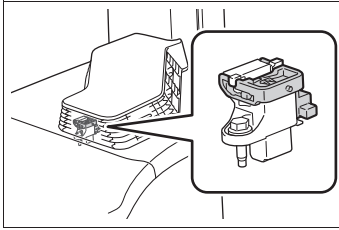
この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

警告

- サービスプラグが下図のように駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにして、EV システムを停止する
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 室内および車外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあります。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.376）

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

軽度な事故であっても、駆動用電池や周辺部位が損傷している可能性がありますので、事故にあった場合は、トヨタ販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。

警告

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしてください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。

床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

また、床下に異常が見られない場合でも、駆動用電池が損傷している可能性がありますので、車両床下に衝撃を受けた場合には、トヨタ販売店で駆動用電池の点検を受けてください。

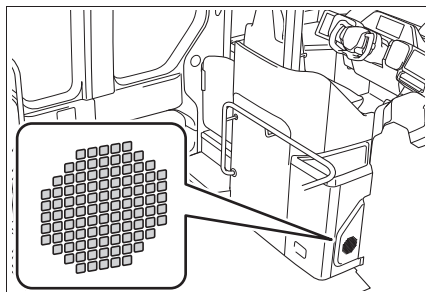
■ 改造について

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

車載電子部品冷却口

図に示す位置に車載電子部品の冷却口があります。

冷却口がふさがれると車載電子部品の冷却に悪影響をおよぼします。



 注意

■ 車載電子部品冷却口について

車いす背もたれパッドや荷物などで冷却口をふさがないでください。
車両の走行に制限がかかる場合があります。

緊急停止システム

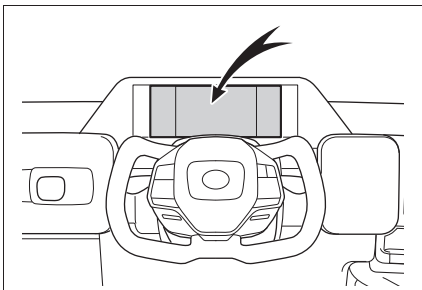
事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。(→P.104, 386)

 知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断れたとき

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 駆動用電池が電欠になったとき

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電 [V2H 充電]）してから再始動してください。

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均车速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションをDにしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションをPにしましょう。
- シフトポジションをNにしても、電費向上の効果はありません。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

登録仕様により高速道路を走行出来ない場合があります。

エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいので、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。（→P.128）低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける

- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物を積まないように心がける

充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

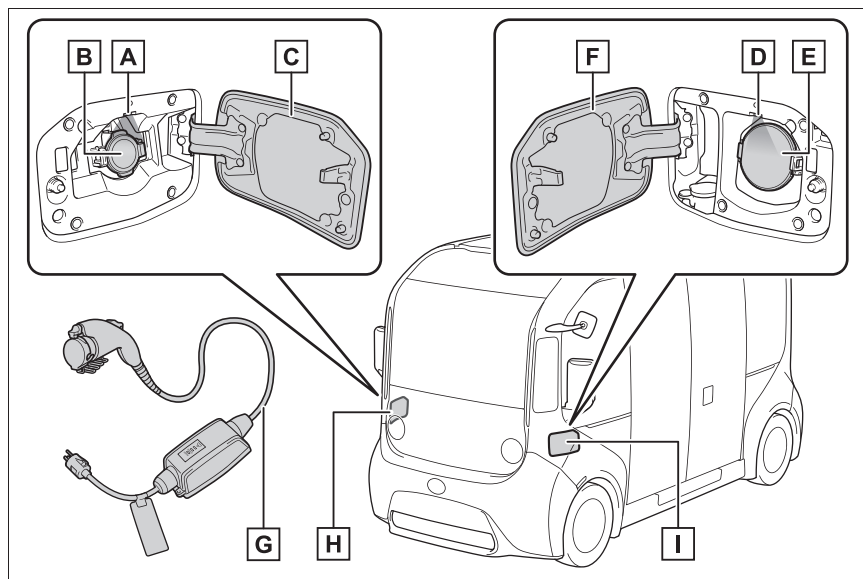
- 普通充電ポートの充電インジケーターが消灯する
- パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果のお知らせ 充電完了しました”と表示される(→P.71)

接続する電源やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.104

充電に関する装備について

充電装備と名称



- A** 充電インジケータ（→P.53）および普通充電インレット照明
- B** 普通充電インレット
- C** 普通充電リッド（→P.52）
- D** 急速充電インレット照明
- E** 急速充電インレット
- F** 急速充電リッド（→P.52）
- G** 普通充電ケーブル★（→P.54）
- H** 普通充電ポート
- I** 急速充電ポート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

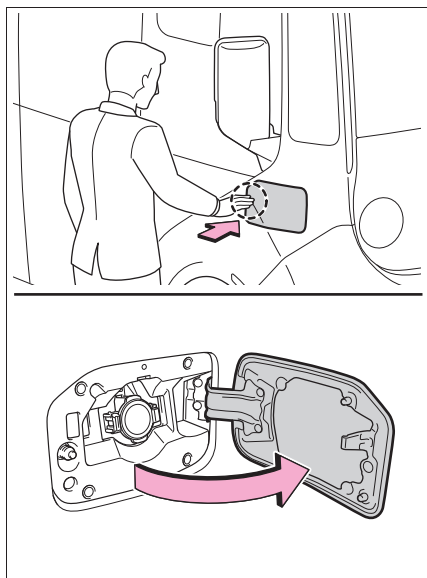
充電リッドの開閉

普通充電リッドと急速充電リッドの開閉操作は同様です。

■ 充電リッドの開け方

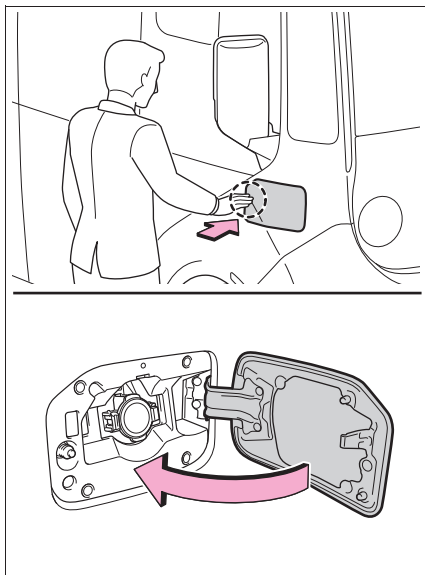
充電リッドの後端中央部（図に示す位置）を押し、充電リッドを開ける。

押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



■ 充電リッドの閉め方

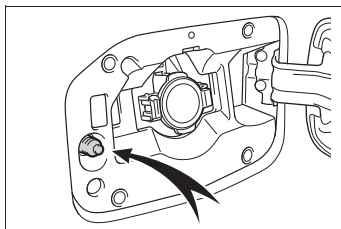
充電リッドを閉め、充電リッドの後端中央部（図に示す位置）を押す



知識

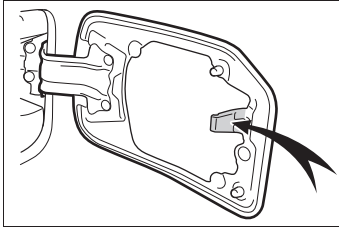
■ リッドリフターについて

充電リッドを閉める前に、リッドリフターが押し込まれている状態だと、充電リッドが閉まりません。その場合は、リッドリフターを押して飛び出ている状態にしてから、充電リッドを閉めてください。

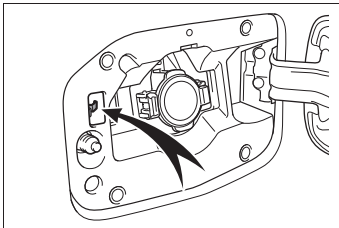


■ 充電リッドについて

リッドタブの側面に氷などの異物がついている場合は取り除いてください。付着した異物（氷など）によって正常に作動しない恐れがあります。



■ 充電リッド開閉検知スイッチ部について



- 充電リッドが開いているときは、充電リッド開閉検知スイッチ部（図に示す位置）にふれないよう注意してください。誤ってふれると、車両が充電リッドの開閉状態を誤表示したり、充電コネクタが正常にロック・アンロック出来なくなるおそれがあります。
- 充電中などリッドを開けた状態で充電リッド開閉検知スイッチ部付近に水を掛けしないでください。

⚠ 警告

■ 充電リッド開閉検知スイッチ開口部について

充電リッド開閉検知スイッチ開口部に指を入れないでください。内部のスイッチで怪我をする恐れがあります。

⚠ 注意

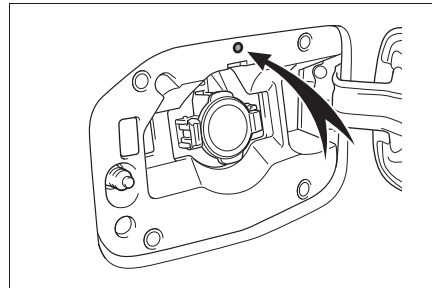
■ 充電リッド開閉検知スイッチ開口部について

充電リッド開閉検知スイッチ開口部に指、布などを入れないでください。スイッチ破損の原因にもなります。

充電インジケーター

充電インジケーターは、普通充電リッドにのみ搭載されています。

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



点灯・点滅パターン	車両の状況
点灯	充電中※1
点滅（通常）※2	充電スケジュール（→P.87）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき
速い点滅※2	電源または車両の異常などにより充電ができない状況（→P.100）のとき

※1 充電が終了したら、消灯します。

※2 一定時間点滅したあと、消灯します。

普通充電ケーブル★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。

⚠ 警告

■ 普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクタ・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きするなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクタ・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具などの高温物に近付けない

- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクタに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

⚠ 注意

■ 普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクタは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクタを挿し込んだあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクタを取りはずす前に、普通充電コネクタがアンロックされていることを確認する（→P.61）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクタを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

→P.75

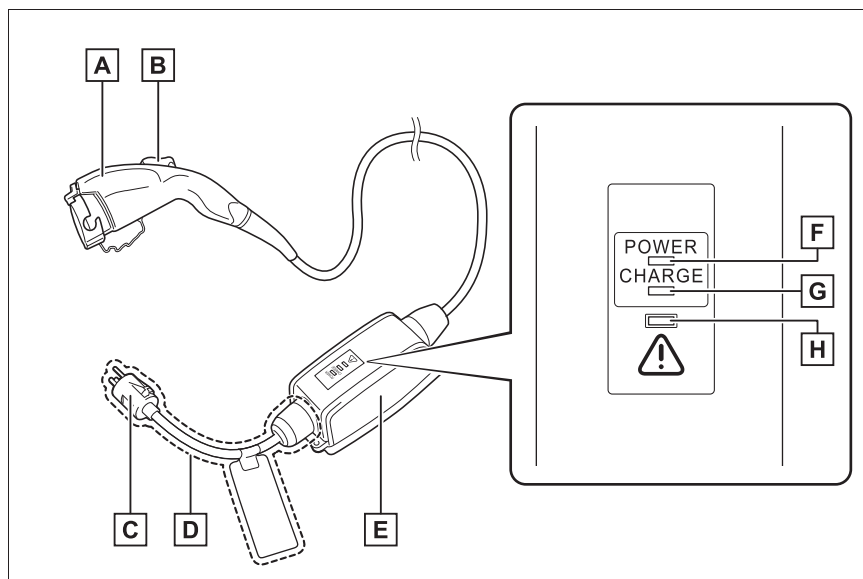


注意

■ 寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

各部の名称



2

EVシステム

- A** 普通充電コネクタ
- B** ロック解除ボタン
- C** 電源プラグ
- D** 電源プラグコード※
- E** コントロールユニット
- F** 電源インジケータ (→P.56)
- G** 充電インジケータ (→P.56)

[H] エラーインジケータ (→P.56)

※ 接続する電源電圧 (200V または 100V) に合わせて、電源プラグコードを交換する必要があります。(→P.58)

安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケータが点滅します。(電気が遮断された場合の対処方法については、P.57 を参照してください)

■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケータの点滅でお知らせします。(→P.57)

■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

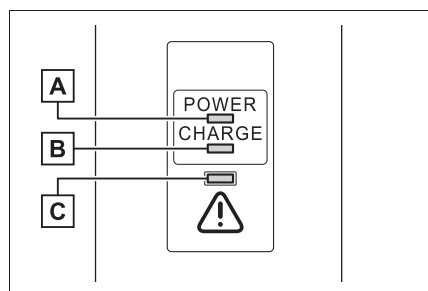
■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクタが車両に接続されていないと、普通充電コネクタに通電されない構造になっています。

コントロールユニット上のインジケータについて

■ 各インジケータの働き

3つのインジケータで、それぞれ次の状態を示します。



[A] 電源インジケータ

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

[B] 充電インジケータ

充電中に点灯します。

[C] エラーインジケータ

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケータの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケータが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケータが消灯するか確認してください。

電源インジケータが点灯し、エラーインジケータが消灯していれば、そのまま充電が可能です。それ以外の場合には、次の表に従って対処してください。

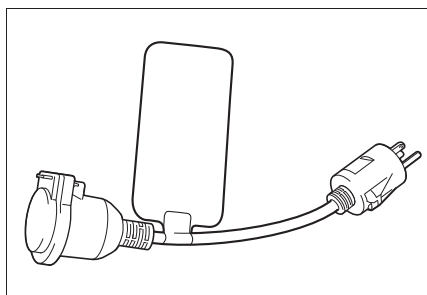
状況	電源インジケータ	エラーインジケータ	原因・対処
充電システムエラー	消灯	消灯または点灯	漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。
	点灯	点滅	→ トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度検知異常	点滅	点滅	電源プラグの温度検知部品が故障しています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
電源プラグ温度上昇検知	点滅	消灯	コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。 → 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているかを確認してください。 点滅が解消しない場合も、電流を制限して充電が行われます。
普通充電ケーブル寿命予告	点灯	点滅	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。 → トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電ケーブル寿命	点灯	点灯	普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。 → トヨタ販売店にご相談ください。

電源プラグコードの交換★

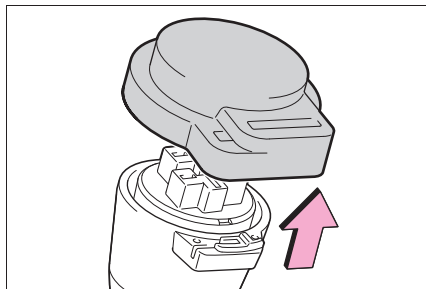
★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

電源プラグを 100V 用、または
200V 用に交換したい場合は、次
の手順で電源プラグコードを交換
してください。

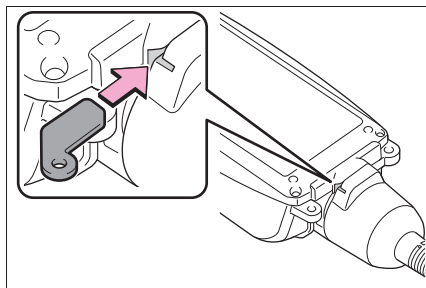
- 1 普通充電ケーブル（→P.55）
と交換用電源プラグコードを用
意する

**2 解除キーを取り出す**

取り出した解除キーをなくさないよう
にご注意ください。

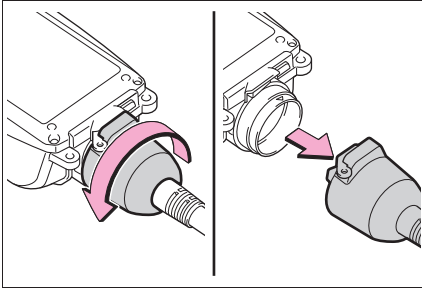
**3 保護キャップを取りはずす****4 コントロールユニットの解除穴
に解除キーを挿し込む**

解除キーは図の向きで挿し込んでくださ
い。

**5 コントロールユニットの解除穴
に解除キーを奥まで挿し込んだ
まま、電源プラグコードのナッ
ト部をまわして、電源プラグ
コードを取りはずす**

電源プラグコードを取りはずしたら、解
除キーを抜いてください。

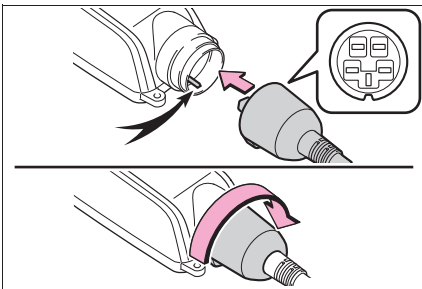
電源プラグコードを取りはずしたまま放置しないでください。電源プラグコードが接続されていないと、コントロールユニットの内部に水などが入り、故障につながるおそれがあります。



6 コントロールユニット接合部の突起と、電源プラグコードコネクタの溝とを合わせて挿し込み、電源プラグコードのナット部をまわして取り付ける

電源プラグコードを取り付ける前に、接続部に異物が付着していないか確認してください。異物が付着している場合は、必ず取り除いてください。異物が付着している状態で接続すると、水などが入り、故障につながるおそれがあります。

“カチッ”という音がして固定されるまで、取りはずしたときと逆方向にまわします。



7 取りはずした電源プラグコードに、保護キャップと解除キーを取り付ける

紛失を防ぐため、解除キーは保護キャップに確実に取り付けてください。また、解除キーが保護キャップから意図せず脱落しないよう、ご注意ください。

電源プラグコードは、ほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。

⚠ 警告

■ 電源プラグコードを交換するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 電源プラグコードの交換作業は、ぬれた手で行わない
また、雨や水のかかる場所で行わないでください。
- 電源プラグ・普通充電コネクタを接続した状態で、電源プラグコードの交換作業を行わない
- コントロールユニットから電源プラグコードを取りはずした状態で放置しない
- 電源プラグコードをコントロールユニットに取り付けるときは、接続部に異物が付着していないことを必ず確認する
- 電源プラグコードの交換時には、“カチッ”という音がするまで電源プラグコードのナット部をしっかりとまわす
- 電源プラグコードを交換する際は、必ず解除キーを使用する

 注意

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で
使用しないでください。電源プラグ
コードの損傷につながるおそれがあり
ます。

普通充電ケーブルの点検・お手
入れ

安全にお使いいただくために、日
常的に次の事項を点検してくださ
い。

 警告

■日常点検について

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ
事故の原因となり、重大な傷害におよ
ぶか、最悪の場合死亡につながるおそ
れがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普
通充電コネクター・コントロールユ
ニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっ
ていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くな
らないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこ
と

- 電源プラグにほこりなどの汚れがな
いこと

電源プラグはコンセントから抜いて点
検してください。また、点検の結果、
普通充電ケーブルに異常が見つかった
場合は、ただちに使用を中止して、ト
ヨタ販売店にご相談ください。

■普通充電ケーブルのお手入れにつ
いて

汚れたときは固くしぼった布で汚れを
ふき取ったあと、乾いた布でからぶき
してください。

なお、水洗いは絶対に行わないでくだ
さい。普通充電ケーブルを水洗いする
と、充電時に火災や感電事故が発生し、
最悪の場合死亡につながるおそれがあ
ります。

■長期間普通充電ケーブルを使用しな
いとき

電源プラグをコンセントから抜いてお
いてください。電源プラグやコンセント
にほこりがたまり、過熱や発火の原因
となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない
場所で保管してください。

普通充電コネクターのロック・アンロック

普通充電中の充電コネクターの取りはずしや、第三者による充電ケーブルの持ち取りなどのいたずらなどを防止することができます。

普通充電コネク터를ロック・アンロックするには

■ ロックするときは

普通充電インレットに普通充電コネク터를挿し込むと、自動的にロックされます。

(普通充電コネクターのロック・アンロック方法は変更することができます。：→P.61)

■ アンロックするときは

ドアを解錠すると、普通充電コネクターがアンロックされます。

普通充電コネクターは接続時にロックし、ドアを解錠するとアンロックするため、普通充電コネクターのロック・アンロックは、ドアの施錠・解錠状態と必ずしも一致しません。

ドアが解錠されている状態で、普通充電コネクターがロックされている場合は、次の操作でアンロックできます。

- ・ ワイヤレスリモコンの解錠ボタンを押してドアの解錠操作をする (→P.136)

■ 普通充電コネクターのロック・アンロック方法を変更するには

マルチメディア[※]で、普通充電コネクターのロック・アンロック方法を変更することができます。

普通充電ケーブルが車両に接続されているときは、普通充電コネクターのロック・アンロック方法を変更できません。

[※] ACC では普通充電コネクターのロック・アンロック方法を変更することはできません。

- 1 マルチメディア画面の  を押す
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “充電” を選択する
- 4 “コネクターロック” を選択する

普通充電コネクターのロック・アンロック方法は、次のように変更することができます。

設定	作動内容
オートロック (デフォルト設定)	普通充電コネクターを接続すると自動でロックされる
オートロック&アンロック	普通充電コネクターを接続すると自動でロックされ、充電終了後は自動的にアンロックされる ^{※1, 2, 3}
OFF	普通充電コネクターのロックシステムを使用しない

^{※1} オートロック後に停電などで電源が遮断されると、普通充電コネクターがア

ンロックされます。

※²オートロック（初期設定）と同様の操作で普通充電コネクタをアンロックすることもできます。

※³タイマー充電の開始終了設定における終了時刻に到達したとき、満充電になっていなくても普通充電コネクタがアンロックされます。

□ 知識

■ 普通充電コネクタのロック機能について

● 普通充電コネクタをロック・アンロックくり返し操作すると、普通充電コネクタのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、普通充電コネクタを普通充電インレットに再び接続する前に、少し待ってください。

● 普通充電コネクタのロック機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

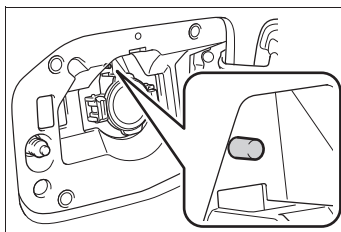
■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内に普通充電コネクタを取りはずさなかったときは、普通充電コネクタが再度、ロックされます。

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

コネクタロックピンが出ていないか確認してください。

コネクタロックピンが出ている場合は、ドアの解錠操作をしてコネクタをアンロックし、コネクタロックピンが出ていない状態にしてください。



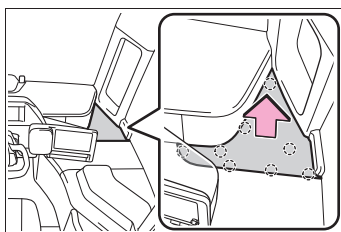
■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

通常の操作で普通充電コネクタをアンロックできないときは、コネクタロック緊急解除レバーを操作して、普通充電コネクタをアンロックすることができます。

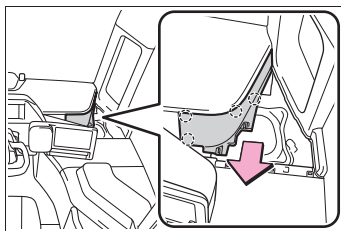
緊急時以外は、この方法で解錠させないでください。

異常が解消しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

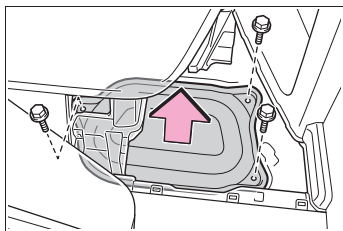
1 トリム A を上方に持ち上げてツメ（7ヶ所）とクリップ（1カ所）をはずす



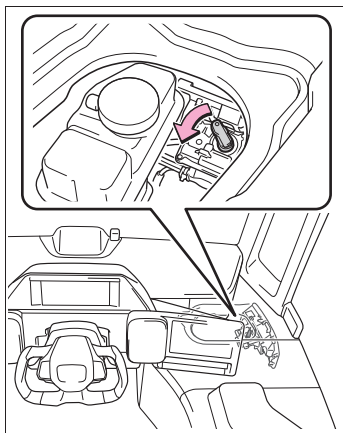
2 トリム B を後方にひいてツメ（4ヶ所）をはずす



- 3 ボルト 3 本をはずし、カバーを取りはずす



- 4 コネクターロック緊急解除レバーを回転させる

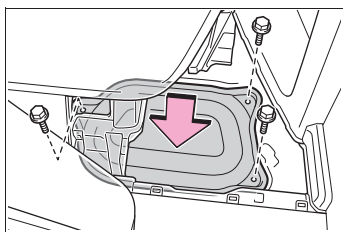


レバーに無理な力をかけたり、引っ張りすぎないようにしてください。

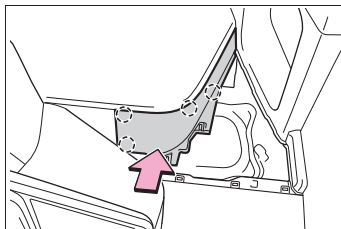
普通充電コネクターがアンロックされ、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。

- 5 カバーを取り付ける

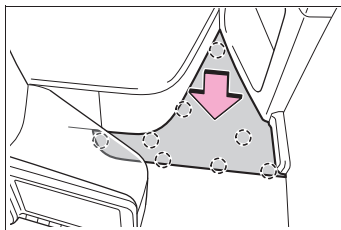
締め付けトルク：5.5N・m (56.1kgf・cm)



- 6 トリム B を取り付ける



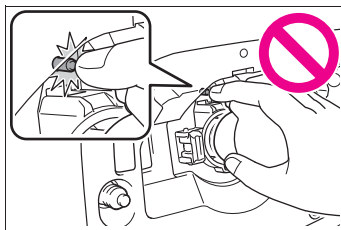
- 7 トリム A を取り付ける



警告

■ 普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき

- コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



 注意**■ 普通充電コネクタをロックするとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクタロックシステムの故障の原因となります。

● 普通充電コネクタがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクタや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクタなどは、ロックできない可能性があります。

● 普通充電コネクタをロックしたあとは、普通充電コネクタに無理な力をかけない
普通充電コネクタを取りはずすときは、必ずコネクタをアンロックしてください。

■ トリムを取りはずすときは

トリムを固定しているツメやクリップの破損や紛失に注意してください。

接続可能な外部電源について

この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。

充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。

 警告**■ 電気事故についての警告**

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりするとおそれる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 知識**■ 契約電力について**

事業所の電源で充電する際は、契約電力

※ をご確認ください。

200V 電源で充電する場合は、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※ 電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

■ 充電環境について

- 必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載されている普通充電ケーブルを使用して、充電を行ってください。
- ・ 200V 電源で 30A に対応した充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
- ・ 200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。
- ・ 家庭の 100V 電源で 6A に対応した普通充電ケーブルを使用した場合、約 0.6kW で充電されます。
- 事業所で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

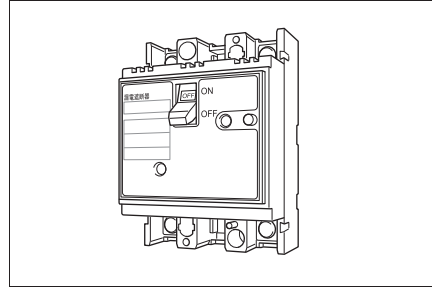
電源について

■ 200V 電源を使用する場合

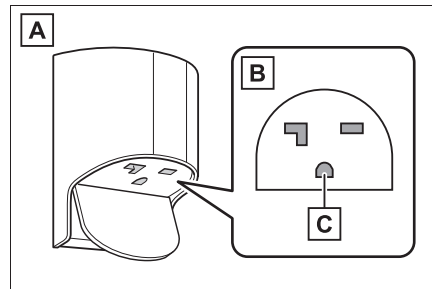
- 200V の充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。
 - AC200V で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。＊
 - ＊ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。
 - 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。
- もし設置されていない場合は、必ず設置

した上で車両の充電を行ってください。＊

＊ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- BEV / PHEV 専用コンセントに接続してください。



【A】 BEV / PHEV 専用コンセント の例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322（200V）

【B】 200V コンセント極配置 ＊

JIS C 8303

2 極 接地極（アース）付コンセント
20A 250V

【C】 接地極（アース）

＊ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

■ 100V 電源を使用する場合 ※

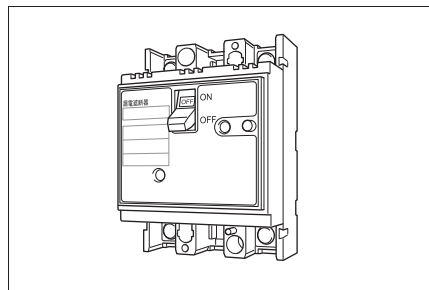
※ 100V 電源で充電する際は、普通充電ケーブルの電源プラグを 100V 用のものに交換してください。(→P.58)

- ブレーカーの容量を確認してください。車両に付属している充電ケーブルでの充電時には、100V で最大 6A の電流が流れます。余裕をみて、20A のブレーカーを備えたコンセントに接続することを推奨します。※ブレーカーの容量に余裕がないと、ほかの電気製品を接続した際にブレーカーが作動して、電流が遮断される可能性があります。

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。

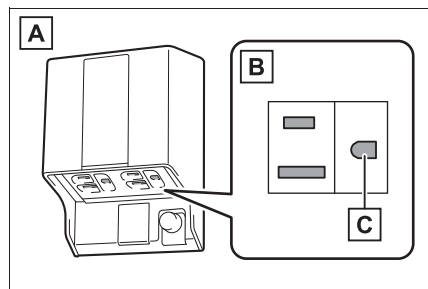
- 回路上に漏電遮断器が設置されていることを確認してください。(主幹含む)
もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。



- 屋外で充電する場合は、軽負荷電動車両充電用コンセントに接続してください。※

※ 日々の充電にあたっては、電源プラグのひんぱんな抜き挿しが必要となるため、抜止形の防雨形 100V コンセントでは耐久性が十分でない場合があります。



A 一般回路用の軽負荷電動車両充電用コンセントの例

推奨コンセント型式：パナソニック製 WK4632 (100V)

B 100V コンセント極配置 ※

JIS C 8303 2 極 接地極 (アース) 付
コンセント 15A 125V

C 接地極 (アース)

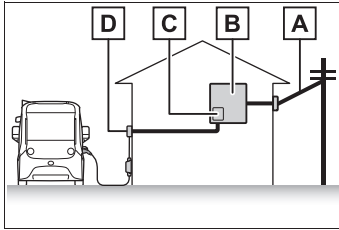
※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

- 普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

知識

■事業所の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき（200V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。＊



A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D BEV / PHEV 専用コンセント

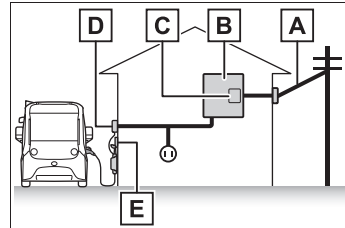
(→P.65)

BEV / PHEV 専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

＊ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き差しをより安全に行うことができます。

■事業所の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき（100V 電源の使用時）

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。



A 電線

B 分電盤

C 高速高感度形漏電遮断器

漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 軽負荷電動車両充電用コンセント

(→P.66)

一般的な抜止形の防雨形 100V コンセントでは、ひんぱんな抜き差し使用による耐久性が十分ではない場合がありますが、軽負荷電動車両充電用コンセントは耐久性が確保されています。

充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぐため、フックを併用していただくことをおすすめします。

E フック

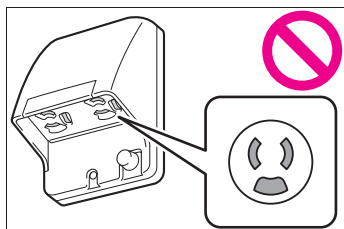
普通充電ケーブルのコントロールユニットをフックに引っかけることにより、コンセントや電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

⚠ 警告

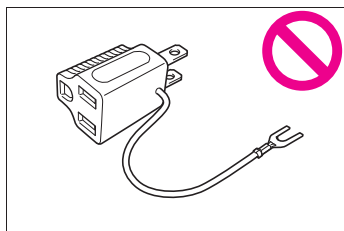
■ 電源についての警告

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

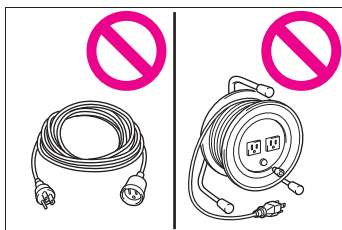
- 安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。
- 必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。
- 抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



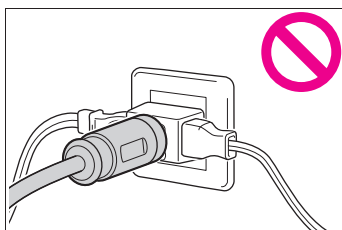
- コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



- 必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.56）が働かなくなるなどの原因になります。



- 分岐用コンセントには接続しないでください。



- 普通充電コネクタと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
普通充電コネクタと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

充電方法について

この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。

充電方法の種類

■ 普通充電（→P.75）

AC コンセントと普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

タイマー充電を設定することで、ご希望の日時に充電を行うことも可能です。（→P.87）

■ 急速充電（→P.82）

CHAdemo（チャデモ）※ 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

※ CHAdemo はチャデモ協議会が提案する商標名です。

■ V2H（→P.82）

車両と V2H 機器双方向に電源供給することを「V2H（ヴィーツーエッチ）」といいます。V2H 機器から車両へ充電を行うことを「V2H 充電」、V2H 機器を経由して車両から自宅へ電源供給することを「V2H 給電」といいます。

このシステムを使用するには、V2H 機器※が必要です。（車両には付属していません）

V2H の詳細については、各 V2H 機器の取扱説明書などをご確認いただくか、V2H 機器の製造元へお問い合わせください。

※ 車両から自宅へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電源供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠したもの。

充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

■ マイルームモード（→P.95）

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池を冷却し、保護します。

高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。



知識

■ 急速充電中のマイルームモード使用について

→P.96

■ 駆動用電池冷却について

● 普通充電のみ：マルチメディア画面で“駆動用電池冷却”の設定変更が可能です。

- 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、充電インジケーターが点灯します。
- 駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。
- 駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。
- 駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。
 - ・ サービスホールを開けたとき
 - ・ パワースイッチを OFF 以外にしたとき
 - ・ シフトポジションを P 以外にしたとき
 - ・ 駆動用電池の残量が一定未満になったとき
- 駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
 - ・ 駆動用電池冷却の作動中も、充電器（スタンド）からは充電中と認識されません。よって、充電時間に応じて課金される充電器（スタンド）では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

■ 駆動用電池冷却の設定を変更するには

マルチメディア画面で、駆動用電池冷却の設定を変更することができます。

マルチメディアを操作して、“車両カスタマイズ”、“充電”、“電池冷却”の順に選択し、設定を変更してください。

“Off” を選択すると、走行状況に応じて駆動用電池の出力を制限される場合があります。

充電に関するアドバイス

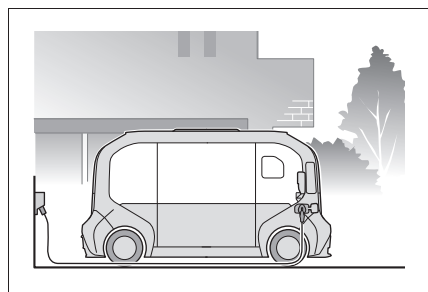
この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。

上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、電気自動車の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。

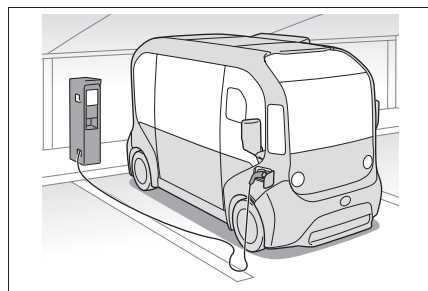
■ お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→P.75）



■ ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。



充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

■ 充電中は

充電中にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安※が一定時間表示されます。

駆動用バッテリーの残量や外気温、普通／急速充電器（スタンド）の仕様、外部電源の供給電圧などの条件により、実際の充電時間とは異なることがあります。

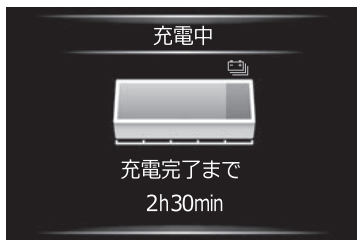
充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

※ V2H 充電中は、充電完了までに必要な時間の目安は表示されません。

■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、充電結果についてのメッセージが一定時間表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されません。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。（→P.104）



充電の前に知っておいていただきたいこと

充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

知識

■ 安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作してもEVシステムを始動することはできません。
- READYインジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EVシステムは自動的に停止し、走行できなくなります。

警告

■ 充電、V2H充電／V2H給電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電または給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 充電または給電時、充電器（スタンド）、充電ケーブル、V2H機器に近付かないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 充電または給電中は車内にとどまらないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。充電または給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 車両に充電ケーブルが接続されているとき

シフトポジションをPから切り替えないでください。

万一、充電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 充電に関する留意事項

この車は一般家庭用のACコンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 200Vでの普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→P.64）
- お客様の充電環境によっては、屋外で充電作業を行う

注意

■ 充電に関する留意事項

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。

充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること (→P.212)
- パワースイッチが OFF になっていること (→P.202)
- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。(→P.60)

知識

■ 充電中は

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- 充電中は、エアコンシステムおよび駆動用電池冷却の作動にともない、駆動用電池付近から音が聞こえることがあります。
- 充電中・充電完了後は、充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。

■ 普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電について

普通充電・急速充電・V2H 充電／V2H 給電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■ 公共の普通充電器（スタンド）で充電するとき

タイマー充電の設定状態を確認してください。

- ・ 充電スケジュールが登録されているときは一時的に OFF にするか、“今すぐ充電”を ON にしてください。(→P.93, 94)
- ・ 充電スケジュールが ON になっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

■ 駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態で高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電 (→P.87) を活用する
- ひんぱんな急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■ 充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■ 駆動用電池への充電量が減少するとき

エアコンの使用により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量もしくは駆動用電池残量が減少することがあります。

■ 充電時間が長くなるとき

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 車両の電力消費量が多いとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）（→P.218）
- マイルームモードを使用しているとき（→P.95）
- 充電中に停電したとき
- 普通充電器（スタンド）・急速充電器（スタンド）、V2H 機器で供給電力を調整しているとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき

- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき

- 車両の充電電流設定で充電電流上限を変更したとき（200V での普通充電時のみ）（→P.78）
- 充電前に駆動用電池冷却（→P.69）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき
- 車両の急速充電電力設定で充電電力上限を変更したとき
- 充電関連部品の温度が高いとき
- 接続先の外部電源の状態により車両が充電電力を制限したとき

■ 普通充電電力について

この車両は最大約 6kW の充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

100V 電源での充電は、充電電力が小さいため、充電時間が長くなります。

また、100V 電源での充電時に、外部電源の供給電圧低下などにより充電電力が低下した場合、充電を停止する可能性があります。

200V 電源での充電をおすすめします。

普通充電のしかた

ここでは、普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法もご確認ください。

充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”をONにしてから充電を実施してください。（→P.93, 94）



注意

■ 普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクタを抜く
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクタがアンロックされていることを確認する
- 普通充電コネクタの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクタを揺するなど振動を与えない
充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクタ以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する

● 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない

● ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。

■ 普通充電インレットについて

普通充電インレットの分解・修理・改造などをしないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

充電前の重要確認事項

→P.72

充電するときは

- 1 普通充電ケーブルを用意する
- 2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

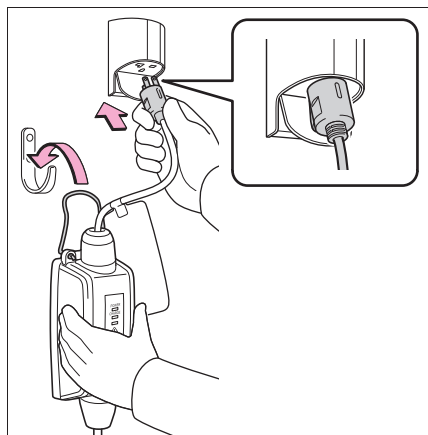
必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

コントロールユニット上の電源インジケータが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.98を参照してください）

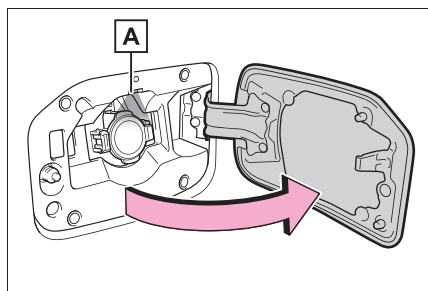
コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフックなどに引っかけて使用

してください。

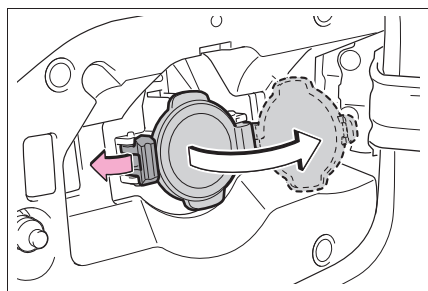


3 普通充電リッドを開ける

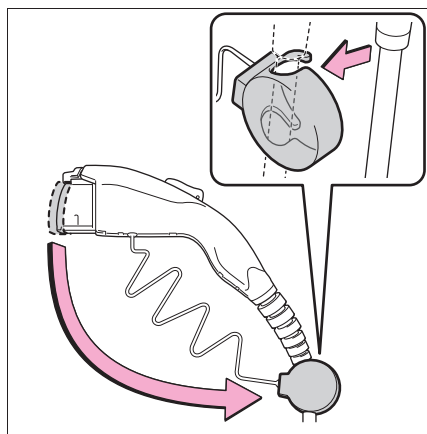
普通充電リッド（車両の右側）を開けると、普通充電インレット照明**A**が点灯します。



4 普通充電インレットキャップを開ける



5 普通充電コネクタの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する

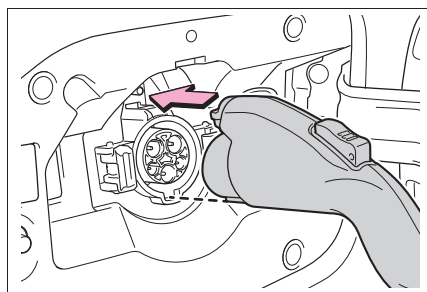


6 普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクタの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

“カチッ”という音が生じて、普通充電コネクタが確実にロックされたことを確認してください。

普通充電コネクタを挿し込むと、自動的にロックされます。(→P.61)



7 普通充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認する

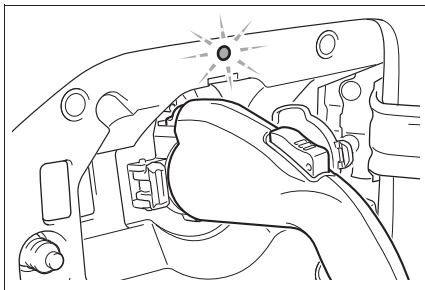
充電インジケータが点灯していないときは、充電が開始されていません。
(→P.53)

充電インジケータが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。(→P.87)

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケータが点滅したときは、P.57 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケータが消灯します。

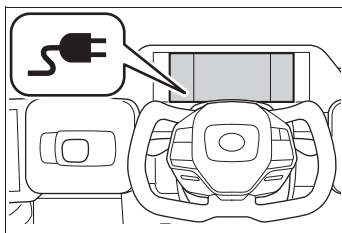
充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケータが消灯します。その場合は、P.98 の記載をご確認ください。



□ 知識

■ 普通充電コネクタが接続されているとき

普通充電コネクタが接続された状態でドアを開けるかパワースイッチを ON にすると、メーターの充電ケーブル接続テルテル（プラグ形状）を点灯させて充電コネクタを接続していることを通知します。



■ 普通充電ケーブルの接続後に普通充電ポートの充電インジケータが点滅したとき

充電スケジュール (→P.87) が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

● “今すぐ充電” を ON にする (→P.93, 94)

● 充電インジケータが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクタを取りはずして、すぐに接続し直す

■ 普通充電インレットに普通充電コネクタを挿し込めないとき

→P.62

■ 安全機能について

普通充電コネクタを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通充電コネクタを抜いてから再度、普通充電コネクタを挿し直して、普通充電ポートの充電インジケータが点灯することを確認してください。

■ 充電時間が長くなるとき

→P.74

■200V での充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチメディアで、充電電流の上限値を変更することができます。※1

- 1 マルチメディア画面の  を押す
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “充電” を選択する
- 4 “充電電流” を選択する
- 5 “16A” または “8A” を選択する

充電時の最大電流が選択した電流以下に制限されます。※2

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.65)

※1 カスタマイズ設定で充電電流の設定を変更しても、100V 充電時の最大電流は 6A から変更されません。

※2 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

■充電量上限設定のしかた

マルチメディアで、充電時の充電量の上限を変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電共通です。

- 1 マルチメディア画面の  を押す
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “充電” を選択する
- 4 “充電量上限” を選択する
- 5 “Full”、“90%”、“80%”、“70%”、“60%” または “50%” を選択する

■普通充電インレット過熱保護

充電コネクタの接点への異物混入などにより、温度が上昇して溶損してしまうことを防ぐために、普通充電インレット部に温度センサを搭載しています。

一定の温度上昇が検知されると、速やかに充電を停止します。その後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.104)

警告

■充電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する (→P.64)
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこりなどの異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこりなどの異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
付着している場合は、普通充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクタ・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの(針金など)でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない

⚠ 警告

- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き差しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで差し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、サービスホールを閉める
冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

● 普通充電ケーブルを接続しても、コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない場合は、すぐに普通充電ケーブルを取りはずしてください。

● 他の車両に搭載された普通充電ケーブルを使用すると普通充電が停止する可能性があります。

■ 充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。P.57 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、トヨタ販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 車載充電器について

モータールームに車載充電器があります。車載充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

**注意****■ 充電時の注意**

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。

普通充電インレットが故障するおそれがあります。

■ 自家用発電機の使用について

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止したりするおそれがあります。

■ 充電設備について

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、充電が停止するおそれがあります。

充電したあとは

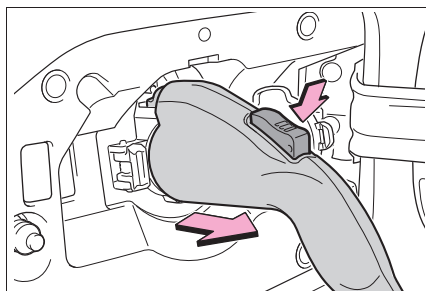
- 1 車両のドアの解錠操作をして、普通充電コネクタをアンロックする (→P.136)

ドアの解錠操作をすると、普通充電コネクタもアンロックされ、普通充電インレット照明が点灯します。

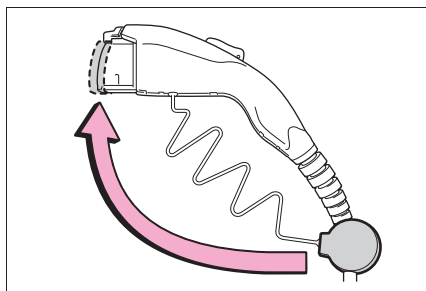
- 2 ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクタを取りはずす

充電中（充電インジケータの点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停

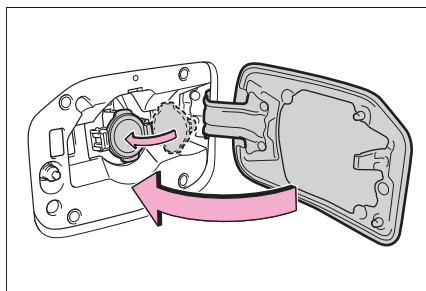
止します。



- 3 普通充電コネクタの保護キャップを取り付ける



- 4 普通充電インレットキャップを閉め、普通充電リッドを閉める



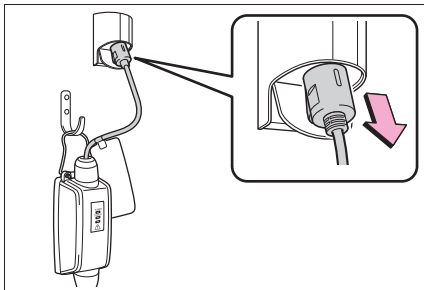
- 5 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。(→P.81)

電源プラグを挿したままにするとときは、1ヶ月に1回は電源プラグに汚れやほこ

りがないか点検してください。



知識

■ 普通充電時の充電時間について

普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。

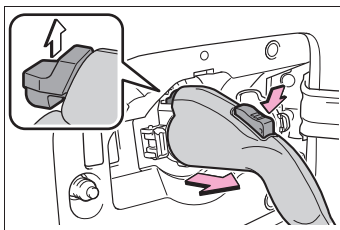
■ 周囲の温度が低温または高温のとき

充電が完了して駆動用電池残量計（→P.123）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを ON にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

■ 普通充電コネクタをはずすとき

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクタを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクタがロックされています。その場合は、ドアの解錠操作をし、普通充電コネクタをアンロックしてください。（→P.61）



■ 普通充電コネクタをアンロックできないとき

→P.62

警告

■ 充電後の警告

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
電源プラグやコンセントにほこりなどの汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 充電後の注意

- 普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。
- コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがつかからない安全な場所に保管してください。
普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。
- 普通充電インレットから普通充電コネクタを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップを閉め、充電リッドを閉めてください。
普通充電インレットキャップを開けたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

急速充電・V2H 充電／ V2H 給電のしかた

ここでは、急速充電・V2H 充電／V2H 給電の手順を説明しています。

充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）および V2H 機器の取り扱い方法をご確認ください。

⚠ 警告

■ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

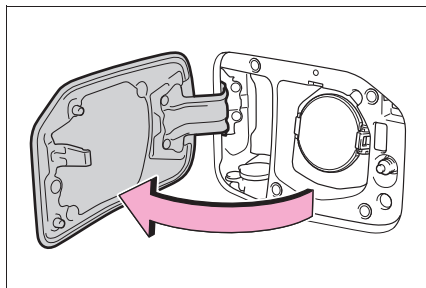
- CHAdeMO 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用してください。
- 電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版に準拠した V2H 機器を使用してください。
- 30m をこえるケーブルを使用しないでください。

急速充電・V2H 充電／V2H 給電前の重要確認事項

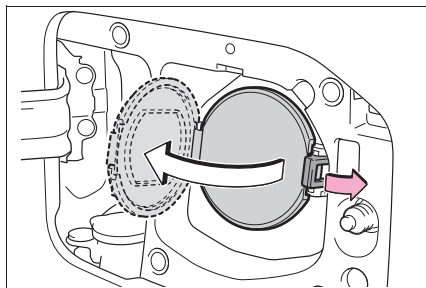
→P.72

急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときは

- 1 急速充電リッドを開ける
- 2 急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。



- 3 急速充電インレットキャップを開ける

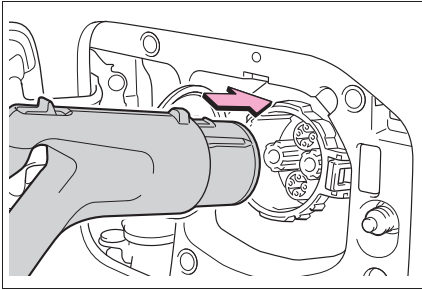


- 4 急速充電コネクタを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む

急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

さい。



5 急速充電器（スタンド）・V2H機器を操作して急速充電・V2H充電／V2H給電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）・V2H機器の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、急速充電・V2H充電／V2H給電が開始されます。

充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）・V2H機器の取り扱い方法に従って、停止してください。



知識

■充電時間が長くなるとき

→P.74

■急速充電器（スタンド）・V2H機器に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき

急速充電器（スタンド）・V2H機器に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生”など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）・V2H機器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクタ端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

■急速充電・V2H充電／V2H給電中は

- マルチインフォメーションディスプレイで、現在の充電状態を確認することができます。
ただし、V2H充電中の充電時間は表示されません。
- 急速充電・V2H充電／V2H給電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。
- 急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。
- 満充電に近づくると充電速度が低下して、充電完了までの時間が長くなります。
- 駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までの時間が変化する、または充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。
- 駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんばんな急速充電は避けることをおすすめします。
- 急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。
- 急速充電器（スタンド）の仕様により、満充電になる前に充電停止する場合があります。

■V2H 充電／V2H 給電について

V2H 充電／V2H 給電中は、マイルームモードを使用できません。

■停電中の V2H 機器の利用について

V2H 機器の中には、停電時に機器起動のため、車両から電源供給を必要とするものもあります。その場合、DC 外部給電システム（→P.110）を使うことにより、車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

停電時の V2H 機器の利用については、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。

■急速充電電力設定のしかた

マルチメディアで急速充電電力の上限を変更することができます。

- 1 マルチメディア画面の  を押す
- 2 “車両カスタマイズ” を選択する
- 3 “充電” タブを選択する
- 4 “急速充電電力” を選択する
- 5 “MAX”、“75kW” または “50kW” のいずれかを選択する

充電時の最大電力が選択した電力以下に制限されます。“MAX” を選択した場合、車両が充電可能な最大電力で充電されます。

■充電量上限設定のしかた

→P.78

■急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認”が表示されたとき

急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システム

を始動できなくなります。

急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後に EV システムを始動できなくなったときは次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする
- 2 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める
- 3 パワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認中”が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、急速充電リッドを開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

- 4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケータが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

⚠ 警告

■急速充電・V2H 充電／V2H 給電するときの警告

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電器（スタンド）・V2H 機器・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わず、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない

- 急速充電インレットに急速充電コネクタ以外のものを挿し込まない

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない

- ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する

- 急速充電コネクタと急速充電インレットは、必ず直接接続する

急速充電コネクタと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従う

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに急速充電・V2H 充電／V2H 給電を中止してください。

- 急速充電コネクタ・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。

- 落雷の可能性がある天候のときは急速充電・V2H 充電／V2H 給電を行わない

急速充電中・V2H 充電／V2H 給電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。

- 急速充電インレットの端子部が濡れないようにする

- 急速充電システムを使用するときは、サービスホールを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 急速充電コネクタを接続するとき

- 急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクタを接続してください。急速充電コネクタが正しく接続されていない場合、システムがコネクタの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクタを車両の急速充電インレットから取りはずしてください。もしコネクタが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急速充電中に、急速充電インレットから急速充電コネクタを取りはずさないこと。急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止した後、急速充電インレットから急速充電コネクタを取りはずしてください。



注意

■急速充電・V2H 充電／V2H 給電するとき

必ず急速充電器（スタンド）の取り扱い方法・V2H 機器に付属している取扱説明書に従ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）・V2H 機器などを損傷するおそれがあります。

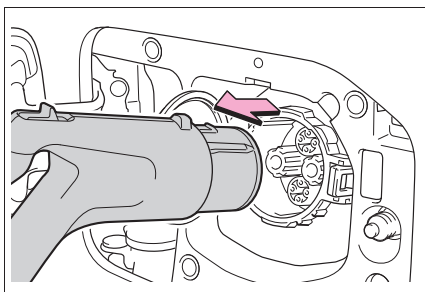
急速充電・V2H 充電／V2H 給電したあとは

- 1 急速充電器（スタンド）・V2H 機器を操作して充電を停止する
- 2 急速充電コネクタを取りはずす

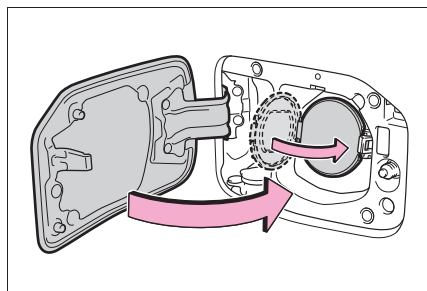
急速充電コネクタの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）・V2H 機器の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

取りはずした急速充電コネクタは、もとの位置にもどしてください。



- 3 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める



□ 知識

■急速充電コネクタをアンロックできないとき

- 急速充電コネクタは、急速充電器（スタンド）によりロックしています。

車両のコネクタロック緊急解除レバーで操作を行ってもアンロックはできません。

- 急速充電中は急速充電コネクタをはずすことはできません。はずす必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクタをはずすことができます。
- 充電が停止しても急速充電コネクタが抜けない場合、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に異常がある可能性があります。
- ・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。
- ・V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。

■急速充電・V2H 充電をしたあと

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器（スタンド）・V2H 機器に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

 注意**■ 急速充電・V2H充電／V2H給電後の注意**

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットキャップを閉めて、急速充電リッドを閉めてください。急速充電インレットキャップを開けたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

タイマー充電機能を使う

充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。

 知識**■ カレンダー設定について**

タイマー充電は、マルチメディアに表示される日時に従って実行されます。設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

正しい日付になっているか確認し、誤っている場合は必ず修正してください。

カレンダーの内容が誤っていると、タイマー充電機能が正しく作動しなくなります。

タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

■ 充電モードの選択

次の2種類から充電モードを選択できます。

▶ 開始

設定した時刻[※]に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

▶ 開始終了

設定した開始時刻と終了時刻に従って普通充電を実施します。[※]

[※] 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

■ くり返し設定

ご希望の曜日を選択することで、くり返しタイマー充電が行われるように設定できます。タイマー充電を実施したい曜日を 1 つ以上選択してください。

■ 今すぐ充電の ON/OFF

充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“今すぐ充電”を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電コネクタ接続後、普通充電を開始することができます。

充電スケジュールが登録されており、かつ“今すぐ充電”が ON の時に普通充電コネクタを取りはずした場合、“今すぐ充電”が OFF になります。

■ 次回充電予定

登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定と呼びます。

タイマー充電は、次回充電予定に従い、普通充電を実施します。

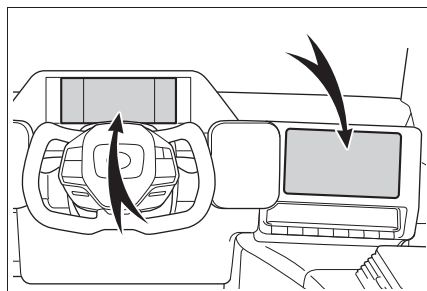
充電スケジュールを登録するには

マルチメディアで、充電スケジュールを登録できます。

“今すぐ充電”のみマルチインフォメーションディスプレイでも操作できます。

- マルチメディアでの設定操作：→P.89

- マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作：→P.94



□ 知識

■ タイマー設定について

- 走行中に充電スケジュールの設定操作を行うことはできません。
- 充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。
- 充電モードを“開始／終了”に設定し、開始時刻と終了時刻を同時刻に設定した場合、開始時刻から 24 時間充電を実施します。
- タイマー充電機能は、急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時には使用できません。

■ タイマー充電機能を正しく作動させるために

次のことをご確認ください。

- 時計が正しい時刻に調整されていること ※
- ※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
- カレンダーが正しい年月日に設定されていること ※
- ※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- パワースイッチが OFF になっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電コネクタを接続すること

普通充電コネクタを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。

- 開始時刻よりも前に普通充電コネクタを接続すること

充電モードを「開始」に設定したときは、設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続すると、次の充電スケジュールが参照されます。

充電モードが「開始終了」の場合は、開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続すると、すぐに充電を開始し、終了時刻まで充電を実施します。

- 普通充電コネクタの接続後、充電ポートの充電インジケータが点滅することを確認する (→P.53)
- 電力遮断機能 (タイマー機能を含む) を持つコンセントで使用しない

常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。

■ 普通充電コネクタが車両に接続されたままの状態のとき

- 充電モードを“開始”に設定したときは、連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電コネクタを取りはずして再接続するまで、次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

- 充電モードを“開始/終了”に設定したときは、満充電となる前に終了時刻に到達した場合、終了時刻以降で最も近い充電スケジュールを次回充電予定に更新して、満充電となるまでタイマー充電をくり返し実施します。

■ タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

- マイルームモード (→P.95) を開始したとき
- “今すぐ充電” を ON にしたとき (→P.94, 93)
- タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき (→P.77)

■ 駆動用電池冷却 (→P.69) について

駆動用電池の温度によっては、タイマー充電の待機中に駆動用電池冷却機能が作動し、充電インジケータが点灯する場合があります。

マルチメディア画面での設定操作

マルチメディアの詳しい操作方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

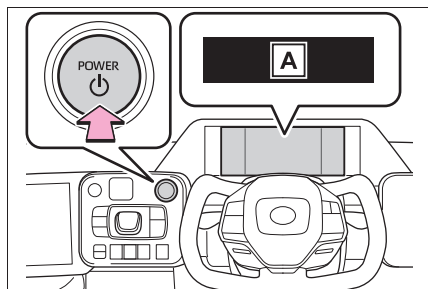
タイマー充電に関する設定操作は、充電スケジュール画面上で行います。

■ “充電スケジュール” 画面を表示するには

- 1 パワースイッチを ON にしてメニュー画面を表示する

ACC では充電スケジュールの設定操作

を行うことはできません。

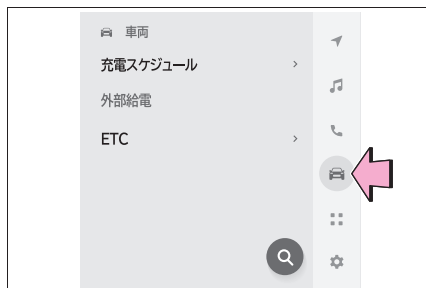


A “パワー ON”

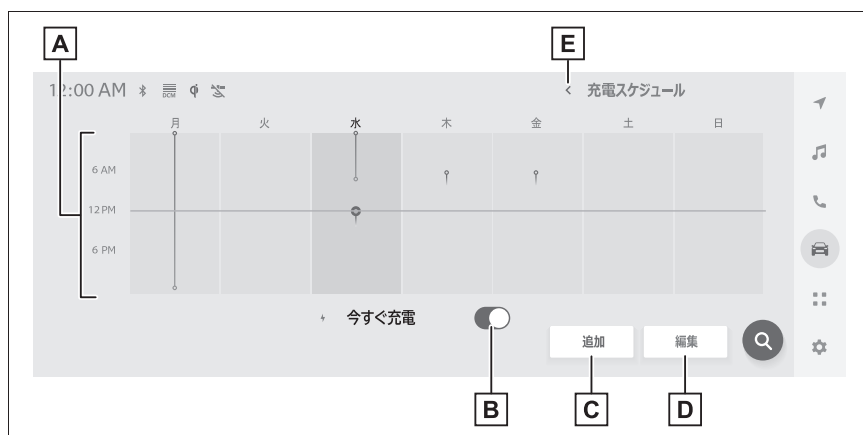
2 車の、“充電スケジュール”

の順に選択する

“充電スケジュール” 画面が表示されます。



■ “充電スケジュール” 画面の見方



A 充電スケジュール

1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

B “今すぐ充電” ボタン

押すたびに“今すぐ充電”の ON・OFF が切りかわります。(→P.93)

C 追加ボタン

充電スケジュールを新規登録するときに押します。(→P.91)

D 編集ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときに押します。(→P.92)

E もどるボタン

押すと、“充電スケジュール”画面が終了します。

■ 充電スケジュールを登録するには

- 1 “充電スケジュール”画面を表示する (→P.89)
- 2 “追加”を押す
- 3 ご希望のスケジュールを設定する

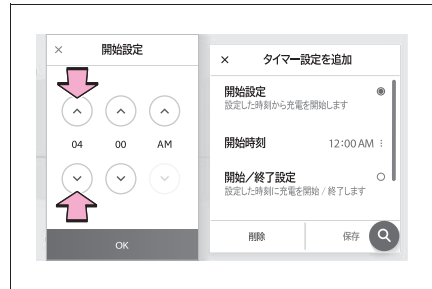
● 充電モード



“開始設定”または“開始/終了設定”を押すと、押した充電モードでタイマー充電を実施する時間を設定します。

▶ “開始設定”を選択した場合

普通充電を開始する時刻を設定し、OKを押します。



▶ “開始/終了設定”を選択した場合
普通充電を開始する時刻と終了する時刻を設定し、OKを押します。

● くり返し設定



曜日を選択して OK を押します。



選択した曜日にタイマー充電がくり返し実施されます。複数の曜日に対して、くり返し設定を ON にすることも可能です。

- 4 すべての設定が終了したら、“保存” を押す

充電スケジュールが登録され、スケジュール上にアイコンが追加されます。

タイマー設定の登録を中止するとき、× ボタンを押します。

設定の終了後、車両に普通充電コネクターを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

■ 充電スケジュールの ON・OFF を切りかえるには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.89)

- 2 “編集” を押す

“タイマー設定リスト” 画面が表示されます。

- 3 画面に表示されているリストの中から、ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールの行のタイマー設定 ON・OFF ボタンを押す

ON・OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを押すたびに充電スケジュールの ON・OFF が切りかわります。



■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.89)

- 2 “編集” を押す

“タイマー設定リスト” 画面が表示されます。

- 3 “タイマー設定リスト” 画面の“編集” を押す



- 4 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールを押す



● 登録内容を変更するときには：

“充電スケジュールを登録するには” (→P.91) の手順 3 および 4 の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、スケジュール上のアイコンの表示もかわります。

- 登録内容を削除するときは：
“削除” を押す



削除を確認するメッセージが表示されます。

“削除” を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、もどるボタンを押します。

充電スケジュールを削除すると、スケジュール上のアイコンも削除されます。

■ “今すぐ充電” を ON にするには

- 1 “充電スケジュール” 画面を表示する (→P.89)
- 2 “今すぐ充電” ボタンを押す
ボタンを押すたびに、“今すぐ充電” の ON・OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電コネクタを接続すると、普通充電が開始されます。(→P.75)

■ 次回充電予定を表示するには ※

※ メニュー内の“ACC カスタマイズ”のスイッチが OFF に設定されていないと、エンディング画面が表示されません。その場合は、マルチメディアの設定内容を確認してください。

パワースイッチを OFF にする

設定された充電スケジュールに従って、次回充電予定が表示されます。



“OK” ボタンを押すと、次回充電予定画面を閉じます。

“今すぐ充電” ボタンを押すと、今すぐ充電が ON になります。

□ 知識

■ 充電スケジュールをすべて OFF にしたとき

“充電スケジュール” 画面上にアイコンは表示されません。

“タイマー設定リスト” 画面で ON にすることで、アイコンが表示されます。

■ タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを OFF にしたとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

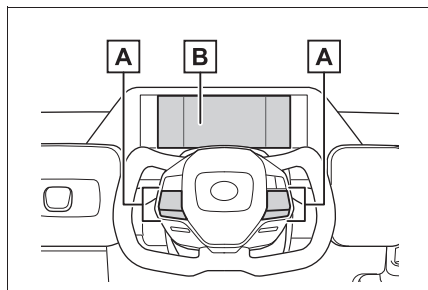
⚠ 注意

■ 設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

設定操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。



A メーター操作スイッチ
(→P.127)

B マルチインフォメーションディスプレイ

■ “今すぐ充電” を ON にするには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して、“今すぐ充電” を選択し、OK を押す

OK を押すたびに、“今すぐ充電” の ON・OFF が切りかわります。

知識

■ タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

⚠ 注意

■ 設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

マイルームモードを使う

車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。

マイルームモードを開始するには

- 1 車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する
普通充電するとき：→P.75
急速充電するとき：→P.82

V2H 充電／V2H 給電時は、マイルームモードを使用できません。

- 2 充電の実施中にパワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

- 3 メーター操作スイッチを使って“YES”を選択し、“OK”を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

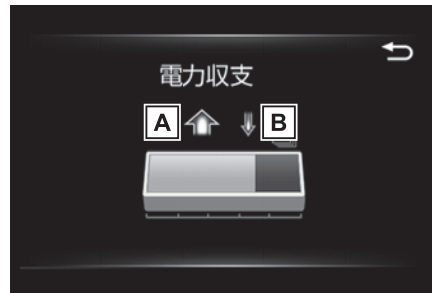
マイルームモードを使用しないときは、“NO”を選択して“OK”を押します。

マイルームモードを停止するとき、パワースイッチを OFF にします。

急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止する。

マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の大きさと、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。



A 放電状況

B 充電状況

充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときは**B**が大きくなり、電気供給量より消費電力が大きいときは、**A**が大きくなります。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、**A**と**B**が同じ大きさで表示されます。

知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

- 駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する

その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。

- 駆動用電池の充電時間が長くなる
- 普通充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。
- パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがありますが、異常ではありません。

■急速充電中のマイルームモード使用について

急速充電中にマイルームモードを使用するときは、使用しないときとくらべて、充電完了時の充電量が低下します。

■駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクタが接続された状態で、パワースイッチを ON にすると、“充電リッドが開いています” というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの  を押すことで、マイルームモードの設定画面が表示され、“マイルームモード” を選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

- “ 駆動用電池残量不足 マイルームモード起動不可 ”

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

- “ 駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します ”

駆動用電池の残量が不足しています。マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

- “ 駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい ”

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。※

- ・ 車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
- ・ マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用電池の残量を増やしてください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。（→P.95）

 警告**■ マイルームモードの使用上の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、ベットを車内に残さないでください。システムの自動停止などにより車内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

正常に充電できないときは

正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.104 も併せて参照してください。

正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している

考えられる原因	対処方法
漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された	電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケータが点滅することがあります。いったん電源プラグをコンセントから抜き、正常な電源に接続し直してください。(→P.57) 充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 普通充電コネクタを接続しても普通充電ポートの充電インジケータが点灯しない

考えられる原因	対処方法
電源プラグがコンセントに正しく接続されていない	電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。 正しく接続されている場合は、コントロールユニット上の電源インジケータが点灯します。
停電している	停電の解消後、再度充電してください。
手元スイッチが OFF になっている	手元スイッチがある場合は、スイッチを ON にしてください。

考えられる原因	対処方法
建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている	ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かを確認ください。ほかのコンセントが近くにない場合はトヨタ販売店にご相談ください。充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物／設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。
普通充電コネクタが普通充電インレットに確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 ・ 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・ 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 普通充電コネクタが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケータが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。
普通充電器（スタンド）が作動しない	普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。

上記のチェックで解消しない場合、普通充電ケーブル（電源プラグコードを含む）に断線などの可能性がありますので、ただちに充電を中止して、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 普通充電ポートの充電インジケータが点滅して充電できない

考えられる原因	対処方法
普通充電ポートの充電インジケータが点滅（通常）しているとき※：充電スケジュールが登録されている	タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。 充電を開始したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。（→P.94, 93）
普通充電ポートの充電インジケータが速い点滅をしているとき※：外部電源、または車両に異常が発生している	パワースイッチがOFFの状態ではドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。（→P.104）

※ 普通充電ポートの充電インジケータの点灯・点滅については、P.53 を参照してください。

正常に急速充電・V2H 充電／V2H 給電できないとき

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始しない

考えられる原因	対処方法
急速充電コネクタが車両に正しく接続されていない	急速充電コネクタの接続状態を確認し、コネクタを確実にロックしてください。
急速充電コネクタが確実にロックされていない	接続状態に異常がないのに急速充電・V2H 充電／V2H 給電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）・V2H 機器または充電システムに異常がある可能性があります。 ・ 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・ V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ・ 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・ V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器の製造業者または販売業者にご連絡ください。 ・ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・ EV システムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になっている	・ 急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 ・ V2H 機器の取扱説明書を確認するなど、電源状態をご確認ください。
すでに駆動用電池が満充電になっている	駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。
設定した充電量上限より駆動用電池残量が多い	充電量上限を現在の駆動用電池残量より高い値に設定して、再度充電してください。
普通充電コネクタも接続している	普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。
EV システムが始動している	EV システムが始動していると、急速充電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムを使用できません。

■ 急速充電・V2H 充電／V2H 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）・V2H 機器のタイマーが作動した	急速充電器（スタンド）または V2H 機器によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器の電源が OFF になった	急速充電器（スタンド）または V2H 機器の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡するか、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。
駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い	極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電または V2H 充電／V2H 給電できない場合があります。気温が安定してから急速充電・V2H 充電／V2H 給電を実施してください。
急速充電器（スタンド）・V2H 機器または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された	急速充電器（スタンド）・V2H 機器、または充電システムに異常がある可能性があります。 ・ 急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 ・ V2H 機器に問題がある場合は、V2H 機器に付属の取扱説明書を確認してください。 ・ 急速充電器（スタンド）・V2H 機器に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店にご連絡ください。 ・ EV システムを始動できなくなった場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
充電関連部品の温度が高い	充電関連部品の温度が高いと急速充電・V2H 充電／V2H 給電できない場合があります。しばらく時間をあけてから再度急速充電・V2H 充電／V2H 給電をおこなってください。
満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した	車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度充電してください。

■ 急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後に EV システムが始動できなくなった

考えられる原因	対処方法
充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった	P.84 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。
急速充電コネクタが接続されたままになっている	急速充電コネクタが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。(→P.72) 急速充電・V2H 充電／V2H 給電終了後は、すみやかに急速充電コネクタを取りはずしてください。
急速充電システムまたは V2H 充電／V2H 給電システムが故障した	- 故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、EV システムを始動できる場合があります。 - 始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ 希望の時刻に充電が開始しない

考えられる原因	対処方法
車両のカレンダー、時刻が正しく設定されていない	カレンダーの設定内容を確認し、正しい年月日、時刻に設定してください。設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
車両に普通充電コネクタが接続されていない	タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電コネクタを接続しておいてください。
設定した開始時刻を過ぎてから普通充電コネクタを接続した	充電モードが“開始”の場合は、設定した開始時刻よりも前に普通充電コネクタを接続してください。 充電モードを“開始終了”に設定した場合は、終了時刻よりも前に普通充電コネクタを接続すれば、開始時刻を過ぎていても充電します。

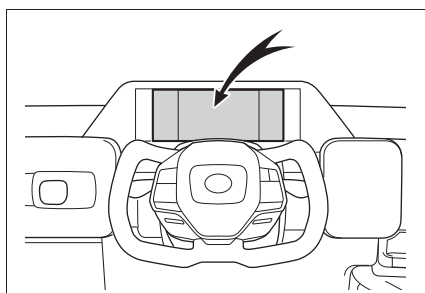
■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

考えられる原因	対処方法
“今すぐ充電” が ON になっている	タイマー充電する際は、“今すぐ充電” を OFF に設定してください。(→P.94, 93)
充電スケジュールが OFF になっている	充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。(→P.92)
普通充電ポートの充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクタを抜き挿しした	普通充電インジケータが通常の速さで点滅しているときに普通充電コネクタを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます(→P.77)。いったん普通充電コネクタを取りはずして、再度、接続し直してください。
マイルームモードを作動させた	マイルームモードを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、マイルームモードを終了してから、接続し直してください。

充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



■ “充電コネクタ操作により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電中に普通充電コネクタを取りはずした	普通充電中に普通充電コネクタを取りはずすと、充電は中断されます。満充電にしたい場合は再度、充電を行ってください。
普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能※が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクタを取りはずした	
普通充電コネクタが確実に接続されていない	普通充電コネクタの接続状態を確認してください。 ・ 普通充電コネクタを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。 ・ 普通充電コネクタの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、普通充電ポートの充電インジケータが点灯していることを確認してください。 正しい作業手順に従っても充電できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電中に普通充電コネクタのロック解除ボタンを押した	普通充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクタを接続し直してください。

※ マイルームモード（→P.95）を使用すると、電力を消費します。

■ “充電完了しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した	ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。

■ “停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・ 電源プラグが抜けていないか ・ 手元スイッチが OFF になっていないか ・ コントロールユニット上の電源インジケータが点灯しているか ・ ブレーカーが落ちていないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。(充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください) 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。 なお、コントロールユニット上のエラーインジケータが点滅している場合は、漏電の可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。 ・ 普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した ・ 普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある ・ 普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない ●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能をご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ “充電設備の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
普通充電器（スタンド）が車両に適合していない	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
急速充電器（スタンド）が故障している	本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）での充電が可能かご確認ください。 他の急速充電器（スタンド）で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）で充電してください。
急速充電器（スタンド）が車両に適合していない	

■ “AC 供給電源の要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部電源からの電源供給に問題がある	次の点をご確認ください。 ・ 電源プラグがしっかりと挿し込まれているか ・ 延長コードを使用したり、分岐用コンセントに接続したりしていないか ・ 専用回線に接続されているか ・ 停電が発生していないか ・ 外部電源の供給電圧が低下していないか 以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください） 電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
普通充電器（スタンド）が充電を停止した	この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。トヨタ純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ “電装品の電力消費大のため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の電装品によって電力が消費されている	次の点をご確認の上、再度充電してください。 ・ ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。 ・ パワースイッチを OFF にしてください。 以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。

■ “システムの要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
充電システムに異常が発生した	トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “充電システム確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電時・V2H 充電／V2H 給電時のシステムチェックが正常に終了しなかった	この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。P.84 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。

■ “充電終了時間に達したため充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった	- 急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。 - 車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。 - エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きいため可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行ってください。 - 駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行ってください。

■ “充電設備または車両要因により充電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
コネクターロックシステムが故障した	トヨタ販売店にご連絡ください

DC 外部給電システム

車両に外部給電器※¹を接続することで、車両から外部へ電源供給※²を行います。車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

※¹ 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

※² 車両側の出力定格は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

DC 外部給電システム

このシステムを使用するには、外部給電器※が必要で、（車両には付属していません）

※ 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版に準拠したもの。

DC 外部給電システムの使い方

DC 外部給電作業は、ここで説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

DC 外部給電作業前の重要確認事項

必ず、次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキがかかっていること（→P.212）
- パワースイッチが OFF になっていること（→P.202）
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

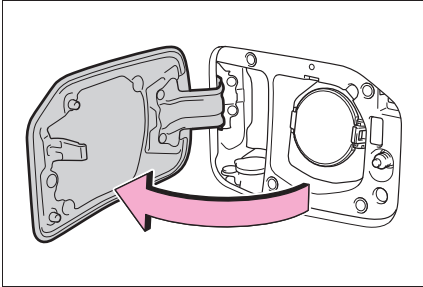
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 運転席足元のサービスホールが閉まっていること
- シフトポジションが P になっていること

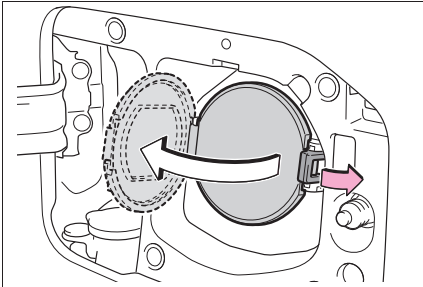
DC 外部給電を開始するときは

1 急速充電リッドを開ける (→P.52)

急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。



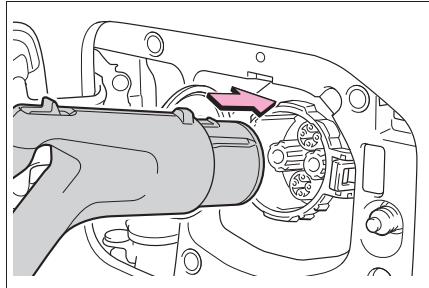
2 急速充電インレットキャップを開ける



3 外部給電コネクタを急速充電インレットに奥まで正しく挿し込む

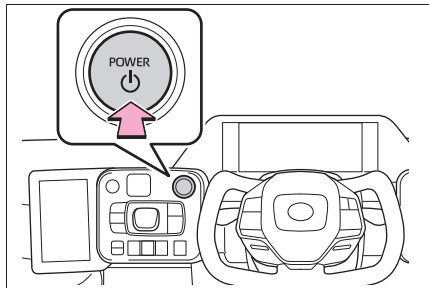
外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器の取扱説明書に従って、作業

を行ってください。



4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して ON にする

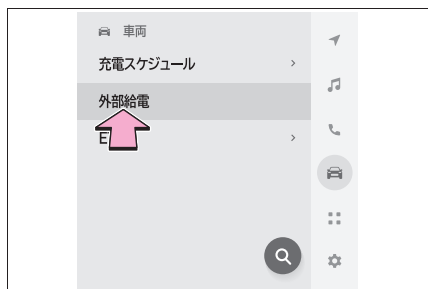
マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、EV システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。



5 マルチメディア画面の を押す

6 “外部給電” を押す

外部給電モードの選択画面が表示されます。



7 “EV 給電モード” を押す

外部給電モードの選択画面上に、給電時間の目安が表示されます。*

駆動用電池の残量が低下しているときは、EV 給電を選択できません。



※ 使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

8 操作ガイド画面の表示に従う

9 外部給電器で開始操作をする

外部給電器に付属の取扱説明書に従い、操作してください。

外部給電器によっては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止することがあります。その場合は、再度手順 4 から開始操作を行ってください。

10 接続した電気製品の電源を ON にする

DC 外部給電中は、マルチメディア画面で、現在の給電状況をお知らせします。

知識

■ DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切りかえることはできません。
- 外部給電器の定格出力上限以上の電力を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。
- 車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。
- スマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠・施錠することはできません。
- ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません”と表示されたりすることがあります。
- 気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合、使用する電気製品を減らしてください。
- 走行中はDC外部給電システムを使用できません。
- 使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

- 炎天下など、車内が高温になる状態で使用すると、システムを保護するために DC 外部給電システムが自動で停止することがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクタを取りはずしてから、車両を日陰に移動するなどして車内の温度を下げ、再度、DC 外部給電システムを開始してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、DC 外部給電システムを使用できないことがあります。
その場合は、いったん外部給電コネクタを取りはずしてからしばらく走行するなどして、駆動用電池を暖めてから使用してください。
- DC 外部給電システム使用中はエアコン・アクセサリコンセントを使用することができます。
- DC 外部給電システムを開始した時点で、いったんエアコンが OFF になります。DC 外部給電中にエアコンを使用したい場合は、エアコンの操作スイッチを操作してエアコンを作動させてください。＊
- ＊ DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される外部給電可能時間と実際の給電時間が異なる場合があります。
- 外部給電機に、車両に異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生”など）が表示されても、車両そのものの異常ではなく、外部給電機と車両間の通信異常である可能性があります。この場合、外部給電コネクタの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電に付属の取扱説明書を確認してください。

■アクセサリコンセントの使用について

DC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリコンセントからも電源を取り出すことができます。ただし、DC 外部給電システムを車両側定格出力未満で使用している場合でも、DC 外部給電システムの出力を優先させるため、アクセサリコンセントの出力を停止する場合があります。アクセサリコンセントを使用したい場合には、DC 外部給電システムで使用している電気製品を減らし、もう一度 AC100V 電源を ON してください。（→P.316）使用している電気製品を減らしても、アクセサリコンセントは自動で復帰しません。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■DC外部給電システムを使用するときの警告

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しない

使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

- サービスホールが閉まっていることを確認する

- モータールーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

- 可燃物や危険物を車両の近くに置かない

 警告

- 給電を開始する前に、接続した電気製品の電源が OFF になっていることを確認する

電源が ON になっていると、電気製品が突然作動するおそれがあります。

- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない

- お子さまなど、不慣れな方だけで作業を行わない

- 外部給電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

外部給電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは DC 外部給電システムを使用しない

使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。

- 急速充電インレットに急速充電コネクター・外部給電コネクター以外のものを挿し込まない

- 外部給電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

- 急速充電インレットの端子がぬれないようにする

- 外部給電コネクター、急速充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

■ 車両に給電ケーブルが接続されているとき

- シフトレバーを操作しない

万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切りかわることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ DC外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではならず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

- ものを取るときなどに、車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

給電を行うときは、必ず本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項をお守りください。

記載されている禁止事項を守らずに給電すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 接続する外部給電器について

必ず電動自動車用充放電システムガイドライン V2L DC 版 (→P.110) に準拠した外部給電器を接続してください。

ガイドラインに準拠していない外部給電器を使用すると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ DC外部給電システムの故障を防ぐために

- 急速充電インレットキャップに強い衝撃を与えないでください。
- ケーブルを損傷するおそれがあるので、使用中は急速充電リッドでケーブルを挟まないでください。
- 外部給電コネクタを急速充電インレットに挿し込むときは、過度の負荷をかけないでください。挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルにものをのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけないでください。
- 給電中に外部給電コネクタ・ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■ 車から離れるとき

盗難を防止するため、ドアが確実に施錠されたことを確認してください。

DC 外部給電に関する情報の表示

DC 外部給電システムの使用中は、マルチインフォメーションディスプレイまたはマルチメディア画面に外部給電中画面が表示され、外部給電可能時間※などの情報を確認することができます。

※ 表示される時間は 400W（急速充電インレットにおける電力）消費時の目安であり、電気製品の使用状況や、使用環境などにより実際の給電時間と異なる場合があります。

DC 外部給電を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

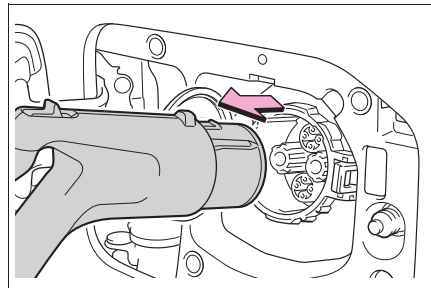
2 外部給電器を停止させる

外部給電器の取り扱い手順に従って操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

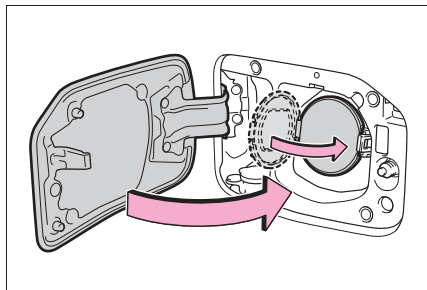
3 外部給電コネクタを取りはずす

外部給電コネクタの形状や取り扱い方法などは、外部給電器により異なります。外部給電器に付属の取扱説明書に従って、作業を行ってください。



4 急速充電インレットキャップを閉め、急速充電リッドを閉める

キャップはカチッと音がするまで確実に閉め、ロックされたことを確認してください。



□ 知識

■ DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき

「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。(→P.84)

■ 外部給電コネクタをアンロックできないとき

「急速充電コネクタをアンロックできないとき」の手順に従い、処置してください。(→P.86)

⚠ 注意

■ DC外部給電システムの故障を防ぐために

- 急速充電インレットキャップに強い衝撃を与えないでください。
- 外部給電コネクタを急速充電インレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■ DC外部給電システムを使用したあとは

急速充電インレットから外部給電コネクタを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットの急速充電インレットキャップを閉じてから、急速充電リッドを閉めてください。

急速充電インレットを開けたままにすると、急速充電インレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

DC 外部給電システムが正常に作動しないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないとき

次の記載を参照してそれぞれ必要な処置を行ってください。

■ 給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクタがしっかりと接続されていない	外部給電コネクタが急速充電インレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
READY インジケータが点灯している	パワースイッチが OFF 状態で、ブレーキを踏まずにパワースイッチを押し、メータに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯（→P.123）でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池の残量を確認し（→P.123）、残量が少なくなっているときは、駆動用電池を充電してください。（→P.69）
開始操作が適切でない	外部給電器によっては、開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
外部給電器の電源が OFF になっている	
前回使用時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。（→P.84）その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
普通充電または急速充電を使用している	普通充電・急速充電を終了してから DC 外部給電システムの開始操作を行ってください。
その他	「DC 外部給電作業前の重要確認事項」(→P.110)を確認し、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

■ 使用後、EV システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクタを取りはずしてください。
前回使用時に正常終了していない	「急速充電後・V2H 充電／V2H 給電後、マルチインフォメーションディスプレイに“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください取扱書を確認”が表示されたとき」の手順に従い、処置してください。(→P.84)

■ 給電終了後、外部給電コネクタがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクタが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切に処置してください。

3-1. 計器の見方

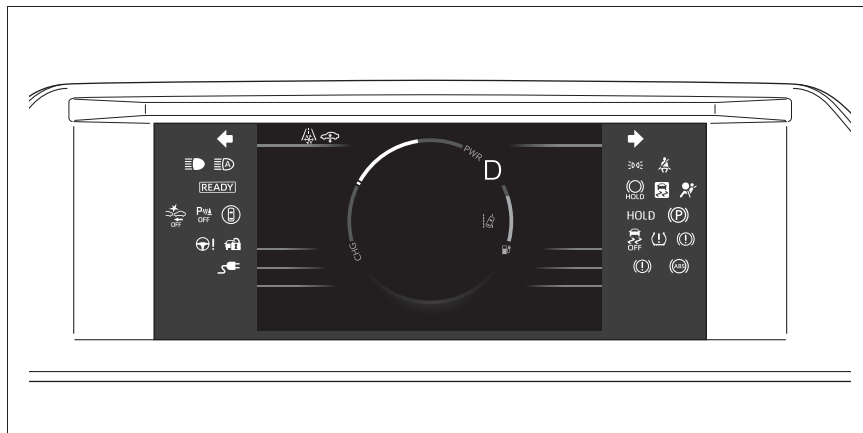
警告灯／表示灯	120
計器類	123
マルチインフォメーションディスプレイ	126

警告灯／表示灯

メーター・アウターミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.380)
(赤色)



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.380)
(黄色)



充電警告灯 ※² (→P.380)



SRS エアバッグ／プリテン
ション警告灯 ※¹
(→P.380)



ABS 及ブレーキアシスト警告
灯 ※¹ (→P.381)



ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.381)



パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.381)
(赤色)



パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.381)
(黄色)



駆動用電池充電警告灯
(→P.381)
(黄色)



運転席シートベルト非着用警
告灯 (→P.382)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.382)



LDA 表示灯 (→P.382)
(黄色)



運転支援情報表示灯 ※¹
(→P.383)
(黄色)

 クリアランスソナー OFF 表示灯 ※¹ (→P.383)

 PCS 警告灯 ※¹ (→P.383)

 スリップ表示灯 ※¹
(→P.384)

 ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.384)
(点滅)

 パーキングブレーキ表示灯 (→P.384)
(点滅)

 AHC 表示灯 ※¹ ★
(車高表示消灯) (→P.384)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

 方向指示表示灯 (→P.211)

 尾灯表示灯 (→P.218)

 ハイビーム表示灯 (→P.220)

 AHB 表示灯 (→P.221)

 PCS 警告灯 ※^{1, 2} (→P.243)

 BSM アウターミラーインジケーター ※^{1, 3} (→P.255)

 LDA 表示灯 (→P.247)
(緑色)

 LDA 表示灯 (→P.247)
(白色)

 LDA OFF 表示灯 ※² (→P.247)
(黄色)

 運転支援情報表示灯 ※^{1, 2} (→P.254, 259, 270, 275, 279)

 クリアランスソナー OFF 表示灯 ※^{1, 2} (→P.264)

 スリップ表示灯 ※¹ (→P.294)
(点滅)

 VSC OFF 表示灯 ※^{1, 2} (→P.294)

 ブレーキホールドスタンバイ表示 ※¹ (→P.215)

 ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.215)

 スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※⁴ (→P.202)



充電コネクター接続表示灯
(→P.77)



READY インジケーター
(→P.202)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.212)



AHC 表示灯★ (→P.289)



AHC OFF 表示灯 ※2 ★
(→P.290)



低温表示灯 ※5 (→P.124)



セキュリティ表示灯
(→P.37)

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを
ON にすると点灯し、数秒後または
EV システムを始動すると消灯しま
す。点灯しない場合や点灯したままの
ときはシステム異常のおそれがありま
す。トヨタ販売店で点検を受けてくだ
さい。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 アウターミラーに表示されます。

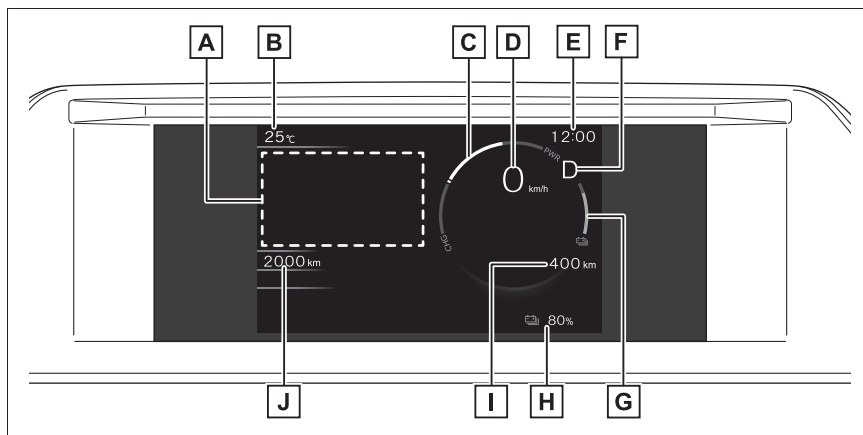
※4 メッセージと一緒にマルチインフォ
メーションディスプレイに表示されま
す。

※5 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒
間点滅後に点灯します。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.126)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.380)

マルチインフォメーションディスプレイの表示 / 非表示を変更することができます。(→P.125)

B 外気温

外気温度を - 40℃～60℃のあいだで表示します。

C パワーメーター (→P.124)

EV システムの出力や回生レベルを示します。

D スピードメーター

車両の走行速度を示します。

E 時計 (→P.126)**F** シフトポジション表示灯

選択されているシフトポジションを表示します。(→P.207)

G 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

H EV エネルギー残量表示

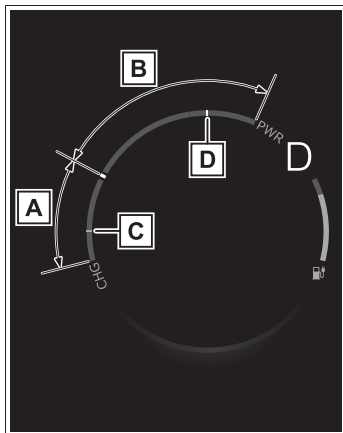
駆動用電池の残量を示します。

I 走行可能距離

駆動用電池残量による走行可能な距離を示します。エアコンの作動中は、アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。

J オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.125) 知識

■ パワーマーターについて

**A** チャージエリア

回生^{※1} ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B パワーエリア

走行中の出力(加速力)を表示します。

C 回生^{※1} 制限表示^{※2}

次のような状況では、回生ブレーキが制限されるため、その制限の目安を、チャージエリア内に表示します。

- ・ 駆動用電池の充電量が多く、これ以上回生ができないとき
- ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

D 出力制限表示^{※2}

次のような状況では、出力が制限されるため、その制限の目安を、パワーエリア内に表示します。

- ・ 駆動用電池の充電量が少なく、これ以上出力ができないとき
- ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

※¹ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

※²車両状態によって実際の制限と異なる場合があります。

■ 外気温表示について

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行(約25km/h以下)のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき(車庫・トンネルの出入り口付近など)

● “--”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 外気温度が約 3℃以下のときは、外気温表示の横に  が点滅し、そのあと点灯します。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.127

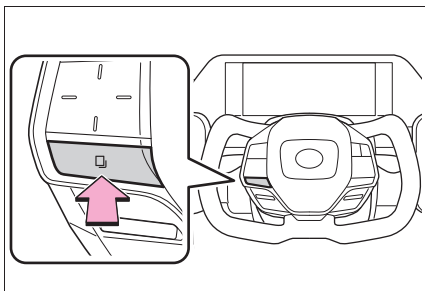
⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてからご使用ください。

■ メーター表示の切りかえ

スイッチを長押しすると、マルチインフォメーションディスプレイの表示／非表示を切り替えることができます。



オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

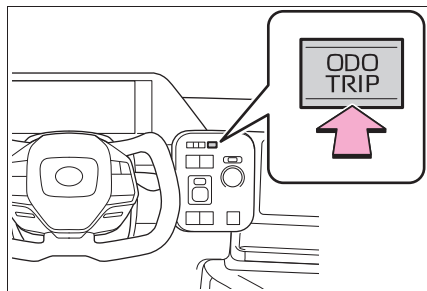
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

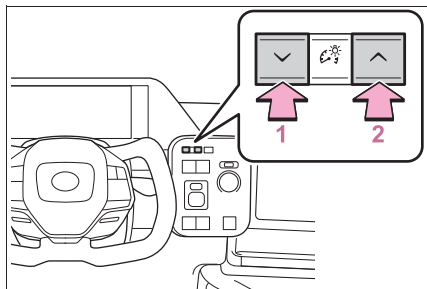


■ 時計の調整をするには

マルチメディア画面より時計の設定を変更できます。
設定方法は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

メーターの明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

知識

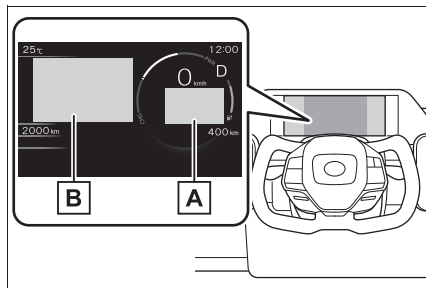
■ インストルメントパネルの照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／表示項目一覧

■ ディスプレイの表示



[A] 走行支援システム表示エリア

LDA（レーンディパーチャーアラート）が作動していると、システムの作動状況を表示します。

[B] コンテンツ表示エリア

走行に関するさまざまな情報を表示させることができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ コンテンツ表示エリアの表示項目

- エコインジケター（→P.128）
- 平均車速／走行時間（→P.128）
- オーディオ（→P.128）
- ナビゲーション（→P.128）
- 走行支援（→P.128）
- 警告メッセージ（→P.128）



知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



警告

■ 運転中の使用について

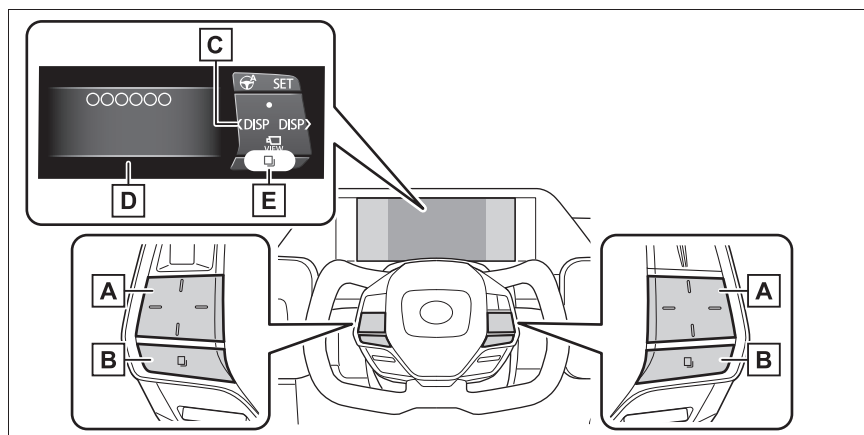
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→ P. 125

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

また、マルチメディア画面でお好みの機能をスイッチに設定することができます。

B スイッチを押すごとに、スイッチの機能が切りかわります。

【C】スイッチアイコン表示

各スイッチのアイコンを表示します。触れているスイッチは強調表示されます。(E)

D スイッチ機能ガイド表示

触れているスイッチの機能ガイドを表示します。

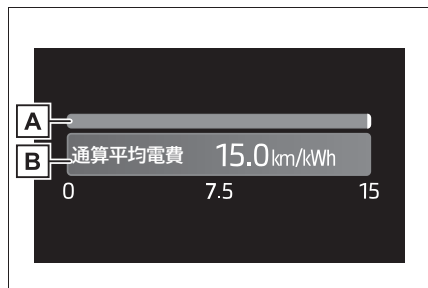
知識

■ ステアリングスイッチに触れても反応しないとき

- スイッチに触れたまま指を動かすと、反応しやすくなります。
- スイッチの表面が汚れている場合は、パワースイッチを OFF にしてスイッチを清掃してください。
- 防寒手袋モードを ON にすることで、スイッチセンサーの感度を高くすることができます。(→P.413)

エコインジケーター表示

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

B 通算平均電費

知識

■ 電費について

電力消費率を表す数値で、ガソリンエンジンの燃料消費率に相当します。この車では、電力 1 キロワット時 (1 kWh) あたりの走行キロ数 (km/kWh) が、「電費」として各画面上に表示されます。

平均車速／走行時間表示

■ 平均車速

充電後の平均車速を表示します。

■ 走行時間

充電後の走行時間を表示します。

オーディオシステム連携表示

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- ルート案内表示
- コンパス (ヘッディングアップ表示)

走行支援表示

LDA (レーンディパーチャーアラート) の作動状況を表示します。(→P.243)

メッセージ表示

状況に応じて、次のメッセージを表示します。

- 警告メッセージ

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ点灯提案

周囲が暗いとき、車速 5km/h 以上でランプスイッチが消灯または  のまましばらく走行すると、ヘッドランプの点灯を提案するメッセージを表示します。



■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.411)

4-1. キー

キー 132

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

スライドドア 135

電動スロープ 146

車内モニターシステム 153

スマートエントリー&スタートシステム 156

4-3. シートの調整

運転席シート 160

客席シート 161

車いす固定用装置 162

車いすワンタッチ固定装置 166

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 170

アウターミラー 171

補助ミラー 173

4-5. 窓の開閉

開閉窓 174

4-6. お好み設定

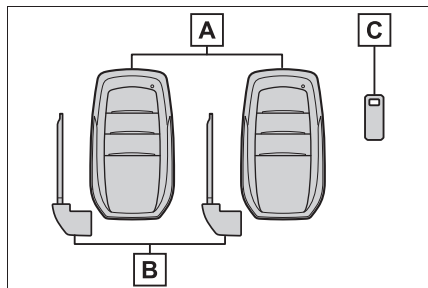
マイセッティング 175

行先表示器（サイネージ） 176

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステム★の作動 (→P.156)
- ・プッシュボタンスタートシステム★の作動 (→P.196)
- ・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

- 電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.157, 198)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.363)

- ・スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、またはワイヤレスリモコンが作動しない

- ・作動範囲が狭くなった
- ・電子キーの LED が点灯しない

- 電池はお客様自身で交換することができます (→P.363) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P.363

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠してドアを開けたときに

■ 電子キーの取り扱いについて

メッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

00

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.394

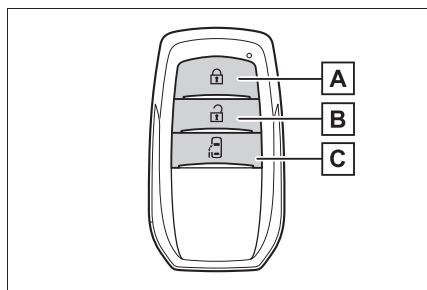
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電子キーを紛失したときは

→P.394

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



- A** ドアを施錠する (→P.136)
- B** ドアを解錠する (→P.136)
- C** パワースライドドアを開閉する (→P.138)

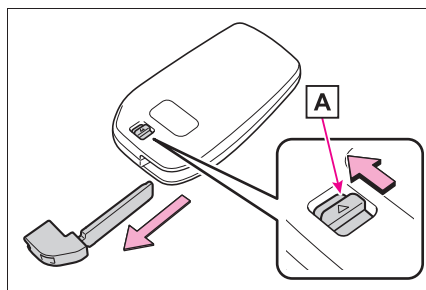
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタン**A**を押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかって挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステム★が正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.394)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.394

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアを確実に閉める
- ドアを施錠する
- 走行中はドアハンドルを操作しない
- 走行中はパワースライドドア開閉スイッチやドア・スロープスイッチを押さない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに体などを挟んだりするおそれがあります。

■ スライドドアの操作にあたって

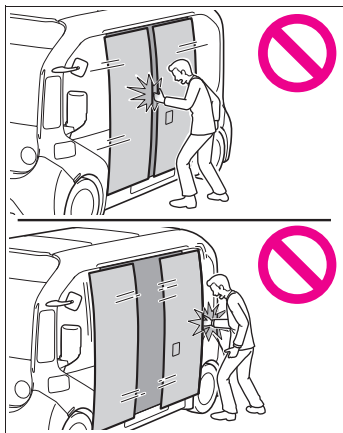
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 周囲に人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアが開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり体などを挟んだりしないように注意してください。
- 上り坂や下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

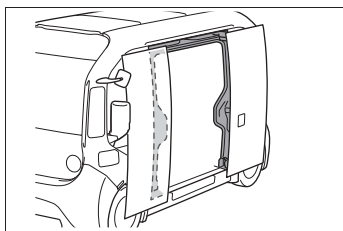
警告

- スライドドアを開閉するときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



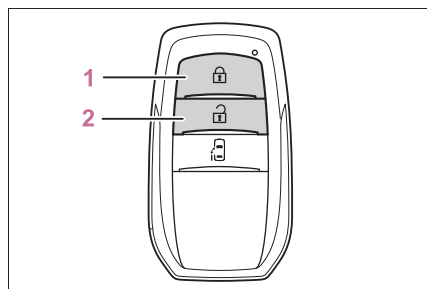
- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。

不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに体などを挟んだりするおそれがあります。



車外から解錠／施錠するには

■ ワイヤレス機能を使用する



1 ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

2 ドアを解錠する



■ 接近時オートアンロック機能※（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

- 1 電子キーを携帯し、電子キー作動範囲（→P.156）に入るとドアが解錠されます。
- 2 ブザーと非常点滅灯の点滅が2回作動します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 降車オートロック機能※（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

- 1 電子キーを携帯して降車し、ドアを閉める
- 2 ブザーが“ピピッ”と鳴り、降車オートロック待機状態になったことを確認する。
- 3 降車オートロック待機状態で電子キー作動範囲（→P.156）から離れる。

ドアが施錠され、作動の合図（→P.137）でお知らせします。

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

ドアが閉じられ、電子キーが作動範囲内にあると、降車オートロック待機状態になります。

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、ドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

▶ プッシュボタンスタートシステム装着車

ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ プッシュボタンスタートシステム装着車

ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■半ドア走行時警告ブザー

ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
ドアを確実に閉めてください。

■スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、またはワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.157, 198

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、またはワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.395）

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.363）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステム★やワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.395)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

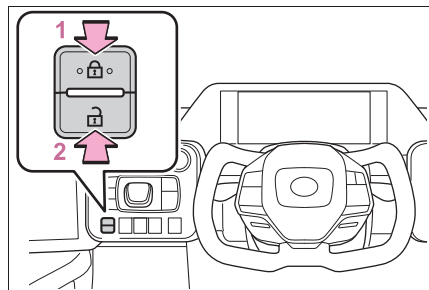
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→P.411)

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

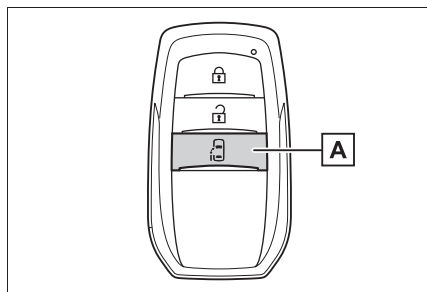


1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

■ ワイヤレス機能を使用する



A パワースライドドアを開閉する
(約 1 秒押す)

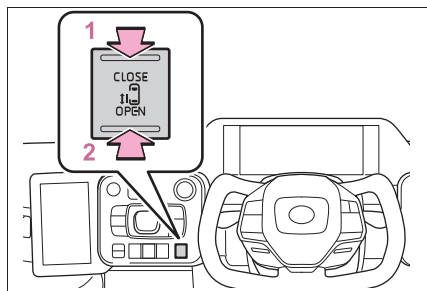
ドア施錠状態からでもドアロックが解錠されパワースライドドアを開けることができます。

■ パワースライドドア開閉スイッチを使用する

▶ 運転席からの操作

運転席パワースライドドアスイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。



1 パワースライドドアを閉じる

2 パワースライドドアを開ける

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

車高・ドア開閉連動 OFF スイッチが OFF の場合は、車高調整も動きます。
(→P.289)

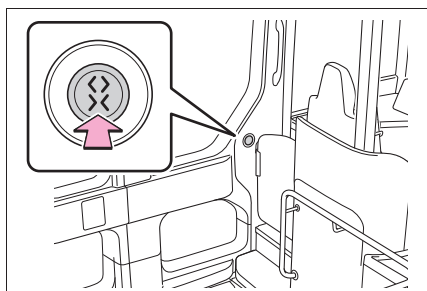
▶ 車内からの操作★

車内パワースライドドアスイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

作動停止後は運転席パワースライドドアスイッチのみスロープが作動します。



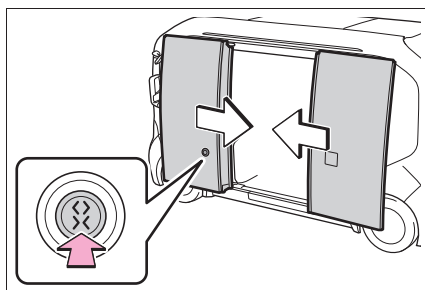
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 車外からの操作★

車外パワースライドドアスイッチを約 1 秒押す

スライドドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- パワースwitchのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。
- ドアハンドルを操作したままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアイージークローザーが作動中でもドアハンドルを操作してドアを開けることができます。

■作動の合図（パワースライドドア使用时）

ブザーで知らせます。（スイッチを押したときに 1 回、スイッチを押し続けている間は継続）

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- 電動スロープ装着車は、スロープが完全に格納されているとき（→P.146）

- 車内モニターシステム装着車は、ドア付近の侵入検知エリアに乗客などがいないとき（開作動を除く）（→P.153）
- パワースライドドア OFF スイッチが OFF のとき
- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 安心降車アシストが作動していないとき（→P.259）

パワースイッチが ON のときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

- シフトポジションが P のとき

■ パワースライドドアの作動について

- パワースライドドア OFF スイッチが ON のときは、手動でのみ開閉できます。
- AHC（アクティブハイトコントロール）装着車は、車高調整連動機能が ON の場合、ドア作動に連動して車高が昇降します。（→P.289）
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します

逆方向に動く：

- ・ 運転席パワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す
- 閉方向に動く：
- ・ 運転席パワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

挟み込み防止機構作動後、運転席パワースライドドアスイッチ以外のスイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

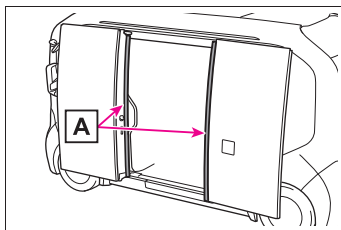
■ 補機バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。ドアハンドルを使用（→P.144）して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

電動スロープ装着車は、手動でスロープも格納状態にしてください。（→P.146）

■ 挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアには、センサー **A** が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。



■ 予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワースライドドアが閉まると同時に施錠されます。

- 1 パワースライドドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.136）

ドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。

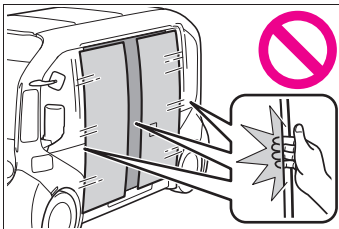
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

- 予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されドアが解錠されます。
- 車から離れるときは、ドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

警告

■スライドドアイーゼークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイーゼークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
(→P.139)

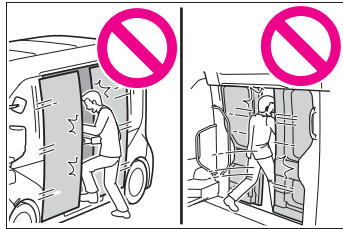


- スライドドアイーゼークローザーは、パワースライドドア OFF スイッチが ON であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーが施錠側のとき、スライドドアイーゼークローザー作動中にドアハンドルを操作しても作動は停止しません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

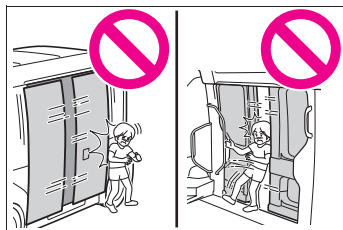
■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- パワースライドドアを操作する際は、ドアにふれたり、寄りかからないでください。
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



 警告

- 自動開閉中にパワースライドドア OFF スイッチを ON にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- AHC（アクティブハイトコントロール）装着車は、車高調整連動機能が ON の場合、ドアの開閉と連動して車高が変わるため、十分に周囲の安全を確かめてください。車高が変わった時に、車体に体が挟まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり、危険です。また不整地などでは車高の変化により、車両と路面が干渉するおそれがあるため、車高調整連動機能を OFF してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ EV システム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

- タイヤ交換時や洗淨機を使用する際は、パワースライドドア OFF スイッチを ON にしてください。ON にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドア OFF スイッチが OFF 時）

次のことを必ずお守りください。

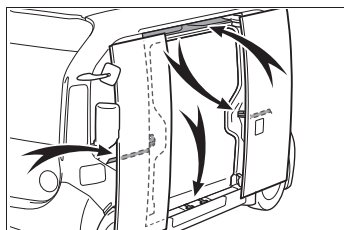
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

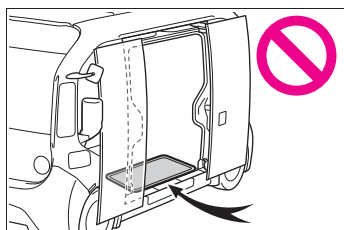
⚠ 注意

■ スライドドアについて

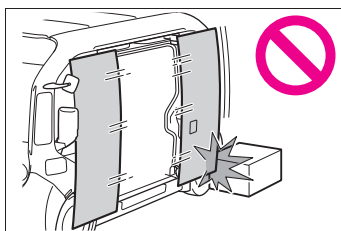
- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- スライドドアの上部と中央のヒンジのローラー滑走面には異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- ドア付近にフロアマットを設置しないでください。フロアマットが入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



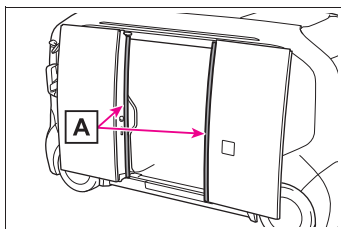
■ スライドドアイージークローザーについて

- スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアセンサー **A** を刃物などの鋭利なもので傷つけないよう注意してください。

センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。

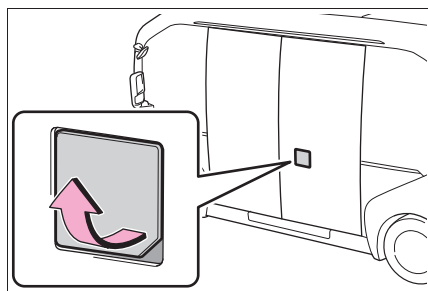


スライドドアの手动開閉

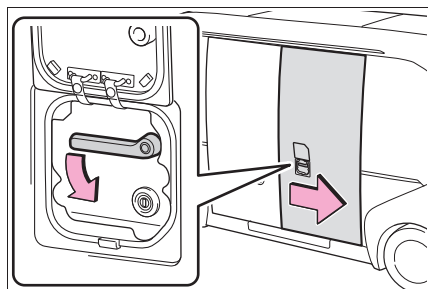
パワースライドドア OFF スイッチ (→P.145) が ON のとき、スライドドアのドアハンドルを操作します。

▶ 車外からの操作

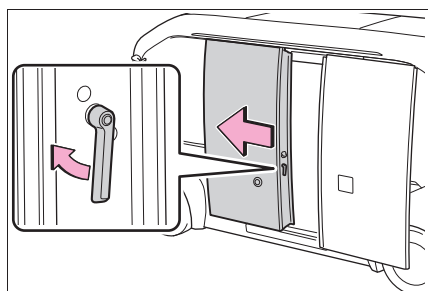
1 カバーを開ける



2 ハンドルを操作して後側のスライドドアを開ける

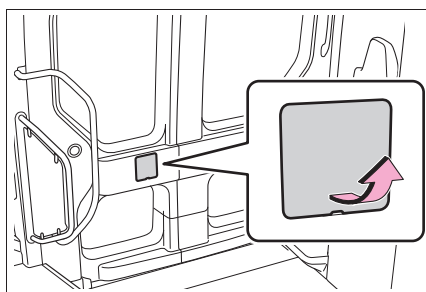


3 ハンドルを操作して前側のスライドドアを開ける

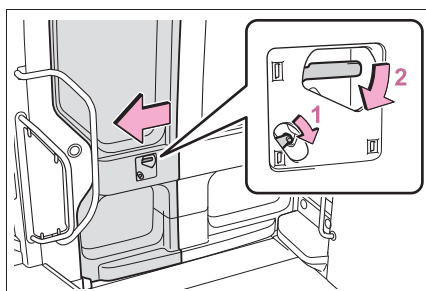


▶ 車内からの操作

1 カバーを開ける



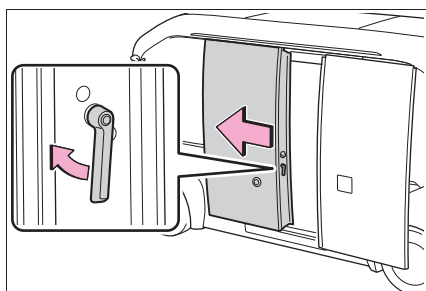
2 ハンドルを操作して後側のスライドドアを開ける



1 ロックを解除する

2 ドアハンドルを操作する

3 ハンドルを操作して前側のスライドドアを開ける



■ 作動の合図 (手动操作時)

スライドドアを操作した場合、ブザー音が吹鳴します。

■手動でスライドドアを開閉したあとは自動開閉機能を復帰する場合は、必ずスライドドアを1度全閉にしてください。

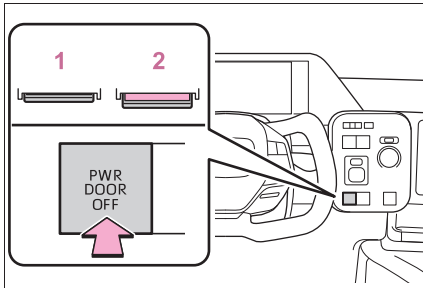


注意

■スライドドアを手動操作するときは補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは、ゆっくりドアを開閉してください。パワースライドドアのモーターが回転することにより発電され、コンピューターが破損するおそれがあります。

パワースライドドアの機能を停止するには

パワースライドドア OFF スイッチを ON にしてパワースライドドアの機能を停止します。



1 ON

スライドドアを手動でのみ開閉できます。電動スロープ装着車は、スロープも手動での展開・格納になります。

2 OFF※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン/パワースライドドア開閉スイッチの操作により、自動で開閉できます。

※ OFF にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.413を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になるとドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	EV システムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたときドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたときドアが解錠されます。

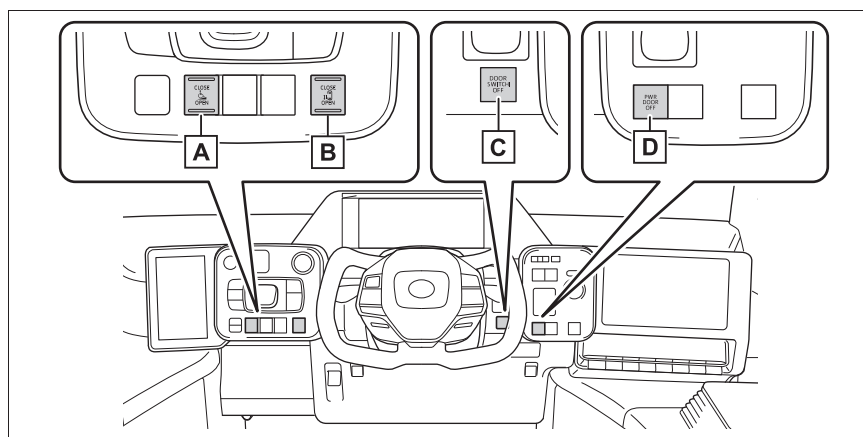
電動スロープ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ操作により、スロープを電動で展開・格納することで車いすでの乗り降りを容易にすることができます。

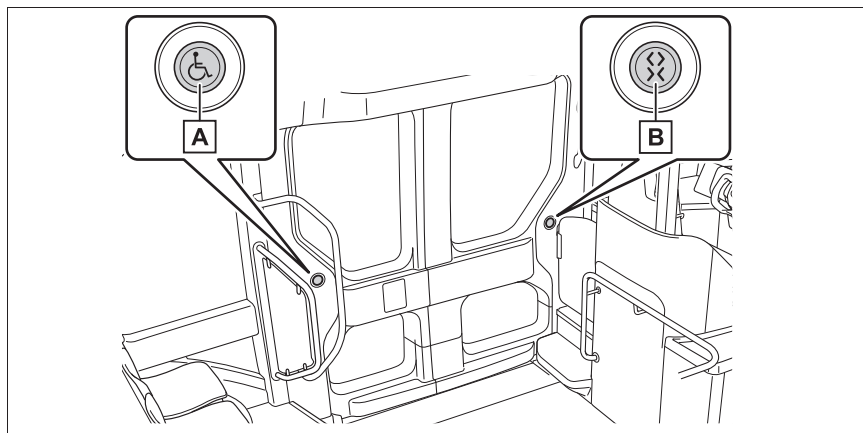
操作スイッチについて

▶ 運転席



- A** 運転席ドア・スロープスイッチ
- B** 運転席パワースライドドアスイッチ (→P.138)
- C** 客室操作 OFF スwitch (DOOR SWITCH OFF)
- D** パワースライドドア OFF スwitch (PWR DOOR OFF) (→P.145)

▶ 車内



A 車内ドア・スロープスイッチ★

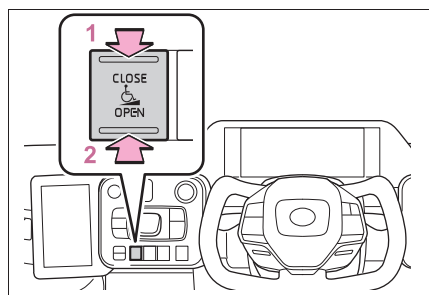
B 車内パワースライドドアスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スロープを展開・格納するには

運転席、または車内のドア・スロープスイッチを押す

▶ 運転席スイッチ



1 パワースライドドアを閉じ、スロープを格納する

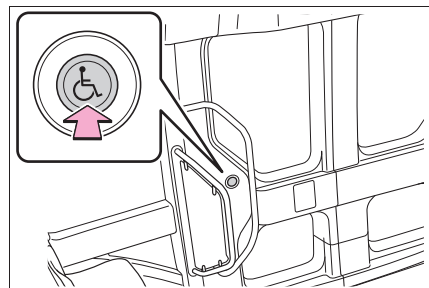
パワースライドドアが一旦中間停止位置まで閉じたあと、スロープを格納し、再度パワースライドドアが閉じます。

パワースライドドアスイッチでも閉じることが可能です。

2 パワースライドドアを開き、スロープを展開する

パワースライドドアが一旦中間停止位置まで開いたあと、スロープを展開し、再度パワースライドドアが開きます。すでにパワースライドドアが開いている状態からでも、同様の作動をします。

▶ 車内スイッチ



スライドドアが開いていて、スロープが格納された状態からではスイッチを押し

でも作動しません。

知識

■作動の合図

ブザーと音声でお知らせします。

■スロープの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、スロープの展開・格納することができます。

- パワースライドドア OFF スイッチ (PWR DOOR OFF) が OFF のとき (→P.145)
- パワースイッチが ON かつシフトポジションが P のとき
- 車速 3 km/h 以下のとき
- ドアロックが解錠されている
- ブレーキを踏んでいないとき
- スライドドアシステムに異常が無いとき
- スロープシステムに異常が無いとき
- 車高制御が作動可能なとき (→P.289)

■スロープの作動について

- スロープ展開作動中はブレーキペダルを踏まないでください。ドアおよびスロープの作動が停止します。もしブレーキペダルを踏んでしまった場合は、ブレーキペダルから足を離し、周囲の安全を確認してから運転席ドア・スロープスイッチを操作して作動を再開してください。
- スロープ作動中はスライドドアが半開状態で停止し、スロープが作動します。また、スロープの作動に連動して車高が昇降します。車高調整連動機能が OFF の場合でもスロープ展開時は車高が下がります。(→P.289) スロープの展開・格納作動が完了すると、再度スライドドアが全開／全閉します。

スロープ展開状態で、スライドドアのドアハンドルを操作し手動にて開閉した場合、ドアスロープスイッチでは電動スロープを格納できず、手動で格納する必要があります。(→P.404)

- スロープが作動中には、次の操作により停止することができます。
 - ・ 運転席パワースライドドアスイッチを押す
 - ・ 運転席ドア・スロープスイッチを押す
 - ・ 車内パワースライドドアスイッチを押す
 - ・ 車内ドア・スロープスイッチを押す
 - ・ 前側のスライドドアハンドルを操作する

作動を再開する場合は、再度運転席ドア・スロープスイッチを押してください。その場合、運転席ドア・スロープスイッチ以外のスイッチでは作動を再開できません。

また、上記以外にパワースライドドア OFF スイッチ (→P.145) を ON にした場合や、後側のスライドドアハンドルを操作する場合でも作動が停止しますが、復旧するためには手動でスロープを格納し、スライドドアを閉める必要があります。

■挟み込み防止機構

電動スロープには、駆動モーターにセンサーが付いています。スロープ作動中に障害物などがスロープ先端に接触したときやスロープの板に負荷がかかると挟み込み防止機構が作動し、停止します。

作動を再開する場合は、周囲の安全を確認して再度運転席ドア・スロープスイッチを押してください。その場合は、運転席ドア・スロープスイッチ以外のスイッチでは作動を再開できません。

自動開閉機能での作動が危険な場合は、パワースライドドア OFF スイッチ (→P.145) を押すことで手動操作に切りかえることが可能です。

■ 作動中に補機バッテリーあがりなどが発生とき

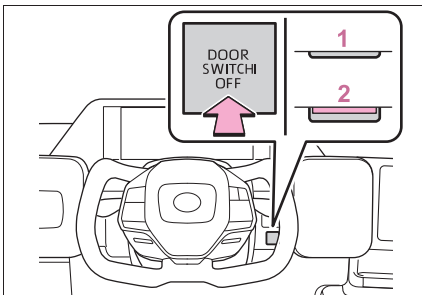
電動スロープを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スロープを手動で格納状態まで押し込んでください。

■ 電動スロープが正常に格納できないときは

→P.403

客室での操作を停止するには

客室操作 OFF スイッチ (DOOR SWITCH OFF) を ON にして、各車内スイッチの機能を停止します。



1 ON

各車内スイッチでの操作ができなくなります。

2 OFF※

各車内スイッチでの操作が可能になります。

※ OFF にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが隠れます。

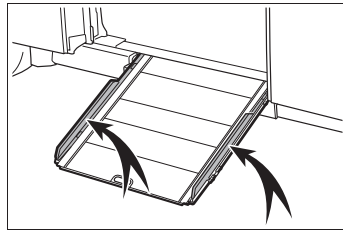


警告

■ 電動スロープの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スロープが完全に展開、スライドドアが全開で停止していること確認してください。
- スロープを展開・格納するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 脱落防止壁とスロープ板のあいだに指や物などを挟まないようにしてください。



- ドアの開閉と連動して車高が変わるため、十分に周囲の安全を確かめてください。車高が変わった時に、車体に体が挟まれたりして思わぬ事故につながる恐れがあり危険です。また不整地などでは車高の変化により、車両と路面が干渉する恐れがあるため、出来るだけ凹凸の少ない場所で作ってください。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

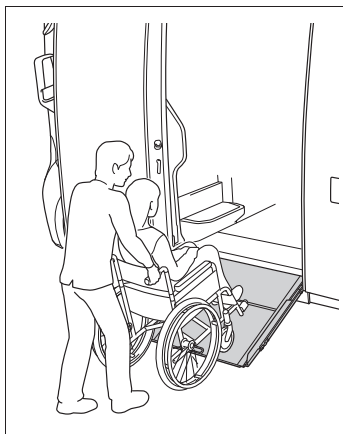
- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、作動中のスロープにはさわらないでください。

警告

- 挟み込み防止機能は、スロープが完全に展開する直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などの挟まれ、巻きこみに注意してください。
- 凹凸が極端に大きい路面にスロープ展開する場合、挟み込み防止機構が働き、途中で停止する可能性があります。その場合は、安全を確認した上で、運転席ドア・スロープスイッチで操作してください。

■ 車いすの操作をするときは

- 操作はすべて乗務員または介助者が行い、車いすの乗客に合図し、安全に十分注意しながら行ってください。



- 車いすの乗客が操作すると、手足を挟まれたり、車いすがスロープから転落したりするなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

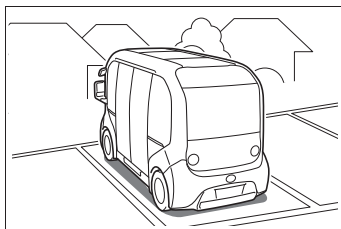
- 急に車いすの乗降を行うと、車いすの転倒するおそれがあり危険です。（車いすを車外に降ろすときは特に注意してください）

- 車内を移動するときは、車いすの乗客の手足や腕が挟まれないように注意してください。

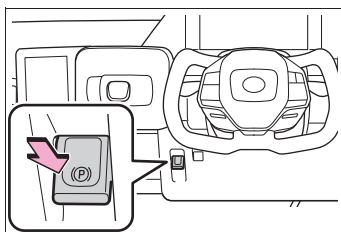
■ 操作および車いすを乗降するときは

安全で平坦な場所に駐車してください。交通量の多い道路や狭いところ、不整地や傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。

- 平坦な場所で操作



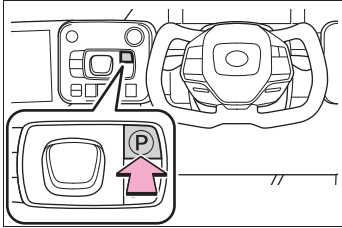
- パーキングブレーキを確実にかける



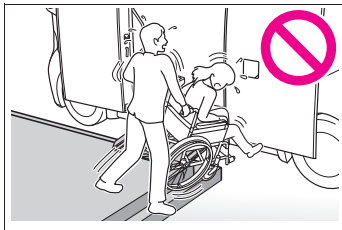
警告

● P ポジションスイッチを押す

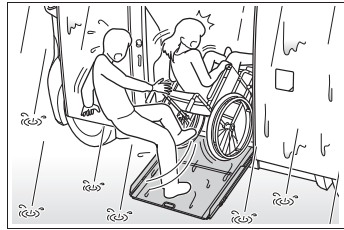
P ポジションスイッチを押すと自動でパーキングブレーキがかかります。
(→P.212)



- 階段やバス停留所（バスベイ）以外の段差を利用して車いすの乗り入れをしないでください。
階段やバス停留所（バスベイ）以外の段差を利用すると車いすがスロープから転落したり、スロープが段差からはずれたりして破損するなどの重大な事故につながるおそれがあり危険です。

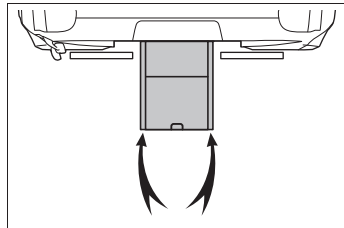


- 悪天候時、スロープを使用するときは、すべりやすくなりますので注意してください。
風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。



■ 電動スロープを使用するときは

- スロープに乗降するときは、足元および車いすの車輪がスロープ端部より出ないように注意してください。
スロープ端部より出ると、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- スロープ展開完了後、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にもものがあるなどにより、スロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助者が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落したりするなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。

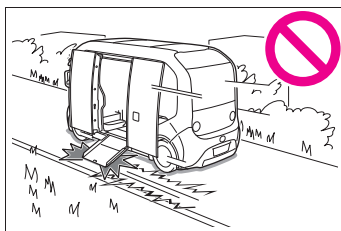
⚠ 警告

- 不要なスイッチ類の操作およびシフトレバーを操作しないでください。装置の不意な作動により、スロープから車いすが転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。車高切りかえスイッチの上昇側を押すと、車高が復帰するため、スロープの角度が変わります。
- 乗降は、必ず乗務員または介助者が安全に十分注意しながら行ってください。
- 車いすを車両に乗せるときは、必ず車いすが前向き状態で乗せてください。
- 乗降中はハンドルをしっかり持ち、スロープの途中で手を離したり、車いすを放置したりしないでください。
- スロープ表面が濡れている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。スロープが風にあおられてけがをするおそれがあり危険です。
- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通ってください。
中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。

■ 走行するときは

スロープを展開したまま車を移動させないでください。

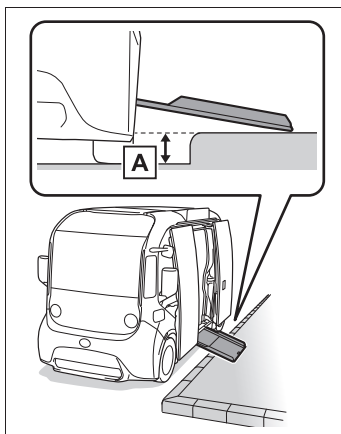
スロープを展開したまま車を移動させると、スロープの損傷やスロープおよびドアが車外の人やものにあたるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⚠ 注意

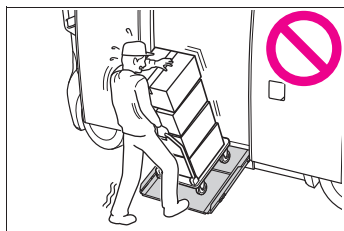
■ 電動スロープについて

- バス停留所（バスベイ）の **A** 部で示す高さが 0 ～ 200 mm 以外の場所で展開するとスロープもしくはスライドドアが破損するおそれがあるため使用しないでください。



⚠ 注意

- スロープを作動する前に、運転者はスロープが安全に作動できるようにドア付近の安全を必ず確認してください。
- スロープの耐荷重は 300kg です。スロープ先端接地時、スロープに乗り入れる合計重量（車いす+車いす利用乗客+手荷物+介助者）が 300kg 以下であることを確認してください。
- スロープは車いすの乗り降り専用です。荷物を載せたり耐荷重をこえるとスロープが損傷するおそれがあります。



■ スロープを手動操作するときは

補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは、ゆっくり操作してください。電動スロープのモーターが回転することにより発電され、コンピューターが破損するおそれがあります。

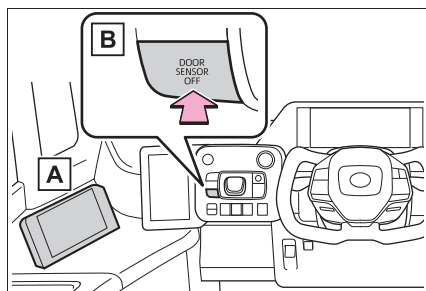
車内モニターシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア開閉時に乗客の安全を確保するため、カメラで客室内の確認をすることができます。

システムの構成部品

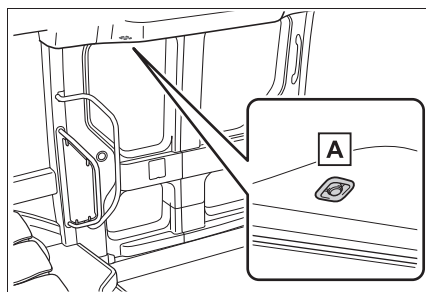
▶ 運転席



A 車内モニター用ディスプレイ

B ドア付近侵入検知 OFF スイッチ (DOOR SENSOR OFF)

▶ 客室



A カメラ

システムの概要

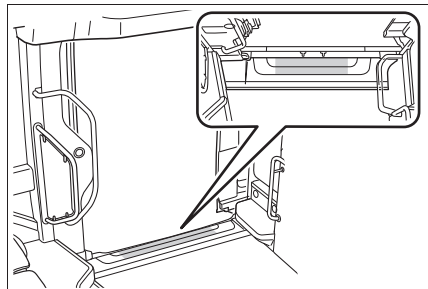
■ ドア付近の侵入検知機能

ドア開閉時に乗客の安全を確保するためにドア付近の侵入検知エリアに乗客などが検知されたときにドアの閉作動を制限します。

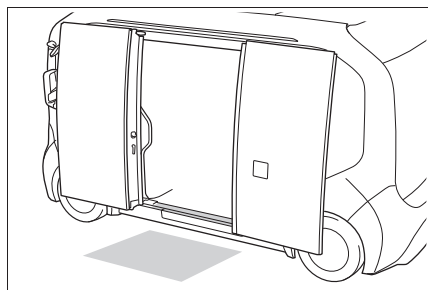
車内モニター用ディスプレイの検知結果の表示内容で、ドア閉作動の制限が異なります。

- ・ 黄色枠表示：ドアの閉作動が不可能（制限あり）
- ・ 白色枠表示：ドアの閉作動が可能（制限なし）
- 停車中、ドア付近の侵入検知エリア内（車内、または車外）に乗客などの有無をカメラが検知する

▶ 車内



▶ 車外



- ドア付近の侵入検知エリア内に乗客などが検知されている場合は、運転席パワースライドドアスイッチでドアを閉じる操作を行っても、ドアが閉じないように制御をする

ドアを開く操作時は、ドア付近の侵入検知エリア内に乗客などの有無にかかわらず、ドアを開くことが可能です。

- ドア付近の侵入検知エリア内で乗客などが検知されているときに運転席パワースライドドアスイッチでドアを閉じる操作を行った場合、乗客へ注意喚起するため、車内行先表示器（→P.176）に表示し、音声案内を行う

- ドアの自動閉作動中にドア付近の侵入検知エリア内に乗客などが侵入した場合は、ドアが反転作動し、停止する

- ドア付近の侵入検知エリア内に乗客などを検知した場合は、車内モニター用ディスプレイに検知結果を表示する

この場合、検知結果は黄色枠にて表示され、ドアの閉作動は不可能（制限あり）です。

- ドア付近の侵入検知エリアはパワースwitchを ON にしたあと、約 10 秒間ディスプレイで確認することができます。

- ドア付近の侵入検知エリア外（車外）に乗客などを検知した場合は、車内モニター用ディスプレイに検知結果を表示する

この場合、検知結果は白色枠にて表示され、ドアの閉作動は可能（制限なし）です。

■ 乗客人数カウント機能

出入口での乗降者をカメラで認識することができ、乗降した乗客の人数をカウントすることにより、現在の車内乗客数を算出します。算出した乗客数を車内モニター用ディスプレイに表示します。

■ 乗客移動検知機能

走行中に車内の乗客が移動していないかをカメラで認識し、移動している乗客を検知した場合、車内行先表示器（→P.176）に表示し、音声案内を行うことにより、乗客へ注意喚起します。



知識

■ 機能の作動について

ドア付近侵入検知 OFF スイッチ (DOOR SENSOR OFF) を約 1 秒押すことにより、機能の ON/OFF することができます。機能を停止した場合でも、車内モニター用ディスプレイによる確認は可能です。

■ 車内カメラについて

- 本システムはカメラ画像による自動認識を行っているため、次のような状況ではシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 逆光による映像の白飛びや室内の明るさ不足（夜間に室内灯消灯など）
- ・ カメラレンズ部分の曇りや汚れの付着など
- ・ カメラレンズが人の手や頭部、物などによってふさがれている場合など
- ・ フロアなどの内装や車外背景の色と検知対象物が同色の場合など
- ・ カメラが認識できない速さで乗客が動いた場合など
- ・ ドアの入り口付近にフロアマットを設置した場合など

- カメラの搭載位置がずれた場合は、再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- カメラに曇りや汚れなどの付着があった際は、レンズを傷つけないよう、やわらかい布などでふき取ってください。

■ 車内モニター用ディスプレイについて

- ドア付近侵入検知 OFF スイッチ (DOOR SENSOR OFF) を 3 秒以上押し続けることで、ディスプレイ画面を OFF にすることができます。
- ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。
- ・ 液晶画面は、周囲環境や見る方向により画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。
- ・ 太陽の光などの外光が画面にあたると画面が見えにくくなります。
- ・ 偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が見えにくくなったりします。

■ 販売店で点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージが表示された場合、システムに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



警告

■ 走行中の警告

安全のため、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

車内モニターシステムは、ドア付近の車内乗客の存在を運転者に提供し、ドア開閉時の乗客の安全性確保に貢献する補助的なシステムです。システムを過信すると、ドアに挟まれるなど思わぬ事故につながり、けがなど重大な傷害につながるおそれがあります。

車内モニターシステムの機能を使用しても、状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視により安全確認をしたうえ、ドア開閉操作をおこなう必要があります。

スマートエントリー&スタートシステム★

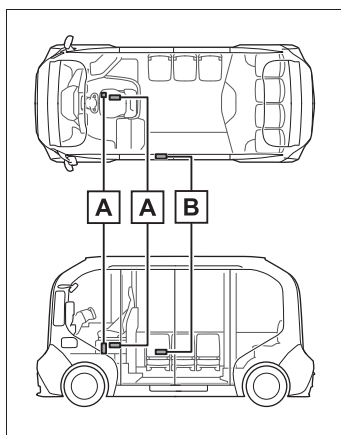
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- EV システムを始動する (→P.202)

知識

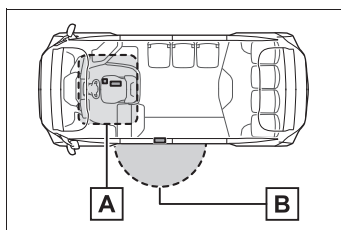
■アンテナの位置



A 車室内アンテナ

B 車外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A EV システム始動時またはパワース イッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

B ドアの施錠・解錠時

車外パワースライドドアスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
(→P.386)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

- 車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした (ACC のときドアを開いた)	パワースイッチを OFF にしたあと、ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

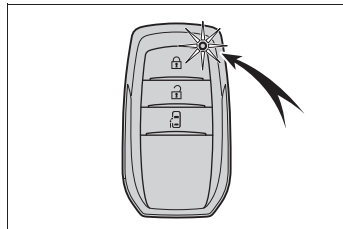
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、解錠ができなくなります。この場合は、ワイヤレス機能もしくは、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。
- 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P.394)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・

空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき

- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
 - 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
 - リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
 - 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
 - コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- ご留意いただきたいこと
- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・EV システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・コンソールの上などに置かれていた
 - インストルメントパネル上面に電子

キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EV システムを始動できることがあります。
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できません）
- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※についてご留意いただきたいこと

- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- ドアを閉めたあとに次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
 - ・ブレーキペダルを踏む
 - ・パワースイッチを押す
 - ・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

降車オートロック機能を作動させるには、ドアを開閉してください。

- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- 降車オートロック待機状態のときにドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

- ドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。
 - 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
- ※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.157)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠ができないときは、次の方法を行ってください。
- ・ 電子キーをスライドドア開閉スイッチに近づけて施錠・解錠の操作をする
- ・ ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。(→P.395)

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステム

を非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P.414)

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.136, 395)
- EV システムの始動・パワースイッチのモード切り換え：→P.395
- EV システムの停止：→P.205

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

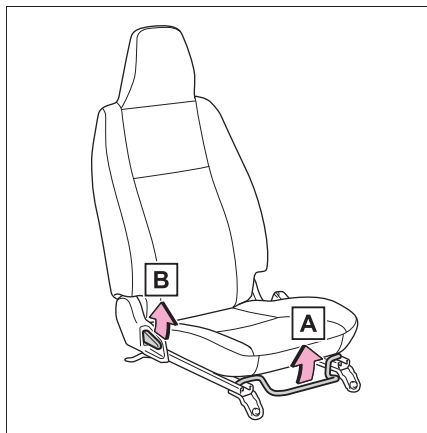
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.156)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

運転席シート

シートの前後位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。
(→P.27)

調整するには



A 前後位置調整

B リクライニング調整



■シートを調整するときは

周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

⚠ 警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

客席シート★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

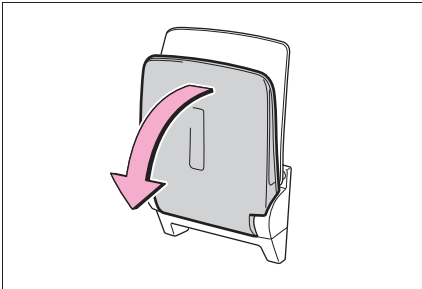
はね上げシート

⚠ 警告

■ シートを開くときや折りたたむとき、
またはシートから落ちたものを拾う
ときや探すとき

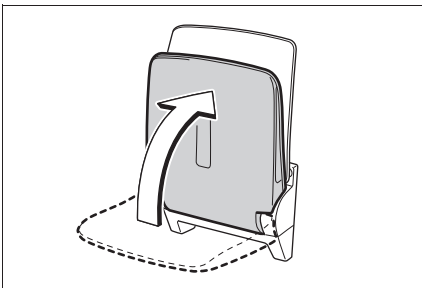
動いている部分に手を近付けないでく
ださい。指や手を挟み、重大な傷害を
受けるおそれがあり危険です。

■ シートの開き方



格納されているシートを押し下げ
てください。

■ シートの折りたたみ方



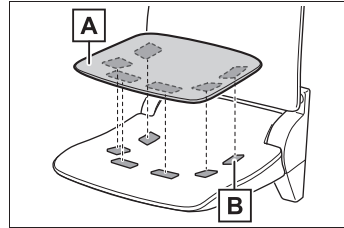
はね上げシートは座席から立ち上
がると自動的に格納されます。

📖 知識

■ クッションパッド★について

★：グレード、オプションなどにより装備
の有無があります。

清掃のため取りはずすことができます。



A クッションパッド

B 面ファスナー

車いす固定用装置★

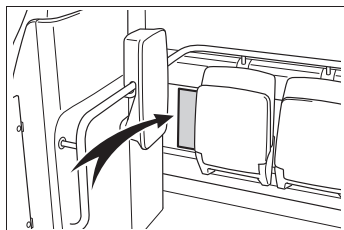
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

必要に応じて車いす固定用装置を使用してください

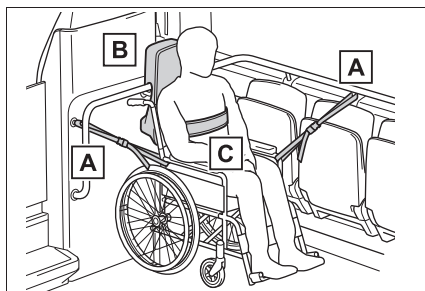
⚠ 警告

■ 車いすの乗客について

- 車いすの乗客の乗降を行うときは、パーキングブレーキをかけて、シフトポジションをPにしてください。
- 車いすの乗客を走行中の安全のために固定するときは車いす本体のブレーキおよび車いす固定用装置（車いす背もたれパッド、車いす固定用ベルト2本）を使用して車いすを固定してください。必要に応じて、車いす本体と乗員を固定するために、乗車姿勢保持ベルトをご使用ください。
- 車いすのロック（固定）の方法および車いす背もたれパッドなどの取り扱いについてお車に取り付けられている、取り扱い説明ラベルを参照し、安全に使用してください。



レイアウト



A 車いす固定用ベルト

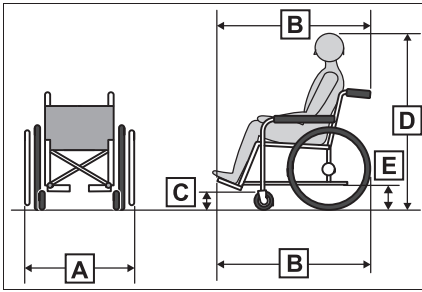
B 車いす背もたれパッド

C 乗車姿勢保持ベルト

乗車可能な車いすについて

次の寸法を満たしていることを確認してください。

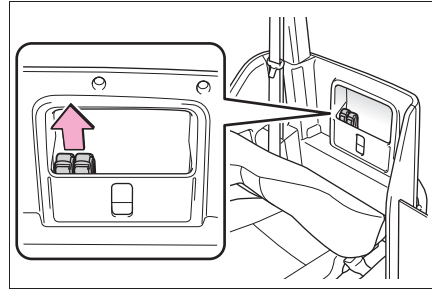
- スロープを使用する際は、車いす+車いすの乗客+介助の方+荷物の合計が 300kg 以下であることをご確認ください（スロープの許容重量は 300kg です）。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、車いす固定用ベルトを正しく着用できないことがあります（→P.163）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。



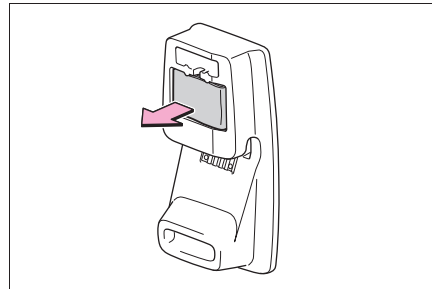
- A** 車いす全幅：650mm 以下
- B** 車いすのフットレスト先端から後端までの距離：1200mm 以下
- C** 地面からフットレストの最下端までの距離：50mm 以上
フットレスト自体よりフレームの方が低い場合は、フレーム下端まで
- D** 乗車可能な座高と着座面の高さの合計：1800mm 以下
- E** フレーム（地上）高さ：90mm 以上

車いすを固定する

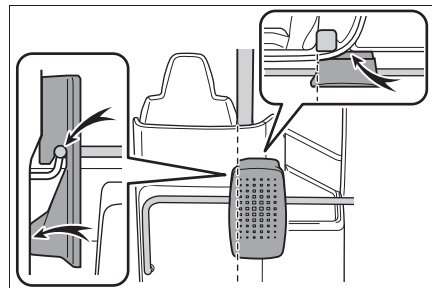
- 1 スロープを使って車いすを車内に乗せる。（→P.146）
- 2 運転席シートの背もたれを前方に倒す。
- 3 収納ポケットから車いす固定用ベルト 2 個を取り出す。



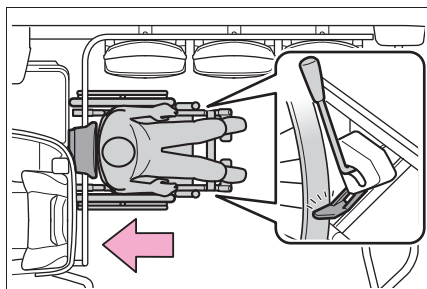
- 4 車いす背もたれパッドから乗車姿勢保持ベルトを取り出す。



- 5 車いす背もたれパッドを図に示す推奨位置に固定する。

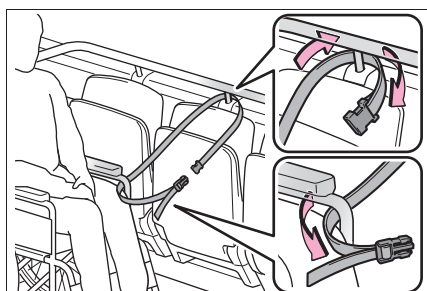


- 6 車いすの乗客を車いす専用席に誘導し車いすのブレーキをかける。

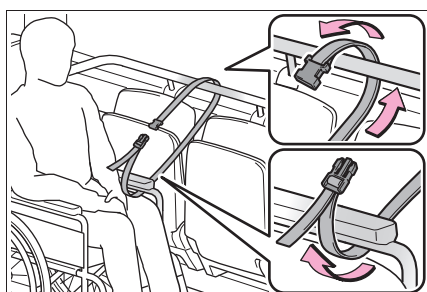


- 7 車いす固定用ベルトを手すりの支柱部または手すりと車いすのアームレストに通す。

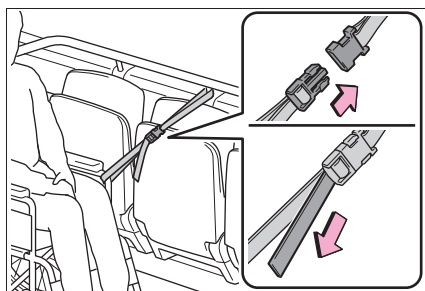
▶ 手すり支柱部の場合



▶ 手すりの場合

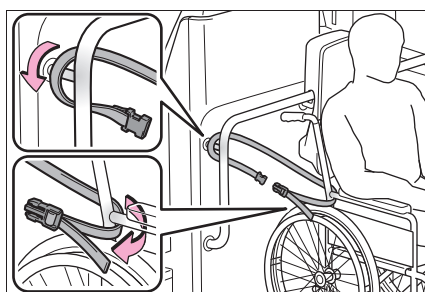


- 8 車いす固定用ベルトをバックルで固定する。

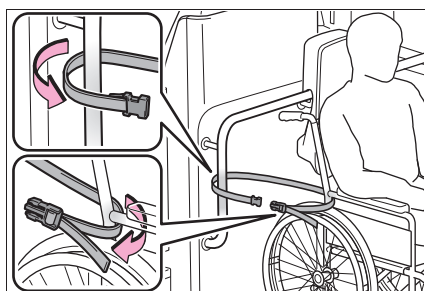


- 9 車いす固定用ベルトを手すりの支柱部または手すりと車いすのアームレストに通す。

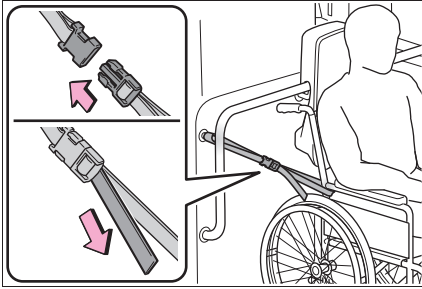
▶ 手すり支柱部の場合



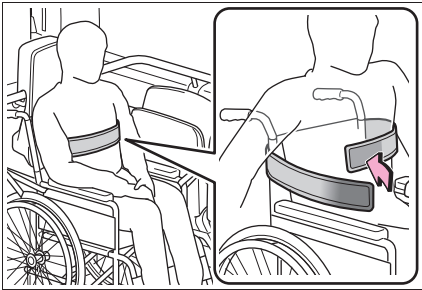
▶ 手すりの場合



10 車いす固定用ベルトをバックルで固定する。



11 車いすの乗客ご自身と車いす背もたれを乗車姿勢保持ベルトで固定する。

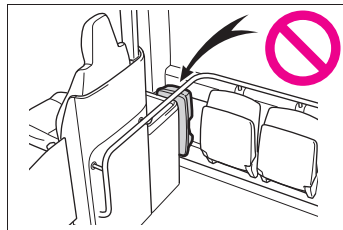


車いすの固定を解除する

- 1** 乗車姿勢保持ベルトを取りはずす。
- 2** 車いす固定用ベルトを取りはずす。
- 3** スロープ板のセットを確認してから車いす自体のブレーキを解除します。
- 4** スロープを使用して、車いすの乗客を安全に降車させる (→P.146)
- 5** 乗車姿勢保持ベルトを車いす背もたれパッドに収納する。
- 6** 車いす固定用ベルトを運転席シート裏の収納ポケットに収納する。

⚠ 注意

■ 車いす背もたれパッドについて



車いす背もたれパッドをコーナー部に置くと、車載電子部品の冷却口をふさぐ可能性があり、最悪の場合、車両の走行に制限がかかる場合があります。

- 炎天下に誤った場所に放置すると変形が残る可能性があります。変形してもクッション性能には影響ありません。

車いすワンタッチ固定装置★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

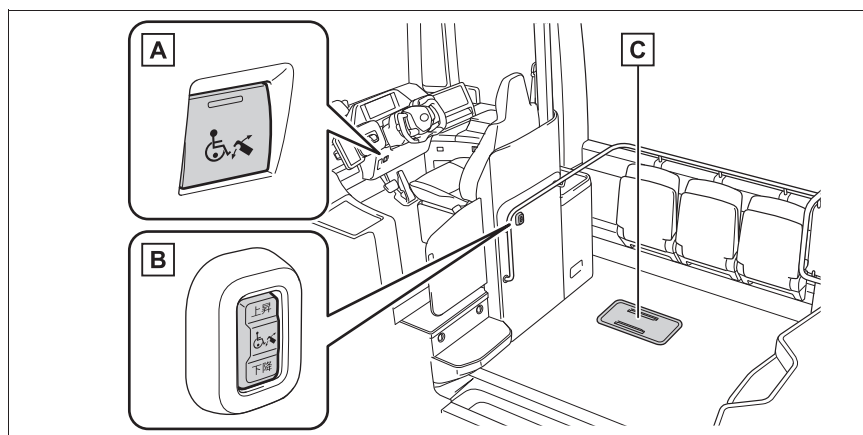
必要に応じて車いすワンタッチ固定用装置を使用してください

⚠ 警告

■ 車いすの乗客について

- 車いすの乗客の乗降を行うときは、パーキングブレーキをかけて、シフトポジションをPにしてください。

レイアウト



A メインスイッチ

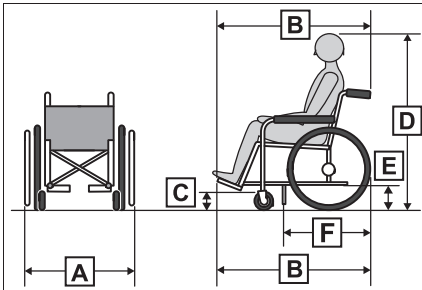
B 操作スイッチ

C 車いすワンタッチ固定装置

乗車可能な車いすについて

次の寸法を満たしていることを確認してください。

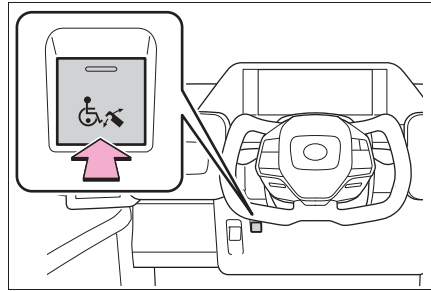
- スロープを使用する際は、車いす+車いすの乗客+介助の方+荷物の合計が 300kg 以下であることをご確認ください（スロープの許容重量は 300kg です）。



- A** 車いす全幅：650mm 以下
- B** 車いすのフットレスト先端から後端までの距離：1200mm 以下
- C** 地面からフットレストの最下端までの距離：50mm 以上
フットレスト自体よりフレームの方が低い場合は、フレーム下端まで
- D** 乗車可能な座高と着座面の高さの合計：1800mm 以下
- E** フレーム（地上）高さ：90mm 以上
- F** アンカーバーから後輪後端もしくは手押しハンドル後端までの距離：540mm 以下

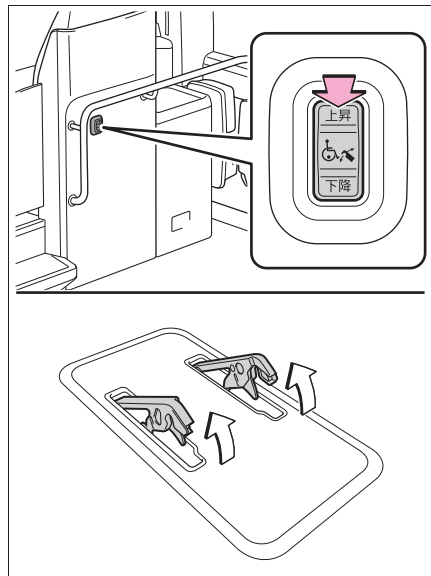
車いすを固定する

- 1 メインスイッチを押して、車いすワンタッチ固定装置を ON にする。



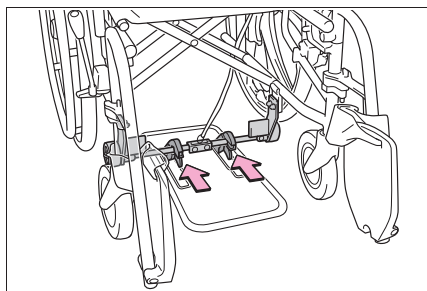
スイッチの作動表示灯が点灯します。

- 2 スロープを使って車いすを車内に乗せる。（→P.147）
- 3 操作スイッチの上昇ボタンを押して、固定用アームを上昇させ待ち受け状態にする。



固定アーム上昇中はブザーが断続的に吹鳴します。

- 4 車いすの乗客を車いす専用席へ後ろ向きに誘導する。



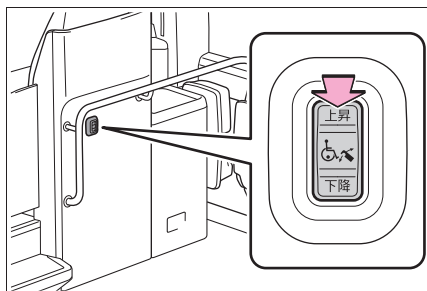
車いすのセットを検知して自動で固定用アームが下がり車いすを固定します。

車いすの固定が完了するとブザーの吹鳴が止まります。また、車いすワンタッチ固定装置のメインスイッチが自動的にOFFになり作動表示灯が消灯します。

- 5 車いすのブレーキをかける。

車いすの固定を解除する

- 1 メインスイッチを押して、車いすワンタッチ固定装置をONにする。
- 2 操作スイッチの上昇ボタンを押して、車いすの固定を解除する。



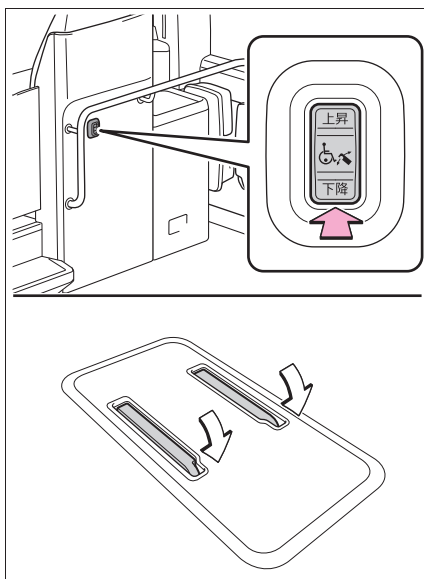
スロープ板のセットを確認してから車いす自体のブレーキを解除します。

固定アーム上昇中はブザーが断続的に吹鳴します。

- 3 車いすのブレーキを解除する。
- 4 車いすを車両前方に押し、アームを跳ね上げる。

アームの固定を解除したあとに車いすを車両前方に押し、アームが上がり車いすが移動できるようになります。

- 5 車いすを固定位置から移動する。
- 6 操作スイッチの下降ボタンを押して、固定用アームを下降させ格納する。



固定アームが完全に格納されるとブザーの吹鳴が止まります。

- 7 スロープを使用して、車いすの乗客を安全に降車させる。
(→P.147)
- 8 メインスイッチを押して、車いすワンタッチ固定装置をOFFにする。

スイッチの作動表示灯が消灯します。

**警告****■ 車いすワンタッチ固定装置について**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車いすワンタッチ固定装置を使用するときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

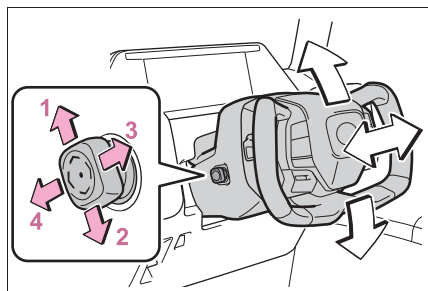
**注意****■ 車いすワンタッチ固定装置について**

予期せぬ動作を防止するために車いすワンタッチ固定装置を使用しないときはメインスイッチを OFF にしてください。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ON のとき

⚠ 警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

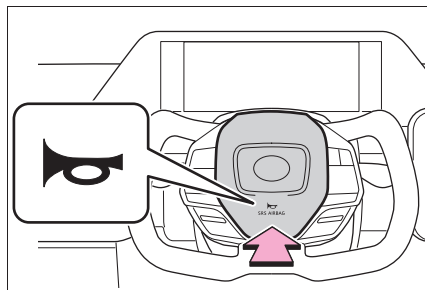
■ハンドル位置を調整したあとは

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



アウターミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にアウターミラーを使用するとき

寒冷時にアウターミラーが凍結していると、アウターミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。アウターミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

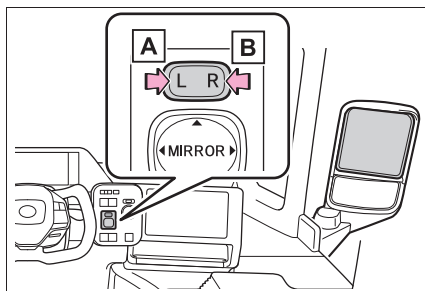
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- アウターミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、ミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

▶ 上段ミラー

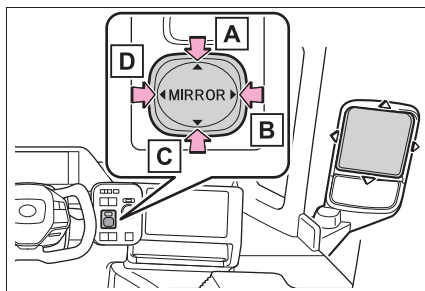
- 1 スイッチを押して、調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

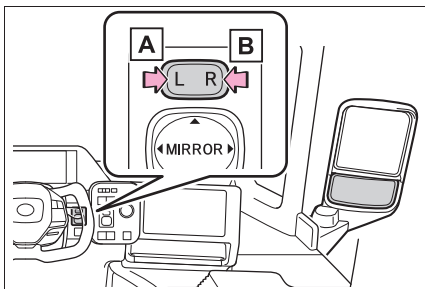
B 右

C 下

D 左

▶ 下段ミラー

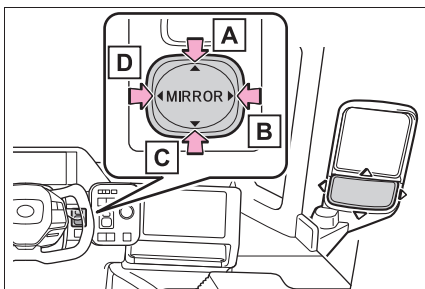
- 1 スイッチを押して、調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 右

C 下

D 左



■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

格納するには

手で後方に押し格納する

補助ミラー★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

**発進時またはごく低速時に、左
側車両側面を確認するときに役
立ちます。**

調整するには

ミラー全体を手で動かして調整す
る



知識

補助ミラーのピボット部にゆれが発生
したときは、鏡面裏のスクリューを締め
て調整してください。



注意

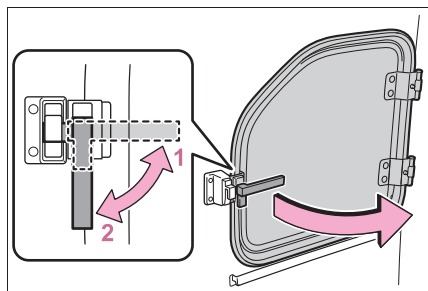
■補助ミラーについて

- 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着し
ているときは、やわらかい布などを
使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、
直接確認するかアウターミラーなど
も併用し十分注意して行ってくださ
い。

開閉窓

窓を開閉するには

ロックハンドルを操作して窓を開閉する



- 1 窓を解錠する
- 2 窓を施錠する

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思ってもよらず窓が開き、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 窓を確実に閉める
- 窓を施錠する

■ 窓を操作するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 窓を操作するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

- 傾斜した場所では窓の開閉スピードが速くなります。窓にあたったり、挟んだりしないように注意してください。

⚠ 注意

■ 窓を開閉するときは

- 風雨の強い日は窓の開閉は十分注意しながら行ってください。強風で窓が急に開いたり、雨や風が窓から入ってることがあります。
- 雨天後や洗車後は、窓に付着した水滴やモール内に残った水が室内に落ちることがあります。外側の水滴をふいてから開閉してください。

マイセッティング

Bluetooth[®] デバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。あらかじめ認証デバイスを割り当ておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。Bluetooth[®] の割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● Bluetooth[®] デバイス

Bluetooth[®] 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth[®] 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

Bluetooth[®] ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで 設定可能な車両設定 ※

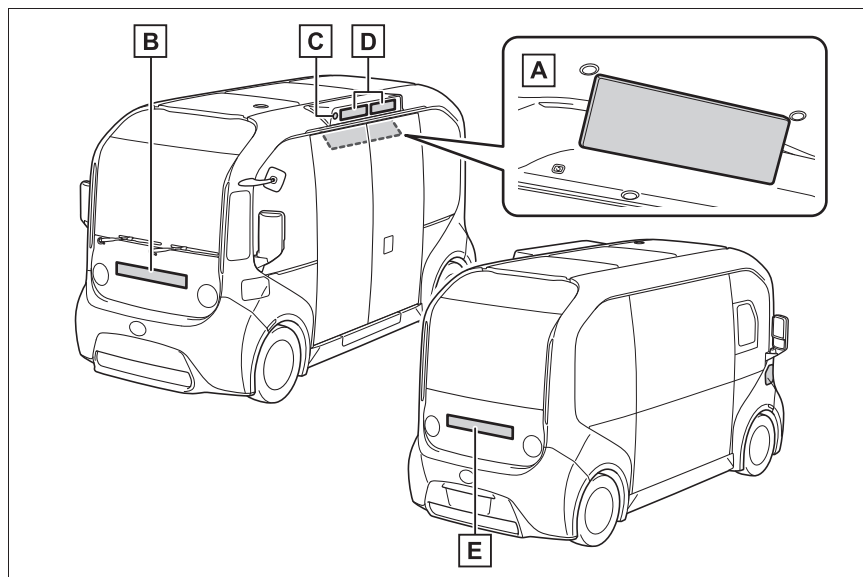
個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

行先表示器（サイネージ）

運行経路などを表示することができます。

システムの構成部品



A 車内行先表示器★（→P.178）

B 車外（前）行先表示器

C インターホンマイク★

D 車外（横）行先表示器★

E 車外（後）行先表示器

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ サイネージの作動条件

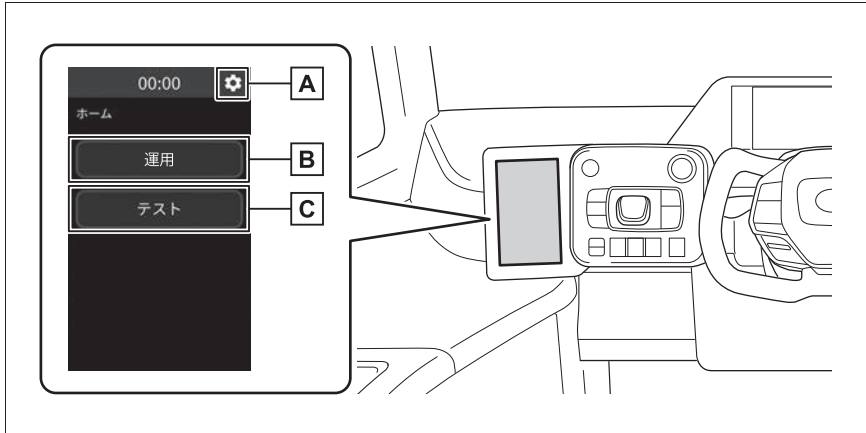
パワースイッチが ACC または ON のとき

■ 画面操作について

車内の温度が極めて低いまたは極めて高い場合は、操作パネルや車内行先表示器に表示異常（黒画面になる、画面が乱れるなど）や画面タッチの反応が鈍くなる場合があります。

車内を常温にしてからご使用ください。

操作パネルについて



A 設定 (→P.178)

次の内容が変更できます。

- ・ 音量の変更
- ・ 明るさの変更
- ・ 操作パネル表示の消灯／点灯
- ・ 初期設定

B 運用モード (→P.180)

次の内容が表示されます。

- ・ 運行設定画面

C テストモード (→P.183)

次の内容が表示されます。

- ・ 検査
- ・ エラーログ

知識

■ 操作について

- 操作パネルが反応しないときは、一度画面から手を離して再度操作をしてください。
- 次の場合、操作パネルが反応しなかったり、誤作動することがあります。
 - ・ 手袋などを装着しているとき
 - ・ 爪で操作したとき

- ・ 他の指や手のひらが画面にふれているとき
- ・ 画面に汚れや水分が付着しているとき
- ・ 操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったとき
- ・ 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき、または車内で充電しているとき

- 清掃のとき、操作パネルを拭くことで反応することがあります。

⚠ 注意

■操作について

画面保護のため、指で軽く画面にふれて操作パネルを操作してください。

■操作パネルのお手入れについて

- 変色、しみの原因になるため次の溶剤は使用しないでください。

ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール

- 画面の汚れは、メガネ用クリーニングクロスなどのやわらかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり、かたい布などでこすったりすると表面に傷がつくことがあります。

車内行先表示器

⚠ 注意

■乗車するとき

乗降時に車内行先表示器にぶつからないように頭上にご注意ください。

■変色や破損を防ぐために

- 表示部に荷重をかけると表示の変色、破損するおそれがあります。
- 水などの液体をかけたり、濡らしたりすると破損するおそれがあります。

■車内行先表示器のお手入れについて

- 変色、しみの原因になるため次の溶剤は使用しないでください。

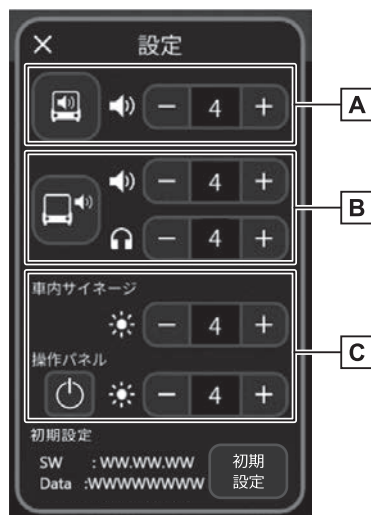
ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤やアルカリ性の溶剤・アルコール

□ 知識

■車内行先表示器について

- 偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が見えにくくなったりします。
- 液晶画面は、周囲環境や見る方向により画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。
- 太陽の光などの外光が画面にあたると画面が見えにくくなります。

設定について



- A** 車内放送の音量調節
- B** 車外放送とヘッドフォンの音量調節
- C** 車内行先表示器と操作パネルの明るさ調節



知識

■放送音量の調節

放送音量は、0～7のあいだで調節することができます。

車内放送、車外放送の音量調節中は各放送機能がONになります。

●車内放送



を選択し、“+”または“-”をタッチします。

●車外放送



を選択し、“+”または“-”をタッチします。

■明るさの調節

明るさは、次の範囲で調節することができます。

・車内サイネージ：0～7

・操作パネル：1～7

■操作パネル表示の消灯／点灯

操作パネルのをタッチすると画面を

非表示にすることができます。

画面が非表示の状態では操作パネルをタッチすると、画面を表示させることができます。

■表示言語や接続機器の設定について

次の手順で設定をすることができます。

- 1 設定画面から“初期設定”を選択する



- 2 初期設定画面で表示言語や接続機器の有無を設定後、“決定”を選択する



■スピーカ設定について

車内スピーカと車外スピーカの音声出力が両方聞こえないときに“スピーカ設定”をタッチすることで音声聞こえるようになることがあります。

■初期化について

次の手順で初期化をすることができます。

- 1 設定画面から“初期設定”を選択する



- 2 初期設定画面で“初期化”を選択する



- 3 “はい”を選択して再起動する



初期化後は、次のように設定が変更されます。

- 操作パネルの表示言語が英語になります。
- 接続機器設定がすべて接続あり (ON) になります。
- 音量、明るさの設定値がすべて 4 になります。
- 書き込んだコンテンツ※がすべて消去されます。

※ 画像、動画、音声、運行データが含まれます。

運用モード

ホーム画面から“運用”をタッチすることで、運行設定に移行します。

運用モードでは、系統一便などの運行情報※を設定し、バスの運行に合わせて車内行先表示器の表示や放送を進めることができます。

※ シナリオエディターを使用して作成する必要があります。

■ 運行操作

運転者の操作により、手動で停留所の案内表示や放送を進めることができます。

■ 運行設定

1 “系統” を選択する



2 系統一便を選択し、“決定” を選択する



3 表示情報を確認し、“決定” を選択する



4 “運行開始” を選択する



□ 知識

■ 系統一便の並び替え

次のボタンを選択すると、表示の並び替えを行うことができます。

●  : 出発時刻

●  : 系統一便

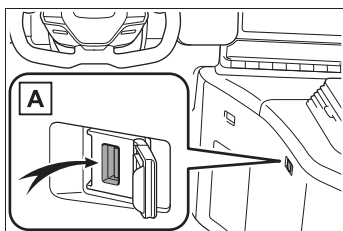
■運用モードについて

本システムは、車両の使い方に合わせて、一部の表示と放送のコンテンツをシナリオエディター※で自由に割り当てることができます。

シナリオエディター※で割り当てたコンテンツは、USB メモリを使って本システムに書き込むことができます。

※シナリオエディターソフトは別途購入が必要です。

▶ 車内行先表示器装着車

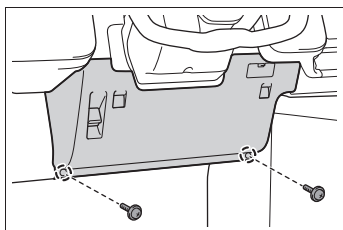


A USB 端子（シナリオエディター、ヘッドフォン兼用）

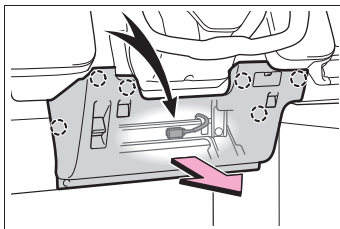
▶ 車内行先表示器非装着車

カバーを外したところに USB 挿し込み口があります。

1 ボルト2本を取りはずす



2 ツメ（6ヶ所）をはずす



■案内放送や行先表示について

●スロープ展開／格納時の表示や放送

スロープの展開や格納動作に合わせて、車内に表示や放送を行うことができます。

●ドア開閉中の表示や放送

- ・ドアの開閉動作に合わせて、車内に表示や放送を行うことができます。
- ・車内モニターシステム装着車：ドアを閉じるとき、ドアの近くに人がいる場合は、車内に注意喚起の表示や放送をすることができます。（→P.153）

●乗降中の表示

ドアを開ける、またはスロープ展開時は、車外（後）行先表示器に表示させることができます。

（例：ドアが開いているときは “乗降中

”、スロープ展開中は “乗降中  ” など）

テストモード

テストモードでは、検査とエラーログを表示させることができます。

■ 検査

0～6のテストパターンの表示・放送と、接続機器の現在の接続状況（接続、未接続、NG）が確認できます。

“7”は使用できません。
(→P.184)



■ エラーログ表示

接続機器の接続履歴が確認できます。

- ・ 日時
- ・ 接続機器名
- ・ 接続状況（接続、NG）



⚠ 警告

■ 走行中の警告

- 操作パネルは、安全な場所に停車して操作してください。
- 走行中は運行に必要な操作以外は、行わないでください。
- 安全のため、走行中に画面を見る時間や運行に必要な操作を行う時間は最小限にしてください。

前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下のURLから入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/ivi/toyota/signage_2023model/

VC-1 ビデオ規格ライセンスについて

本製品は、VC-1 Patent Portfolio License に基づき、お客様が個人的に、且つ非商業的な使用のために（i）VC-1 規格準拠のビデオ（以下「VC-1 ビデオ」と記載します）を符号化するライセンス、および／または（ii）VC-1 ビデオ（個人的で、且つ商業的活動に従事していないお客様により符号化された VC-1 ビデオ、および／または VC-1 ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手した VC-1 ビデオに限ります）を復号するライセンスが許

諾されております。

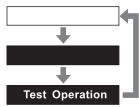
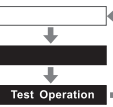
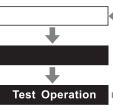
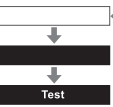
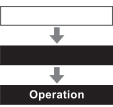
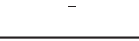
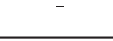
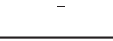
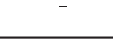
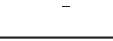
商業的活動の際には、VC-1 ビデオを提供することについてライセンス許諾されているビデオプロバイダーから入手した VC-1 ビデオをご使用ください。さらに詳しい情報については、Via Licensing Alliance から入手できる可能性があります。 <https://www.via-la.com/licensing-2/vc-1/> を参照してください。

シナリオエディターについて

シナリオエディターアプリやマニュアルは以下の URL を参照してください。

<https://global.toyota/info/epalette-signage>

テストモードコンテンツ

検査スイッチ	サインエージ表示				
	車内サインエージ(全面画)	車外サインエージ(前)	車外サインエージ(後)	車外サインエージ(側左)	車外サインエージ(側右)
検査スイッチ0					
検査スイッチ1					
検査スイッチ2					
検査スイッチ3					
検査スイッチ4					
検査スイッチ5					
検査スイッチ6					
検査スイッチ7					

検査スイッチ	放送		
	車内放送	車外放送	ヘッドセット
検査スイッチ0	-	-	-
検査スイッチ1	-	-	-
検査スイッチ2	(確認音)	-	-
検査スイッチ3	-	(確認音)	(確認音)
検査スイッチ4	-	-	-
検査スイッチ5	-	-	-
検査スイッチ6	-	-	-
検査スイッチ7	-	-	-

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 188

荷物を積むときの注意 194

5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ
（プッシュボタンスタートシステム
装着車） 196

パワー（イグニッション）スイッチ
（スマートエントリー&スタートシ
ステム装着車） 202

シフトポジション 207

方向指示レバー 211

パーキングブレーキ 212

ブレーキホールド 215

ステアバイワイヤ 217

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの 使い方

ランプスイッチ 218

AHB（オートマチックハイビーム）
..... 221

ワイパー & ウォッシャー 223

5-4. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認す
る（Toyota Safety Sense 装着
車） 226

Toyota Safety Sense 228

PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 234

LDA（レーンディパーチャーアラ
ート） 243

ドライバー異常時対応システム 248

BSM（ブラインドスポットモニ
ター） 254

安心降車アシスト 259

クリアランスソナー 264

RCTA（リヤクロストラフィックア
ラート） 270

RCD（リヤカメラディテクション）
..... 275

PKSB（パーキングサポートブレ
ーキ） 279

パーキングサポートブレーキ（前後
方静止物） 283

パーキングサポートブレーキ（後方
接近車両） 285

パーキングサポートブレーキ（後方
歩行者） 287

AHC（アクティブハイトコントロ
ール） 289

運転を補助する装置 292

5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 298

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ 乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する (→P.75, 82)

■ EV システムを始動する

→P.202

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する (→P.212)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。 (→P.207)

■ 駐車する

- 1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける (→P.212)

- 3 シフトポジションを P にする (→P.207)

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

- 4 パワースイッチを押して EV システムを停止する

- 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

- 6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

- 2 パーキングブレーキをかける (→P.212)

- 3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する (→P.212)

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。 (→P.293)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなっ

たりするので、慎重に走行してください。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■EV システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■カスタマイズ機能

後退速度の抑制制御の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.416）

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときには体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能です。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.373 を参照してください。

 警告

- 急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.207)
- マルチインフォメーションディスプレイに“回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください”が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速してください。(→P.387)
- 走行中はハンドル・シート・アウトミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやEVシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキで車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトポジションを変更するとき

- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rのまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、Pポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションをRにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションをNにすると、EVシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

 警告**■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納ポケットなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにし、EVシステムを停止し、施錠してください。

READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 仮眠するとき

必ずEVシステムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを切りかえたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EVシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
- 発進前にAHC表示灯のNモード表示が点灯していることを確認してください。路面と干渉して車体を損傷する恐れがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる

⚠ 注意

● 異常な音や振動がある

● 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P.392 をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

● 電装品がショートする

● 水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

● ブレーキの効き具合

● トランスミッションフルードなどの量および質の変化

● 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

● 駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 事故にあったとき

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、トヨタ販売店で点検を受けてください。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、EV システム出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき*
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき*

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

* 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように EV システム出力を抑制*します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

* 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

 知識

- **ドライブスタートコントロールについて**
- TRC の作動を停止 (→P.294) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→P.294)
- タイヤがスリップ (空転) していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON (作動) / OFF (非作動) を切りかえることができます。(→P.416)
- ・ パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON (作動) になっています。
- ・ 後退速度の抑制制御を OFF (非作動) にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

 警告**■ 積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

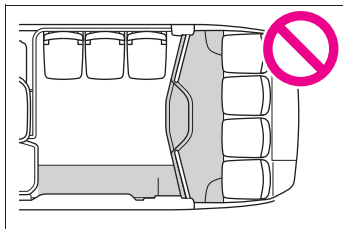
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ メーターの前
 - ・ 客席 (荷物を積み重ねる場合) ★
 - ・ 小物入れの上
 - ・ 運転席への昇降用階段
 - ・ 左右のサイドパネルの上
- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

⚠ 警告

- シートおよび図に示す位置には、絶対に人を立たせて走行しないでください。

お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ（プッシュボタン スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EV システムを始動するには

- 1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する
(→P.75, 82)
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.212)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。
(→P.207)

4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

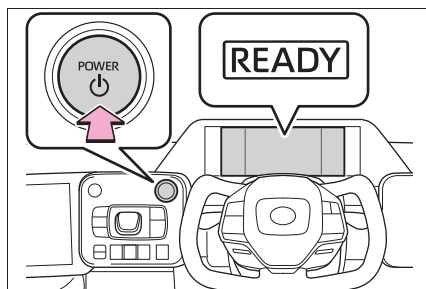
READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまで

ブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも EV システムを始動できます。

ステアリング調整機能が動き、ハンドルが動く場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。

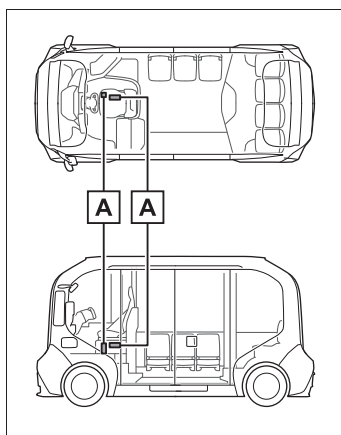


5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

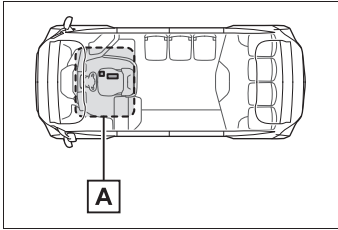
知識

■ アンテナの位置



A 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A EV システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.386）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

- 車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（ACC のときドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、ドアを閉めてください。

■ パワースイッチ照明

次のとき、パワースイッチ照明が点灯します。

- ドアが開いているとき
- パワースイッチが ACC または ON のとき

- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたとき

また、次のときはパワースイッチ照明が点滅します。

- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏んだとき

■ EV システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.37）トヨタ販売店へご連絡ください。

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。（→P.72）

- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ 外気温が低いときは

- EV システム始動時に READY インジケータの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ 30℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

→P.42

■ 補機バッテリーがあがったときは

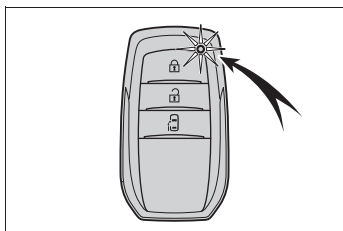
プッシュボタンスタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.396 を参照してください。

■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、プッシュボタンスタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

プッシュボタンスタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、プッシュボタンスタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P.394)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
- ・アルミ箔を使用したタバコの箱
- ・金属製の財布やかばん
- ・小銭
- ・カイロ
- ・CD や DVD などのメディア

- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

- ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
- ・パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
- ・デジタルオーディオプレーヤー
- ・ポータブルゲーム機器

- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

また、プッシュボタンスタートシステムでEVシステムが始動できない場合は、P.394を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ・EVシステム始動時またはパワースwitchの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上などに置かれていた

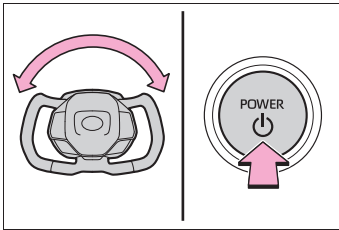
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EVシステムを始動できることがあります。

■ステアリングロック機能

- パワースwitchをOFFにしたあとにド

アを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください”が表示されます。ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム※ 故障 取扱書”を確認が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※この車両には、スマートエントリーシステムは搭載されておりません。このメッセージが表示されたときは、プッシュボタンスタートシステム、またはステアリングロックシステムの異常をお知らせしています。

■EV システムに異常があるときは

→P.47

■電子キーの電池交換

→P.363

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやEV システムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.198)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■プッシュボタンスタートシステムが正常に働かないとき

→P.395



警告

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電波がおよぼす影響について（ブッシュボタンスタートシステムアンテナ）

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ

（→P.196）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

■ EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける（→P.212）
- 3 P ポジションスイッチを押す（→P.207）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

- 5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

□ 知識

■ シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自動Pポジション切りかえ機能について

→P.209

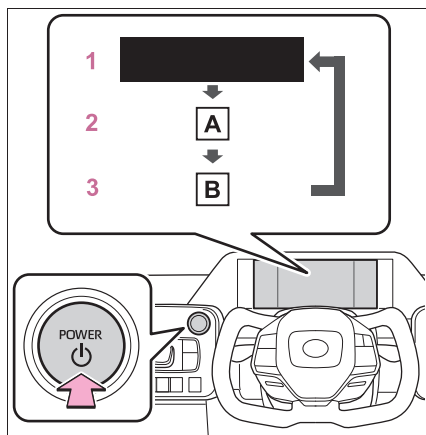
警告

■緊急時の EV システム停止方法

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.373)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能です。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A “アクセサリー”

B “パワー ON”

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに “パワー ON” が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。(→P.411)

知識

■ACC カスタマイズが “OFF” のとき

- パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。(→P.261)

■ 自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC または ON (EV システムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

パワー (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

EV システムを始動するには

- 1 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する (→P.75, 82)
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す (→P.212)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。(→P.207)

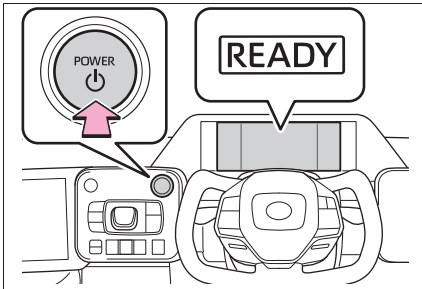
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。パワースイッチのどのモードからでもEVシステムを始動できます。

ステアリング調整機能が動き、ハンドルが動く場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ パワースイッチ照明

次のとき、パワースイッチ照明が点灯します。

- ドアが開いているとき
- パワースイッチがACC または ON のとき
- パワースイッチを ACC または ON から OFF にしたとき

また、次のときはパワースイッチ照明が点滅します。

- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏んだとき

■ EV システムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.37)

トヨタ販売店へご連絡ください。

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。(→P.72)
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。(→P.157)
- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.395 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合(→P.138)は EV システムを始動できます。

■ 外気温が低いときは

- EV システム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合(およそ-30℃以下)、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

→P.42

■ 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.396 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.132

■電子キーが正常に働かないとき

→P.157

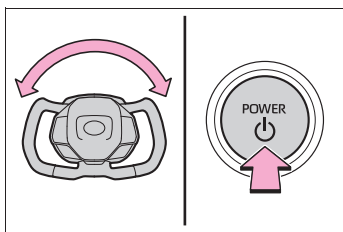
■ご留意いただきたいこと

→P.158

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください”が表示されます。ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるときは

→P.47

■電子キーの電池交換

→P.363

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえや EV システムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムを非作動にしたときは、P.394 を参照してください

⚠ 警告

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

**注意****■ パワースイッチの操作について**

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV システムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.212)
- 3 P ポジションスイッチを押す
(→P.207)

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。(シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています)

- 5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

**知識****■ シフト制御システムについて**

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかに近隣のトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自動Pポジション切りかえ機能について

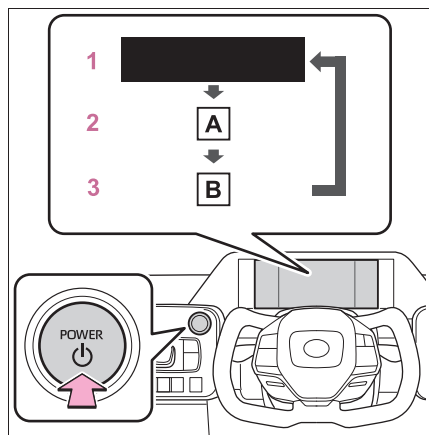
→P.209

**警告****■ 緊急時の EV システム停止方法**

- 走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.373)ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能です。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A “アクセサリ”

B “パワー ON”

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリ”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに“パワー ON”が表示されます。

※ カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。
(→P.411)

知識

■ACC カスタマイズが“OFF” のとき

- パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。
- 安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。
(→P.261)

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC または ON (EV システムが作動していない状態) にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはEVシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行
B	回生ブレーキ力選択モード走行

知識

■ シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ 補機バッテリーを脱着したとき

→P.398

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

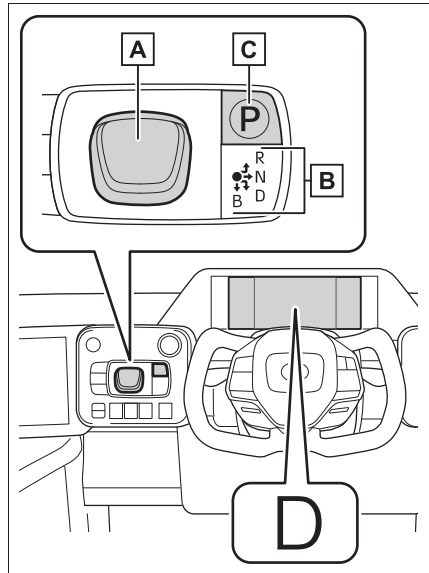
注意

■ シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき (→P.386)
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

Nに切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Bへの切りかえは、シフトポジションがDのときのみ可能です。

PからN・D・R、およびN・D・B・RからPへ、またはD・BからR、およびRからDへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

Pポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、Pポジションスイッチを押してください。

シフトポジションをPにすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯がPであることを必ず確認してください。



知識

■ パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

- パワースイッチがOFFまたはACCのときはシフトポジションの切りかえはできません。

- パワースイッチがONで、READYインジケーターが消灯しているときは、Nのみに切りかえが可能です。

- READYインジケーターが点灯中は、Pから、D・N・Rを選択できます。

- READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、Pから他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READYインジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■ Pから他のシフトポジションに切りかえる

- スライドドアを閉めた後、ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

- Pから直接、シフトポジションをBに切りかえることはできません

■ シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、Pからシフトレバーを操作したとき

- アクセルペダルを踏んだまま、Pからシフトレバーを操作したとき

- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中にNからシフトレバーを操作したとき

- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

- ドアが開いているまたはスロープが出ている状態で P からシフトレバーを操作したとき

ドアが開いているまたはスロープが出ているかはメータ表示を確認してください。

- ブレーキを踏まずに P ポジションスイッチを押したとき

- P または N から、B を選択した

- 走行中に、P ポジションスイッチを押した

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときに R を選択した低速走行時は R に切りかわることがあります。

- 車両が後退しているときに D を選択した低速走行時は D に切りかわることがあります。

- R から B を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

- パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

- 走行中に EV システムを緊急停止したあと、停車したとき

- シフトポジションが P 以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.396 を参照してください。

- ドアまたはスロープの故障の可能性があります

ドアまたはスロープの故障時に復旧作業（→P.135, 146）してもメータ表示が変わらない場合は、パワースライドドアの機能を停止することで P からシフトポジションを切りかえることができます。

 警告**■ パワースライドドアの機能を停止させ、P からシフトポジションを切りかえたとき**

ドアまたはスロープの故障時に車両を安全な場所に移動させるため、パワースライドドアの機能を停止させた状態で、P からシフトポジションを切り替えることができます。ただし、ドアが閉まっていない状態、スロープが車両外に出た状態でも走行できるため、思わぬ事故に繋がるおそれがあります。必ずドアが開いていないこと、スロープが車両外に出ていないことを確認したうえで走行し、車両を安全な場所に移動させる以外の目的で走行しないでください。移動後はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

■ シフトレバーについて

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ P ポジションスイッチについて

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

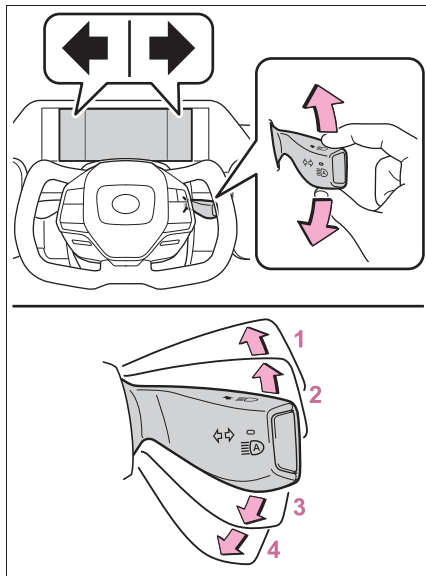
 注意**■ 車を降りるとき（運転席のみ）**

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 1 の位置までレバーを傾けます。

左側方向指示灯が点滅します。

2 2 の位置までレバーを傾け、離します。

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 3 の位置までレバーを傾け、離します。

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 4 の位置までレバーを傾けます。

右側方向指示灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯が不灯になっていないか確認してください。

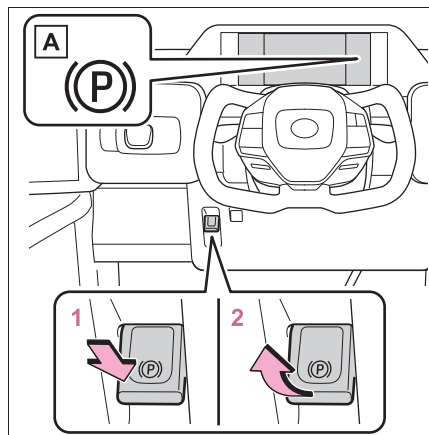
パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

シフトの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

操作のしかた

パーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキランプ

1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを押し続けてください。

2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。シフトポジションがP位置ではパーキングブレーキは解除できません。

- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.213)

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.380)

また、シフト操作と連動して、パーキングブレーキが次のように作動します。

シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーおよびPポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、パーキングブレーキが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。(→P.212)

知識

■パーキングブレーキの作動

パワースイッチがON以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- EV システム警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のシートベルトを装着していない
- 運転席に座っていない
- EV システム警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■駐車するとき

→P.213

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.380

 警告**■ 駐車するとき**

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.396)

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

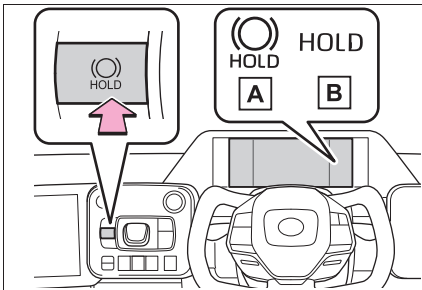
シフトポジションがD・BまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがD・Bのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）

Aが点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B**が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、「EPB 動作が途中で停止しまし

た」や「EPB 故障 販売店で点検してください」が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

(→P.212)

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.384

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

ステアバイワイヤ

ステアバイワイヤは、車両の速度とハンドルの操舵量に応じて、車両の動きと操舵力を制御するシステムです。

知識

■車を長期間使用しなかったとき

ステアバイワイヤ専用バッテリーの充電量が低下している場合、EV システムを始動し READY インジケーターが点灯しても充電が完了するまでは、シフトポジションが P に固定されます。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージが消えるとシフト変更が可能となります。

■パワースイッチを ON にしたとき

ステアリング調整機能が働き、ハンドルが動く場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

→P.398

■操舵力の効果が下がるとき

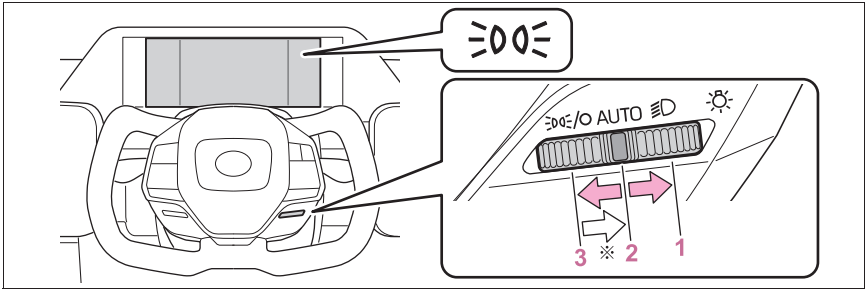
停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、ステアリングシステムのオーバーヒート为了避免のため、操舵力の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を抑えるか、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように ☀ スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 $\text{☀}/\text{O}$ の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 **AUTO** の位置へもどります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 ☀	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※ ¹	LED デイライト (→P.219) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 $\text{☀}/\text{O}$ ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

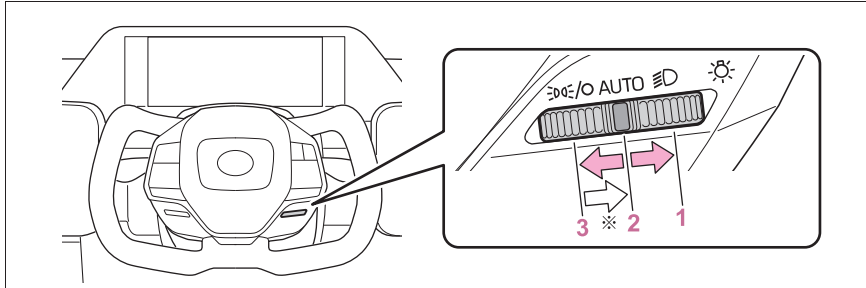
※¹ 操作するたびに、2 **AUTO** による点灯状態と 3 $\text{☀}/\text{O}$ による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2 **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀️ スイッチを **3** ☹️/O の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1** ☹️ か **3** ☹️/O の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3** ☹️/O の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へもどります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 ☹️/O	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト (→P.219) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、EV システム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

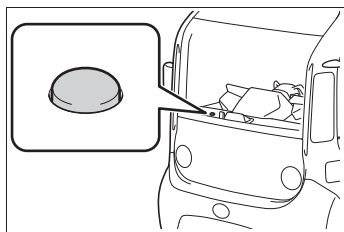
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.415)

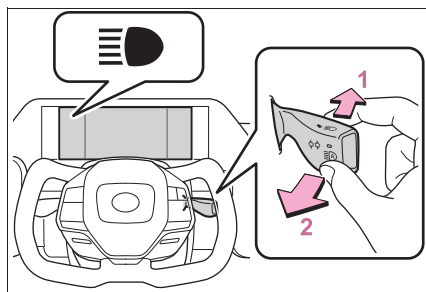


注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ランプが点灯した状態で、レバー前方に倒して、離す

ロービームにする場合は、**2** の位置までレバーを引いて、離します。

2 レバーを手前に引く

レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯します。

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス下部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

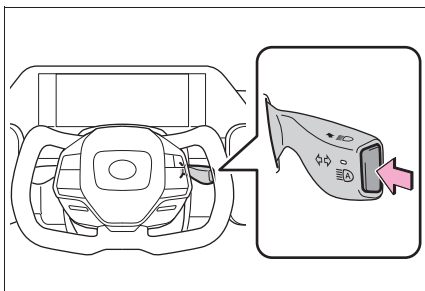
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.228

オートマチックハイビームを使うには

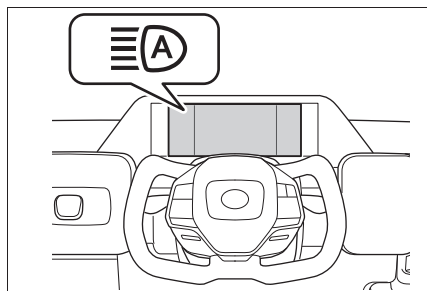
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを AUTO または

☾にする

オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき

- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.232
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、

ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.228
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.232

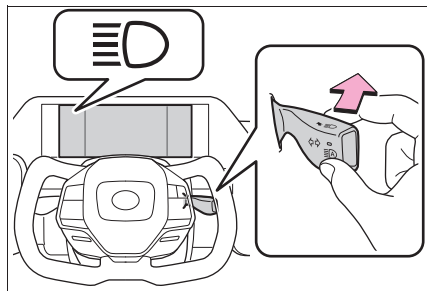
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーを手前に引いて離します。

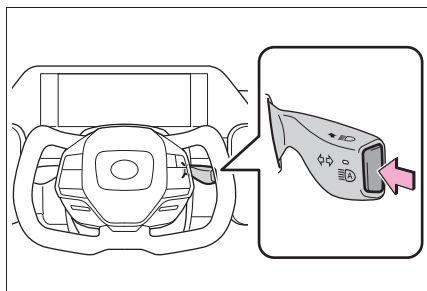


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

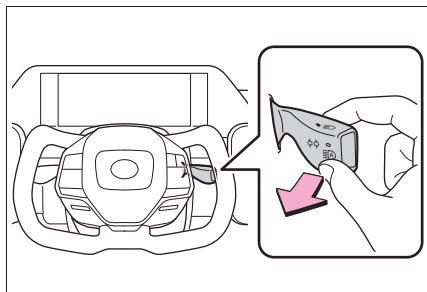


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引いて離す

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーを離すとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



ワイパー & ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切り替えたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

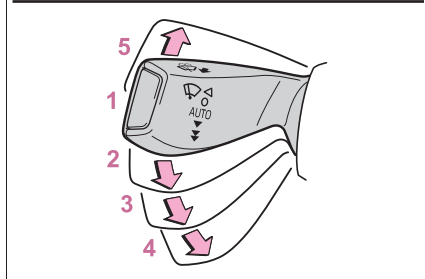
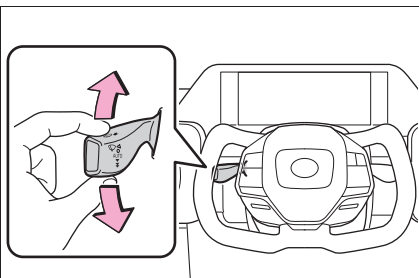
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

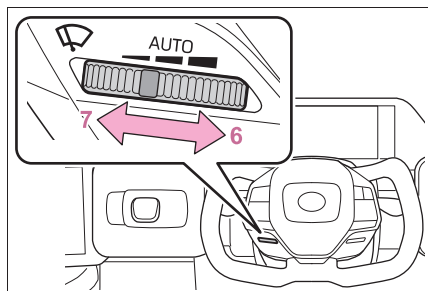
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

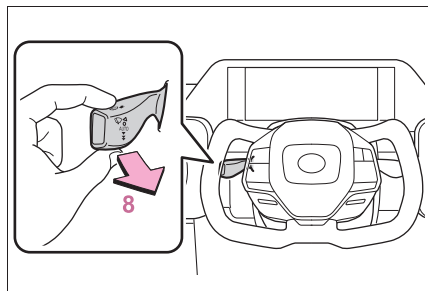


- 1 ○ 停止
- 2 AUTO AUTO モード
- 3 ▼ 低速作動
- 4 ▼ 高速作動
- 5 ▲ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにダイヤルをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



- 6 雨滴センサーの感度調整（高）
- 7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

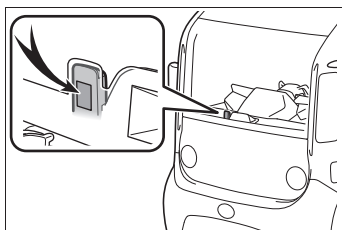
■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● パワースイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■音声対話サービスでの操作

音声対話サービスを使用して、フロントワイパーを1回のみ作動することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▲警告

■AUTOモード時のワイパー作動について

AUTOモードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

▲注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EVシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ソフトウェアアップデートを確認する (Toyota Safety Sense 装着車)

T-Connect で利用契約中のお客様は通信モジュール (DCM) を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

- Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

■ マルチメディアディスプレイ ※ ／スマートフォンでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの  にタッチします。
- 2 “運転支援アップデート” にタッチします。

※ マルチメディアのバージョンによっては表示されない場合があります。

■ 自車のToyota Safety Senseのバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR Code
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



知識

■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディアディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



知識

■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

- ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

- ・ システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
- ・ 法規上の問題が発生したとき ※
- ・ 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

- ※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■ 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。
対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHB（オートマチックハイビーム）

→P.221

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.234

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P.243

■ ドライバー異常時対応システム

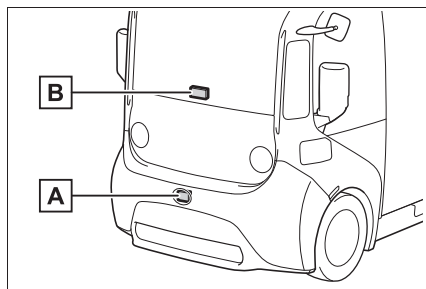
→P.248

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

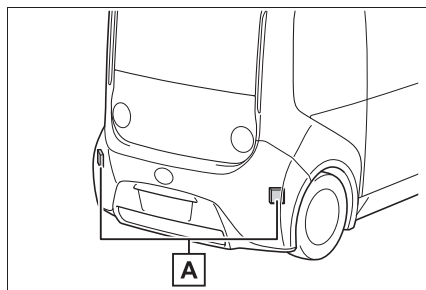
▶ フロント



A 前方レーダー

B 前方カメラ

▶ リヤ



A 後側方レーダー

警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

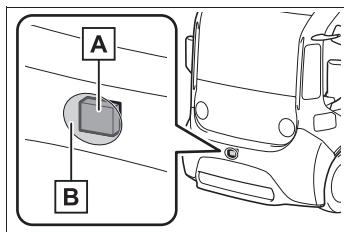
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない

- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー・フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

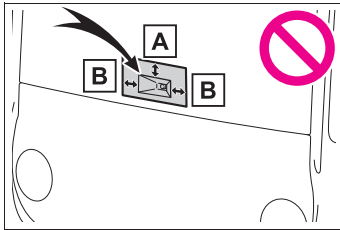
- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- 前方カメラ周辺部品を改造しない
- フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性がある場合、システムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

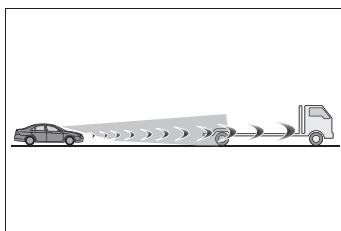
知識

■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

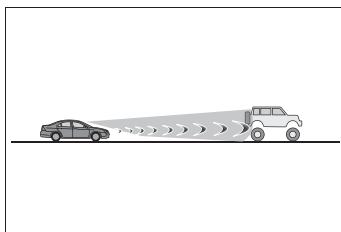
- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥・雨滴・雪・虫・ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光・反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール

- ・ ガードレール
- ・ 鉄板

- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が

変化する道

- ・ 左右に傾きのある道
- ・ 路面に深いわだちがある道
- ・ 整備されていない荒れた道
- ・ 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定なとき
- 車線内での自車の位置が一定でないとき
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入出りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

■ 車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ・ステアリング等関連システムに異常を検出したとき
- VSC・TRC等の安全システムが作動したとき
- VSC・TRC等の安全システムがOFFのとき

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.234）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御（プリクラッシュブレーキ装着車）により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。（プリクラッシュブレーキ装着車）

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.243）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・安全にお使いいただくために：→P.228

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.228

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

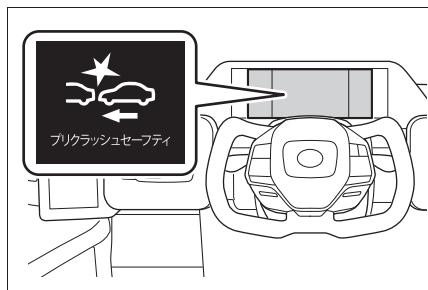
※人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

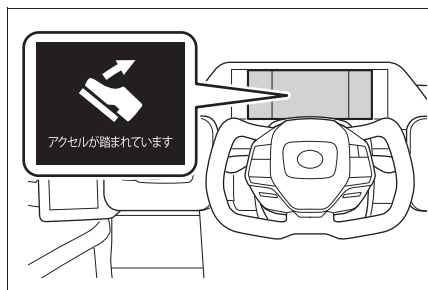
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

プリクラッシュブレーキ装着車：作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト（プリクラッシュブレーキ装着車）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキ装着車）

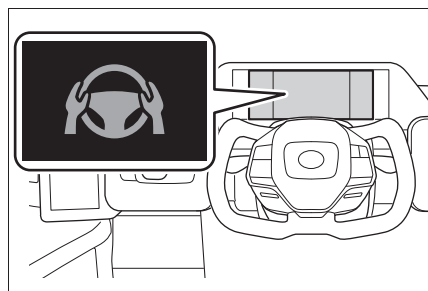
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。（プリクラッシュブレーキ装着車）作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

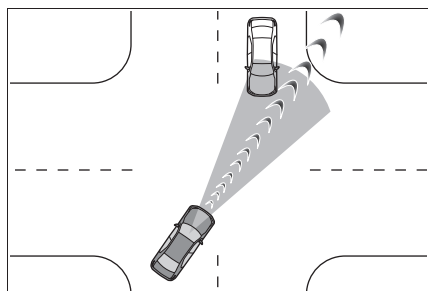


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

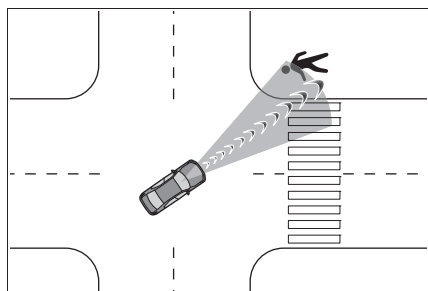
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキ装着車）による支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車・対向自動二輪車の進路を横切るとき



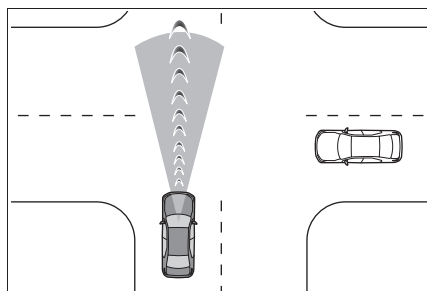
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

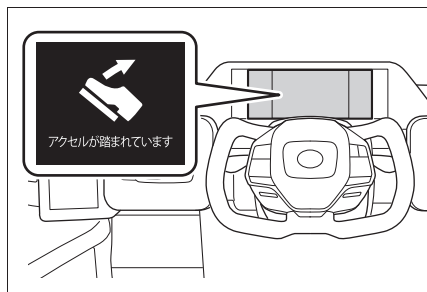
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキ装着車）による支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、EVシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。（プリクラッシュブレーキ装着車）作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



 警告**■プリクラッシュブレーキについて
(プリクラッシュブレーキ装着車)**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

- ・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
- ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 30 ～ 180 km/h	約 80 ～ 220 km/h
自転車	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 80 km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト（プリクラッシュブレーキ装着車）

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 180 km/h
自転車	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
歩行者	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 80 km/h

●プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキ装着車）

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約5～180 km/h	約5～180 km/h
対向車両	約30～180 km/h	約80～220 km/h
自転車	約5～80 km/h	約5～80 km/h
歩行者	約5～80 km/h	約5～80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約5～180 km/h	約5～80 km/h
対向自動二輪車	約30～180 km/h	約30～180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援（プリクラッシュブレーキ装着車）

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約40～80 km/h	約40～80 km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約5～40 km/h	約5～75 km/h	約10～115 km/h
歩行者	約5～30 km/h	—	約5～40 km/h
自転車	約5～30 km/h	—	約5～50 km/h
対向自動二輪車	約5～40 km/h	約5～75 km/h	約10～115 km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 k m/h	・ 自車速度以下 ・ 約 40km/h 以下	約 5 ～ 60 k m/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、壁	約 0 ～ 15 k m/h	約 0 ～ 15 k m/h

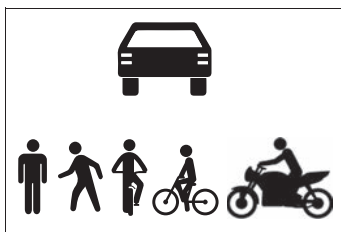
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

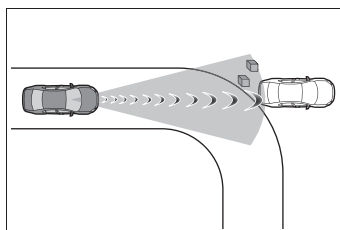


■ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

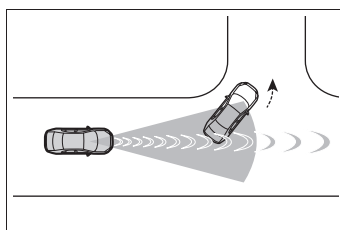
● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき

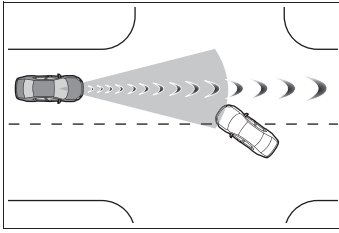
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



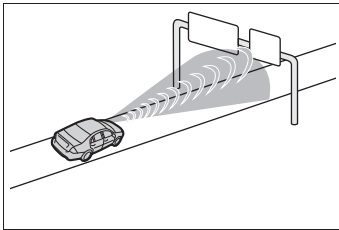
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



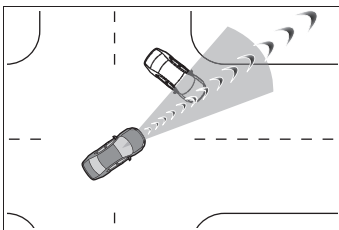
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



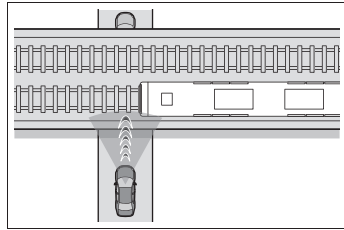
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方・下方を移動するものがあるとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車・対向自動二輪車・横断歩行者・横断自転車が自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車・対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



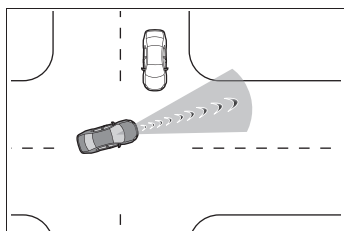
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方・下方を移動するものがあるとき



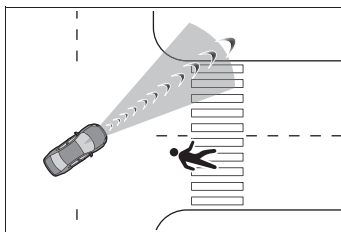
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき

- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ EVシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車・対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック・牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.415)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.415)
- 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
“遅い” を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

LDA (レーンディパーチャアラート)

基本機能

車線または走路[※]からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路[※]からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路[※]を前方カメラで認識します。

[※] アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造物

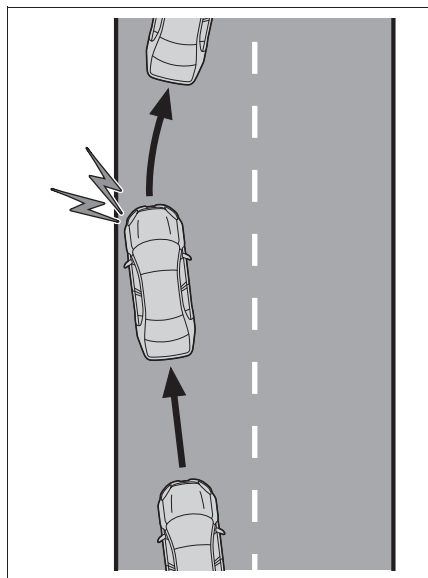
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路[※]内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

[※] アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造物



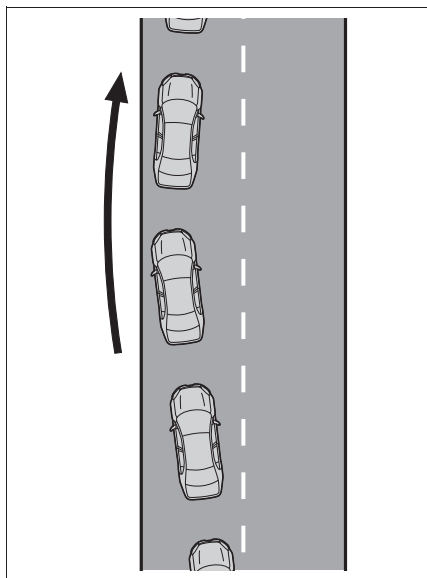
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

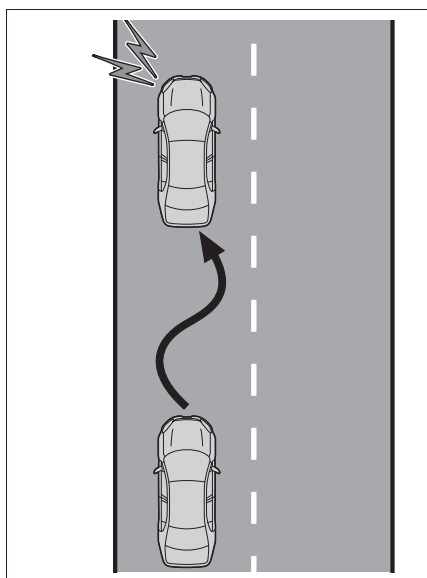
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にした時)

- ・ システムが車線または走路※を認識しているとき(車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき(方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造物

■ 機能の一時解除

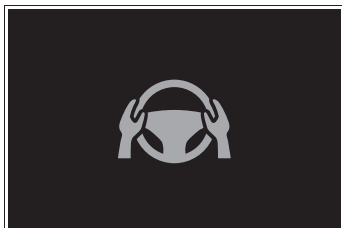
作動条件(→P.245)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
 - カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
 - 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
 - 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
 - とんりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
 - 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造物

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

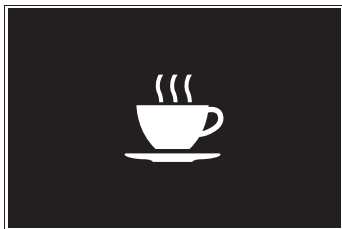
ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.415)
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→P.415)

⚠ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石・ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.233
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.232
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.233
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.228

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色点滅	 黄色点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色点滅	 黄色点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合に、緊急停止スイッチを押すことで、周囲に警告を行いながら自車を減速、停車させるシステムです。停車後、ドアの解錠も行います。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、緊急停止スイッチが押されたときに、周囲に警告を行いながら減速、停車を行うことを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。道路環境によっては減速性能や停車状態の維持を十分に発揮できないことがあります。また、構成部品・システムに異常が発生している場合やシステムの作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- システム作動後、運転者が異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、車両が車道上で停車した場合、必要な危険防止措置をとった後、路側帯やガードレールの外側等の安全な場所に速やかに退避してください。

ドライバー異常時対応システムについて

- このシステムは、運転者に異常が発生した際に、緊急停止スイッチを押すことで、車両を減速・停止させるためのシステムです。システムによるハンドル操舵はありません。また、万が一に備え、運転者は乗員に対し、正しいシステムの使用方法を周知してください。
- 停車した後のブレーキ保持はあらゆる条件下での機能を保証するものではありません。そのため、停車後は速やかにシフトポジションをPにしたあとにEVシステムを停止してください。
- システムの作動により車両が停止したときは、必要に応じて救護のために救急（消防）や警察に通報してください。

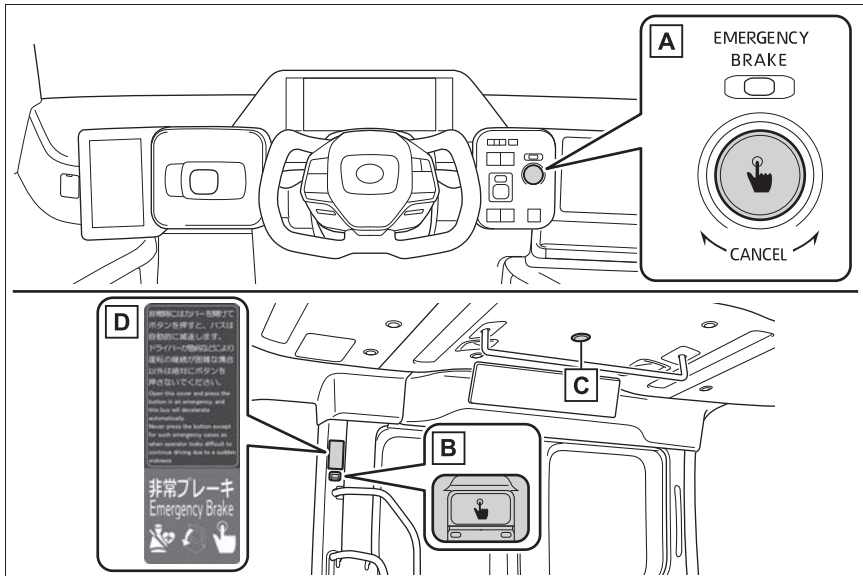
□ 知識

■システムの効果が得られない場合

次の状況では、ドライバー異常時対応システムの性能を十分に発揮できない、または作動しないおそれがあります。

- ブレーキ性能が十分に発揮できないとき（ブレーキ部品が極度に冷えている、過熱している、ぬれているなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ部品、タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- 坂道を走行しているとき
- 自車が横すべりしているとき
- 脱輪、パンクなどの危険要因が生じたとき
- 衝突などにより車両が損傷して、ECUやハーネスなどの構成部品が機能しなくなったとき
- 凍結路や砂利道など、すべりやすい路面を走行しているとき
- システムが作動し車両停止後、シフトポジションをPにする前にEVシステムを停止してしまったとき
- 車両の最高速度を超えているとき

ドライバー異常時対応システムの構成部品



A 運転席緊急停止スイッチ

B 車内緊急停止スイッチ

C 車内フラッシャーランプ

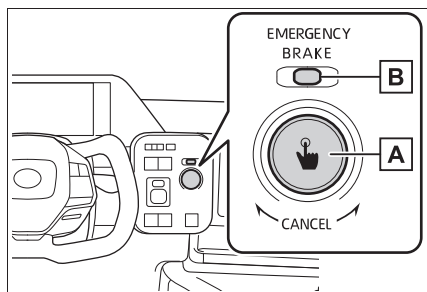
システムが作動しているときは、赤色に点滅します。

D ラベル

スイッチについて

■ 運転席スイッチ

● 作動スイッチ



A スイッチ

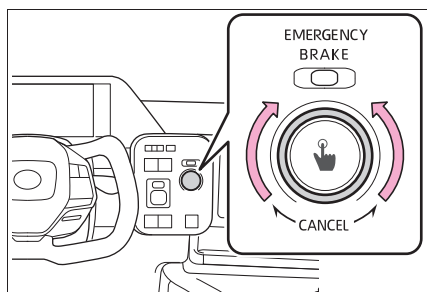
スイッチを押すと、システムが作動し、運転席緊急停止スイッチ作動灯（赤色）が点灯します。

B 運転席緊急停止スイッチ作動灯

作動時：赤点灯

異常時：赤点滅

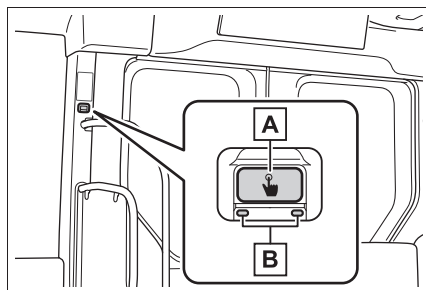
● 解除スイッチ



スイッチを左右どちらかに回りきるまで回す

緊急停止スイッチを押してから車両が停止するまでのあいだは、解除できます。

■ 車内スイッチ



A スイッチ

車内緊急停止スイッチ作動灯（緑色）が点灯時にスイッチの使用が可能です。

スイッチを押すと、システムが作動し、車内緊急停止スイッチ作動灯（赤色）が点灯します。

車内スイッチには、解除スイッチはありません。

システムの解除が必要な場合は、運転席の解除スイッチを使用してシステムを解除してください。

B 車内緊急停止スイッチ作動灯

作動時：緑点灯・赤点灯

異常時：緑消灯・赤点滅

知識

■ 車内スイッチについて

- 車内緊急停止スイッチの誤操作を防ぐために普段はカバーを閉じておいてください。
- システム作動後も、車両停止までの間は、解除スイッチを操作することでも解除できます。
- システム作動により車両が停止後、救助活動時の安全性確保のため、解除スイッチを操作してもシステムは解除できません。
- システム解除については、P.251 を参照してください。

ドライバー異常時対応システムの作動・解除

■ システム作動について

スイッチを押してシステムが作動すると、誤操作によるシステム解除や乗員への配慮のため、弱いブレーキが約 3 秒間作動します。また、周囲への警告と共に車両が停止するまで減速し、車両停止後は手動による EV システム停止まで車両停止状態を保持します。

運転者がアクセルペダルを踏んでいる場合でも、アクセルペダル操作は無効となり、システムによるブレーキが優先されます。

車両停車後は、車両のドアロックが自動解除されます。

停車後は安全のため、ブレーキがかかったままになります。

システム作動中は、次のような警告を行います。

● 車内

- ・ 運転席緊急停止スイッチ作動灯（赤）
- ・ マルチインフォメーションディスプレイ表示
- ・ 車内フラッシャーランプ点滅
- ・ 車内ブザー吹鳴
- ・ 車内緊急停止スイッチ作動灯（緑・赤）

● 車外

- ・ ホーン吹鳴
- ・ ハザードランプ点滅
- ・ 制動灯点灯

■ システム解除について

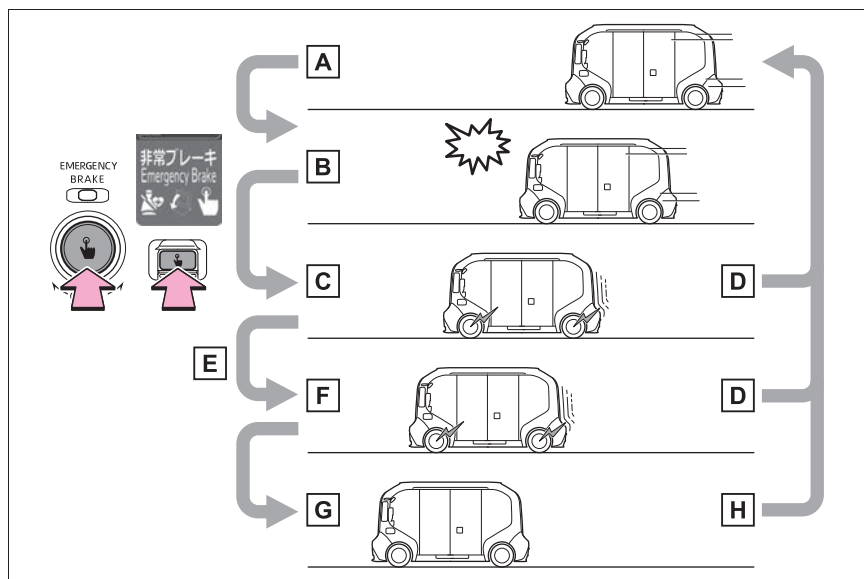
- スイッチを押してから車両が停止するまでのあいだは、運転席の解除スイッチで解除することができます。
- システムにより車両が停止したあとは、安全のため、周囲への警告とブレーキが保持された状態になります。車両停止以降は解除スイッチによる操作では解除できません。解除するには、車内外の安全を確認の上、シフトポジションを P にして、EV システムを再始動してください。

知識

■ システムの作動について

- ドライバー異常時対応システムは、READY インジケーターが点灯しているとき、システムの待機状態になります。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいる場合は、システムによる制動とブレーキペダル操作による制動のうち、強い制動を優先します。
- ドライバー異常時対応システムの作動中に車両挙動が不安定になる可能性がある場合は、ABS や VSC が優先して作動します。
- ブリクラッシュブレーキ装着車：ドライバー異常時対応システム作動中に PCS が作動する状況になった場合は、PCS による減速制御が優先して作動します。ただし、PCS が作動してもシステムは解除されることなく周囲への警告は継続し、PCS 制御終了後に本システムの制御へ自動的に切り替わります。
- システムを非作動にすることはできません。

ドライバー異常時対応システムの作動



A 通常走行

B ドライバー異常発生

運転席スイッチまたは車内スイッチにて作動

C 車内警告 ※¹・弱いブレーキが約 3 秒間作動・アクセル操作無効

D 走行中の解除スイッチ操作によるシステム解除

E 約 3 秒作動後

F 車内警告 ※¹・車外警告 ※²・停車までブレーキ作動・アクセル操作無効

G 停車（車内警告 ※¹・車外警告 ※²・ブレーキ保持・アクセル操作無効）

H 停車後は、シフトポジションを P にして、EV システムを停止

ヘルプネットへの自動接続

※¹ 運転席緊急停止スイッチ作動灯（赤）、マルチインフォメーションディスプレイ表示、車内フラッシャーランプ点滅、車内ブザー吹鳴、車内緊急停止スイッチ作動灯（緑・赤）

※²ホーン吹鳴、ハザードランプ点滅、制動灯点灯

知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“緊急停車システム故障 販売店で点検”が表示されたとき

システムまたは関連する部品が故障するとシステムが作動しなくなります。販売店で点検を受けてください。

警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

ドライバー異常時対応システムが作動した車両の取り扱い

■ システムが作動した車両への救助について

- 車両が停止しており、報知が継続している場合は、ドライバー異常時対応システムが解除されていません。
- 乗員を救助する際は、可能な限り安全なところへ車両を移動してください。

- 移動できない場合は、安全確保や被害拡大の防止に努めてください。

- ・ パーキングブレーキを作動させる
- ・ シフトポジションを P にしたあとに、EV システムを停止する
- ・ タイヤの前後に輪止めをかける

■ システム作動に伴う責任について

運転者の体調の急変等に伴い、危険を回避するためにシステムを作動させた場合に限り、システム作動に対する責任は問われません。

ドライバー異常時対応システムの点検

ドライバー異常時対応システムが正常に作動することを確認するため、定期的に次の要領で点検作動させてください。

■ 事前準備

- 1 車両を安全な場所に止め、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
- 2 シフトポジションが P になっていることを確認し、EV システムを始動してください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに異常を示す表示が無いことを確認してください。

■ 点検方法

次の順で操作すると、点検モードが開始します。

- 1 運転席の解除スイッチを左右どちらかに回りきるまで回す
- 2 解除スイッチを回し、手を放してから1秒経過した後、約9秒以内に車内スイッチを押す

■ 点検項目

- ブザーが間欠吹鳴すること
- 車内フラッシャーランプが点滅すること
- 運転席緊急停止スイッチ作動灯が赤点灯すること
- 車内緊急停止スイッチ作動灯が緑点灯・赤点灯すること
- ハザードランプが点滅すること
- マルチインフォメーションディスプレイに“緊急停車システムチェック”が表示されること

■ 点検モードの解除

点検完了後、解除スイッチを操作、EVシステムを停止またはパーキングブレーキスイッチを操作し終了してください。

■ 点検時に異常が認められた場合

トヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ 点検モードを解除したあとは

必ずマルチインフォメーションディスプレイを確認し、“緊急停車システムチェック”の表示が消えて、点検モードが解除されていることを確認してください。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

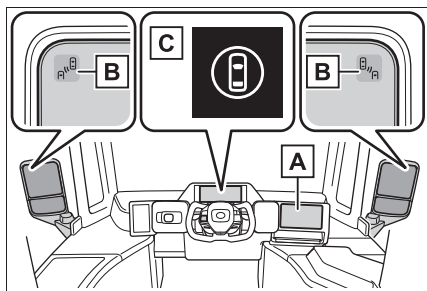
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、アウターミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B アウターミラーインジケーター

アウターミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のアウターミラーインジケーター（→P.121）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、アウターミラーインジケ-

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



R 202-LSF078

ターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■アウターミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、アウターミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザーの聞こえ方について

大音量のオーディオや周囲環境などで大きな音がある場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.416）

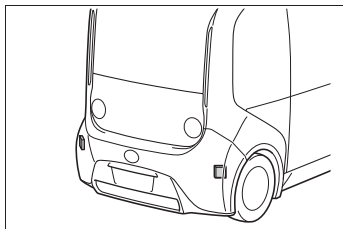
警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.388）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.258）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーを塗装しない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- センサーはリヤバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.411）

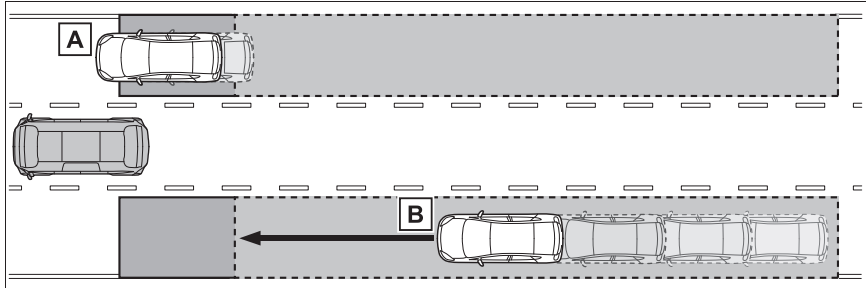
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯（→P.121）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、アウターミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

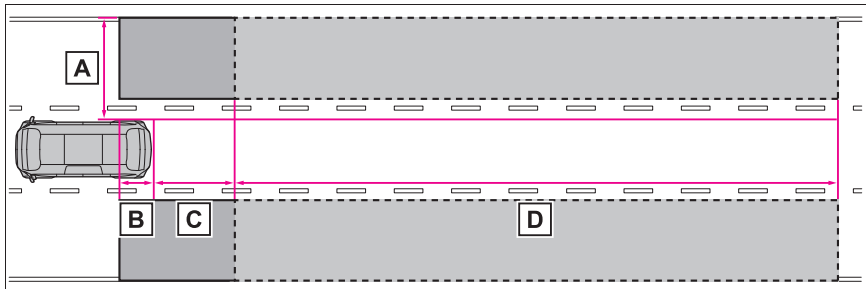


A アウターミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からアウターミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※¹

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※²

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 70m の領域 ※³

※¹ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車が追い越される場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※³ 自車と他車の速度差が大きいほど、アウターミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P.243 を参照してください。

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

● 対向車

● ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

● 同じ車線を走行する後続車 ※

● 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

● 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもアウターミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

● 方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき

● 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき ※

※ 状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接

近するとき

- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- ・ けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ けん引しているとき

安心降車アシスト

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、降車時に乗員と車両・自転車の衝突可能性の判断し、自動開作動を停止することで、事故被害低減に貢献します。

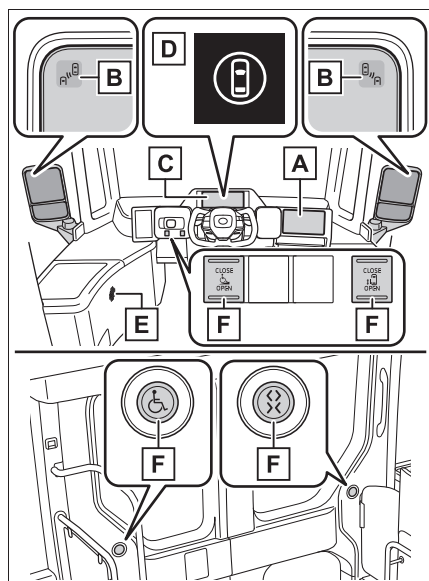
⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえます。

B アウターミラーインジケーター

パワースライドドアまたは降車した人と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のアウターミラーインジケーター(→P.121)が点灯します。パワースライドドア自動開作動が停止された場合は、アウターミラーインジケーターが点滅します。ただし、パワースライドドアが自動閉作動している場合は、アウターミラーインジケーターは点滅せず点灯します。

C マルチインフォメーションディスプレイ

パワースライドドアの自動開作動が停止された場合に、メーターに表示します。また、アウターミラーインジケーターが点灯した状態でパワースライドドアが開

けられた場合、またはスロープを展開・格納している場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。ただし、パワースライドドアが閉作動している場合は、メーターの表示およびブザーによる警報は行いません。

D 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

E スピーカー

アウターミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

F 運転席パワースライドドアス

イッチ／運転席ドア・スロープスイッチ／車内パワースライドドアドアスイッチ／車内ドア・スロープスイッチ

アウターミラーインジケーターが点灯中で、パワースライドドアまたは人と車両・自転車の衝突の可能性が高い場合は運転席パワースライドドアスイッチ、運転席ドア・スロープスイッチ、車内パワースライドドアスイッチ、車内ドア・スロープスイッチを使用しても自動開作動しません。また、パワースライドドアが自動開作動中またはスロープが自動展開作動中に衝突する可能性のある車両・自転車を検知し、一定時間警報ブザーが継続した場合、自動開作動または自動展開作動を停止します。

知識

■ アウターミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、アウターミラーインジケータが見えづらいことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ 音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
 - ドアを開いて乗車後、EV システムを始動するまで
 - EV システム停止後 3 分以上経過したとき
 - マルチメディア画面の言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
 - 外部よりドアが施錠されているとき
 - EV システム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
 - マルチメディア画面の ACC モードのカスタマイズ (→P.411) が ON の状態で EV システムが停止されているとき
 - マルチメディア画面の駐車支援音量設定が OFF となっているとき
 - パワースライドドアが開いた状態で音声による通知が行われ、そのドアが全閉されていないとき
- ※ 走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■ パワースライドドアの自動開作動またはスロープの自動展開作動の停止について

- 運転席パワースライドドアスイッチ、運転席ドア・スロープスイッチ、車内パワースライドドアスイッチ、車内ドア・スロープスイッチを操作した場合に作動します。(→P.138, 146)
- パワースライドドア OFF スwitch が ON のときは作動しません。(→P.145)
- ミラーインジケータ点灯中に全閉状態からドアハンドルを操作した場合、ドアが少し開いてから自動開作動を停止します。
- パワースライドドア OFF スwitch が ON のときは安心降車アシストに関わらずパワースライドドアの自動開作動は作動しません。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.418)

警告

■ システムを正しく作動させるために
→P.256

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえるには

安心降車アシストの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.411)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯 (→P.121) が点灯

し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

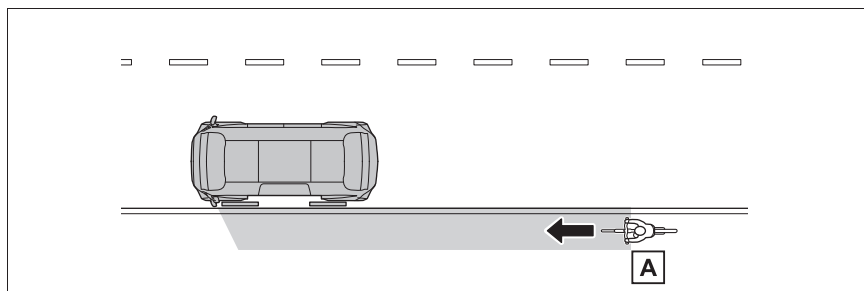
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

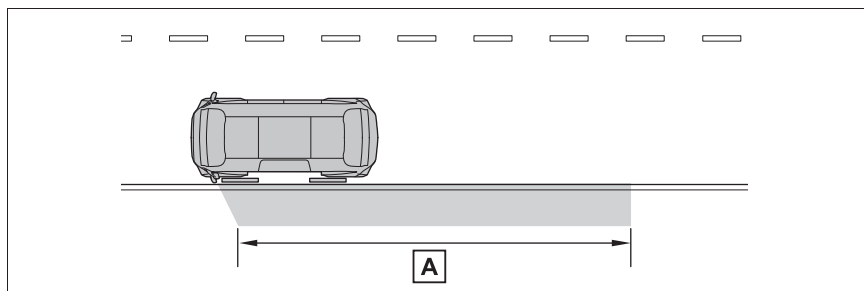
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、アウターミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドアを開けたときにドアまたは人と衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A ドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、アウターミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

 知識**■ 安心降車アシストの作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- EV システムが ON のとき、EV システム停止後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります。）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外るとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドアを開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
 - ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※
 - ・ ドアを開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※
 - ・ 真うしろから接近する車両・自転車※
 - ・ 前方から接近する車両・自転車※
 - ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
 - ・ 歩行者・動物など※

※ 状況によっては検知することがあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

- ・ EV システム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・ 自車が完全に停車していないとき

■ システムがパワースライドドアの自動開作動を停止したときの開き方

次の操作で、ドアを開くことができます。

接近してくる車両・自転車が通過、または進路変更したあと、周囲を確認してから再度車内のドアハンドルまたはパワースライドドア開閉スイッチを操作してください。緊急時など警報中にドアを開きたい場合は、周囲の安全を確認した上でパワースライドドア開閉スイッチをすばやく 3 回以上連続で押すまたは 3 秒以上の長押しをしてください。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
 - ・ 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
 - ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両・自転車
 - ・ 発進した直後の車両や自転車

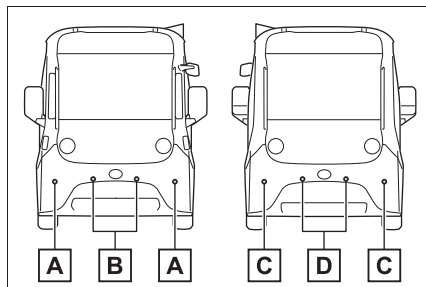
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
- ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・道路に対して傾いて停車しているとき
- ・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・車両や自転車が高速で接近するとき
- ・けん引しているとき
- ・急勾配の坂道に停車しているとき
- ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
 - ・道路に対して傾いて停車しているとき
 - ・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
 - ・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
 - ・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
 - ・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
 - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやスロープを装着しているとき
 - ・車両や自転車が高速で接近するとき
 - ・けん引しているとき
 - ・急勾配の坂道に停車しているとき
 - ・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
 - ・隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

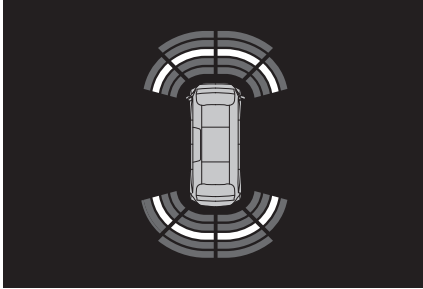
D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面に表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチメディア画面の表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.265）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.411）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.121）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.411）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON/OFF を切り替えることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。

警告

● センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

● 改造・分解・塗装をしないでください。

● ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。

● 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

● 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

洗車時の注意

● 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

● スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：

シフトポジションが P 以外にあるとき

- フロントセンターセンサー：

シフトポジションが P・R 以外にあるとき

- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
- シフトポジションが R にあるとき

- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

- メーター故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

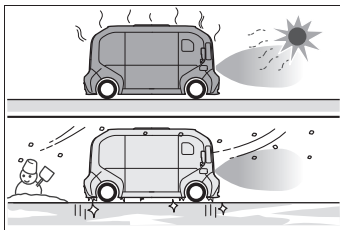
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



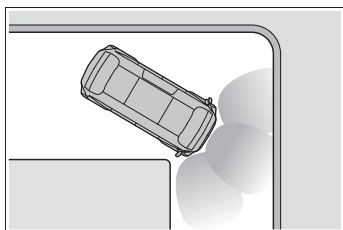
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

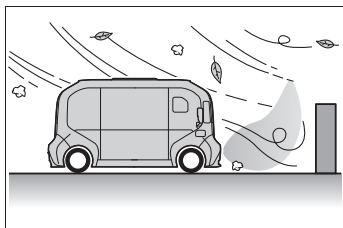
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

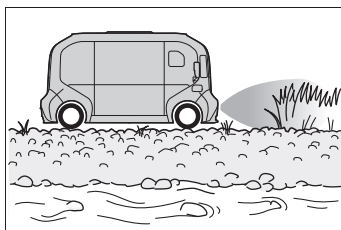
- 狭い道路を走行するとき



- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



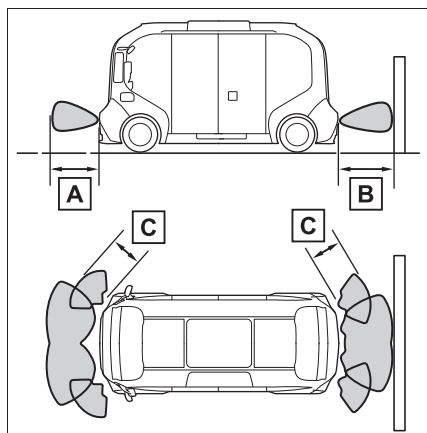
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサーセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンサーセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.270)

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」

から連続音「ピー」になります。

- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)



知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。(→P.411)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次の時、自動でミュート（消音）が解除されます。
- ・ シフトポジションを切りかえたとき
- ・ 車速が一定値以上になったとき
- ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
- ・ パワースイッチを OFF にしたとき

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

！ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

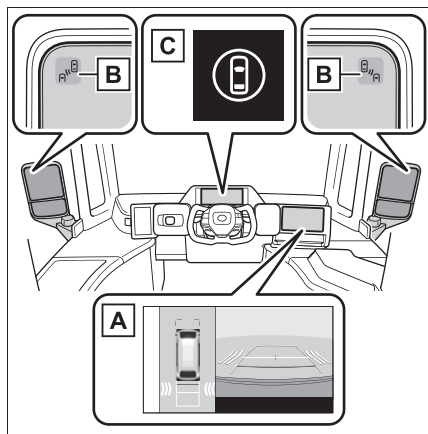
RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムを正しく作動させるために

→P.256

システムの構成部品



A マルチメディア画面

マルチメディア画面上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。また、自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.272）が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※ 表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

B アウターミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のアウターミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON/OFF はカスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.411）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.121）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■アウターミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、アウターミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

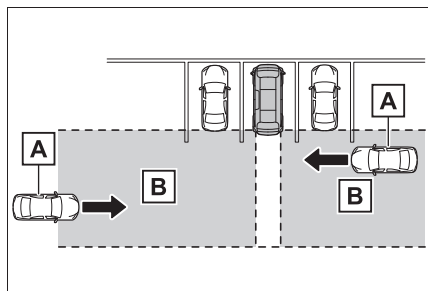
■後側方レーダーセンサーについて

→P.256

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、アウトターミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



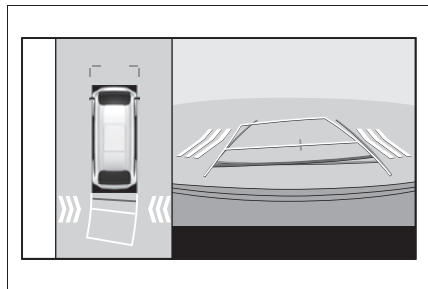
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

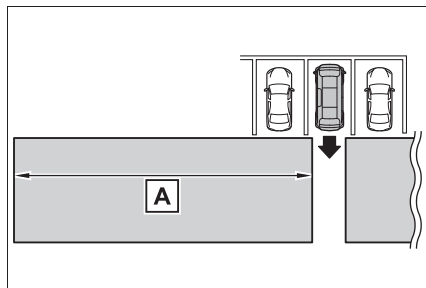
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソーナ、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.411）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

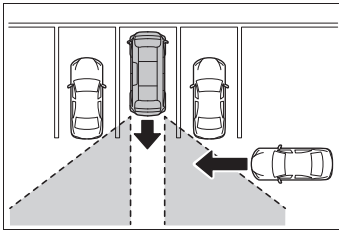
一時ミュート（消音）が解除される時：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

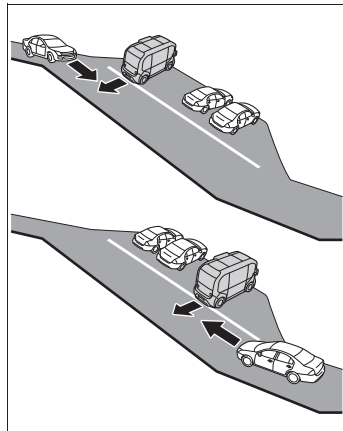
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

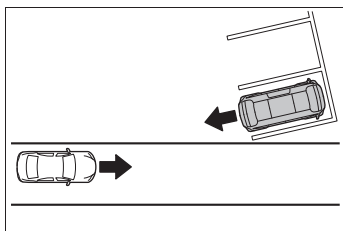
■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

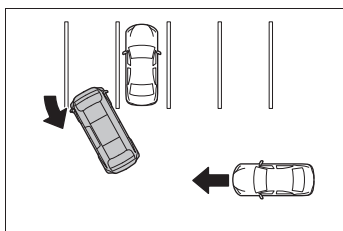
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



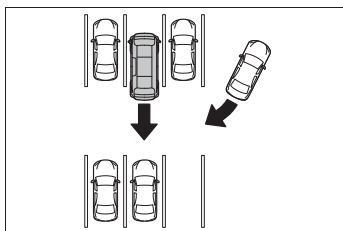
- 斜めの駐車場から出庫するとき



- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、EV システムを始動した直後
- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



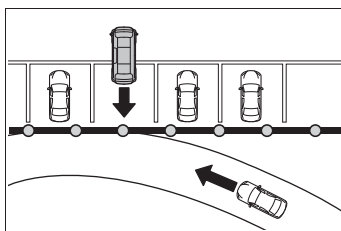
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



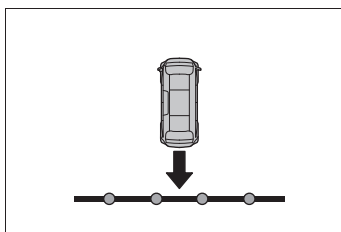
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

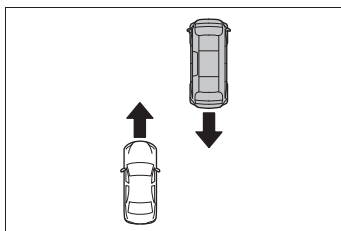
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



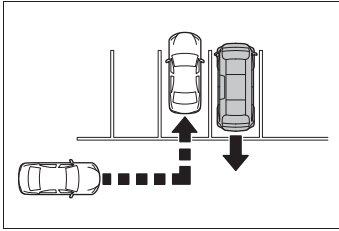
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンススペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグラмп等）を取り付けしないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けしないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

警告

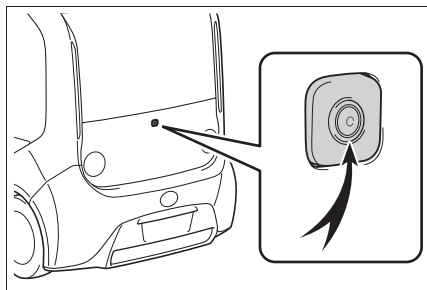
■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

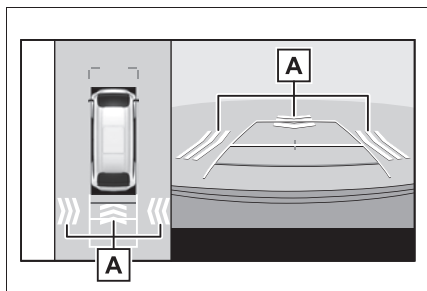
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

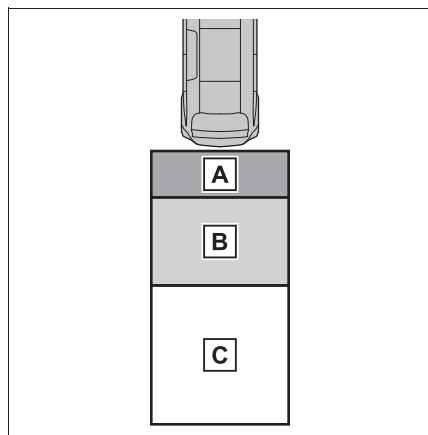
RCD の ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます (→P.411)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.121) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者が**A**エリアにいるとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者が**B**エリアにいるとき

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C **C**エリアにいる歩行者と自車

が、接触する可能性があるときシステムが判断したとき

ブザー：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

 知識**■ 作動条件**

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき

■ ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.411）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
- ・ 寝転んでいる人
- ・ 走っている人
- ・ 自車や建物の影から突然現れる歩行者
- ・ 自転車やスケートボード等に乗っている人
- ・ 合羽やロングスカートを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- ・ カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
- ・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 悪天候（雨、雪、霧等）
- ・ レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
- ・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
- ・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
- ・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

- ・ リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
- ・ けん引しているとき

■ システムが作動するおそれがあるとき

- 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
 - ・ 移動物（通行車両、バイク等）
 - ・ 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
 - ・ 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
 - ・ 金属のフタ（グレーチング）や側溝
 - ・ 水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
 - ・ 影
- 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 路肩や段差があるとき
 - ・ 勾配変化があるとき
 - ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
 - ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
 - ・ カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引フックを取り付けているとき
 - ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・ カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）

- ・ 点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ・ けん引しているとき

● 検知を妨げる状況

- ・ オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
- ・ 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→P.283

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.285

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

→P.287

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

● 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

警告

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ロードサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON/OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます（→P.411）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯（→P.121）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.411）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面およびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作をうながすメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● EV システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● EV システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示例：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれていますブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

運転支援情報表示灯：点灯

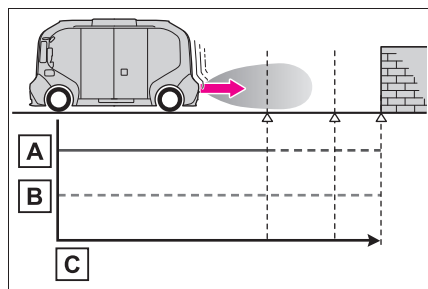
ブザー：ピピピピ（連続音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（EV システム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1 (PKSB (パーキングサポートブレーキ) 非作動時)

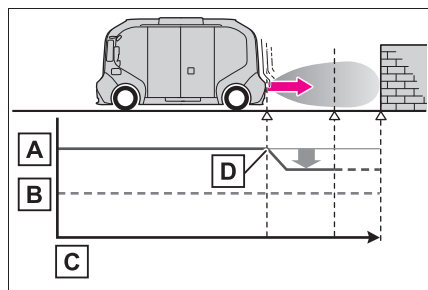


A EV システム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2 (EV システム出力抑制制御時)



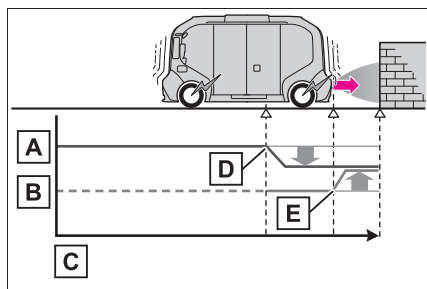
A EV システム出力

B 制動力

C 時間

D EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

● 図 3 (EV システム出力抑制制御かつブレーキ制御時)



A EV システム出力

B 制動力

C 時間

D EV システム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき)

E ブレーキ制御開始
(作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき)

□ 知識

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ） 作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.121）

- シフトポジションを P にする
 - 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
 - 車両の進行方向を切りかえる ※
- ※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→P.265）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.280）、ブレーキ制御と EV システム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）★

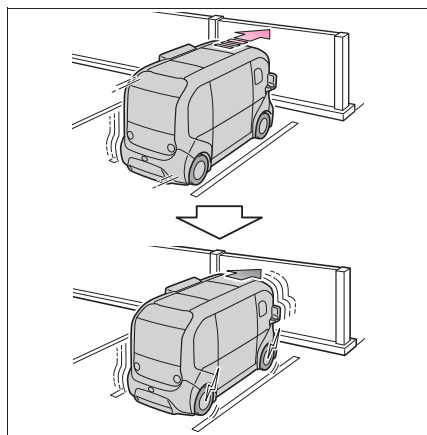
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

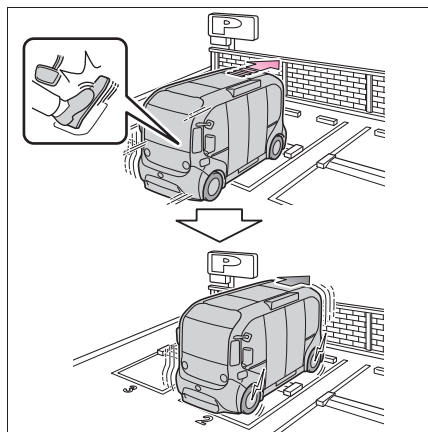
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

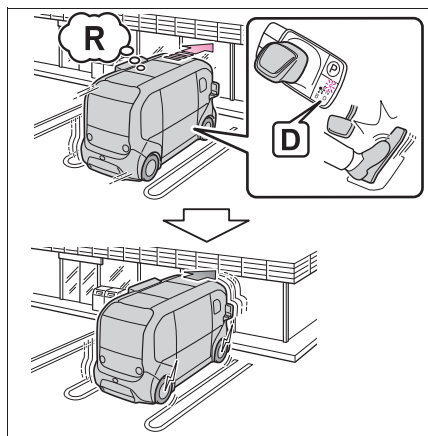
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



センサーの種類

→P.264

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.265

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.282

■ 洗車時の注意

→P.266

📖 知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.120）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ EV システム出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.269）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.267

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.268

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

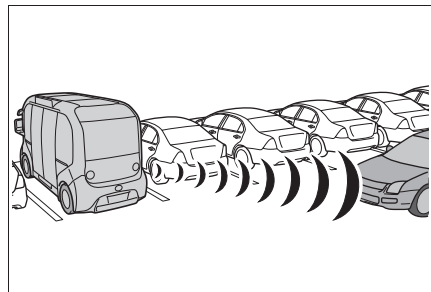
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.256

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.256

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.120）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

- ブレーキ制御
 - ・ EV システム出力抑制制御作動中
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.273

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.274

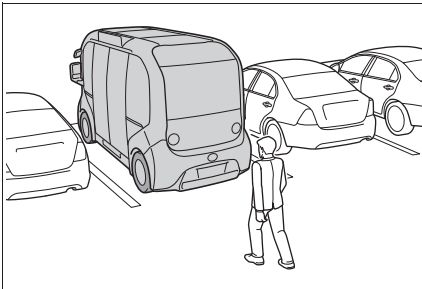
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

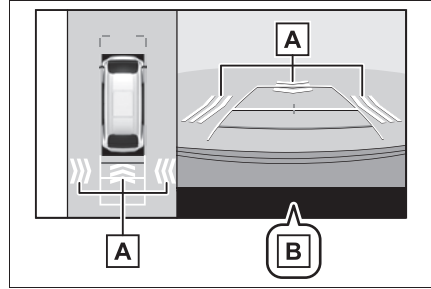
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.275

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→P.120）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 自車後方に歩行者がいるとき
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ EV システム出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- EV システム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.283

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.276）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.277

■ システムが作動するおそれがあるとき

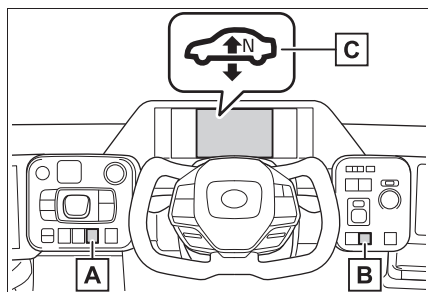
→P.278

AHC（アクティブハイトコントロール）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用状況に合わせて、車高モードを選択できます。

システムの構成部品



A 車高切りかえスイッチ

B 車高・ドア開閉連動 OFF スイッチ

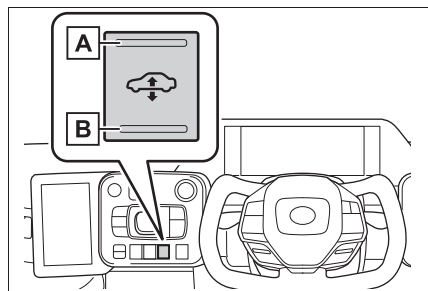
ドア開閉時、車高調整が連動する機能を OFF にします。

C AHC 表示灯

車高を切りかえるには

車高切りかえスイッチを押す。

作動中はメーター内の AHC 表示灯の一部が点滅し、作動が完了すると点滅から点灯にかわります。



A 車高上昇

B 車高下降

シフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏まずに操作してください。

ブレーキペダルを踏んでいるあいだは、車高調整が作動しません。

AHC 表示灯点滅状態		
	N モード 作動中	AHC 表示灯の作動方向矢印と“N”が点滅します。
	LO モード 作動中	AHC 表示灯の作動方向矢印と“L”が点滅します。

AHC 表示灯全体が点滅しているときは、車高制御の中断を示しています。

制御が待機中のとき、AHC 表示灯の“N”または“L”だけ点滅している場合は輸送用サービスモードのため、トヨタ販売店へ連絡してください。

車高モード

■ N モード

標準車高です。

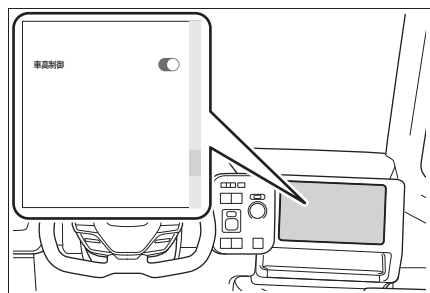
■ LO モード

車両への乗り降りが容易になります。

シフトポジションが P のときに選択できます。N モードにくらべ、車高が約 100mm 低くなります。

■ システムを OFF にするには

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから  にタッチする
- 2 サブメニューの“カスタマイズ”にタッチする
- 3 車高制御を選択する



機能の  (作動) /  (非作動)

を切りかえることができます。

AHC 表示灯の右下に“OFF”が表示されます。



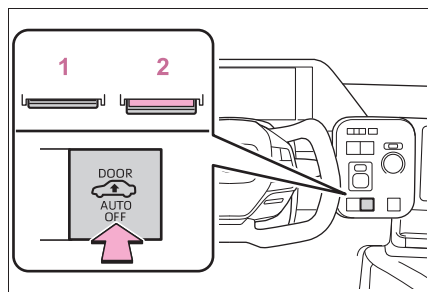
知識

■ 機能連動モードについて

● ドア連動機能

ドア開閉時、車高調整を連動させること

ができます。ドア開閉時に車高調整を連動させないときは、車高・ドア開閉連動 OFF スイッチを押してください。



1 ドア連動機能 OFF

2 ドア連動機能 ON*

* ドア連動機能 ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

■ 機能を選択できないとき

次のとき、N モードの状態から LO モードを選択することができません。

- ・ シフトポジションが P 以外のとき
- ・ LO モードから N モードへ上昇した直後のとき
- ・ 路面の段差や凸凹が大きい場所
- ・ 気温がおよそ -15℃ 以下のとき

LO モードを選択できない場合は、AHC 表示灯が一時的に制御の中断中を示し、すぐに N モード点灯へ戻ります。

■ システムの保護機能

車高切りかえスイッチの操作などで車高の昇降をくり返すと、システムが一時的に作動なくなることがあります。数分間間隔をあけてから、再度操作してください。

■ システムの作動条件

- 次のとき、システムが作動しません。
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるあいだ
 - ・ スロープが確実に格納されていない
 - ・ 気温がおよそ -30℃ 以下のとき

- ・ パワースイッチが OFF のとき
ただし、LO モードでパワースイッチを OFF にしとき、パワースイッチを OFF にしたあと 30 秒間は N モードへ切りかえることができます。
- ・ 連続的に車高制御をさせたとき
ドアの開閉を連続的に作動させる場合はドア連動機能を OFF にしてください。
- 次のとき、システムが停止することがあります。
- ・ 段差や凸凹が極端に大きい路面、大きく傾斜した路面では、システムが中断することがあります。
- ・ 雪や石などが車両に接触して、車高調整速度が遅くなってしまった場合、システムが中断することがあります。

■ 車高制御 OFF が解除されるとき

車高制御を OFF に設定したあと、車速約 30km/h 以上で走行すると設定が解除されます。

■ AHC 表示灯が と表示されたときは

システムに異常があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
(→P.384)

■ 作動音について

次のような場合に作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

- ・ 乗員の乗降で車高に変化があったとき
- ・ スイッチ操作で車高が変化したとき
- ・ タンクへ蓄圧中のとき

■ カスタマイズ機能

車高制御作動中、ブザー吹鳴の有無を選択することができます。

→P.418

⚠ 警告

■ 車高モードの切りかえ操作をするとき

車高モードの切りかえ操作をするときは、十分に周囲の安全を確かめてください。車高が変わったときに、車両に体がはさまれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 段差や凸凹が極端に大きい路面、または冠水路を走行するとき

段差や凸凹が極端に大きい路面、または冠水路を走行すると車両姿勢が不安定になることがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。避けて走行するようにしてください。

■ 車高制御を OFF にするとき

次のとき、車高制御を OFF にしてください。車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スロープを手動で格納するとき
- この車を輸送するとき
- ジャッキアップ時やタイヤチェーンを取り付けるとき
- 脱輪したとき
- 他車にけん引してもらうとき

⚠ 注意

■ 駐車するとき

- 長時間駐車する場合、気温の変化などにより車高が変わることがあります。駐車するときは、車高が変わったときに車体に接触するものがないことを確認してください。
- 乗員が降りたときや荷物を降ろしたときは、通常より車高が高くなりますので、高さ制限のある場所では注意してください。

 注意

- 必要に応じて輪止め^{*}を使用してください。

ただし、輪止め使用中は車高の切りかえをしないでください。車と輪止めが接触し破損する恐れがあります。

^{*} 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 車高モード切りかえ時の注意

- 車高の切りかえをひんぱんに行うと、ポンプが損傷するおそれがあります。車高を連続して切りかえるときは、数分間待ってから次の切りかえを行ってください。

- 次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車が路面に接触し損傷するおそれがあります。

- ・ 不整地などでは、LO モードにしないでください。

- ・ LO モードから N モードへ切り替えたときは、スイッチ操作後に AHC 表示灯の “N” が点滅から点灯になったことを確認してから走行してください。

- ・ AHC 表示灯が制御中断中を表示しているときは、車高制御が停止しています。走行する場合は路面との干渉に注意して走行してください。

■ スロープを使用して乗降するときは

スロープを使用して乗降するときは、EV システムを OFF にしないでください。乗降による車高の変化でスロープの角度が変わり、車いす等の乗降が困難になったりスロープが破損するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について**■ ECB（電子制御ブレーキシステム）**

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシスト テッドビークルスタビリティ コントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するとき、車が後退するのを緩和します。

■ 緊急ブレーキシグナル

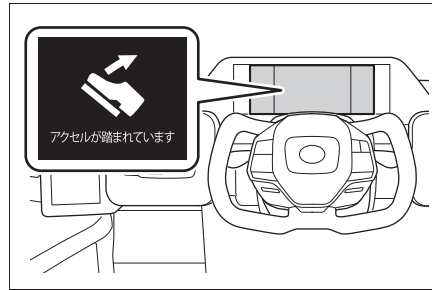
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRSエアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるEVシステムの出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。

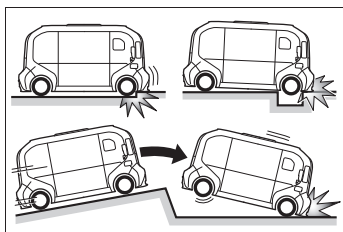


□ 知識

■ 衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
 - ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
 - ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
 - ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき
 - ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだとき
- ※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき
- 次のような状況では衝突していても、システムが作動する場合があります。
 - ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

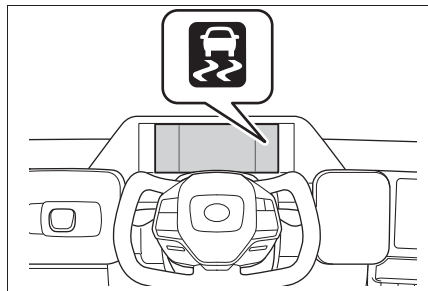
- ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

TRC・VSC・ABS(ECB)などが作動しているとき

TRC・VSC・ABSが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



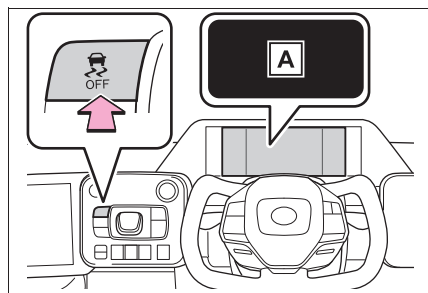
TRCを停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもEVシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRCを停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFFしました”と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



A TRC OFF しました

知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に



を押して 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ を押さなくてもマルチインフォ

メーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外(前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

● パワースイッチが OFF

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- EV システム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、モータールームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

- ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）
- ブレーキペダルを操作したときに、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）
- EV システム停止後 1～2 分後経過時に、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

- 車速が約 10km/h 未満のとき
- 構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 10km/h 未満になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠ 警告**■ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

 警告

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRCやVSCをOFFにするときは

TRCやVSCは駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はTRC・VSCを作動停止状態にしないでください。TRCやVSCを作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.410）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSCなど、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.350）

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

寒冷時は、AHC の作動に制限がかかる場合があります。

警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- タイヤ・ホイールを交換する際はトヨタ販売店にご相談ください
- 軸重に対応する冬用タイヤを選択してください
- 装着する冬用タイヤの空気圧を推奨値に調整する
- 冬用タイヤを装着する際は使用ルールを守ってください
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 警告

- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない
 - タイヤチェーンの脱着時は AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。
- 作動を停止しないと車高がかわり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。危険です。（→P.289）

⚠ 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するときは

トヨタ販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.350 を参照してください）

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かししたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- タイヤハウス内に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・アウターミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

⚠ 注意**■ ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

6-1. エアコンの使い方

エアコン 302

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 308

6-3. 収納装備

収納装備一覧 310

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 313

アクセサリーコンセント

(AC100V 1500W)・非常時給

電システム 314

正常にアクセサリーコンセント

(AC100V 1500W) または非常

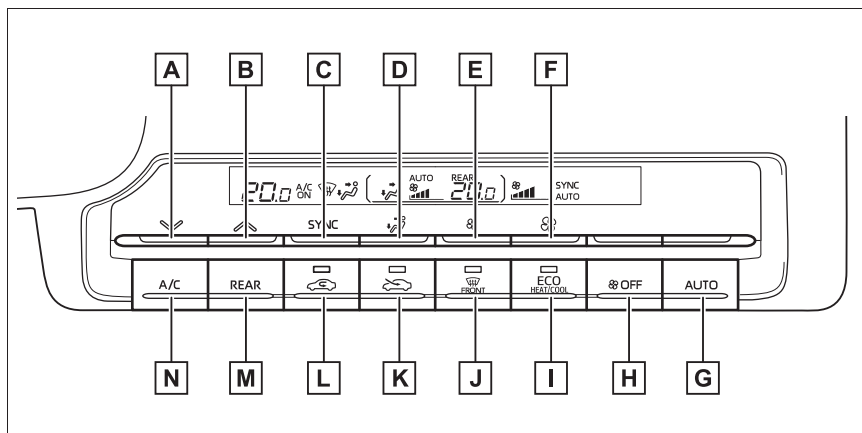
時給電システムが使用できないと

きは 322

エアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 温度調整（下げる）スイッチ
- B** 温度調整（上げる）スイッチ
- C** SYNC スイッチ（室内連動モード）
- D** 吹き出し口切りかえスイッチ
- E** 風量減スイッチ
- F** 風量増スイッチ
- G** AUTO スイッチ（オート設定）
- H** OFF スイッチ
- I** エコ空調スイッチ
- J** フロントデフロスタースイッチ
- K** 外気導入スイッチ
- L** 内気循環スイッチ
- M** REAR スイッチ（リヤエアコン操作モード）

N 冷房・除湿スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは温度調整（下げる）スイッチを押す

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

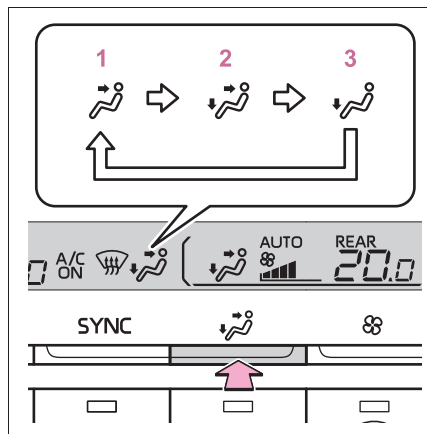
風量を増やすときは風量増スイッチを押す、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スwitchを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように設定が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

- 内気循環に切りかえるときは、内気循環スイッチを押す

内気循環スイッチの作動表示灯が点灯します。

- 外気導入に切りかえるときは、外気導入スイッチを押す

外気導入スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エアコン（冷房・除湿機能）を切りかえるには

冷房・除湿スイッチを押す

冷房・除湿機能が ON のときは、コントロールパネルの A/C ON が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントウインドウガラスの曇りを取るときに使用してください。

フロントデフロスタースイッチを押す

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

- 外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを取るのに時間がかかる場合があります。

■ エコ空調モード

電費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を室内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が動かない場合があります。

■ エコ空調モードのエアコン作動について

- エコ空調モードは電費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ EV システムやコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する。
 - ・ エコ空調モードを OFF にする。
(→P.303)

■ ナノイー X^{※1, 2} について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載

されています。この装置は室内上部の前方と後方吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます。^{※3}

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・ 室内上部から送風のとき
 - ・ 室内上部の前方と後方吹き出し口が開いているとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

^{※1} nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

^{※2} ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

^{※3} 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車外の空気を室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→P.361

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.418)



警告

■ フロントデフロスターが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。



注意

■ ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

室内上部の前方と後方吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に動かなくおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量と吹き出し口が自動で設定されます。

オート設定が ON のとき、コントロールパネルの AUTO が点灯します。

2 フロント側温度調整スイッチで温度を設定する

風量や吹き出し口を切りかえると、コントロールパネルの AUTO が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す



知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

室内の設定温度を別々に設定する（室内連動モード）

次のいずれかの操作をすると、独立モードが ON になります。

- コントロールパネルの SYNC が点灯している時に、エアコン操作スイッチの SYNC スイッチを押す。
- REAR スイッチを押して、温度調整スイッチで設定温度を変更する

独立モードになり、コントロールパネルの SYNC が消灯します。

コントロールパネルの SYNC が消灯しているときに SYNC スイッチを選択すると、作動表示灯が点灯して独立モードが OFF になり、室内の設定温度が運転席と同じ温度になります。

リヤエアコンを操作する

エアコン操作スイッチの REAR スイッチを押す

コントロールパネルに REAR が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわります。

再度エアコン操作スイッチの REAR スイッチを押すか、約 6 秒以上操作が行われなかったときは、リヤオートエアコン操作モードが解除されます。

● 設定温度をかえる

設定温度を上げるときは温度調整（上げる）スイッチを、下げるときは温度調整（下げる）スイッチを押す

● 風量を切りかえる

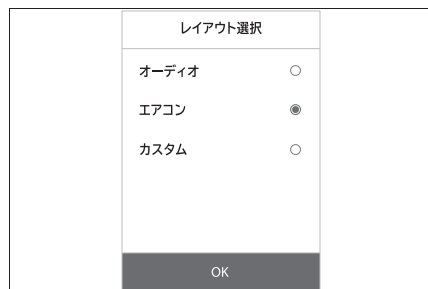
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

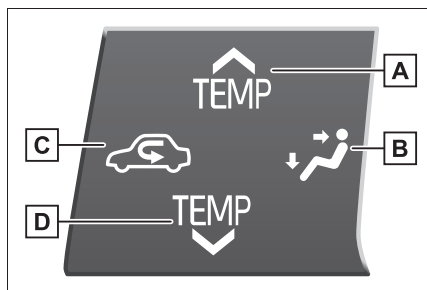
エアコン操作画面について

マルチメディアディスプレイの設定を変更することにより、一部の機能をステアリングスイッチで操作することができます。

- 1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから  をタッチする
- 2 サブメニューの“カスタマイズ”をタッチする
- 3 “ステアリングスイッチ”をタッチする
- 4 “左側”を選択し、レイアウト選択でエアコンを選択する



メーターに表示され、左側のステアリングスイッチで各機能进行操作することができます。



A 風量増

B 吹き出し口切りかえ

C 内外気切りかえ

D 風量減

⚠ 警告

■ 走行中の警告

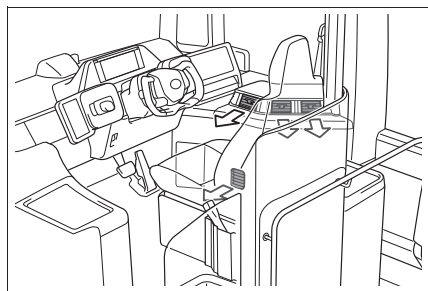
ディスプレイを見続けしないでください。
前方の歩行者、障害物などを見落とす
おそれがあり危険です。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

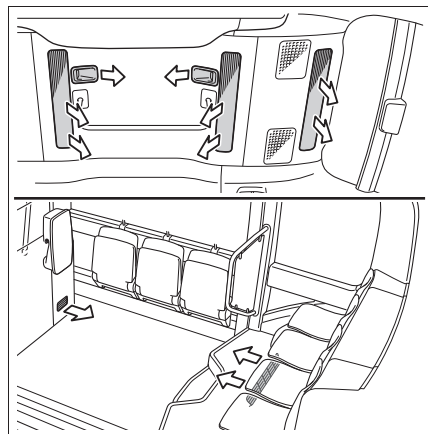
吹き出し口の切りかえ設定により、
風が出る位置や風量が変わります。

▶ フロント



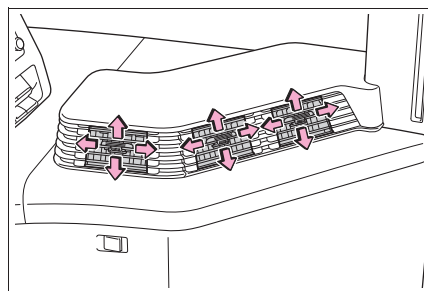
▶ 室内

温度の設定により、室内上部または
は室内足元から風が出ます。



■ 風向きの調整

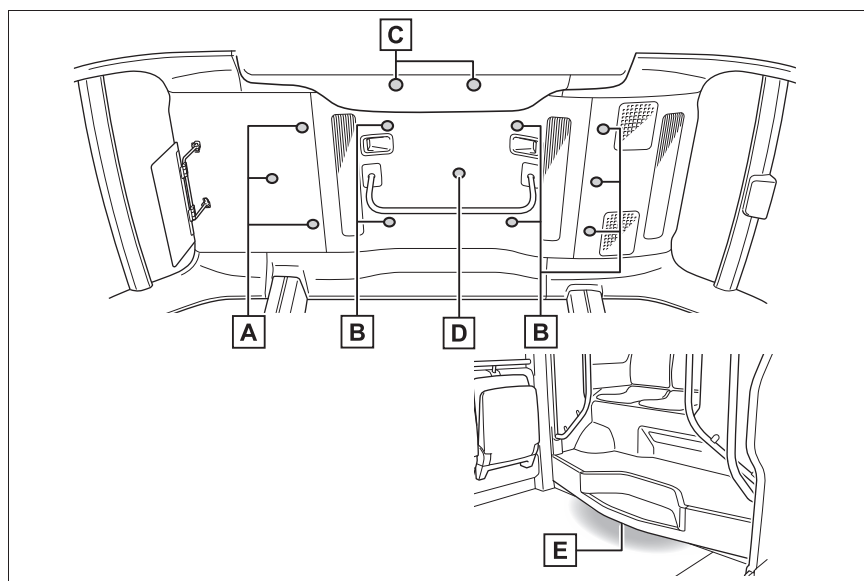
▶ フロント



ノブを上下左右に動かしてください。

室内灯一覧

室内灯の位置



A パーソナルランプ (→P.309)

B インテリアランプ (→P.309)

C カーテシランプ

D 車内フラッシャーランプ※ (→P.249)

E 足元照明

※ インテリアランプではないため、同時に点灯しなくても故障ではありません。

知識

■各部照明の自動点灯／消灯について

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリーシステム)
- パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。(→P.419)

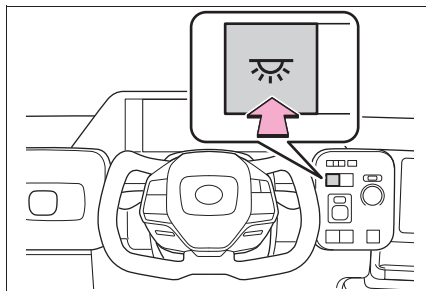
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

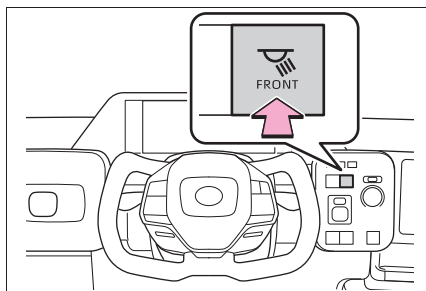
インテリアランプを操作するには

スイッチを押して、ランプを点灯・消灯する



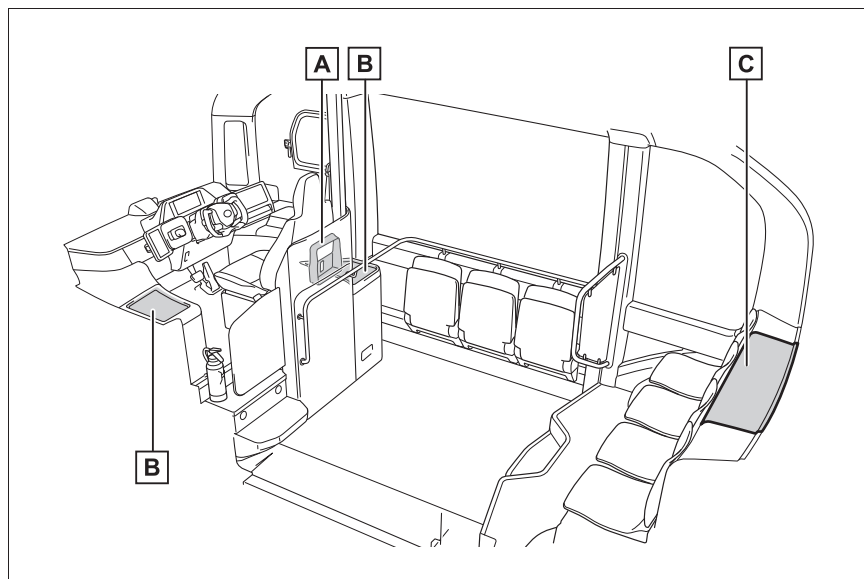
パーソナルランプを操作するには

スイッチを押して、ランプを点灯・消灯する



収納装備一覧

収納装備の位置



A 収納ポケット (→P.311)

B オープントレイ (→P.312)

C 小物入れ (→P.311)

⚠ 警告

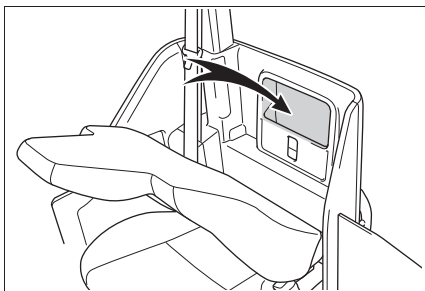
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

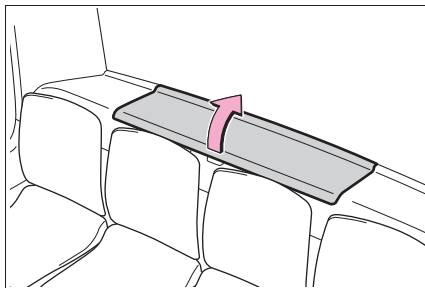
収納ポケット

運転席シートを前方にスライドさせ、背もたれを前方に倒す



小物入れ

フタを開ける



⚠ 警告

■ 走行中の警告

小物入れのフタを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 小物入れのフタの破損を防ぐために

破損を防ぐために、小物入れのフタの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

■ ツールバッグ収納について

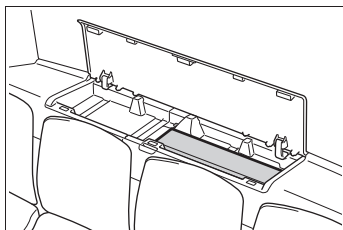
- ツールバッグを小物入れに収納しないでください。
急ブレーキや急旋回時などに、ツールバッグの中ものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまの手の届かない場所に保管してください。



■ 停止表示板収納について

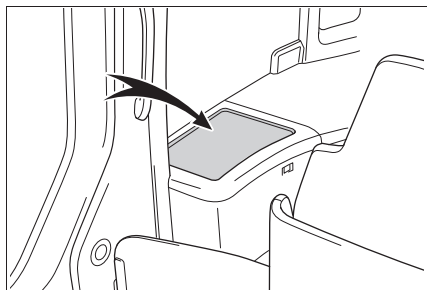
小物入れに、停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

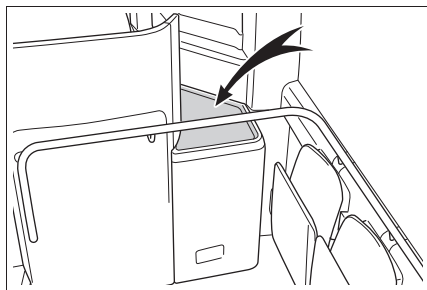


オープントレイ

▶ 運転席左横



▶ 運転席右後方



⚠ 注意

■ オープントレイの損傷を防ぐために

10kg 以上のものを置かないでください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。

急ブレーキや急ハンドル時などにオープントレイに置いていたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

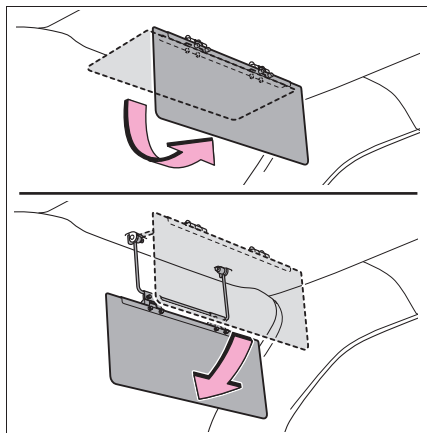
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

その他の室内装備

サンバイザー★を使うには

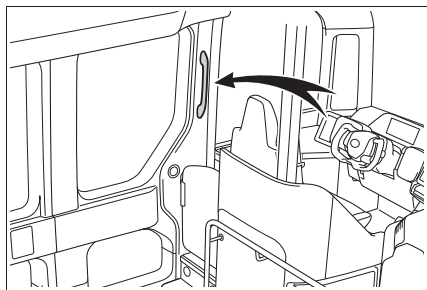
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

前方をさえぎるには、バイザーを下ろす



アシストグリップ（運転席用）

運転席への乗り降り時にお使いください。



⚠ 注意

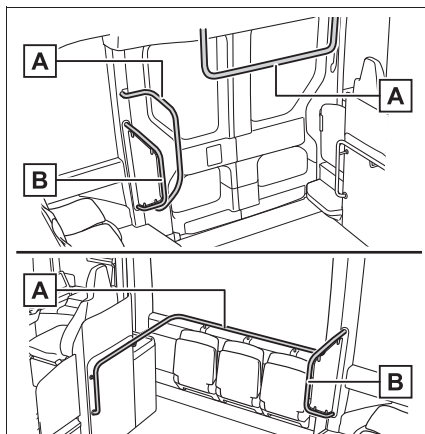
■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

手すり／ポール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内には、手すりやポールが配置されています。立っているときや乗り降り時にご使用ください。



A 手すり

B ポール

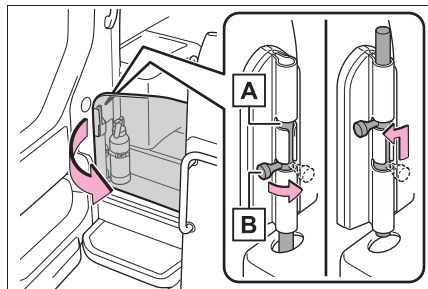
⚠ 注意

■手すり／ポールの破損を防ぐために

破損を防ぐために、手すり／ポールに過度の負荷をかけないでください。

運転席仕切り扉

乗客が運転者の操作をさまたげることのないように、運転席と仕切りのための扉が取り付けられています。走行中は、必ず扉をロックしてください。



A ロック解除位置

B ロック位置

⚠ 警告

■ 仕切り扉の使用について

- 走行中は仕切り扉は閉め、確実にロックしてください。
- 運転席に乗客が入り込み運転操作に支障をきたすおそれがあるばかりでなく、仕切り扉のロックが外れていると乗客がけがをするおそれがあり非常に危険です。

アクセサリコンセント (AC100V 1500W)・ 非常時給電システム

● アクセサリコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.316)

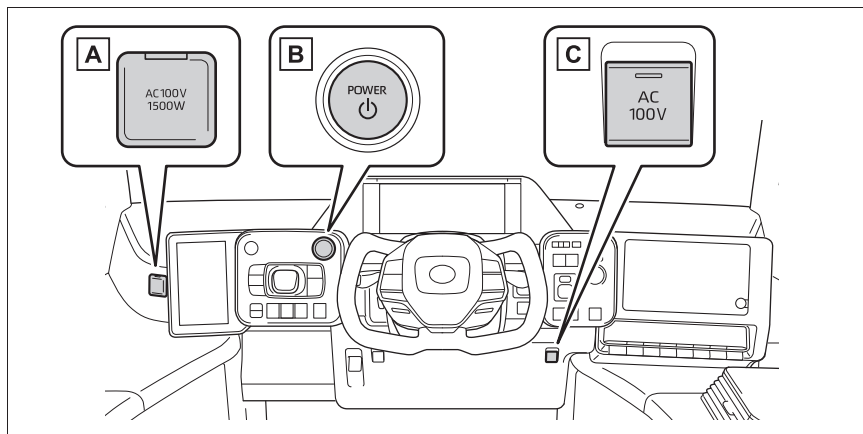
災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.316)

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができます。(→P.316)

駆動用電池充電警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

システムの構成部品



A コンセント

B パワースイッチ (→P.196, 202)

C AC100V スイッチ

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をお勧めします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 運転席足元のサービスホールが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションがPになっていること

- パワースイッチが OFF になっていること

非常時給電システムを使用するときには、次の点についてもご確認ください。

- 普通充電または急速充電を行っていないこと
- DC 外部給電または V2H 給電を行っていないこと

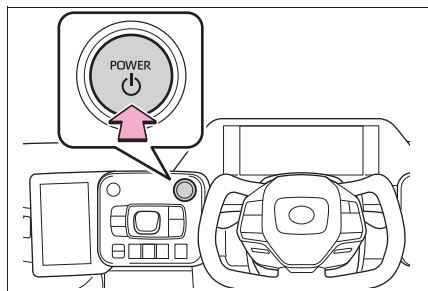
アクセサリコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す
(→P.196, 202)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

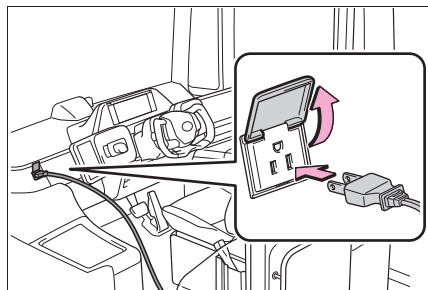
AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。



- 3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

コンセントは運転席にあります。



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

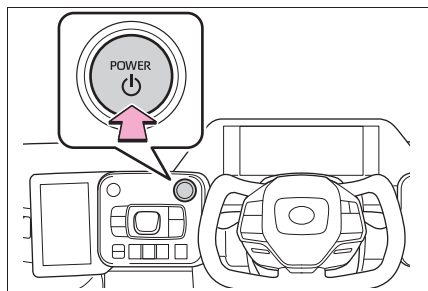
- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを押して ON にする
(→P.201, 205)

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

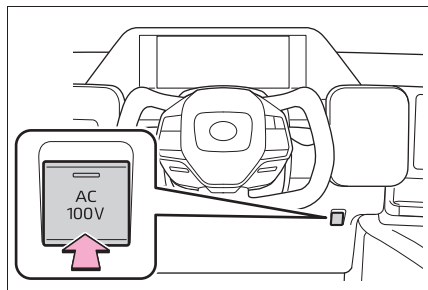


- 2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイに表示されないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



- 3** フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む (→P.317)

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1** 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2** AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3** コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4** コンセントのフタを閉める
- 5** パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

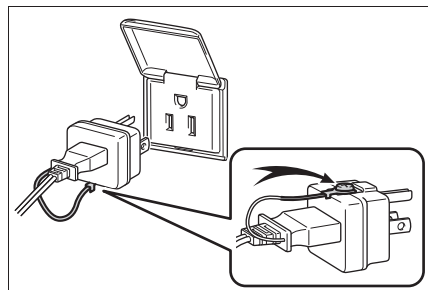
- 1** フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



 知識**■アクセサリコンセント、非常時給電システムについて**

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用上、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用上、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用上、運転席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 非常時給電システムの使用中は、駆動用電池充電警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品

- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

- 精密なデータ処理をする計測機器

- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー&スタートシステム★でドアの施錠・解錠することはできません。

- 電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー（→P.134）のみでドアを施錠・解錠することができます。

- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.218を参照してください。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■非常時給電システムを使用するとき

- 普通充電または急速充電はできません。

- DC 外部給電・V2H 給電はできません。

警告

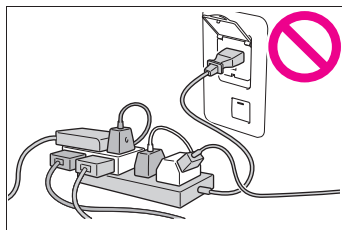
■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差し込んだりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

- ・ コンセントに分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
 - アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。
 - 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでゆめるときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- ### ■接続する電気製品について
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
 - 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
 - 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
 - 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
 - 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

▲ 警告

- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■ 電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- コンセントの使用中は車両から離れないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

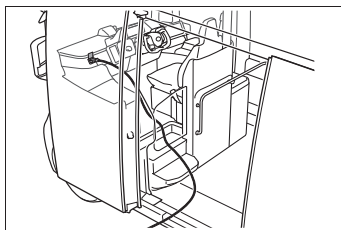
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

- ・ 雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- ・ コードを窓やドアで挟まない
- ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・ 誤って車両を発進させない

- 洗車は行わないでください。

⚠ 警告

- 運転席足元のサービスホールが閉まっていることを確認してください。また、モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
- 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
- 走行中に使用するとき
- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合
 - ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
 - ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・ACアダプター・マウスなど）

- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や燃焼のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してから EV システムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が不足している	駆動用電池を充電して駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ ピンなどの異物が挿さっていないか ・ 飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.196, 202) マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “駆動用電池の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
駆動用電池の残量が少なくなった	駆動用電池を充電後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	326
内装の手入れ	329
電動スロープの手入れ	331

7-2. 日常点検整備

日常点検整備のしかた	333
日常点検の記録	344
簡単な点検整備	345

7-3. 簡単な点検・部品交換

ガレージジャッキ	349
タイヤについて	350
タイヤ空気圧について	360
エアコンフィルターの交換	361
電子キーの電池交換	363
ヒューズの点検・交換	365
電球（バルブ）の交換	367

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
 - ・ アウターミラーを格納する

走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

自動洗車機によっては、補助ミラー★が傷ついたり破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

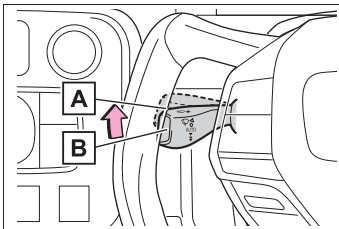
■ 洗車をするときは

モータールーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー下部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Safety Sense
 - BSM（ブラインドスポットモニター）
 - RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
 - 安心降車アシスト
 - PKSB（パーキングサポートブレーキ）★
 - クリアランスソナー
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

 注意

- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

- ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.223)
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。
- 車両を動かして洗車するタイプの自動洗車機はハンドルが切れない／操作ができないため使用しないでください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が侵入し、EV システムの不調や故障の原因になります。

- 充電リッド付近に使用しないでください。充電インレットに水が入り、車両故障につながるおそれがあります。

- 洗車時は充電リッドを必ず閉じてください。充電リッド開閉検知スイッチに水がかかると、車両が充電リッドの開閉状態を誤表示したり、充電コネクタが正常にロック・アンロック出来なくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやさらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスパンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.32)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまざまに妨げる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

シンナー・ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロア下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.229)

 注意

■ フロントサイドガラスの内側を掃除するときには

- 熱線損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

手すり／ポール★ (→P.313) の手入れをするには

- ★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
 - 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識

■ 手すり／ポールのお手入れについて

- ・ 表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。
- ・ アルカリ性の洗剤を使用すると、塗装が黒ずむおそれがあります。

革部分の手入れをするには

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く

- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 警告

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

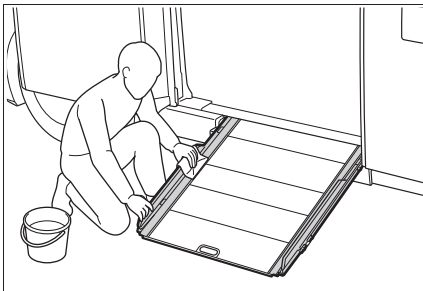
電動スロープの手入れ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スロープの引き出しレール部に泥や小石、砂などの異物がつまると、スロープの引き出し・格納操作ができなくなります。次の方法でスロープを清掃してください。

清掃のしかた

- 1 安全で平坦な場所に駐車し、シフトポジションをPの位置にして、パワースイッチをONにする
 - 2 スロープを展開する
(→P.147)
 - 3 EV システムを停止する
 - 4 スロープを清掃する
- ▶ 引き出しレール部



- 泥や小石、砂などの異物があったらブラシなどを使用して取り除く
- 水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

▶ スロープ全体



水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取る

スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などの清掃をするときは、片方の手で取っ手を持ってスロープを持ち上げ、もう片方の手で清掃します。

□ 知識

■ スロープ展開時の注意

スロープ使用中に補機バッテリーとの接続が断たれた場合、再び補機バッテリーを接続してもスロープが格納できなくなります。(→P.403)

 警告**■スロープを清掃するときは**

- 必ず EV システムを停止してください。

清掃中に不要なスイッチ類を操作しないでください。装置の不意な作動により、手足を挟まれ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- スロープの可動部・端部・突起部などを清掃するときは、手や指を挟まないよう、十分注意してください。

- スロープを持ち上げた状態でスロープ裏面などを清掃するときは、必ず片方の手でスロープ先端の取っ手を持ってスロープを持ち上げてください。

スロープ先端の取っ手以外の部分を持つと、手を挟まれけがをするおそれがあります。

- ボデーの端部などで手にけがをしたりしないように軍手などを利用してください。

日常点検整備のしかた

点検は日常点検整備のしかたに従って行い、日常点検の記録(→P.344)に結果を記入します。

日常点検整備は、自動車の構造と装置について基礎的な知識をお持ちの方であれば、ご自身で実施できます。

点検の結果、オイルや液の補充、調整などの整備が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。十分な知識や技術を持たずに整備を行うと、けがをしたり、故障の原因になることがあります。

警告

■点検の準備・場所について

- 人や交通の多い場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。自動車が動きけがをするおそれがあります。また、オイルなどの量を点検する場合は、正確な測定ができません。
- パーキングブレーキをかけ、輪止めをしてから行ってください。パーキングブレーキが十分にかけられていなかったり、輪止めをしないと自動車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボデーの端部などで手にけがをしたりしないように軍手などを利用してください。

■モータールーム内の点検について

- モータールーム内の点検を行うときは、必ずパワースイッチをOFFにしてください。
READY インジケータが点灯した状態で、EV システムなどの電気系統にふれると感電するおそれがあります。
- 高電圧部位・高電圧の配線(オレンジ色)およびコネクターにはふれないでください。やけどや感電などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- パワースイッチをOFFにした直後は、ラジエーターなどの高温部にはふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- モータールーム内にものを置かないでください。特に紙や布など燃えやすいものを置き忘れると、出火するおそれがあります。

注意

■モータールーム内の点検について

ホース配管・配線などをはずさないでください。故障の原因になるおそれがあります。

点検項目と点検順序

点検順序に従って実施していただくと効率よく点検できます。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 車のまわり

1. 冷却水の量（ヒーターシステム）（→P.334）
2. 冷却水の量（駆動用バッテリー）（→P.335）
3. ウォッシャー液の量（→P.336）
4. タイヤの空気圧（→P.337）
5. タイヤの亀裂・損傷（→P.337）
6. タイヤの溝の深さ・異常摩耗（→P.338）
7. 灯火装置や方向指示器の汚れ・損傷（→P.338）

■ 室内

8. ブレーキフルードの量（→P.339）
9. 補機バッテリーの液量（→P.339）

■ 運転席

10. パーキングブレーキの作動（→P.341）
11. EV システムの始動状態・異音（→P.341）
12. ブレーキペダルの踏みしろ（→P.341）
13. ウォッシャーの噴射状態（→P.342）
14. ワイパーのふき取り状態

（→P.342）

15. 灯火装置・方向指示器の作動（→P.342）

■ 走行中

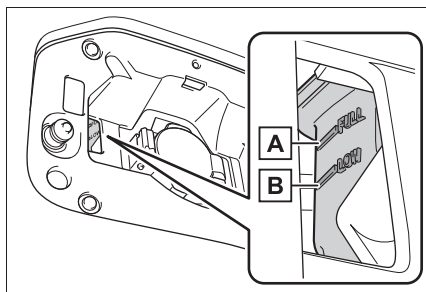
16. ブレーキの効き具合（→P.343）
17. 低速および加速の状態（→P.343）
18. 前日の運行において異常が認められた箇所（→P.343）

冷却水の量（ヒーターシステム）

普通充電リッド（車両の右側）を開け（→P.52）、リザーバタンクの冷却水の量が、タンク側面のFULL（上限）とLOW（下限）の間にあるか点検する。

点検は冷却水が冷えているとき、リザーバタンクで行います。（ラジエーター内の冷却水が減ると、リザーバタンクから自動的に補給される構造になっています。）

不足している場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

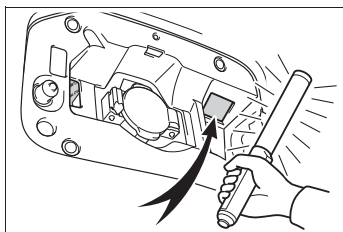


A FULL（上限）

B LOW（下限）

□ 知識

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検する。



▲ 警告

■ 冷却水について

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

▲ 注意

■ 冷却水について

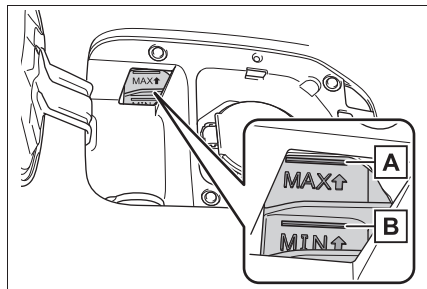
- モータールーム内に冷却水をこぼさないでください。部品や塗装が損傷したり、EV システムが熱いときは発火するおそれがあります。
- 指定された冷却水以外を補給する場合、寿命などの性能低下が発生する可能性があります。

冷却水の量（駆動用バッテリー）

急速充電リッド（車両の左側）を開け（→P.52）、リザーバータンクの冷却水の量が、タンク側面のMAX（上限）とMIN（下限）の間にあるか点検する。

点検は冷却水が冷えているとき、リザーバータンクで行います。（ラジエーター内の冷却水が減ると、リザーバータンクから自動的に補給される構造になっています。）

不足している場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

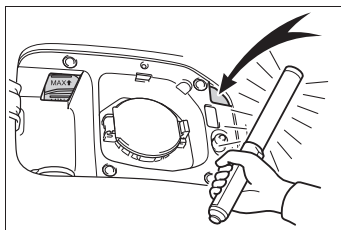


A MAX（上限）

B MIN（下限）

□ 知識

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検する。



⚠ 警告

■ 冷却水について

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときは、キャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバータンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

⚠ 注意

■ 冷却水について

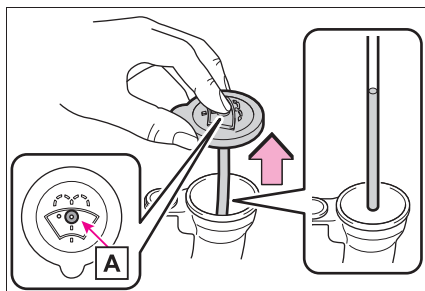
- モータールーム内に冷却水をこぼさないでください。部品や塗装が損傷したり、EV システムが熱いときは発火するおそれがあります。
- 指定された冷却水以外を補給する場合、寿命などの性能低下が発生する可能性があります。
- ラジエータの冷却水は、ラジエータ専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。トヨタ純正駆動用バッテリークーラントがない場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

ウォッシャー液の量

■ 液量の点検

急速充電リッド（車両の左側）を開け（→P.52）、図に示す[A]を押さえながらキャップを取りはずして、ウォッシャー液の残量を点検する。

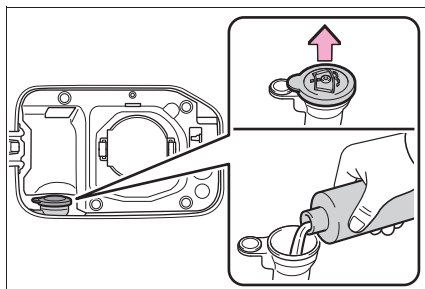
残量がチューブの下部まで低下したら、ウォッシャー液を補充する。



[A] 呼吸孔

■ 補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、液面がチューブ下部まで低下したら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかるると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ウォッシャーの液について

- ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。
- 水だけの補充はしないでください。冬期に凍ってウォッシャー液がでなくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

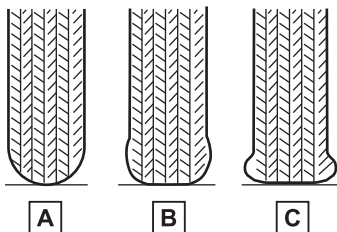
必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態（つぶれ具合）をみて、空気圧が適正であるかどうか点検する。

空気圧不足がわかりにくい場合は、タイヤゲージを使用して点検する。

- タイヤが冷えている状態で点検する。
- 空気圧が不良の場合は、指定空気圧に調整する。（→P.410）



A 過大

B 適正

C 不足

📖 知識

- 指定空気圧でのたわみ状態を確認しておくくと便利です。
- 正確な点検調整には、タイヤエアゲージとエアコンプレッサーが必要です。

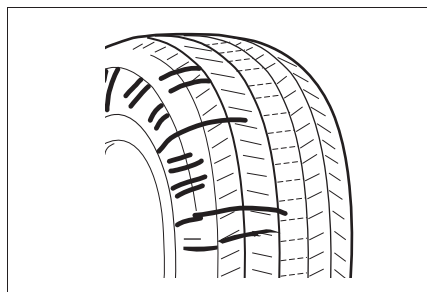
⚠ 警告

■タイヤの空気圧について

空気圧が極端に少ない状態のまま走行しないでください。タイヤとホイールの密着が悪くなり、空気が漏れるおそれがあります。また、急ハンドルを切ったりするとタイヤがホイールからはずれ、事故につながるおそれがあります。

タイヤの亀裂・損傷

- タイヤの側面・接地部全周に著しい傷や亀裂がないか点検する。

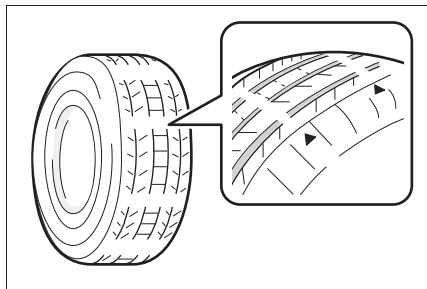


- タイヤ全周にわたり釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか点検する。

大きな傷や亀裂がある場合は、補修または交換してください。

タイヤの溝の深さ・異常摩耗

- タイヤ接地面に表示されている、摩耗限度表示（スリップサイン＝溝の深さが 1.6mm になったら現れます）が現われていないか点検する。



- タイヤ接地面に極端な片べりなどの偏摩耗がないか点検する。

摩耗限度表示が現れていたらタイヤを交換してください。

警告

■ タイヤの溝の深さ・異常摩耗について

- 摩耗限度をこえたタイヤで走行するとスリップ事故など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オールシーズンタイヤ・冬用タイヤは雪路走行摩耗限度表示（新品時溝深さの 1/2 に現れます）が現れたら、積雪路・凍結路の走行は避けてください。スリップ事故につながるおそれがあります。

注意

■ タイヤの溝の深さ・異常摩耗について

極端にすり減っていたり、摩耗具合が他のタイヤと極端に異なる場合は、空気圧の過不足・ホイールアライメントが正しくないことなどが考えられます。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

灯火装置や方向指示器の汚れ・損傷

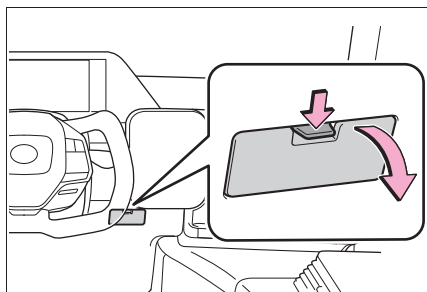
- 各ランプのレンズや反射器に、汚れ・変色・破損・ヒビ割れがないか点検する。
- 各ランプが確実に取り付けられているか、手でさわって点検する。

汚れがある場合は、ランプを清掃してください。

破損やヒビ割れ、取り付けの緩みがある場合は、修理または交換してください。

ブレーキフルードの量

- 1 ツメを押しながら、カバーを取りはずす

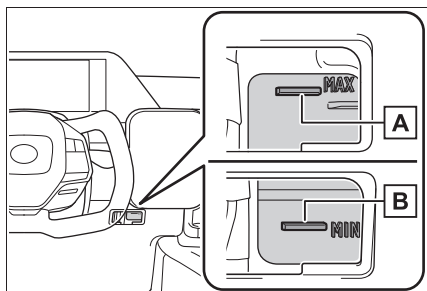


- 2 リザーバタンクの MAX（上限）と MIN（下限）の基準線の間に液面があるか点検する

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検する。

液面が MIN（下限）付近の場合や、MIN（下限）より低い場合は、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキフルードの指定銘柄は、メンテナンスデータを参照してください。（→P.409）



A MAX（上限）

B MIN（下限）

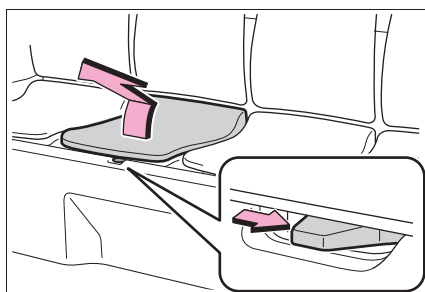
警告

■ブレーキフルードについて

- ブレーキフルードの液面が MIN（下限）より低い場合や、液の減少が著しい状態では走行しないでください。空気の混入などによりブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキシステムの液漏れが考えられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキフルードは粗悪品や異なる銘柄・性能のものをまぜるとブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、思わぬ事故につながるおそれがあります。

補機バッテリーの液量

- 1 後部客席シート装着車：後部客席シート下のレバーを押して、シートクッションを持ちあげて取りはずす



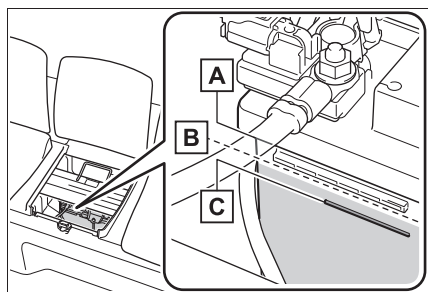
- 2 補機バッテリーの液面が、各液槽とも補機バッテリー側面に表示された、UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間にあるか目視で点検する

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検する。

液量が少ないとき〈液面が UPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下

限)の中間以下)は、補機バッテリーを交換してください。

補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。



A UPPER LEVEL

B 中間

C LOWER LEVEL

⚠ 警告

■補機バッテリーの液量について

- 補機バッテリーはショートさせたり、タバコの火などの火気を近づけたりしないでください。補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 補機バッテリーを清掃するときは、乾いた布でふかないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあり危険です。
- 補機バッテリーの液面が各液槽とも、補機バッテリー側面に表示された LOWER LEVEL (下限) 以下のまま使用・充電すると、補機バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液を抜き取らないでください。バッテリー液は有害で腐食性のある硫酸を含んでいるため、取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 万一、バッテリー液が目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、早めに医師の治療を受けてください。
- 誤ってバッテリー液を飲んでしまったときは、応急処置としてすぐに多量の水を飲み、医師の治療を受けてください。

⚠ 注意

■補機バッテリーの液量について

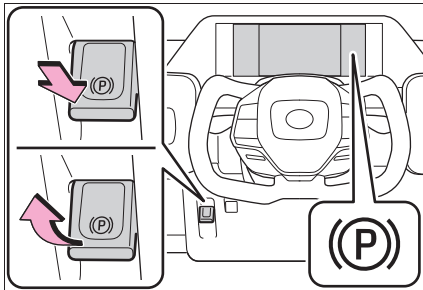
- UPPER LEVEL (上限) 以上補給しないでください。走行中に液が漏れて塗装面を傷めたり、過充電したときに液が噴き出し、部品が腐食したり損傷するおそれがあります。万一こぼしたときは、すぐに水できれいに洗い流してください。
- 補機バッテリーのキャップを開けたまま清掃しないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命が短くなるおそれがあります。
- 補機バッテリー端子の清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。

パーキングブレーキの作動

EV システムを始動する。
(→P.196, 202)

周囲の安全を確認してからブレーキペダルを踏み、シフトポジションをNにして、パーキングブレーキスイッチを1秒以上押したときおよび1秒以上引いたときのブレーキ警告灯(黄色)が点灯していないことを確認します。

警告灯が表示した場合は異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



EV システムの始動状態・異音

- 1 EV システムを始動する
(→P.196, 202)
- 2 始動の際、異音がないか、EV システムの始動状態は良いかを点検する

EV システム始動時に異音がある場合は、その状態を続けると EV システムを損傷させるおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 3 メーターに警告メッセージや警告灯が表示されていないかを点検する

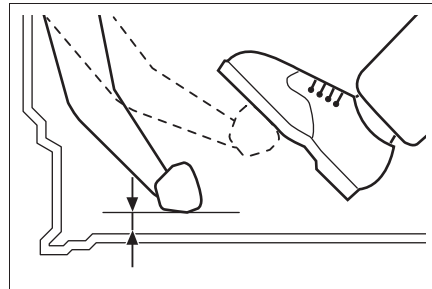
警告灯が点灯または点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、

同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキペダルの踏みしろ

EV システムを始動し(→P.196, 202)、ブレーキペダルをいっばいに踏み込み、床板とのすき間が極端に少なくないか、また、ペダルの感触に異常がないか点検する。

床板とのすき間は、メンテナンスデータを参照してください。(→P.409)



知識

日頃からブレーキペダルの踏み込み量や感触を確認しておくくと便利です。

警告

■ブレーキ・ペダルの踏みしろについて

次の場合はブレーキ液の漏れや空気の混入などにより、ブレーキの効きが悪くなったり、片方だけが効いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。お客様自身で判断せず、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらに入り込む場合
- ペダルをいっばい踏み込んだときの踏みごたえがやわらかく感じる場合

ウォッシャーの噴射状態

EV システムを始動し (→P.196, 202)、ウォッシャーを作動させ、ウォッシャー液が勢いよくウインドウガラスに噴射するか点検する。

⚠ 注意

■ウォッシャーノズルについて

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

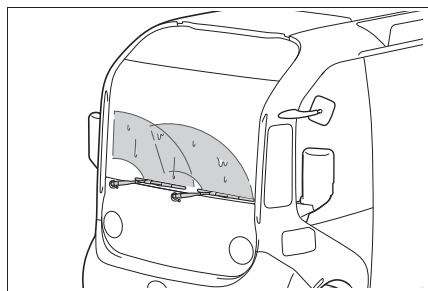
■ウォッシャー液がでないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないうでください。ポンプが故障するおそれがあります。

ワイパーのふき取り状態

- 1 EV システムを始動する (→P.196, 202)
- 2 ウォッシャーを作動させ、ウインドウガラスを濡らしてから点検する
- 3 ワイパーを作動させ、各作動が良いか、また、ふき取り状態が良いか点検する

ふき取り状態が悪い場合は、ウインドウガラスの清掃や、ワイパーゴムの交換が必要になります。



灯火装置・方向指示器の作動

EV システムを始動して点検する。 (→P.196, 202)

点検は壁やミラーを利用するか、他の人に見てもらって確認します。

ヘッドランプ：

ヘッドランプを点灯状態にし、点灯するか・明るさが不足していないかを目視で点検する。

方向指示灯：

方向指示レバーを左右に作動させ、すべての指示灯が点滅するか点検する。

制動灯／ハイマウントストップランプ：

ブレーキペダルを軽くくり返し踏んで、制動灯／ハイマウントストップランプが点灯するか点検する。

後退灯：

パワースwitchを ON にして EV システムを停止する。ブレーキを踏みながらシフトポジションを R にし、後退灯が点灯してブザーが鳴るかを点検する。

他のランプ類：

車幅灯・番号灯・尾灯・非常点滅灯を作動させ、点灯または点滅するか点検する。

⚠ 警告**■ 灯火類の点検について**

パーキングブレーキをかけ、輪止め※をしてから行ってください。

パーキングブレーキが十分にかけられていなかったり、輪止めをしないと自動車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないか点検する。

効き具合が悪い場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意**■ 走行しての点検について**

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

特にブレーキをかけるときは、まわりに車がないことを確かめてください。

低速および加速の状態

- 通常走行時に突然止まったりしないか点検する。
- アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するか点検する。
- 通常走行時、メーターに警告メッセージやインジケーターが表示されていないかを点検する。

⚠ 警告**■ 走行後の点検について**

- 周囲の交通状況に十分注意して安全な場所で、点検してください。
- 低速および加速の状態が著しく悪い場合は、その状態を続けると EV システムを損傷させたり、運転感覚を狂わせたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告灯や警告メッセージがひんばんに表示される場合は、異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

前日の運行において異常が認められた箇所

前日までの使用時に異常があった箇所を確認する。

日常点検の記録

実施者が「日常点検記録」に記入します。

日常点検記録

このページをコピーしてご利用ください。

[illegible]

簡単な点検整備

警告灯の点灯

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを ON にし、メーター内の警告灯が全部点灯することを点検する
(→P.120)
- 3 EV システムを始動しシートベルトを着用して、ブレーキ警告灯以外のランプが消灯するか点検する
- 4 ブレーキを一杯踏み、パーキングブレーキを解除したとき、ブレーキ警告灯が消灯するか点検する

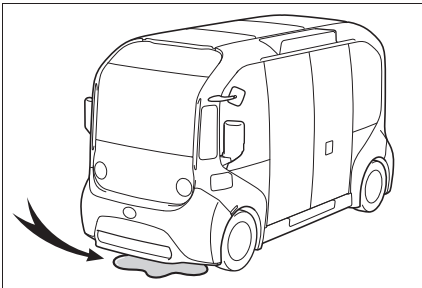
警告灯が消灯しない場合は異常が考えられます。

ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

モータールーム下の路面点検

駐車したあとに、モータールーム下の路面に油や冷却水が漏れていないか点検する。

油や冷却水が漏れている場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

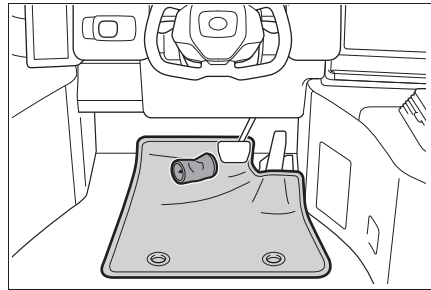
油や冷却水は、色が付いていたり、粘りや臭いがあります。

透明でサラサラしていればエアコンの除湿水で異常ではありません。

フロアの点検

フロアに空き缶などの異物がないか確認します。また、フロアマットがずれていないか確認します。

フロアマットはしっかりと固定してお使いください。(→P.26)



警告

■フロアについて

異物を除去し、マット類のずれを直してください。

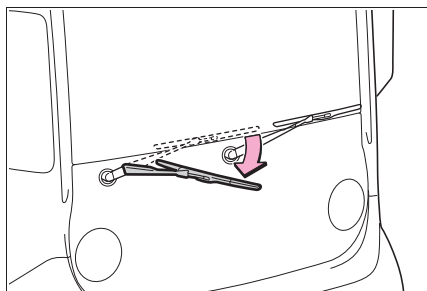
異物があったり、マット類がずれていたりすると、アクセルやブレーキなどペダル類の操作のさまたげになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

ワイパーゴム交換

ウインドウのふき取り具合が悪くなった場合は、ワイパーゴムを交換してください。

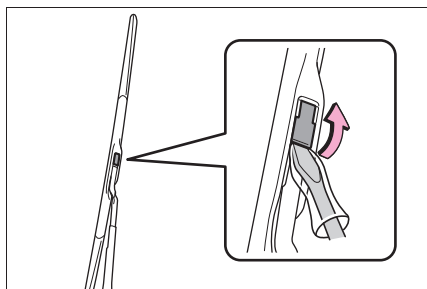
■ ワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす



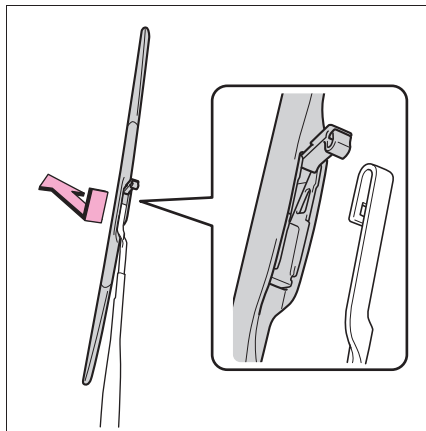
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

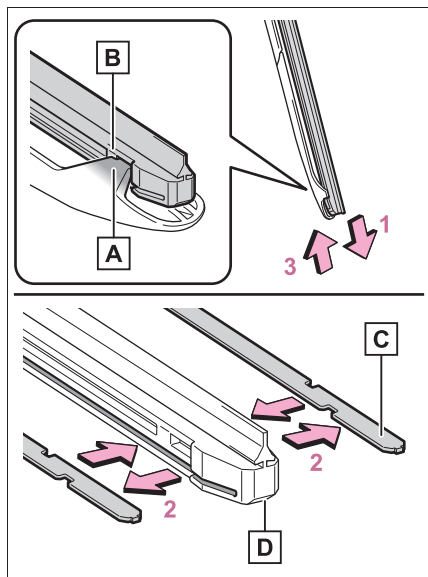


3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



■ ワイパーゴムの交換



A ツメ

B ストッパー

C 金属プレート

D ワイパーゴム

1 ワイパーゴムのストッパーをブレードのツメから外れるまで引き、そのままブレードから引き抜く

2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレートをはずし、新しいワイパーゴムに取り付ける

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。

3 ワイパーゴムのストッパーがない側をブレードに沿って通し、ブレードのツメがワイパーゴムのストッパーの位置にはいるまで挿し込む

□ 知識

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

● 誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● ワイパーゴムに石鹼水を塗布すると脱着しやすくなります。

⚠ 注意

■ 損傷を防ぐために

● ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。

● ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。

● 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

■ ワイパー&ウォッシャースイッチの取り扱い注意

● ガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーブレードを傷つけるおそれがあります。必ずウォッシャー液を噴射してから作動させてください。

● 凍結などでワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。

 注意

- ウォッシャー液がないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーター焼き付きの原因になります。
- ワイパーを長期間使用していなかったときには、ワイパーブレードとガラスの間にほこりや砂などがたまっていることがあります。そのまま作動させるとガラスに傷をつけますので清掃してから使用してください。

電動スロープの点検★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運行前にスロープの展開・格納をしてスロープ板の状態を確認してください。

点検の際は次のことをご確認ください。

- スロープ板の表面への着雪
- 凍結や着氷による固着
- 泥や小石、砂などの異物の噛み込みやはさみ込み

また、点検作動中に途中停止した場合は、カバーおよびスロープを手動操作（→P.148）し、凍結や着氷、異物の有無を確認してください。

凍結や着氷、泥や小石、砂などの異物がある場合は、異物などを除去してから再度正常に作動することを確認してください。（→P.331）

- スロープ展開・格納後の走行開始前に、アウターミラーなどでスロープカバーが格納されていることを確認してください。

ガレージジャッキ

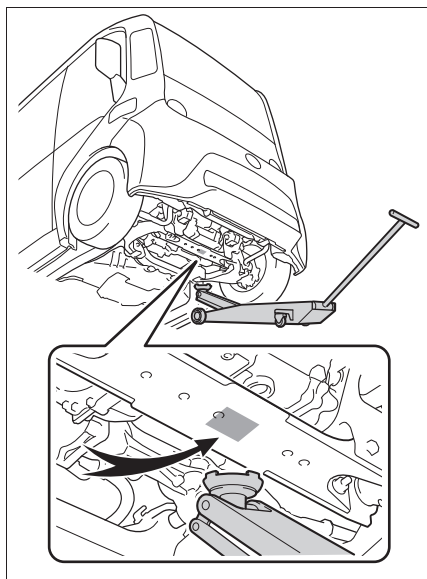
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

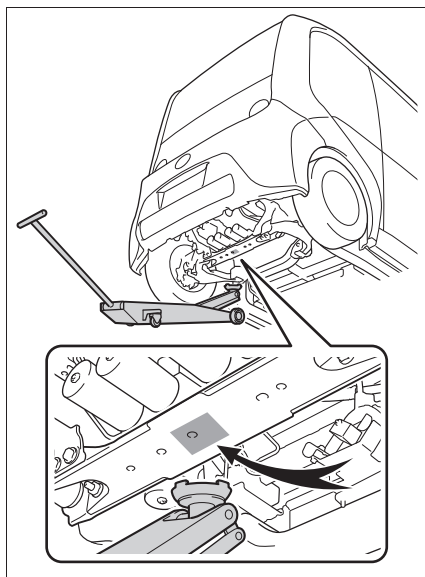
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



■ リヤ側



⚠ 警告

■ ガレージジャッキを使用するとき

AHC を OFF にしてください。作動を停止しないと車高がかわり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P.290)

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は P.333 を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

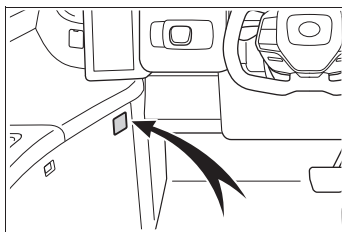
■ タイヤ空気圧の数値

前輪：525kPa (5.25kg/cm²)※

後輪：525kPa (5.25kg/cm²)※

タイヤの指定空気圧は、運転席左側トリムのタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けボルトを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

警告**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

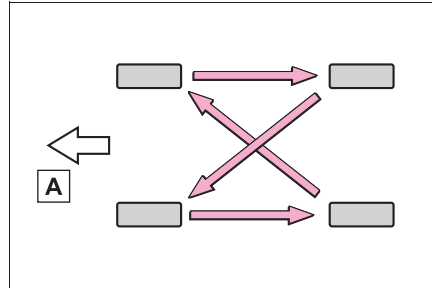
悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

**A 前側**

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識**■ タイヤローテーションを行うとき**

必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

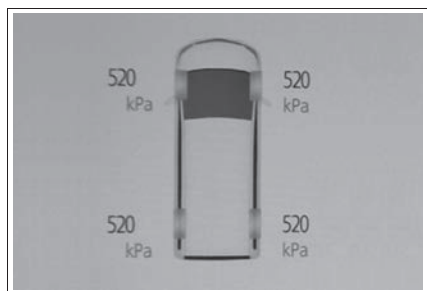
ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とブザーでお知らせをします。

- “空気圧を調整してください” が表示されたとき通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。
- “すみやかに安全な場所でタイヤ点検” が表示されたとき急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチメディア画面に表示できます。



メインメニューの  をタッチし、“タイヤ空気圧” を選択する

知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、P.333 を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいます
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.357）

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤローテーションの後にタイヤの位置を登録するには

■ タイヤローテーションしたとき

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ タイヤの位置の登録のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、15分以上EVシステムを停止する
- 2 EVシステムを始動する
(→P.202)

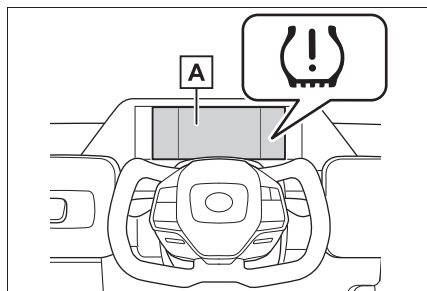
車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

- 3 マルチメディア画面メインメニューのをタッチし、“カスタマイズ”を選択する

- 4 マルチメディア画面の“タイヤ空気圧”を選択し、“タイヤローテーション”を選択して、“OK”を選択する

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤ

の位置判定を開始します。



- A** “設定中 しばらくお待ちください”

- 5 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチメディア画面に各タイヤの空気圧が表示されるようになり、タイヤの位置登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 15 分間停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■ タイヤの位置を登録するときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ タイヤ位置登録の操作について

- タイヤ位置登録中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に位置登録処理が再開されるため、あらためて位置登録操作をやり直す必要はありません。

- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ位置登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、タイヤの位置登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。

- ・ 約 40km/h 以上で走行していない
- ・ 未舗装の場所を走行した

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 15 分間停車したあと、再度走行し直してください。

- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定するには

■ タイヤ空気圧の設定が必要なとき

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

■ 指定空気圧での設定のしかた

1 EV システムを始動する (→P.202)

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 マルチメディア画面メインメ

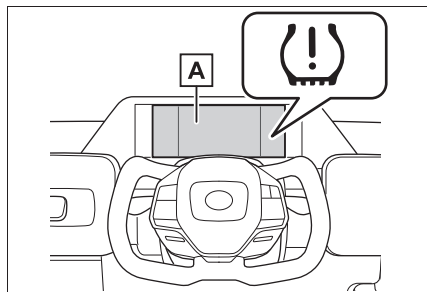
ニューの  をタッチし、“カスタマイズ”を選択する

3 マルチメディア画面の“タイヤ空気圧”を選択し、“指定空気圧設定”を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を設定する

4 マルチメディア画面の“OK”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



A “設定中 しばらくお待ちください”

■ 現在の空気圧での設定のしかた

1 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

2 EV システムを始動する (→P.202)

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

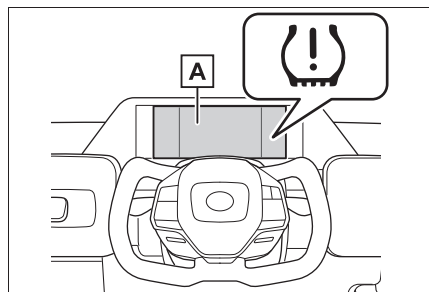
3 マルチメディア画面メインメニューの をタッチし、“カスタマイズ”を選択する

4 マルチメディア画面の“タイヤ空気圧”を選択し、“現在の空気圧を設定”を選択する

5 マルチメディア画面の“継続”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



A “設定中 しばらくお待ちください”

知識

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度（現在の空気圧で設定するとき）

- 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

■ 空気圧設定の操作（現在の空気圧で設定するとき）

- 空気圧設定中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
- 設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。
- **タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき**
 - 現在の空気圧で設定をする場合、通常 2、3 分で終了します。
 - 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
 - 上記の方法でも設定できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 現在の空気圧で設定するとき

必ず指定空気圧に調整してから設定操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する
- 2 EV システムを始動する
(→P.202)

車両が動いているときは、ID コードの登録作業ができません。

- 3 マルチメディア画面メインメニューの  をタッチし、“カスタマイズ”を選択する
- 4 マルチメディア画面の“タイヤ空気圧”を選択し、“新規タイヤ登録”を選択する
- 5 セット選択に表示されているセット“セット 1”または“セット 2”を確認します。

表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、マ

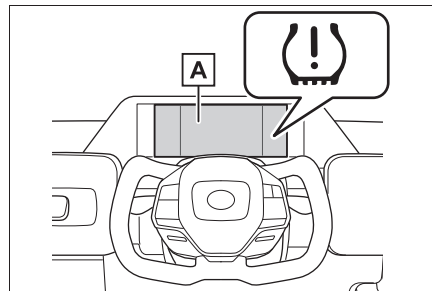
ルチメディア画面の登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

6 マルチメディア画面の“OK”を選択する

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が始まると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチメディア画面のタイヤ空気圧表示が“---”になります。



A “設定中 しばらくお待ちください”

- 7 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行します。

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

8 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する必要があります。

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要ありません。

知識

■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切り換えを行うと短い時間で切り換えることができます。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・ 走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・ 約 40km/h 以上で走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・ タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

ID コードの登録を中止するには

ID コードの登録を中止するには、マルチメディア画面で再度、“新規タイヤ登録”を選択してください。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。

正しく中止するためには、再度、“新規タイヤ登録”を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえるには

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておく便利です。

- この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、“セット 2（未登録）”と表示され、選択しても切りかえはできません。ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。
- ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。
- ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

■ ID コード切りかえのしかた

- 1 切りかえをしたいタイヤセットに交換をする
- 2 EV システムを始動する
(→P.202)

車両が動いているときは、ID コードの登録作業ができません。

- 3 マルチメディア画面メインメニューの  をタッチし、“カスタマイズ”を選択する
- 4 マルチメディア画面の“タイヤ空気圧”を選択し、“セット選択”を選択し、表示されているセット（“セット 1”または“セット 2”）を選択します。
- 5 マルチメディア画面の“OK”を選択する

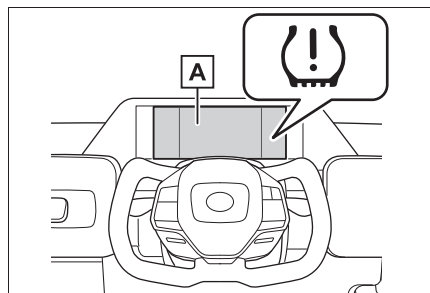
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチメディア画面のタイヤ空気圧表示が“---”になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



- A** “設定中 しばらくお待ちください”
- 6 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧の設定が必要です。同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定する必要ありません。
- 7 タイヤの位置を登録する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 電費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときには荷重を不均等にかけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

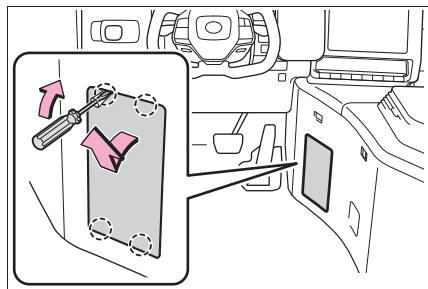
交換するには

▶ エアコンフィルター

1 パワースイッチをOFFにする
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。

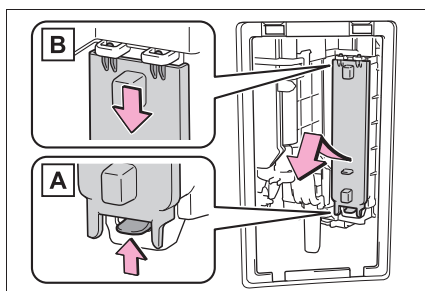
2 マイナスドライバーを使ってカバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

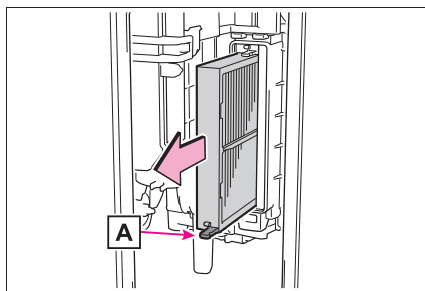


3 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィル

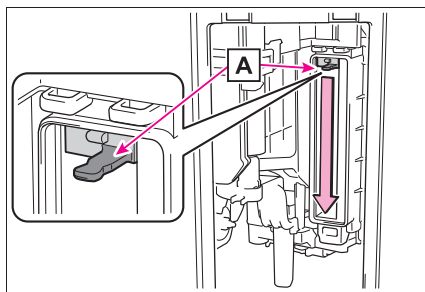
ターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす



4 フィルターケース(A)を持って下段のフィルターケースを取りはずす

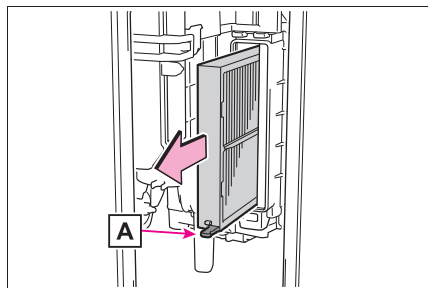


5 フィルターケース(A)を持って上段のフィルターケースを引き下げる

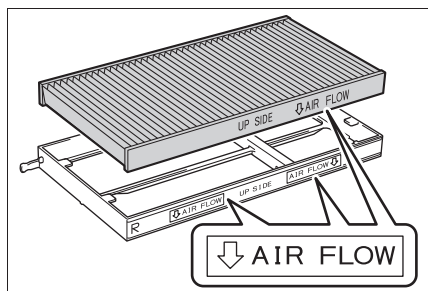


6 フィルターケース[A]を持って上段のフィルターケースを取りはずす

エアコン本体内の底部にほこり、ゴミ（落ち葉など）がたまっていることがあるため掃除機などで取り除いてください。



7 フィルターを上段と下段のフィルターケースから取りはずし、新しいフィルターと交換する



矢印が車両後方を向くように取り付けます。

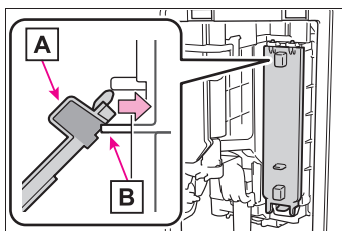
▶ 天井吸気フィルター

天井吸気フィルターの交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

知識

■ フィルターカバー取り付けのときは

フィルターカバーの凹み部[A]を図のように上段のフィルターケース[B]の上面を滑らせ、カバー取り付けの挿し込み部に向かって持ち上げるように取り付ける。



■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。
6ヶ月をこえないこと

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

警告

■ エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

充電コネクタが接続されていないことを確認する

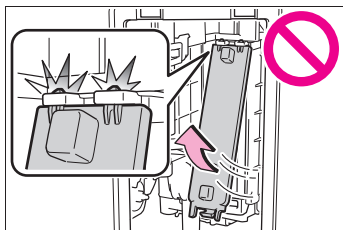
⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

□ 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

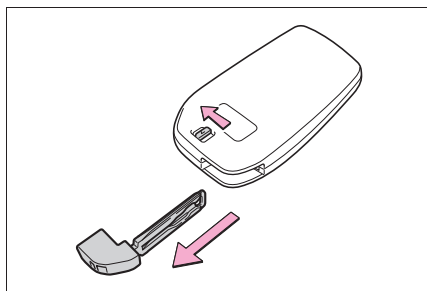
□ 知識

■ リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

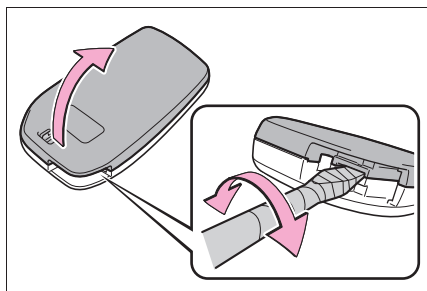
- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

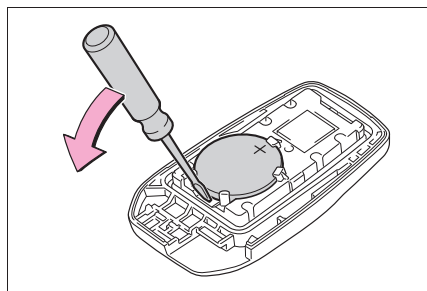


- 3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

警告

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない 錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

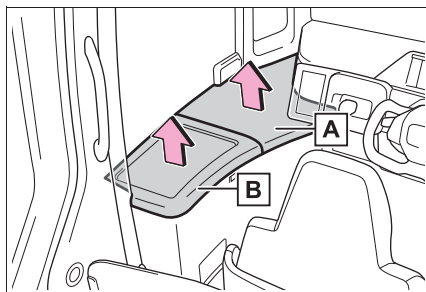
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。

2 インパネを取りはずす

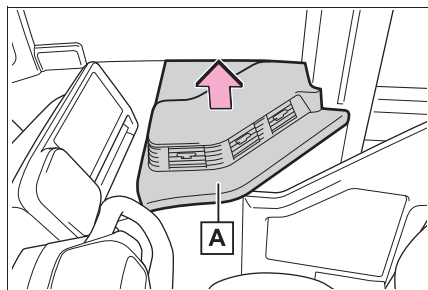
▶ 運転席（左側）

カバー[A]、カバー[B]の順に取りはずす



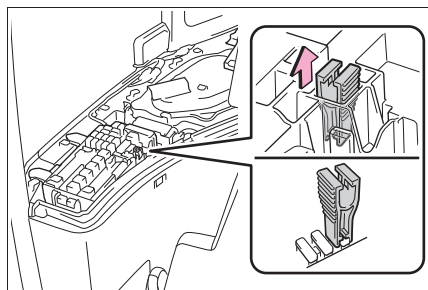
▶ 運転席（右側）

カバー **A** を取りはずす



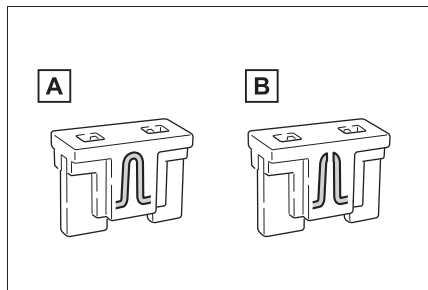
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

 知識**■LED ランプについて**

すべてのランプは、数個のLED で構成されています。もしLED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.366

8-1. まず初めに

故障したときは	370
非常点滅灯（ハザードランプ）	371
発炎筒	371
消火器	372
車両を緊急停止するには	373
水没・冠水したときは	374
車中泊が必要なときは	375

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	376
警告灯がついたときは	380
警告メッセージが表示されたときは	386
パンクしたときは	392
EV システムが始動できないときは	392
キーをなくしたときは	394
電子キーが正常に働かないときは	394
補機バッテリーがあがったときは	396
オーバーヒートしたときは	402
スタックしたときは	402
電動スロープが正常に格納できない ときは	403

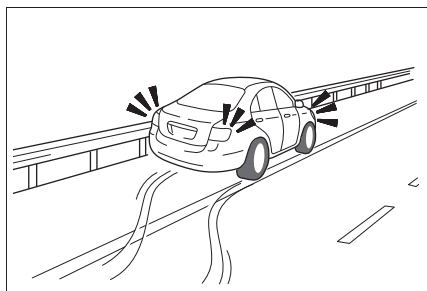
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.371）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

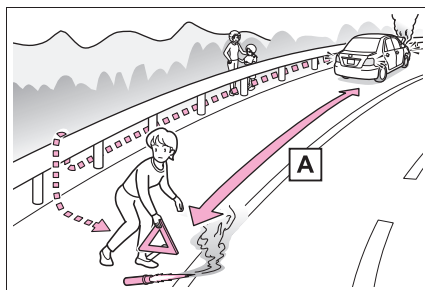
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 1 同乗者を避難させる
- 2 車両の50m以上後方[A]に発炎筒（→P.371）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

い。

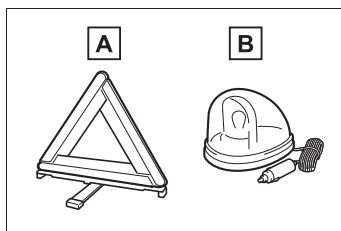


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

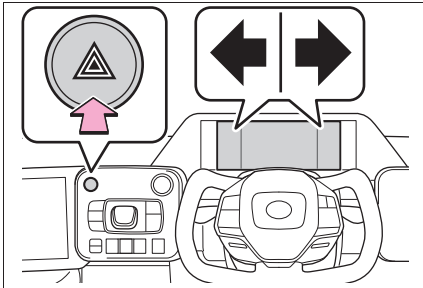
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■ 非常点滅灯について

- EV システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。

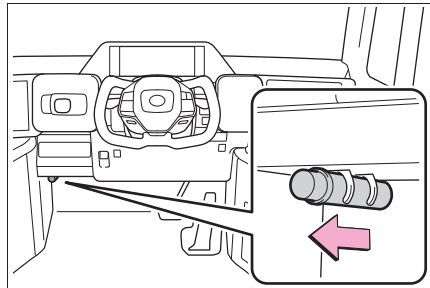
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

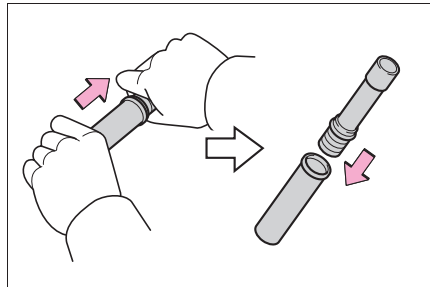
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 運転席足元の発炎筒を取り出す



2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

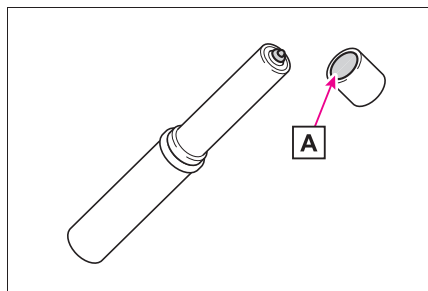


3 先端のフタを取り、すり薬 **A** で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

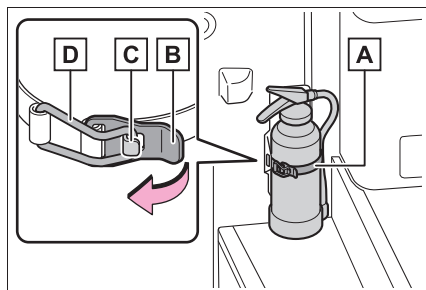
消火器★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用方法については、消火器本体に記載されている説明をよく読んで万一来に備えてください。

取り出し方

ベルトのレバーを引いて、金具をフックからはずす。



A ベルト

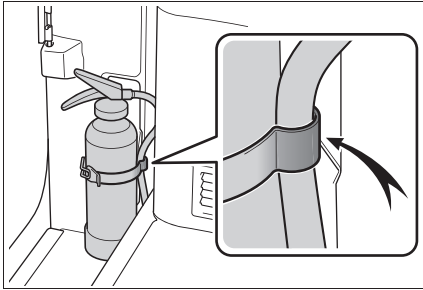
B レバー

C フック

D 金具

格納のしかた

- レバーのフックに金具を引っかけて確実にベルトを固定する
- ベルトの U 字形状と消火器のホース位置を合わせて固定する



知識

■有効期限について

消火器には有効期限があります。有効期限が切れる前に新品と交換してください。

警告

■消火器の取り扱いについて

消火器は必ず所定の格納位置に格納してください。固定しないままフロアなどに置いておくと、走行中や急ブレーキをかけたときなどに飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

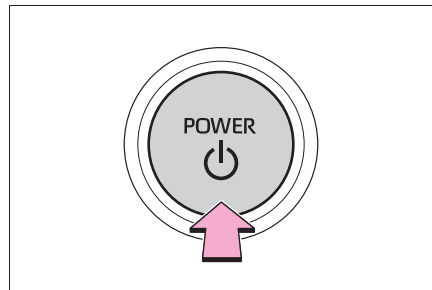
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 EV システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV システムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。

落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、ガラスを割って避難経路を確保してください。
- 水没によりドアを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができません。

知識

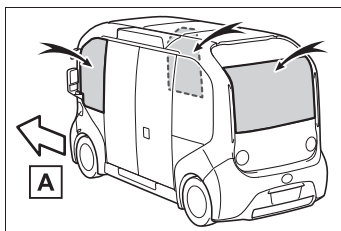
■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、スライドドアが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマーの使用について

合わせガラスや樹脂製の窓は、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

図で示すガラスは割ることが可能です。



A 前側

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは



警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき (→P.205, 391)
- イモビライザーシステムに異常があるとき (→P.37)
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき (→P.394)
- 補機バッテリーがあがったとき (→P.396)

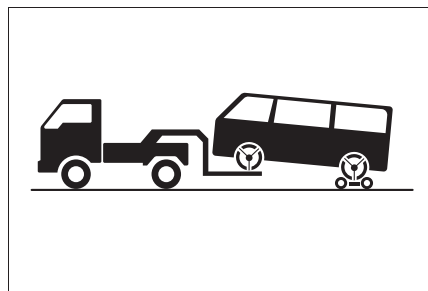
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

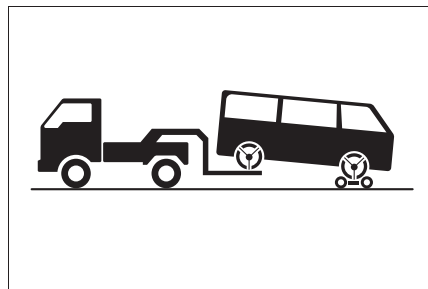
- EV システムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



▶ うしろ向きにけん引するときは



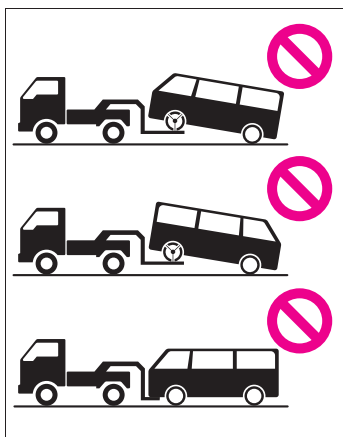
台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 警告

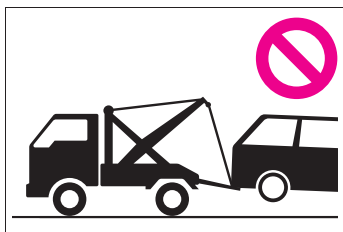
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告**■ レッカー車でけん引するとき**

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

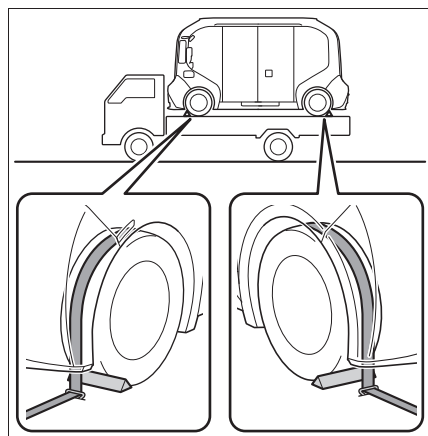
**⚠ 注意****■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**車両運搬車を使用するとき**

車両運搬車で輸送するときは、タイヤストラップベルトを使用してください。タイヤストラップの方法については、車両運搬車の取扱説明書を参照してください。

輸送中の車が動かないように、パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、EV システムを停止する。

**⚠ 警告****■ 車両運搬車に車を固定するとき**

AHC の車高調整機能が作動しないように、AHC を OFF にしてください。作動を停止しないと車高がかわり、車両に体が挟まれるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→P.290)

他車にけん引してもらうとき

他車からのけん引は行わないでください。車両故障の状態によってはハンドルが効かなくなるおそれがあります。

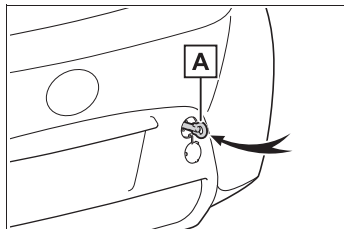
知識

■ホイールボルトレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



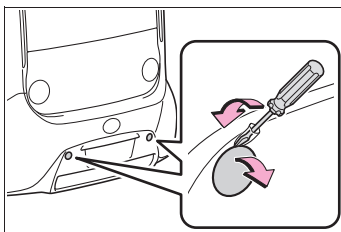
A 緊急用フック

■緊急用フックを取り付けるには

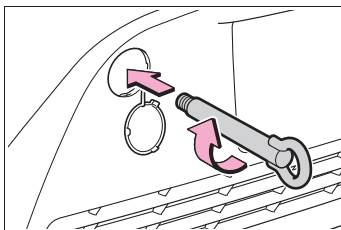
緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

- 1 ツールバッグからけん引フックを取り出す
- 2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

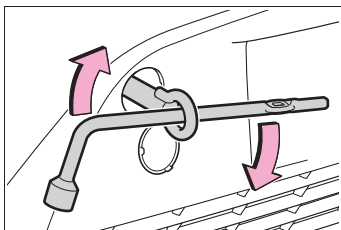


- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールボルトレンチ ※ や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

※ トヨタ販売店で購入することができます。



 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
- 他車によるけん引は行わないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●パーキングブレーキシステムの異常 ●低温時に補機バッテリーの充電が不十分な場合、警告灯が点灯する場合があります。 ●外気温が-15℃以上で警告灯の点灯が継続する場合 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 低温時に補機バッテリーの充電が不十分な場合、警告灯が点灯する事や外気温が-15℃以上で警告灯の点灯が継続する場合があります。

■ 充電警告灯※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	パワーステアリングシステム（ステアバイワイヤ）の異常 → ただちに安全な場所に停止し、トヨタ販売店連絡してください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	パワーステアリングシステム（ステアバイワイヤ）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 駆動用電池充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	駆動用電池の残量や状態から充電が必要 低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。 → 駆動用電池を充電する（→P.69）

■ 運転席シートベルト非着用警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ 運転席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → トヨタ販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯しブザーが鳴った場合： 自然要因 → タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。 タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.385）に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ ●RCD（リヤカメラディテクション） ●BSM（ブラインドスポットモニター） ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ●安心降車アシスト → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ AHC 表示灯★

警告灯	警告内容・対処方法
	AHC システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.392

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。

空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.352

警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。

 警告

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

- **タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

 注意

- **タイヤ空気圧警報システムについて**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定（→P.350）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.380）に従ってください。

 知識**■ 警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “EV システム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中に EV システムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “EVシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.402

■ “ブレーキ高温のため効き低下の恐れ 十分減速して走行ください” が表示されたときは

ブレーキ負荷の高い走行状況（例えば、長い下り坂走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■ “EV システムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとEVシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源をOffしました” が表示されたときは

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回EVシステム始動時に、約5分間EVシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏んで減速して下さい。

- ・ 満充電により、これ以上回生ができないとき
- ・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき
- ・ 電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき

■ “電力消費が大きいいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

■ “ヘッドランプシステム故障販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- LED ヘッドランプ
- AHB（オートマチックハイビーム）

■ “ソナーに水滴、雪等が付着しています”が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があるにもかかわらず検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  RCD（リヤカメラディテクション）

●  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS（プリクラッシュセーフティ）

●  LDA（レーンディパーチャーアラート）

●  AHB（オートマチックハイビーム）

●  BSM（ブラインドスポットモニター）

●  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

●  安心降車アシスト

●  クリアランスソナー

●  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

●  RCD（リヤカメラディテクション）

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認”が表示されたときは

画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS（プリクラッシュセーフティ）

●  LDA（レーンディパーチャーアラート）

●  AHB（オートマチックハイビーム）

●  BSM（ブラインドスポットモニター）

●  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

-  安心降車アシスト
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★
-  RCD（リヤカメラディテクション）

次の対処法に従ってください。

- ・ 補機バッテリー電圧を確認する
- ・ Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.229）
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→P.258, 263, 267, 273, 277）
- ・ センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→P.264）
- ・ センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。（→P.255）
- ・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）

-  AHB（オートマチックハイビーム）

次の対処法に従ってください。

- ・ ワイパー機能を使って、フロントウィンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・ エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ ステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれのシステムが停止しています。

- ・  RCD（リヤカメラディテクション）
- ・  PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）

次の対処法に従ってください。

- ・ 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

- ・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.230）
- ・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。

車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）

次の対処法に従ってください。

- ・レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.230）
- ・レーダーの向きがずれている可能性があります。レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “アクセルとブレーキが両方踏まれています” が表示されたとき

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれているため、ブレーキオーバーライドシステムが作動しています。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “アクセルを戻してください” が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

● ドライブスタートコントロール（→P.193）

■ 販売店で点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトポジションの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ “バッテリー充電不足” (→P.396)
 - ・ “充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください” (→P.104)
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・ “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”
 - ・ “バッテリー系故障”
 - ・ “アクセル系故障”
 - ・ “プラグイン充電システム故障”
 - ・ “EV システム故障”
 - ・ “シフトシステム故障 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “Pスイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
 - ・ “シフトシステム不動作 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
 - ・ “バッテリー充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・ “故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認”

注意

■ “電力消費が大きい一部空調・ヒータ作動を制限中です” がひんばんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “バッテリー充電不足” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、EV システムを始動することができなくなります。
- 万一、EV システムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キットと
応急用タイヤが搭載されていま
せん。

タイヤの修理・交換については、
トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修
理できないほど損傷したり、思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。

EV システムが始動できな いときは

EV システムが始動できない原因
は状況によって異なります。次
の状況の中であてはまるものを
ご確認ください、適切に対処し
てください。

対処の方法がわからないとき、
あるいは対処をしても EV シス
テムが始動できないときは、ト
ヨタ販売店にご連絡ください。

正しい EV システムの始動方法 (→P.196, 202) に従っても始 動できない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続して
いる可能性があります。
(→P.72)
- 電子キーが正常に働いていない
可能性があります。※
(→P.394)
- 駆動用電池が電欠している可能
性があります。駆動用電池を充
電して下さい。(→P.69)
- イモビライザーシステム※に異
常がある可能性があります。
(→P.37)
- シフト制御システムに異常があ
る可能性があります。※
(→P.200, 205, 386)
- ステアリングロックシステムに
異常がある可能性があります。

- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置で始動することができます。(→P.393)
- 駆動用電池の温度が極端に低い(およそ -30℃以下) 可能性があります(→P.44, 197, 203)

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.396)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.396)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の手順で EV システムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを ACC※¹ にする※²
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

パワースイッチを押してしばらくすると、補機バッテリー制御に関するメッセージが表示されますが、そのままスイッチを押し続けてください。

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューで ON/OFF を切りかえることができます。(→P.414)

※² ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.157, 198）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★、ワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EVシステムを始動したりすることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステム★の設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.157, 198）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



注意

■ スマートエントリー&スタートシステム★やプッシュボタンスタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくとき

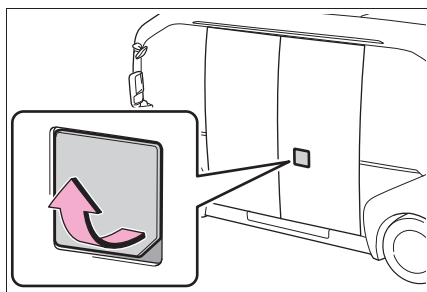
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

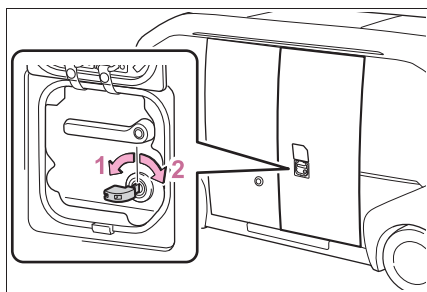
ドアを施錠・解錠するには

▶ 車外からの操作

1 カバーを開ける



2 メカニカルキー（→P.134）を使って次の操作ができます。

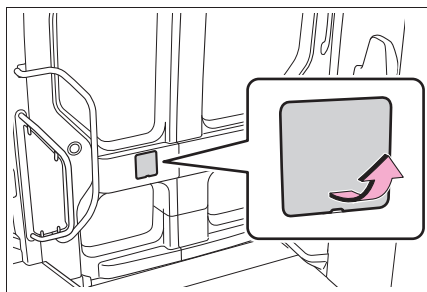


1 ドア施錠

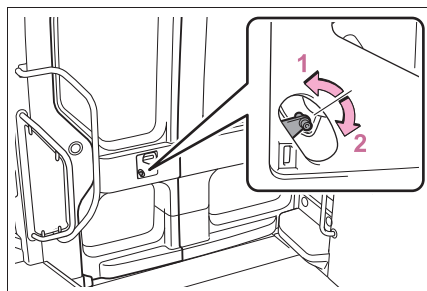
2 ドア解錠

▶ 車内からの操作

1 カバーを開ける



2 ロックレバーを操作して施錠／開錠する



1 ドア施錠

2 ドア解錠

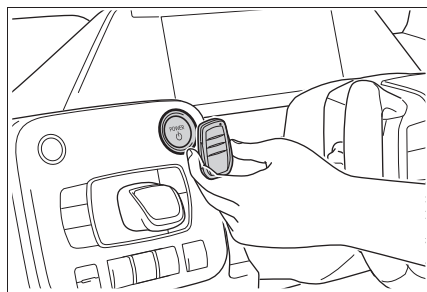
EV システムを始動するには

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわりません。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する。

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。



知識

■EV システムの停止のしかた

通常のEV システム停止のしかたと同様に、シフトポジションをPにし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているEV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.363)

■パワースイッチのモードの切りかえ

EV システム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.201, 205)

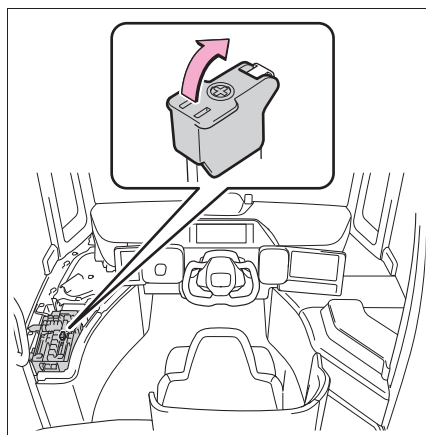
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でEV システムを始動することができます。

EV システムを再始動するには

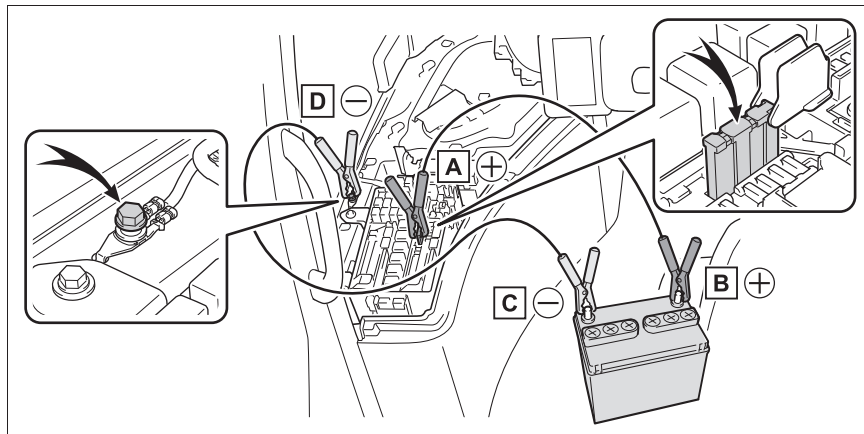
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

- 1** インパネを取りはずす (→P.365)
- 2** ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



- 3** 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子**[A]**につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子**[B]**につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子**[C]**につなぎ、もう一方の端を金属部**[D]**につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



[A] 補機バッテリーの+端子（自車）

[B] バッテリーの+端子（救援車）

[C] バッテリーの-端子（救援車）

[D] 図に示す金属部

- 4** 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5** 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから EV システムを始動する
- 6** READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

- 7** EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

EV システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- EV システムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。
- ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されません。
マルチメディアシステムの電源を OFF にしてください。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店にご相談ください。
- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.420)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーについて

この車両のバッテリーはフロア後方にあり、モータールームには搭載されていません。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってEV システムが始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはEV システムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。また、補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初のEV システム始動は失敗することがあります。2回目以降のEV システム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチをOFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

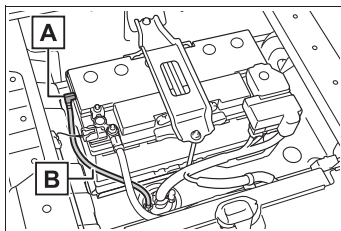
- 補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。
- 補機バッテリー端子を取りはずす前に、ハンドルの位置をまっすぐにし、パワースイッチを OFF にしたあと、5 秒以上待ってから補機バッテリーを取りはずしてください。
- 補機バッテリー端子の取り付け後、パワースイッチを ON にすると、ハンドル操舵角の学習機能が動き、自動的にハンドルが動きますが異常ではありません。マルチインフォメーションディスプレイに表示されるメッセージに従い、手を放してお待ちください。

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN5)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (85Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (795A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
- ・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合には EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。
- ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

- 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・エルボが排気ホースとバッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・エルボ／排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)



A 排気穴

B 排気ホース

 警告**■補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近づけない

- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまを補機バッテリーに近づけない

■補機バッテリーの－端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

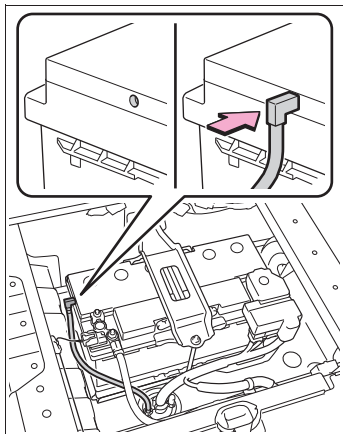
- 早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
- 補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケータがステーに近いと、バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

**注意****■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

マルチインフォメーションディスプレイに“EV システム高温出力制限中です”が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。

トヨタ販売店にご相談ください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトポジションをPにしてEVシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 EVシステムを再始動する
- 5 シフトポジションを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

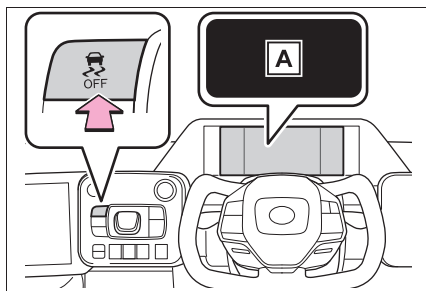
知識

■脱出しにくいとき



スイッチを押してTRCをOFFに

してください。



A TRC OFF しました

警告**■脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。

車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

電動スロープ★が正常に格納できないときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スロープの異常や故障などでスロープが展開、格納できなくなったときは、次のように対処してください。

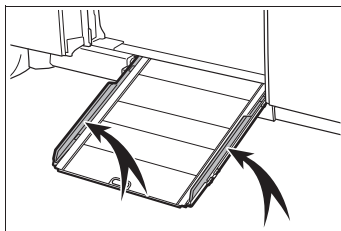
対処の方法がわからないとき、または対処をしてもスロープが格納できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

警告**■電動スロープの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●スロープを展開・格納するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●脱落防止壁とスロープ板のあいだに指や物などを挟まないようにしてください。



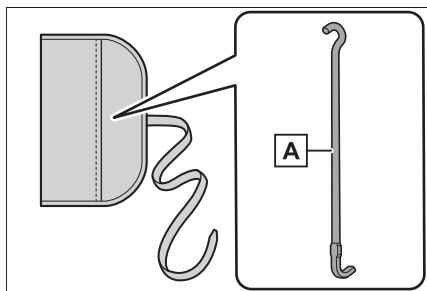
 注意

■ スロープを手動操作するときは

手動操作を行うときは、ゆっくり操作してください。

電動スロープのモーターが回転することにより発電され、コンピューターが破損するおそれがあります。

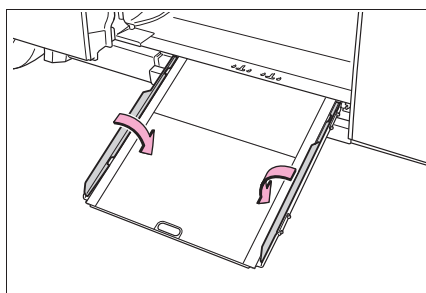
工具



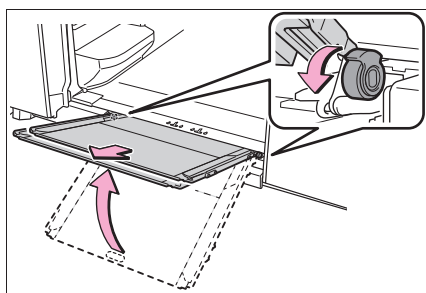
A スロープ格納フック

電動スロープを手動で格納するには

- 1 パワースライドドア OFF スイッチ (PWR DOOR OFF) を ON にする (→P.145)
- 2 スライドドアを手動で全開にする
- 3 ツールバッグからスロープ格納フックを取り出す
- 4 脱落防止壁を内側に折りたたむ

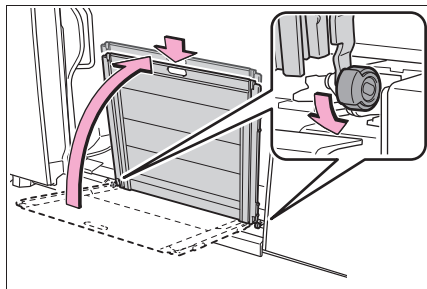


- 5 脱落防止壁とスロープ端部をしっかりとって、スロープ板を約 45 度持ち上げて、手前方向に引き上げる



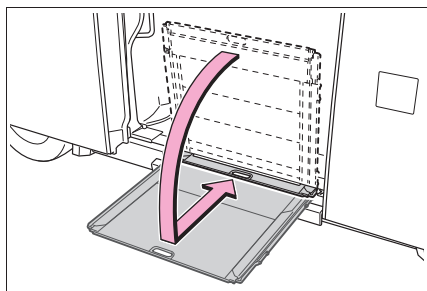
スロープ接続部の部品が回転し、スロープ板が少し下がります。

- 6 スロープ板を垂直付近まで持ち上げて、下に押し下げる

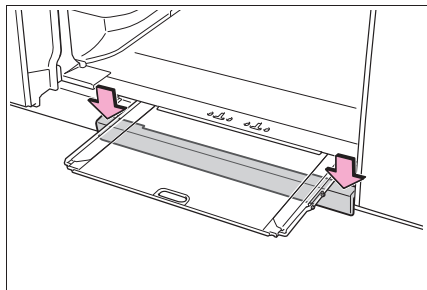


スロープ接続部の部品がさらに回転し、スロープ板が下に下がります。

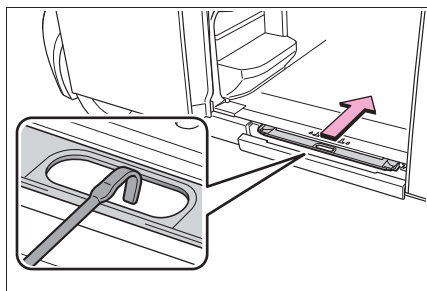
- 7 スロープ板を水平にし、ゆっくり押し込む



スロープカバーはスプリングの力により格納位置に戻ろうとするため、スロープ板を格納するときは、スロープカバーを押し下げて操作してください。



- 8 スロープ格納フックを使い、スロープ板を確実に奥まで押し込む



確実に奥まで押し込まないと、格納状態にならないためスライドドアが作動しません。

- 9 スロープ格納フックを取り外し、スロープカバーを閉じる

知識

■スロープが未展開のとき

再度、運転席のドア・スロープスイッチを押してください。(→P.146)

それでも動かない場合は、スロープ板を水平にして、スロープ格納フックを使い、ゆっくり押し込んでください。

スロープカバーはスプリングの力により格納位置に戻ろうとするため、スロープ板を格納するときは、スロープカバーを押し下げて操作してください。

スロープ板を確実に奥まで押し込まないと、格納状態にならないためスライドドアが作動しません。

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ..... 408

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 411

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 420

メンテナンスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正駆動用バッテリークーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35 ℃	7.5

ヒーターシステム

指定銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35 ℃	7.3

フロント eAxle（イーアクスル）

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
e- トランスアクスルフルード TE	3.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ フロント eAxle フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

サスペンション

指定銘柄

トヨタ純正サスペンションフルード AHC

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄

トヨタ純正ブレーキフルード BF-5

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	98

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.380 を参照してください）

※2 EV システムが作動している状態で、300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.380 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）

4.8L

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
235/60R17 117/115 N LT	17 × 7J	525 (5.25)	

■ ホイールボルト締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]
131N・m (1336kgf・cm)

車両仕様

名称	型式	電動機型式	駆動方式
e-Palette	XECM10	1XM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア画面の操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチメディア画面で設定するには

メインメニューの  をタッチし、“カスタマイズ”を選択する



■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、EVシステムが作動している状態で操作を行ってください。



■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にEVシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアの画面操作で設定変更可能

B トヨタ販売店で設定変更可能

■ 充電システム (→P.61、70、78、84)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
充電電流 ※ ¹	☒ MAX ☐ 16A ☐ 8A	☐	—
充電量上限	☒ Full ☐ 90% ☐ 80% ☐ 70% ☐ 60% ☐ 50%	☐	—
急速充電電力	☒ MAX ☐ 75 kW ☐ 50 kW	☐	—
コネクタロック	☒ オートロック ☐ OFF ☐ オートロック&アンロック	☐	—
電池冷却	☒ あり ☐ なし	☐	—
電池昇温 ※ ²	☐ なし ☒ —	—	—

※¹ 100V での充電時には、この設定は反映されません。

※² 本車両では使用できません。

■ 提案サービス (→P.126)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
提案サービス	☐ あり ☒ あり (停車中のみ) ☐ なし	☐	☐

■ ステアリングスイッチ (→P.127)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
右側ステアリングスイッチお気に入り機能 ※	●画面切りかえ ●調整 ●カスタム	☐	☐
左側ステアリングスイッチお気に入り機能 ※	●オーディオ ●空調 ●カスタム	☐	☐
スイッチセンサー高感度モード（防寒手袋モード） ※	●あり ●なし	☐	☐

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック (→P.145)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車速感応オートドアロック	●あり ●なし	☐	☐
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	●あり ●なし	☐	☐
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	●あり ●なし	☐	☐

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→P.136, 156)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音量調整）	●OFF ●レベル 1 ～ 7	○	○
作動の合図（非常点滅灯）	●あり ●なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	●OFF ●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	○	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★ (→P.156)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	○
接近時オートアンロック	●あり ●なし	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースイッチ (→P.201, 205)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON/OFF を切りかえる	●あり ●なし	○	—

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.218)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ライトセンサーの感度調整	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	○

■ プリクラッシュセーフティ (→P.234)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング	●遅い ●標準 ●早い	○	—

■ レーンディパーチャーアラート (LDA) (→P.243)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート (LDA)	●ON ●OFF	○	—
警報タイミング	●標準 ●早い	○	—
警報手段	●ハンドル振動 ●ブザー	○	—
低車速支援	●ON ●OFF	○	—

■ 休憩提案 (→P.243)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	●ON ●OFF	○	—

■ ドライブスタートコントロール (→P.193)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後退速度の抑制制御	●あり ●なし ※	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→P.254)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
アウターミラーインジケータの明るさ	●暗い ●明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング (感度)	●遅い ●標準 ●早い	○	—
ブザー警報	●あり ●なし	○	—

■ クリアランスソナー (→P.264)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能	●あり ●なし	○	—
ブザー音量 ※ ¹	●小 ●中 ●大	○	—
フロントセンサーセンサーの検知開始距離 ※ ²	●近い ●標準	○	—
リヤセンサーセンサーの検知開始距離 ※ ²	●近い ●標準	○	—

※¹クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※²パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.270)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	●ON ●OFF	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※	●小 ●中 ●大	○	—

※ クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ RCD (リヤカメラディテクション) (→P.275)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
RCD 機能	●ON ●OFF	○	—

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★（→P.279）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	●ON ●OFF	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 安心降車アシスト（→P.259）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	●ON ●OFF	○	—
アウターミラーインジケータ表示	●あり ●なし	○	—
接近車両検知の感度	●低い ●中間 ●高い	○	—

■ AHC（アクティブハイトコントロール）（→P.289）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
車高制御作動時ブザー吹鳴	●ON ●スロープ連動作動中のみ OFF ●常時吹鳴 OFF	—	○

■ エアコン（→P.302）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	●する ●しない	○	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	●する ●しない	○	○

■ イルミネーション (→P.308)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
室内灯の消灯までの時間	●OFF ●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	○	○
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	○
インテリアランプ、車内足元照明の点灯	●あり ●なし	—	○

知識

■ 車両カスタマイズについて

- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワースライドドア	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P.140
電動スロープ★	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P.149
タイヤ空気圧警報システム	・ 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・ タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき	P.354

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	422
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	424
アルファベット順さくいん	426
五十音順さくいん	428

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→P.394）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.394）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.363）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.201, 205）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に

働いていない可能性があります。（→P.157, 198）

故障かな？と思ったら



EV システムが始動できない

- 充電ケーブルが接続されていませんか？（→P.72）
- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.196, 202）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.207）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.156, 197）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.198, 204）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法で EV システムを始動することができます。（→P.395）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.396）



EV システムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.198, 204）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON (EV システムが作動していない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→P.202, 206)



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」(→P.424) をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.380, 386 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、トヨタ販売店にご相談ください。



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→P.402)

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.157, 197
	後方から自動車・自転車が接近している	P.259
EV システムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.132
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	ドアが確実に閉まっていない	P.137
	電子キーを車内に置き忘れている	P.386

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	ドアが確実に閉まっていない	P.137
	パーキングブレーキが解除されていない	P.213
	シートベルトを着用していない	P.382
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.191
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.234
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P.243
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.248
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.264
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）が作動した	P.275
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロスストラフィックアラート）が作動した	P.270

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 302

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 292

AHB

(オートマチックハイビーム) .. 221

AHC

(アクティブハイトコントロール)
..... 289

BEV

(バッテリーエレクトリックビークル)
..... 40

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 254

ECB

(電子制御ブレーキシステム) .. 292

EDR

(イベントデータレコーダー) 9

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 367

LED デイライト 219

Toyota Safety Sense

AHB (オートマチックハイビーム)
..... 221

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 234

LDA (レーンディパーチャーアラート) 243

ソフトウェアアップデートを確認する 226

ドライバー異常時対応システム
..... 248

LDA

(レーンディパーチャーアラート)
..... 243

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 234

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 279

RCD

(リヤカメラディテクション) .. 275

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 270

SRS

(サプリメンタルレストレイントシステム) 32

SYNC スイッチ

(シンクロスイッチ) 306

TRC

(トラクションコントロール) .. 293

VSC

(ビークルスタビリティコントロール)
..... 292

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	396
アウターミラー	
安心降車アシスト.....	259
操作.....	171
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	254
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）	270
アクセサリコンセント.....	314
アクティブハイトコントロール（AHC）	289
警告灯.....	384
車高切りかえスイッチ.....	289
車高・ドア開閉連動 OFF スイッチ.....	289
アシストグリップ（運転席用）.....	313
足元照明.....	308
アラーム	
音さくいん.....	424
警告ブザー.....	380, 386
安心降車アシスト.....	259
操作.....	262
アンチロックブレーキシステム（ABS）	292
警告灯.....	381
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	156
アンテナ（プッシュボタンスタートシ テム）.....	196

い

イージークローザー	
スライドドア.....	139
EV システム.....	40
イモビライザーシステム.....	37
運転のアドバイス.....	48
オーバーヒート.....	402
回生ブレーキ.....	41
急速充電のしかた.....	82
緊急始動機能.....	393
緊急時の停止方法.....	373
緊急停止システム.....	47
高電圧部位.....	43
サービスプラグ.....	43
事故が発生したとき.....	45
始動できないときは.....	392
始動方法.....	196, 202
車両接近通報装置.....	42
注意.....	43
電気モーター.....	40
電欠になったとき.....	47
特徴.....	40
特有の音と振動.....	42
ドライブスタートコントロール.....	193
パワー（イグニッション）スイッチ.....	196,
202	
普通充電のしかた.....	75
ブレーキオーバーライドシステム.....	189
補機バッテリーがあがった.....	396
メンテナンス・修理・廃車するとき.....	42

行先表示器（サイネージ）.....	176
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....	196, 202
EVシステムの始動のしかた.....	196, 202
自動電源 OFF 機能.....	202, 206
車両を緊急停止するには.....	373
モード切りかえ.....	201, 205
位置交換（タイヤローテーション）.....	351
イベントデータレコーダー（EDR）.....	9
イモビライザーシステム.....	37
イルミネーテッドエントリーシステム.....	309
インジケーター（表示灯）.....	121
エラーインジケーター.....	56
充電インジケーター（普通充電ケーブル）.....	56
電源インジケーター.....	56
普通充電インジケーター（普通充電ポート）.....	53
普通充電ケーブル.....	56
READY.....	196, 202
インテリアランプ.....	308, 309

う

ウインカー（方向指示灯）

電球（バルブ）の交換.....	367
方向指示レバー.....	211

ウインドウ..... 174

ウォッシャー.....	223

ウォッシャー

スイッチ.....	223
タンク容量.....	409
冬の前の準備・点検.....	298

動けなくなったときは（スタック）..... 402

雨滴感知式ワイパー..... 223

運転

雨の日の運転.....	188
運転を補助する装置.....	292
寒冷時の運転.....	298
走行可能距離.....	49
正しい運転姿勢.....	27
手順.....	188
電気自動車運転のアドバイス.....	48

運転席シート..... 160

正しい運転姿勢.....	27
調整.....	160
手入れ.....	329

運転席シートベルト..... 29

緊急時シートベルト固定機構.....	30
正しく着用するには.....	30
着け方、はずし方.....	30
妊娠中の方の着用.....	29
非着用警告灯.....	382

運転席シートベルト非着用警告灯... 382

運転席仕切り扉..... 314

運転席窓..... 174

え

エアコン.....	302
オートエアコン.....	302
曇り取り（フロントガラス）.....	303
「ナノイー X」.....	304
フィルターの清掃.....	361
マイルームモード.....	95
エアコン・デフロスター.....	303
エアバッグ.....	32
SRS エアバッグ警告灯.....	380
改造・廃棄.....	34
警告ブザー.....	380
作動条件.....	33
正しい姿勢.....	27
配置.....	32
AHC（アクティブハイトコントロール）	289
車高切りかえスイッチ.....	289
車高・ドア開閉連動 OFF スイッチ.....	289
エコインジケータ表示.....	128
LDA（レーンディパーチャーアラート）	243

お

オーディオシステム連携表示.....	128
オートエアコン.....	302
オートドアロック・アンロック機能.....	145
オートマチックハイビーム（AHB）.....	221
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）.....	220
オーバーヒート.....	402
オープントレイ.....	310, 312
お子さまを乗せるとき.....	36
お子さまの安全のために.....	36
発炎筒の取り扱いに関する警告.....	372
バッテリーに関する警告.....	400
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....	125
表示切りかえボタン.....	125
表示項目.....	125

か

カーテシランプ.....	308
カーペット フロアマットの取り付け方.....	26
外気温度表示.....	123
回生ブレーキ.....	41
外装の電球（バルブ）.....	367
交換要領.....	367

外部給電.....	110
給電口	111
正常に給電できないときは	117
外部電源供給システム.....	110
カスタマイズ機能	411
型式	410
カメラ	
車内モニターシステム	153
前方カメラ	229
白線認識用カメラ (LDA).....	243
リヤカメラ	276
ガレージジャッキ	349
冠水路走行	193
寒冷時の運転	298

き

キー	132
EV システムが始動できない.....	392
キーナンバープレート	132
キーの構成	132
キーレスエントリー	134, 156
キーをなくした.....	394
正常に働かない.....	394
施錠・解錠ができない.....	395
電子キー	132
電池が切れた.....	363, 394
メカニカルキー	134
ワイヤレスリモコン	134

キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	156
ワイヤレスドアロック	134
きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェアインジケーター) ..	191
客席シート.....	161
はね上げシート	161
緊急時シートベルト固定機構.....	30
緊急始動機能 (EV システム).....	393
緊急時の対処	
EV システムが始動できない.....	392
オーバーヒートした	402
キーの電池が切れた	363, 394
キーをなくした	394
警告灯がついた	380
警告メッセージが表示された.....	386
けん引	376
故障したときは	370
車両を緊急停止する	373
水没・冠水したときは	374
スタックした.....	402
電子キーが正常に働かない.....	394
発炎筒	371
パンクした.....	392
補機バッテリーがあがった.....	396
緊急停止システム	47
緊急ブレーキシグナル	293

く

空気圧 (タイヤ)	410
タイヤ空気圧警報システム	352
メンテナンスデータ	410
区間距離計 (トリップメーター)	125
駆動用電池	
充電について	51
搭載位置	40
駆動用電池残量計	123
駆動用電池充電	
警告灯	381
曇り取り	
フロントガラス	303
クラクション (ホーン)	170
クリアランスソナー	264
警告灯	383
操作	265
クリアランスランプ (車幅灯)	
電球 (バルブ) の交換	367
ランプスイッチ	218
クリップ	
フロアマット	26
車いす固定装置	162
車いすの固定を解除する	165, 168
車いすワンタッチ固定装置	166
車いすを固定する	163, 167

け

警告器 (ホーン)	170
計器類 (メーター)	123
警告灯	120, 380
運転支援情報表示灯	383
AHC 表示灯	384
ABS & ブレーキアシスト	381
SRS エアバッグ	380
LDA 表示灯	382
駆動用電池充電	381
クリアランスソナー OFF 表示灯	383
シートベルト非着用	382
充電	380
スリップ表示灯	384
タイヤ空気圧	382
ドライブスタートコントロール	381
パーキングブレーキ表示灯	384
パワーステアリング	381
PCS	383
ブレーキ	380
ブレーキオーバーライドシステム	381
ブレーキホールド作動表示灯	384
警告ブザー	
SRS エアバッグ	380
LDA (レーンディパーチャーアラート)	
.....	243, 382
休憩提案機能 (LDA)	246
クリアランスソナー	383
シートベルト非着用	382

衝突警報	235
低速時加速抑制	236
手放し運転警告 (LDA)	246
ドライブスタートコントロール	381
パーキングブレーキ未解除走行時	213
パワーステアリング	381
半ドア	137, 157, 197
半ドア走行	137
ブリクラッシュセーフティ	383
ブレーキ	380
ブレーキオーバーライドシステム	381
ブレーキホールド	384
警告メッセージ	386
警告ラベル (EV システム)	43
けん引	
けん引のしかた	376
フック	378

こ

交換	
キーの電池	363
電球 (バルブ)	367
ヒューズ	365
航続可能距離	123
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	367
高電圧部位	43
小物入れ	310, 311
コンセント	314
コンライト (自動点灯・消灯装置)	218

さ

サービスプラグ	43
サイド方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	367
方向指示レバー	211
サイドミラー (アウターミラー)	171
安心降車アシスト	259
操作	171
ブラインドスポットモニター (BSM)	254
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	270
サイネージ	176
サスペンション	
メンテナンスデータ	409
サンバイザー	313

し

シート	160, 161
正しい運転姿勢	27
調整	160
手入れ	329
シートベルト	29
緊急時シートベルト固定機構	30
正しく着用するには	30
着け方、はずし方	30
手入れ	329
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	382
シートベルト非着用警告灯	382

シートベルトプリテンショナー	30
機能	30
プリテンショナー警告灯	380
事故が発生したとき（EV システムの注 意）	45
室内灯（インテリアランプ）	308
始動のしかた	196, 202
シフトポジション	207
シフトポジションの切りかえ	207
操作	207
車高切りかえ	289
車高・ドア開閉連動	289
ジャッキ	
ガレージジャッキ	349
車内フラッシャーランプ	249, 308
車内モニターシステム	153
カメラ	153
スイッチ	153
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	367
ランプスイッチ	218
車両型式	410
車両仕様（スペック）	408
車両接近通報装置	42
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	373

充電

急速充電	82
車載充電器	79
充電装備	51
充電に関するアドバイス	70
充電に関する警告	78, 84
充電のしかた	75, 82
充電方法	69
充電リッドの開閉	52
正常に充電できない	98
タイマー充電機能	87
電源について	64, 69
V2H 充電	82
普通充電	75
普通充電ケーブル	54
マイルームモード	95
メッセージ	104, 386

充電ケーブル（普通充電ケーブル）

安全機能	56
インジケーター	56
コントロールユニット	55
充電ケーブルに関する警告	54
電源プラグコードの交換	58
普通充電コネクタを解錠できないとき	62

充電ポート

急速充電リッド	51
充電リッドの開閉	52
普通充電コネクタの施錠・解錠	61
普通充電リッド	51

収納ポケット	310, 311
仕様（車両仕様）	410
消火器	372
衝撃感知ドアロック解除システム ...	137
初期化	
電動スロープ	149
パワースライドドア	140
初期設定	420

す

スイッチ

VSC OFF	295
アウターミラー	171
イグニッション	196, 202
ウォッシャー	223
運転席緊急停止	250
客室操作 OFF	149
車高切りかえスイッチ	289
車高・ドア開閉連動 OFF スイッチ	289
車内緊急停止	250
車内モニターシステム	153
電動スロープ	146
ドアロック	138
パーキングブレーキ	212
ハザードランプ	371
パワースイッチ	196, 202
パワースライドドア	138
パワースライドドア OFF	145, 404
非常点滅灯（ハザードランプ）	371

表示切りかえ	125
ブレーキホールド	215
方向指示レバー	211
ホーン（警音器）	170
メーター操作	127
ランプ	218
ワイパー	223

スタック	402
ステアリングホイール（ハンドル）	170
位置調整	170
メーター操作スイッチ	127
ステアリングロック	198, 204
解除できないとき	198, 204

ストップランプ（制動灯）

緊急ブレーキシグナル	293
電球（バルブ）の交換	367

スノータイヤ（冬用タイヤ）

スペック（車両仕様）

スマートエントリー&スタートシステム

.....	156
アンテナの位置	156
EV システムの始動	202
緊急始動機能	393
警告ブザー	157
作動範囲	156
正常に働かないとき	394
節電機能	157
電波がおよぼす影響について	159

スモールランプ（車幅灯）

電球（バルブ）の交換	367
ランプスイッチ	218

スライドドア	135, 403
イー济クローザー	139
オートドアロック・アンロック機能	145
衝撃感知ドアロック解除システム	137
スマートエントリー&スタートシステム	156
操作	138
パワースライドドア	138
ワイヤレスリモコン	136
スロープ	146, 403
スイッチ	146
操作	147

せ

清掃	326, 329, 331
アルミホイール	326
外装	326
シートベルト	329
電動スロープ	331
内装	329
レーダー	230
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	293
電球（バルブ）の交換	367
セカンダリーコリジョンブレーキ	293
積算距離計（オドメーター）	125
セキュリティインジケター	37
センサー	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	256
安心降車アシスト	256

雨滴感知センサー	224
LDA（レーンディパーチャーアラート）	243
クリアランスソナー	264
後側方レーダー	229
前方レーダー	229
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）	264
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	256
BSM（ブラインドスポットモニター）	256
ライトセンサー	220
レーダーセンサー	229
洗車	326

前照灯（ヘッドランプ）

オートレベリングシステム	220
電球（バルブ）の交換	367
ライトセンサー	220
ランプ消し忘れ防止機能	220
ランプスイッチ	218

そ

送信機（タイヤ空気圧警報システム）

.....	352
速度計（スピードメーター）	123
ソフトウェアアップデート	226

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
方向指示レバー.....	211
タイマー充電機能.....	87
タイヤ.....	350
空気圧.....	360, 410
チェーン.....	298
点検.....	350
パンクしたときは.....	392
冬用タイヤ.....	298
ホイールサイズ.....	410
ローテーション（位置交換）.....	351
タイヤが空まわりする（スタックした）	
.....	402
タイヤ空気圧警告灯.....	382
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの切りかえ.....	358
ID コードの登録.....	357
機能について.....	352
空気圧バルブ／送信機について.....	353
空気圧表示画面.....	352
タイヤの位置登録.....	354
タイヤの空気圧設定.....	355
タイヤチェーン.....	298

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....	298
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	
.....	212
パーキングブレーキ表示灯.....	384
ブレーキ警告灯.....	380
未解除走行時警告ブザー.....	213
メンテナンスデータ.....	409

て

提案サービス機能.....	129
DC 外部給電.....	110
給電口.....	111
正常に給電できないときは.....	117
DC 外部給電システム.....	110
DC 外部給電システムについて.....	110
DC 外部給電システムの使い方.....	110
ディスプレイ	
車内モニター用ディスプレイ.....	153
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	126
手入れ.....	326, 329, 331
アルミホイール.....	326
外装.....	326
シートベルト.....	329
電動スロープ.....	331
内装.....	329
レーダー.....	230
テールランプ（尾灯）	
電球（バルブ）の交換.....	367
ランプスイッチ.....	218
手すり／ポール.....	313
電気モーター.....	40
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）.....	367
電欠になったとき.....	47
点検基準値（メンテナンスデータ）.....	408
電子キー.....	132
作動範囲.....	156, 197
正常に働かないとき.....	394
節電機能.....	157, 198
電池が切れた.....	394
電池交換.....	363

電池交換（キー）.....	363
電動スロープ.....	146, 403
客室操作 OFF スイッチ.....	149
作動の合図.....	148
スイッチ.....	146
操作.....	147
電動スロープが正常に格納できないときは.....	148
挟み込み防止機能.....	148
電動スロープが正常に格納できないときは.....	146, 403
電動パーキングブレーキ	
パーキングブレーキ表示灯.....	384
ブレーキ警告灯.....	380

と

ドア.....	135, 403
オートドアロック・アンロック機能... ..	145
衝撃感知ドアロック解除システム.....	137
スマートエントリー&スタートシステム.....	156
スライドドア.....	135, 403
ドアロックスイッチ.....	138
ワイヤレスリモコン.....	136
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	37
時計.....	123, 125
Toyota Safety Sense.....	228
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....	243
オートマチックハイビーム.....	221
ソフトウェアアップデート.....	226
ドライバー異常時対応システム.....	248
PCS（プリクラッシュセーフティ）....	234

ドライバー異常時対応システム.....	248
運転席緊急停止スイッチ.....	250
車内緊急停止スイッチ.....	250
車内フラッシャーランプ.....	249
ドライブスタートコントロール.....	193
急発進の抑制制御.....	193
後退速度の抑制制御.....	193
トラクションコントロール（TRC）	293
トリップメーター.....	125

な

内装	
収納装備.....	310
手入れ.....	329
「ナノイー X」.....	304
ナビゲーションシステム連携表示... ..	128

に

日常点検.....	333, 344, 345
簡単な点検整備.....	345
日常点検整備のしかた.....	333
日常点検の記録.....	344
荷物	
積むときの注意.....	194

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....	402

は

パーキングサポートブレーキ	279
警告メッセージ	283
操作	280
パーキングサポートブレーキ（前後方静 止物）	283
パーキングサポートブレーキ（後方接近 車両）	285
パーキングサポートブレーキ（後方歩行 者）	287
パーキングブレーキ	212
操作	212
パーキングブレーキ表示灯	384
ブレーキ警告灯	380
未解除走行時警告ブザー	213
メンテナンスデータ	409
パーソナルランプ	308, 309
ハイビーム（ヘッドランプ）	
オートマチックハイビーム	221
電球（バルブ）の交換	367
ランプスイッチ	218
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	367
ハザードランプ（非常点滅灯）	371
スイッチ	371
電球（バルブ）の交換	367
挟み込み防止機能	
電動スロープ	148
パワースライドドア	140
発炎筒	371
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	367

バッテリー（駆動用電池）

充電について	51
搭載位置	40

バッテリー（補機バッテリー）

警告灯	380
補機バッテリーがあがった	396
補機バッテリーを交換するとき	399

BEV（バッテリーエレクトリックビーク
ル）

はね上げシート	161
クッションパッド	161

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）	367

パワースイッチ

EV システムの始動のしかた	196, 202
自動電源 OFF 機能	202, 206
車両を緊急停止するには	373
モードの切りかえ	201, 205

パワーステアリング

警告灯	381

パワースライドドア

作動の合図	139, 144
手動操作	144
操作	138
挟み込み防止機能	140
パワードア OFF スイッチ	145, 404

パワーメーター

番号灯（ライセンスプレートランプ）

電球（バルブ）の交換	367
ランプスイッチ	218

ハンドル（ステアリングホイール）

位置調整	170
メーター操作スイッチ	127

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	292
ヒーター	
エアコン	302
ヒーターシステム	
メンテナンスデータ	408
非常時給電システム	314
使用できないときは	322
非常点滅灯 (ハザードランプ)	371
スイッチ	371
電球 (バルブ) の交換	367
尾灯 (テールランプ)	
電球 (バルブ) の交換	367
ランプスイッチ	218
ヒューズ	365
表示切りかえボタン	125
表示項目	126
表示灯	121
日よけ (サンバイザー)	313
ヒルスタートアシストコントロール	293

ふ

V2H 給電	82
ブースターケーブルのつなぎ方	396
ブザー	
休憩提案機能 (LDA)	246
クリアランスソナー	269
手放し運転警告 (LDA)	246
パーキングブレーキ未解除走行時警告	213
半ドア	137, 157, 197
半ドア走行	137
ブレーキホールド	384

普通充電ケーブル

安全機能	56
インジケーター	56
コントロールユニット	55
充電ケーブルに関する警告	54
電源プラグコードの交換	58
普通充電コネクタを解錠できないとき	62

普通充電コネクタの施錠・解錠 61
フック

けん引フック	378
フロアマット固定フック	26

プッシュボタンスタートシステム

アンテナの位置	196
EV システムの始動	196
緊急始動機能	393
警告ブザー	197
作動範囲	197
正常に働かないとき	394
電波がおよぼす影響について	200

冬の前の準備 (寒冷時の運転) 298

冬用タイヤ 298

ブラインドスポットモニター (BSM)

.....	254
操作	256

プリクラッシュセーフティ (PCS)

機能	234
操作	243
PCS 警告灯	383

ブレーキ

回生ブレーキ.....	41
緊急ブレーキシグナル.....	293
警告灯.....	380
パーキングブレーキ.....	212
ブレーキ警告灯.....	380
ブレーキホールド.....	215
メンテナンスデータ.....	409
ブレーキアシスト.....	292
機能.....	292
ブレーキオーバーライドシステム ...	189
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる	191
ブレーキフルード.....	409
ブレーキホールド.....	215
フロアマット.....	26
フロントイーアクスル メンテナンスデータ.....	408
フロント方向指示灯 電球（バルブ）の交換.....	367
方向指示レバー.....	211

へ

平均車速／走行時間表示.....	128
ヘッドランプ 電球（バルブ）の交換.....	367
ライトセンサー.....	220
ランプ消し忘れ防止機能.....	220
ランプスイッチ.....	218
ヘッドランプオートレベリングシステム	220

ほ

ホイール

メンテナンスデータ.....	410

方向指示灯

電球（バルブ）の交換.....	367
方向指示レバー.....	211

ホーン（警音器）..... 170

補機バッテリー

交換するとき.....	399
冬の前の準備.....	298
補機バッテリーがあがった.....	396

保証..... 10

補助ミラー..... 173

ま

マイセッティング..... 175

マイルームモード..... 95

窓..... 174

マルチインフォメーションディスプレイ
..... 126

エコインジケータ表示..... 128

LDA（レーンディパーチャーアラート）
..... 247

オーディオシステム連携表示..... 128

警告メッセージ..... 386

タイヤ空気圧..... 352

提案サービス機能..... 129

時計..... 125

ナビゲーションシステム連携表示..... 128

表示項目..... 126

平均車速／走行時間表示..... 128

メーター操作スイッチ..... 127

メッセージ表示..... 128

み

ミラー

アウターミラー	171
補助ミラー	173

め

メーター

計器類	123
警告灯	120, 380
警告メッセージ	386
照度調整	126
時計	123
表示灯	121
マルチインフォメーションディスプレイ	126
メーター操作スイッチ	127
メーター照度調整	126
メーター表示の切りかえスイッチ ...	125
メカニカルキー	134
メッセージ表示	128
メンテナンスデータ	408

も

モーター（電気モーター）	40

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	411
雪道ですべて動けない（スタックした）	402
油脂類	408

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）

電球（バルブ）の交換	367
ランプスイッチ	218

ラジエーター

オーバーヒート	402
メンテナンスデータ	408

ランプ

インテリアランプ	309
オートマチックハイビーム	221
室内灯	308
電球（バルブ）の交換	367
パーソナルランプ	309
ライトセンサー	220
ランプ消し忘れ防止機能	220
ランプ消し忘れ防止機能	220

り

リヤカメラディテクション（RCD）275

操作	276

リヤクロストラフィックアラート

（RCTA）	270
操作	271

リヤ方向指示灯

電球（バルブ）の交換	367
方向指示レバー	211

れ

冷却水.....	408
冬の前の準備.....	298
メンテナンスデータ.....	408
冷却装置（ヒーターシステム）.....	408
冷却装置（ラジエーター）.....	408
オーバーヒート.....	402
メンテナンスデータ.....	408
レーンディパーチャーアラート（LDA）.....	243
警告灯.....	382
操作.....	246
レバー.....	
方向指示.....	211

ろ

ロック.....	
スマートエントリー&スタートシステム.....	156
スライドドア.....	135
ワイヤレスリモコン.....	134

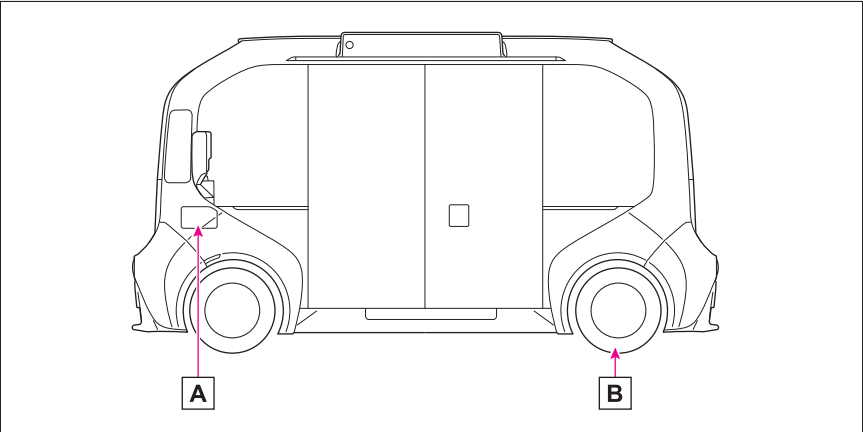
わ

ワイパー & ウォッシャー.....	223
ワイヤレスリモコン.....	
作動の合図.....	137
スライドドア.....	138
操作.....	134
電池の交換.....	363
半ドア警告ブザー.....	137
ワックス.....	326

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・パノラミックビューモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンズフリー
- ・ETC2.0 システム

充電スタンドでの情報



A 充電ポート (→P.51)

B タイヤ空気圧 (→P.410)

外部電源	P.69
充電時間	P.71
タイヤが冷えているときの空気圧	P.410

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手延通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

